

CA Client Automation

CLI リファレンス ガイド

12.9



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルセットで参照されている CA 製品は、以下のとおりです。

- CA Advantage® Data Transport® (CA Data Transport)
- CA Asset Intelligence
- CA APM (CA Asset Portfolio Management)
- CA Business Intelligence
- CA Common Services™
- CA DMM (CA Desktop Migration Manager)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA MDM (CA Mobile Device Management)
- CA NSM (CA Network and Systems Management)
- CA Patch Manager
- CA Process Automation
- CA Service Desk Manager
- CA WorldView™

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章：概要	15
表記規則.....	15
cadsmcmd	15
dmsweep.....	16
dsmPush	16
dsmpgm	17
円記号（Windows）とスラッシュ（Linux）	17
 第 2 章：CADSMCMD コマンドライン インターフェース	 19
互換性.....	19
 第 3 章：cadsmcmd コマンド	 21
コマンドの分類.....	22
area—ドメイン管理.....	26
aregsw — ソフトウェアの自動登録.....	46
OSIM ブート サーバ.....	47
cancel — 配信の キャンセル	51
comconf—共通設定の管理	54
compgroup—コンピュータ グループ管理.....	80
configure - ジョブ コンテナで設定ジョブを生成します.....	107
copyfetched—抽出項目のコピー	107
dereg—項目の登録解除.....	108
deregproc—プロセスの登録解除.....	109
distribution—配信コマンド	109
domain—ドメイン グループの管理	115
fetch—項目の抽出.....	127
halt—アクティブな配信の一時停止	130
image—OS イメージの管理.....	131
インストールI- 設定 - 起動 - アンインストール - 設定 - 起動 - アンインストール—ジョブ コン テナ / 配信でのジョブの生成および実行.....	145
jobcontainer—ジョブ コンテナのコマンド.....	159
managedcomputer—コンピュータ設定の管理	256

manager—DSM マネージャの管理	260
progress—配信の進捗状況のチェック	263
rdereg — リモートからの項目の登録解除	263
rderegproc — リモートからのプロシージャの登録解除	265
recover — 失敗したインストールの回復	267
regproc--プロシージャの登録	274
regsw -- ソフトウェアの登録	282
renew — 配信の更新	285
renewjob — ジョブの更新	287
resume — 停止した配信の再開	291
rregproc — リモートからのプロシージャの登録	292
rregsw — ソフトウェアのリモートでの登録	295
scalabilityServer	297
security	298
servergroup—サーバグループの管理	304
stagingserver—スケーラビリティ サーバ コマンド	318
swlibrary—ソフトウェア ライブラリ コマンド	326
swpolicy—ソフトウェア ポリシー コマンド	417
targetcomputer—ターゲット コンピュータ コマンド	476
templategroup—ソフトウェア テンプレート コマンド	538
terminate—エンタープライズ データベースからの配信の削除	612
uninstall-- ジョブ コンテナ内におけるアンインストール ジョブの生成	612

第 4 章 : コマンド cadsmcmd 613

ローカル	615
batch	616
パイプ	618
command	625
verbose	626
loop	627
quit	627
非特権ユーザ	627
login	627
トレース オプション	629
フォント	630
パラメータ	631
長さ制限	631
制限	632
フィルタの使用	632

第 5 章 : dmsweep コマンド 635

dmsweep サブコマンド	636
dmsweep help、dmsweep usage	636
dmsweep deploy	637
dmsweep packages	643
dmsweep scan	646
dmsweep sspack	649
dmsweep stage	652
dmsweep version	655
暗号化されたパスワード	656
dmsweep ターゲット クレデンシャル ファイル	656
クレデンシャル ファイルの構文	657
dmsweep 引数の省略形	659
dmdFtpUpload : 展開マネージャ プライマ用 FTP アップロード	660

第 6 章 : dsmpgm コマンド - Linux および UNIX でのデーモン プロセス の制御 663

第 7 章 : dsmPush ツール 665

dsmPush -? - 使用法 -	666
dsmPush のチェック機能	667
dsmPush コピー スクリプト - パッケージをライブラリにインポートします	668
パラメータの組み合わせの使用	672
dsmPush の例	672

第 8 章 : intelligisigcmd - コマンドライン ツール 675

intelligisigcmd export -- Intellisig のエクスポート	676
intelligisigcmd import -- Intellisig のインポート	677
intelligisigcmd genuuid -- UUID の生成	678

付録 A: cadsmcmd Messages 679

リターン コード	680
CMD000000	684
CMD000001	684

CMD000002	684
CMD000003	684
CMD000004	684
CMD000005	684
CMD000006	684
CMD000007	685
CMD000008	685
CMD000009	685
CMD000010	685
CMD000011	685
CMD000012	685
CMD000013	685
CMD000014	685
CMD000015	686
CMD000016	686
CMD000017	686
CMD000018	686
CMD000019	686
CMD000020	686
CMD000021	686
CMD000022	686
CMD000023	686
CMD000024	687
CMD000025	687
CMD000026	687
CMD000027	687
CMD000028	687
CMD000029	687
CMD000030	687
CMD000031	687
CMD000032	688
CMD000033	688
CMD000034	688
CMD000035	688
CMD000036	688
CMD000037	688
CMD000038	688
CMD000039	688
CMD000040	688
CMD000041	689
CMD000042	689
CMD000043	689

CMD000044	689
CMD000045	689
CMD000046	689
CMD000047	689
CMD000048	689
CMD000049	689
CMD000050	690
CMD000051	690
CMD000052	690
CMD000053	690
CMD000054	690
CMD000055	690
CMD000056	690
CMD000057	690
CMD000058	690
CMD000059	691
CMD000060	691
CMD000061	691
CMD000062	691
CMD000063	691
CMD000064	691
CMD000065	691
CMD000066	691
CMD000067	691
CMD000068	692
CMD000069	692
CMD000070	692
CMD000071	692
CMD000072	692
CMD000073	692
CMD000074	692
CMD000075	692
CMD000076	692
CMD000077	693
CMD000078	693
CMD000079	693
CMD000080	693
CMD000081	693
CMD000082	693
CMD000083	693
CMD000084	693
CMD000085	693

CMD000086	694
CMD000087	694
CMD000088	694
CMD000089	694
CMD000090	694
CMD000091	694
CMD000092	694
CMD000093	694
CMD000094	695
CMD000095	695
CMD000096	695
CMD000097	695
CMD000098	695
CMD000099	695
CMD000100	695
CMD000101	695
CMD000102	696
CMD000103	696
CMD000104	696
CMD000105	696
CMD000106	696
CMD000107	696
CMD000108	696
CMD000109	696
CMD000110	696
CMD000111	697
CMD000112	697
CMD000113	697
CMD000114	697
CMD000115	697
CMD000116	697
CMD000117	697
CMD000118	697
CMD000119	697
CMD000120	698
CMD000121	698
CMD000122	698
CMD000123	698
CMD000124	698
CMD000125	698
CMD000126	698
CMD000127	698

CMD000128	699
CMD000129	699
CMD000130	699
CMD000131	699
CMD000132	699
CMD000133	699
CMD000134	699
CMD000135	699
CMD000136	699
CMD000137	700
CMD000138	700
CMD000139	700
CMD000140	700
CMD000141	700
CMD000142	700
CMD000143	700
CMD000144	700
CMD000145	700
CMD000146	701
CMD000147	701
CMD000148	701
CMD000149	701
CMD000150	701
CMD000151	701
CMD000152	701
CMD000153	701
CMD000154	701
CMD000155	702
CMD000156	702
CMD000157	702
CMD000158	702
CMD000159	702
CMD000160	702
CMD000161	702
CMD000162	702
CMD000163	702
CMD000164	703
CMD000165	703
CMD000166	703
CMD000167	703
CMD000168	703
CMD000169	703

CMD000170	703
CMD000171	703
CMD000172	703
CMD000173	704
CMD000174	704
CMD000175	704
CMD000176	704
CMD000177	704
CMD000178	704
CMD000179	704
CMD000180	704
CMD000181	704
CMD000182	705
CMD000183	705
BMS エラー	706
BMS 000000	706
BMS 000001	707
BMS 000002	707
BMS 000003	707
BMS 000004	707
BMS 000005	707
BMS 000006	707
BMS 000007	707
BMS 000008	707
BMS 000009	707
BMS 000010	708
BMS 000010	708
BMS 000012	708
BMS 000013	708
BMS 000014	708
BMS 000015	708
BMS 000016	708
BMS 000017	708
BMS 000018	708
BMS 000019	709
BMS 000020	709
BMS 000021	709
BMS 000022	709
BMS 000023	709
BMS 000024	709
BMS 000025	709
BMS 000026	709

BMS 000027	709
BMS 000028	710
BMS 000029	710
BMS 000030	710
BMS 000031	710
BMS 000032	710
BMS 000033	710
BMS 000034	710
BMS 000100	710
CSM エラー	711
CSM 000000	711
CSM 000001	711
CSM 000002	711
CSM 000003	711
CSM 000004	711
CSM 000005	711
CSM 000006	712
CSM 000007	712
CSM 000008	712
CSM 000009	712
CSM 000010	712

付録 B: サポートされる MDB オブジェクト タイプ	713

付録 C: MDB オブジェクト比較のルール	721

第 1 章：概要

「CLI リファレンス」では、以下の 4 つの Client Automation コマンドライン インターフェースについての詳細情報が提供されています。

- cadsmcmd
- dmsweep
- dsmpgm
- dsmPush

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[表記規則](#) (P. 15)

[円記号 \(Windows\) とスラッシュ \(Linux\)](#) (P. 17)

表記規則

各コマンドライン インターフェースで使用される表記規則

cadsmcmd

item

cadsmcmd - キーワードまたは定数

item

変数

|

代替

{*item*}

item は、複数回適用することができます。

[*item*]

item はオプションです。

dmsweep

item

キーワードまたは定数

<item>

変数

|

代替

{item}

少なくとも項目の 1 つを適用する必要があります。

[item]

item はオプションです。

注：オプションの繰り返しはサポートされていません。引数の繰り返しは、「/ip」オプションでのみ許可されます。

dsmPush

item

キーワードまたは定数

<item>

変数

|

代替

{item}

item は、複数回適用することができます。

[item]

item はオプションです。

dsmpegm

item

キーワードまたは定数

|

代替

{item}

item は、複数回適用することができます。

円記号 (Windows) とスラッシュ (Linux)

Windows の文書では円記号 (¥) が使用され、Linux 環境の文書ではスラッシュ (/) が使用されます。このマニュアルに記載されている円記号は、Linux ではスラッシュになります。

Linux では、先頭が / のパスは絶対パスであり、先頭が ./ のパスは現行ディレクトリの相対パスです。cadsmcmd コマンド regproc を使用してプロシージャを登録する場合、相対パスを使用します。たとえば、現行ディレクトリが /a/b/c で、ファイル file1 のパスを ./tmp/d/file1 にすると、file1 の絶対パスは /a/b/c/tmp/d/file1 になります。

第 2 章：CADSMCMD コマンドライン インターフェース

複雑なネットワークの管理では、自動化が非常に重要となります。CADSMCMD コマンドラインインターフェースでは、Client Automation Common Object (CO)、Common Configuration (CCNF)、Software Delivery (SD) (OS Installation Management (OSIM) を含む) の領域で自動化をサポートしています。CLI では、シェルまたはバッチ スクリプトで自動化に使用できる、シェルまたはコマンド プロンプト ベースのインターフェースが提供されています。

この CLI は、Linux ではコマンドライン コンポーネントと共にインストールされ、Windows では DSM エクスプローラと共にインストールされます。

注：CADSMCMD は、Linux のみに提供され、その他の UNIX の派生製品には提供されません。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[互換性](#) (P. 19)

[cadsmcmd コマンド](#) (P. 21)

[コマンド cadsmcmd](#) (P. 613)

互換性

Client Automation リリース 12.9 では非常に重要な変更が行われたため、CLI は先行バージョンと完全には互換性はありません。一部のコマンドおよびアクションが廃止されています。本書では、これらのコマンドおよびアクションについては説明していません。これら呼び出すと、CLI によって、このコマンドまたはアクションが廃止されていることを示す警告が返されます。この警告は、メッセージとして標準出力 (stdout) に書き込まれます。

SDCMD<CMD000118>: 警告: 関数が廃止されています

呼び出し元スクリプトに渡されるリターン コードは 0 です。

一部のコマンドまたはアクションで返される情報は、リリース 12.9 で取得可能な情報に応じて変更されています。

- targetComputer
- compGroup
- templateGroup
- jobContainer
- swLibrary
- area
- domain

保護対象オブジェクトのセキュリティ クラスが「SoftwarePackage」である場合、以下の形式で名前とバージョンを指定します。

«名前»|«バージョン»

«名前» に空白が含まれる場合は、以下のように引用符で «名前»|«バージョン» を囲みます。

"«name»|«version»"

例：

名前 testPackage およびバージョン 1.0

soname=testPackage|1.0

名前 CA ITCM Manager およびバージョン 12.0

soname="CA ITCM Manager|12.0"

第 3 章 : cadsmcmd コマンド

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[コマンドの分類](#) (P. 22)

[area—ドメイン管理](#) (P. 26)

[aregsw — ソフトウェアの自動登録](#) (P. 46)

[OSIM ブート サーバ](#) (P. 47)

[cancel — 配信のキャンセル](#) (P. 51)

[comconf—共通設定の管理](#) (P. 54)

[compgroup—コンピュータ グループ管理](#) (P. 80)

[configure - ジョブ コンテナで設定ジョブを生成します](#) (P. 107)

[copyfetched—抽出項目のコピー](#) (P. 107)

[dereg—項目の登録解除](#) (P. 108)

[deregproc—プロシージャの登録解除](#) (P. 109)

[distribution—配信コマンド](#) (P. 109)

[domain—ドメイングループの管理](#) (P. 115)

[fetch—項目の抽出](#) (P. 127)

[halt—アクティブな配信の一時停止](#) (P. 130)

[image—OS イメージの管理](#) (P. 131)

[インストールI- 設定 - 起動 - アンインストール - 設定 - 起動 - アンインストール - ジョブ コンテナ / 配信でのジョブの生成および実行](#) (P. 145)

[jobcontainer—ジョブ コンテナのコマンド](#) (P. 159)

[managedcomputer—コンピュータ設定の管理](#) (P. 256)

[manager—DSM マネージャの管理](#) (P. 260)

[progress—配信の進捗状況のチェック](#) (P. 263)

[rdereg — リモートからの項目の登録解除](#) (P. 263)

[rderegproc — リモートからのプロシージャの登録解除](#) (P. 265)

[recover — 失敗したインストールの回復](#) (P. 267)

[regproc--プロシージャの登録](#) (P. 274)

[regsw -- ソフトウェアの登録](#) (P. 282)

[renew — 配信の更新](#) (P. 285)

[renewjob — ジョブの更新](#) (P. 287)

[resume — 停止した配信の再開](#) (P. 291)

[rregproc — リモートからのプロシージャの登録](#) (P. 292)

[rregsw — ソフトウェアのリモートでの登録](#) (P. 295)

[scalabilityServer](#) (P. 297)
[security](#) (P. 298)
[servergroup](#)—サーバグループの管理 (P. 304)
[stagingserver](#)—スケーラビリティ サーバ コマンド (P. 318)
[swlibrary](#)—ソフトウェア ライブラリ コマンド (P. 326)
[swpolicy](#)—ソフトウェア ポリシー コマンド (P. 417)
[targetcomputer](#)—ターゲット コンピュータ コマンド (P. 476)
[templategroup](#)—ソフトウェア テンプレート コマンド (P. 538)
[terminate](#)—エンタープライズ データベースからの配信の削除 (P. 612)
[uninstall--](#) ジョブ コンテナ内におけるアンインストール ジョブの生成 (P. 612)

コマンドの分類

CLI に用意されている有効なコマンドの範囲は、CLI が接続されているマネージャ タイプおよび提供されるサービスによって異なります。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[共通コマンド](#) (P. 22)
[ドメイン](#) (P. 23)
[エンタープライズ](#) (P. 24)

共通コマンド

以下のコマンドは、CLI が接続するマネージャのタイプ（ドメイン マネージャまたはエンタープライズ マネージャ）およびそのマネージャが提供するサービスに関係なく、常に利用することができます。このようなコマンドは、共通コマンドと呼ばれています。 コマンドで定義されたすべての可能なアクションが、各マネージャで使用可能だとは限りません。

コマンド	制限付きのアクション セット
comConf	いいえ
comgroup	はい
servergroup	いいえ
setdbcredentials	いいえ

ドメイン

ドメインで使用可能なコマンド：

コマンド	マネージャで必須のサービス	制限付きのアクション セット
activate	SD	-
aregsw	SD	-
bootserver	SD、OSIM	-
cancel	SD	-
compgroup	- SD	はい いいえ
configure	SD	-
dereg	SD	-
deregproc	SD	-
image	SD、OSIM	いいえ
install	SD	-
jobcontainer	SD	いいえ
managedcomputer	-	いいえ
マネージャ	SD、OSIM	-
recover	SD	-
regproc	SD	-
regsw	SD	-
renewjob	SD	-
scalabilityServer	AM	いいえ
security	SD	-
stagingserver	SD	いいえ
swlibrary	SD	いいえ
swpolicy	SD	いいえ
targetcomputer	SD/OSIM	いいえ

templategroup	SD	いいえ
uninstall	SD	-

エンタープライズ

エンタープライズで使用可能なコマンド

コマンド	マネージャで必須のサービス	制限付きのアクション セット
activate	SD	-
area	- SD	はい いいえ
aregsw	SD	-
cancel	SD	-
compgroup	SD	はい エンタープライズセットのみ
configure	SD	-
copyfetched	SD	-
delfetched	SD	* 廃止 - 以下を使用してください <i>area action=removeFetchedItem (43以下の ページで定義参照：)</i> *
dereg	SD	-
deregproc	SD	-
distribution	SD	いいえ
domain	-	いいえ
fetch	SD	-
halt	SD	-
install	SD	-
progress	SD	-
rdereg	SD	-

コマンド	マネージャで必須のサービス	制限付きのアクション セット
rderegproc	SD	-
regproc	SD	-
regsw	SD	-
renew	SD	-
再開	SD	-
rregproc	SD	-
rregsw	SD	-
swLibrary	SD	いいえ
swpolicy	SD	いいえ
templategroup	SD	エンタープライズセットのみ
terminate	SD	-
uninstall	SD	-

area—ドメイン管理

エンタープライズでのアクションは以下のようになります。

{list (27以下のページで定義参照：) | showattr (31以下のページで定義参照：) |
listmembership (29以下のページで定義参照：) | modify (30以下のページで定義参
照：) |

...listdistsw (32以下のページで定義参照：) | removedistsw (37以下のページで定義
参照：) | listfetcheditems (38以下のページで定義参照：) |

...listfetcheditemfiles (40以下のページで定義参照：) | removefetcheditem (43以下の
ページで定義参照：) |

...addtodomains (44以下のページで定義参照：) | removefromdomains (45以下の
ページで定義参照：)}

注： Unicenter Software Delivery 4.0 と比較すると、CA Client Automation の用語が変更されています。SD「エリア」が Client Automation「ドメイン」に相当し、SD「ドメイン」が Client Automation ドメイン グループに相当します。

これに対し、互換性を確保するため、CLI の用語、コマンド名、およびパラメータ名は変更されていません。

あいまいさを避けるため、以降のセクションではエリア（CA Client Automation の用語ではドメイン）を「Client Automation ドメイン」、およびドメイン（CA Client Automation の用語ではドメイン グループ）を「Client Automation ドメイン グループ」という意味で使用します。

Client Automation ドメインは、CLI の area コマンドによって処理され、Client Automation ドメイン グループは CLI の domain コマンドによって処理されます。

注： 以後のメソッドは、エンタープライズ マネージャでのみ有効です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[一般的なアクション](#) (P. 27)

[配信されたソフトウェアの管理](#) (P. 32)

[抽出項目管理](#) (P. 37)

[包含管理](#) (P. 44)

一般的なアクション

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[list - エリアの一覧表示 \(P. 27\)](#)

[listMembership — ドメインが所属しているドメイングループを一覧表示 \(P. 29\)](#)

[modify — ドメインの属性の変更 \(P. 30\)](#)

[showAttr — エリア属性の表示 \(P. 31\)](#)

list - エリアの一覧表示

このアクションは、**Client Automation** ドメインを一覧表示します。情報量を制限するため、フィルタを指定することができます。

アクションフォーマット：

```
area action=list  
    [{filter=filter|filterfile=file_name}]
```

filter

以下を指定します：一覧表示する情報量を制限するための式

アトミック フィルタ式の作成に有効な属性は、以下のとおりです。

属性	型
エリア	文字列
ホスト名	文字列
登録した場所	文字列
最後に修正された場所	文字列
コメント	文字列
バージョン	文字列

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[例：すべてのエリアを一覧表示します。](#) (P. 28)

[一般的なアクション](#) (P. 27)

例：すべてのエリアを一覧表示します。

すべてのエリアを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd area action=list
```

```
CA IT Client Manager r12
```

```
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
```

```
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
マネージャ： mymanager
```

```
ドメイン： mydomain
```

```
ドメイン タイプ： Domain
```

```
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
-----
エリアのリスト
-----
```

```
エリア 1
エリア 2
area4test
www01B
```

```
リストされた項目の数..... : 4
Number of items read.....: 4
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

フィルタを使用して、「W」で始まるホスト名を持つエリアを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd area action=list filter="Host name=W"
```

結果が以下のように表示されます。

```
-----
エリアのリスト
-----
```

```
www01B
```

```
リストされた項目の数          : 1
読み取られた項目の数          : 4
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

listMembership — ドメインが所属しているドメイングループを一覧表示

このアクションでは、指定の Client Automation ドメインが所属する Client Automation ドメイン グループを一覧表示します。

アクション フォーマット：

```
area action=listMembership name=area_name
name
```

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメインの名前.

例：ドメインのメンバシップのリスト

エリア「andrea doria」が所属するドメインをすべて表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd area action=listMembership name="andrea doria"
```

```
CA IT Client Manager r12
```

```
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
```

```
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

```
-----  
エリア「andrea doria」を含むドメインのリスト  
-----
```

```
test.dom
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

modify — ドメインの属性の変更

このアクションでは、Client Automation ドメインの属性を変更します。

アクション フォーマット：

```
area action=modify  
    name=area_name  
    [newName=new_area_name]  
    [hostname=host_name]  
    [comment=comment]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメインの名前。

newName

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメインの新しい名前。

hostname

以下を指定します： Client Automation ドメインのホスト名。

comment

を指定します。コメント。

空の文字列をコーディングすると、エントリが削除されます。

注：パラメータがコーディングされない場合、関連属性は変更されません。

例：エリア属性の変更

エリア「area4test」を変更する必要があるとします。エリアは名前を「andrea doria」に変更する必要があります。以下のコマンドにより、エリアが変更されます。

```
cadsmcmd area action=modify name=area4test newName="andrea doria"
```

showAttr — エリア属性の表示

このアクションでは、Client Automation ドメインの属性を一覧表示します。

アクション フォーマット：

```
area action=showattr name=area_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメインの名前. その属性が一覧表示されます。

例: エリアの属性の表示

エリア「area4test」のすべての属性を表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd area action=showattr name=area4test
```

```
CA IT Client Manager r12
```

```
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
```

```
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

エリア「area4test」の属性

エリア..... : area4test
ホスト名..... : area4test.john_doe.com
登録日..... : 2005-04-16 11:48
最終更新日..... : 2005-04-16 11:48
場所..... : zenith
管理者..... : john doe
電話..... : hein.bloed@john_doe.com
アドレス..... : main st
コメント..... :
Installation
..バージョン..... : 0

SDCMD<A0000000>: OK

配信されたソフトウェアの管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[listDistSW — 配信されたソフトウェア製品の一覧表示 \(P. 32\)](#)

[removeDisSW — 配信されたソフトウェア製品の削除 \(P. 37\)](#)

listDistSW — 配信されたソフトウェア製品の一覧表示

このアクションでは、Client Automation ドメインに配信されているソフトウェア製品を一覧表示します。情報量を制限するには、フィルタを指定します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
area action=listDistSW name=area_name  
    [{filter=filter|filterfile=file_name}]
```


name

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前. そのドメインのために配信されたソフトウェアが一覧表示されます。

filter

以下を指定します： 一覧表示する情報量を制限するための式
アトミック フィルタ式の作成に有効な属性は、以下のとおりです。

属性**タイプ**

項目名

文字列

項目バージョン

文字列

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

例：

エリア「**WWWWW01B**」に配信された、「**tst**」で始まるバージョン **1.0** のソフトウェアに関する情報を取得するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd area action=listDistSW name=WWWWW01B filter="(Item name=tst* && Item version=1.0)"
```

```
CA IT Client Manager r12  
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx  
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

エリア「WWW01B」の配布ソフトウェアのリスト

項目名.....: tstbase
..項目バージョン.....: 1.0
..配信日.....: 2005-04-15 09:33
..インストール.....:
....EAdm.....: 0
....LAdm.....: 2
....SwD.....: 0
..配信されたプロシージャ.....:
....プロシージャ名.....: inst
....タスク.....: install
....配信日.....: 2005-04-15 09:33
....プロシージャ名.....: remdir
....タスク.....: configure
....配信日.....: 2005-04-15 09:33
....プロシージャ名.....: setdir
....タスク.....: configure
....配信日.....: 2005-04-15 09:33
....プロシージャ名.....: uninst
....タスク.....: uninstall
....配信日.....: 2005-04-15 09:33

項目名.....: tstkpk01
..項目バージョン.....: 1.0
..配信日.....: 2005-04-15 09:33
..インストール.....:
....EAdm.....: 0
....LAdm.....: 0
....SwD.....: 0
..配信されたプロシージャ.....:
....プロシージャ名.....: act
....タスク.....: activate
....配信日.....: 2005-04-15 09:33
....プロシージャ名.....: actCrash
....タスク.....: activate
....配信日.....: 2005-04-15 09:33
....プロシージャ名.....: conf

```

.....タスク..... : configure
.....配信日..... : 2005-04-15 09:33
.....プロシージャ名..... : confCrash
.....タスク..... : configure
.....配信日..... : 2005-04-15 09:33
.....プロシージャ名..... : inst
.....タスク..... : install
.....配信日..... : 2005-04-15 09:33
.....プロシージャ名..... : instCrash
.....タスク..... : install
.....配信日..... : 2005-04-15 09:33
.....プロシージャ名..... : instCrashAlways
.....タスク..... : install
.....配信日..... : 2005-04-15 09:33
.....プロシージャ名..... : uninst
.....タスク..... : uninstall
.....配信日..... : 2005-04-15 09:33
.....プロシージャ名..... : uninstCrash
.....タスク..... : uninstall
.....配信日..... : 2005-04-15 09:33
項目名..... : tstpk02
..項目バージョン..... : 1.0
..配信日..... : 2005-04-15 09:33
..インストール..... :
....EAdm..... : 0
....LAdm..... : 2
....SWD..... : 0
..配信されたプロシージャ..... :
....プロシージャ名..... : act
.....タスク..... : activate
.....配信日..... : 2005-04-15 09:33
....プロシージャ名..... : conf
.....タスク..... : configure
.....配信日..... : 2005-04-15 09:33
....プロシージャ名..... : inst
.....タスク..... : install
.....配信日..... : 2005-04-15 09:33
....プロシージャ名..... : instCrash
.....タスク..... : install
.....配信日..... : 2005-04-15 09:33
....プロシージャ名..... : uninst
.....タスク..... : uninstall
.....配信日..... : 2005-04-15 09:33

```

```
項目名.....: tstkpk03
..項目バージョン.....: 1.0
..配信日.....: 2005-04-15 09:33
..インストール.....:
....EAdm.....: 0
....LAdm.....: 2
....SWD.....: 0
..配信されたプロシージャ.....:
....プロシージャ名.....: act
.....タスク.....: activate
.....配信日.....: 2005-04-15 09:33
....プロシージャ名.....: conf
.....タスク.....: configure
.....配信日.....: 2005-04-15 09:33
....プロシージャ名.....: inst
.....タスク.....: install
.....配信日.....: 2005-04-15 09:33
....プロシージャ名.....: uninst
.....タスク.....: uninstall
.....配信日.....: 2005-04-15 09:33
リストされた項目の数.....: 4
読み取られた項目の数.....: 11
```

SDCMD<A0000000>: OK

EAdm

エンタープライズ管理者によって注文されたソフトウェア

LAdm

ドメイン管理者によって注文されたソフトウェア

SWD

ソフトウェアディテクタによって検出されたソフトウェア

removeDisSW — 配信されたソフトウェア製品の削除

このアクションでは、**Client Automation** ドメインの配信済みソフトウェア一覧から、配信されたソフトウェアを削除します。

ただし、関連するドメイン マネージャのソフトウェア ライブラリからソフトウェアを削除するという意味ではありません。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
area action=removeDistSW
    name=area_name
    item=item_name
    version=item_version
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前.

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前. それが削除されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン.

例

エリア「**WWWWW01B**」の配信済みソフトウェア一覧から、バージョン **1.0** のソフトウェア「**tstpk03**」を除去するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd area action=removeDistSW name=WWWWW01B item=tstpk03 version=1.0
```

抽出項目管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[listFetchedItems — 抽出項目の一覧表示](#) (P. 38)

[listFetchedItemFiles—List Fetched Item Files](#) (P. 40)

[removeFetchedItem—抽出項目の除去](#) (P. 43)

listFetchedItems — 抽出項目の一覧表示

このアクションでは、**Client Automation** ドメインの抽出項目を一覧表示します。情報量を制限するため、フィルタを指定できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
area action=listFetchedItems name=area_name
  [{filter=filter|filterfile=file_name}]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前. その抽出項目が一覧表示されます。

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式

アトミック フィルタ式の作成に有効な属性は、以下のとおりです。

属性

項目名

ステータス

抽出場所

抽出パス

コメント

型

文字列

(まだ) コピーされていません

文字列

文字列

文字列

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

例：

エリア「WWWWW01B」の抽出項目の一覧を取得するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd area action=listFetchedItems name=WWWWW01B
```

CA IT Client Manager r12

ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx

Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

エリア「WWWWW01B」の抽出された項目のリスト

項目名.....: fetch 1 base

..ステータス.....: コピーされていません

..抽出時間.....: 2005-04-16 15:53

..抽出パス.....: h:%save_sw_library%file_1%*

..コメント.....:

項目名.....: fetch 1 reginfo

..ステータス.....: コピーされていません

..抽出時間.....: 2005-04-16 15:53

..抽出パス.....: h:%save_sw_library%file_1%reginfo%*

..コメント.....:

項目名.....: fetch 2 base

..ステータス.....: コピーされていません

..抽出時間.....: 2005-04-16 15:53

..抽出パス.....: h:%save_sw_library%file_2%*

..コメント.....:

項目名.....: fetch 2 reginfo

..ステータス.....: コピーされていません

..抽出時間.....: 2005-04-16 15:53

..抽出パス.....: h:%save_sw_library%file_2%reginfo%*

..コメント.....:

```

項目名.....: fetch_weu1
..ステータス.....: コピーされていません
..抽出時間.....: 2005-04-16 15:27
..抽出パス.....: g:%tstool%tstbase%*
..コメント.....:

```

```

リストされた項目の数.....: 5
読み取られた項目の数.....: 5

```

SDCMD<A0000000>: OK

「fetch 1」で始まる項目名を持つエリア「WWW01B」の抽出項目の一覧を取得するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd area action=listFetchedItems name=WWW01B filter="Item name=fetch 1"
```

結果が以下のように表示されます。

```

項目名.....: fetch 1 base
..ステータス.....: コピーされていません
..抽出時間.....: 2005-04-16 15:53
..抽出パス.....: h:%save_sw_library%file_1%*
..コメント.....:

```

```

項目名.....: fetch 1 reginfo
..ステータス.....: コピーされていません
..抽出時間.....: 2005-04-16 15:53
..抽出パス.....: h:%save_sw_library%file_1%reginfo%*
..コメント.....:

```

```

リストされた項目の数.....: 2
読み取られた項目の数.....: 5

```

listFetchedItemFiles—List Fetched Item Files

このアクションでは、指定の **Client Automation** ドメインの抽出項目の抽出ファイルを一覧表示します。情報量を制限するには、フィルタを指定します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```

area action=listFetchedItemFiles
    name=area_name
    item=item_name
    [{filter=filter|filterfile=file_name}]
    [sizeinkb]

```


name

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前その抽出項目のファイルが一覧表示されます。

Item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前. その抽出ファイルが一覧表示されます。

filter

以下を指定します：一覧表示する情報量を制限するための式（抽出項目のリスト）

アトミック フィルタ式の作成に有効な属性は、以下のとおりです。

属性	型
ファイル名	文字列
ファイル サイズ	長整数
ファイル タイプ	{directory file}
Last modified at	文字列
ファイル属性	[R][H][S][D][A][N][T][W][X][C]
R	READONLY
H	HIDDEN
S	SYSTEM
D	DIRECTORY
A	ARCHIVE
N	NORMAL
T	TEMPORARY
W	ATOMIC_WRITE
X	XACTION_WRITE
C	COMPRESSED

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

sizeinkb

(オプション) **sizeinkb** 引数がコーディングされる場合、**fetchitemfiles** のサイズはキロバイト単位で表されます。

デフォルト: バイト

例

エリア「**WWWWW01B**」の抽出項目「**fetch 2 base**」のファイルに関する情報を取得するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd area action=listFetchedItemFiles name=WWWWW01B item="fetch 2 base"
```

CA IT Client Manager r12

ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx

Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

エリア「**WWWWW01B**」の抽出項目「**fetch 2 base**」のファイル リスト

```
ファイル名..... : actions.sxp
..ファイル サイズ..... : 260
..ファイル タイプ..... : file
..前回の修正時間..... : 2005-03-27 16:00
..ファイル属性..... : A
```

```
ファイル名..... : check.sxp
..ファイル サイズ..... : 166
..ファイル タイプ..... : file
..前回の修正時間..... : 2005-03-27 16:00
..ファイル属性..... : A
```

```

ファイル名..... : info.sxp
..ファイル サイズ..... : 431
..ファイル タイプ..... : file
..前回の修正時間..... : 2005-03-27 16:00
..ファイル属性..... : A

```

```

リストされた項目の数..... : 3
読み取られた項目の数..... : 3

```

SDCMD<A0000000>: OK

フィルタを使用して、エリア「WWWWW01B」の抽出項目「fetch 2 base」のファイル「info.sxp」に関する情報を取得するには、以下のコマンドを入力します。

```

cadsmcmd area action=listFetchedItemFiles name=WWWWW01B item="fetch 2 base"
filter="File name=info.sxp"

```

出力は以下のようになります。

```

ファイル名..... : info.sxp
..ファイル サイズ..... : 431
..ファイル タイプ..... : file
..前回の修正時間..... : 2005-03-27 16:00
..ファイル属性..... : A

```

```

リストされた項目の数..... : 1
読み取られた項目の数..... : 3

```

SDCMD<A0000000>: OK

removeFetchedItem—抽出項目の除去

このメソッドでは、Client Automation ドメインの抽出項目一覧から抽出項目を除去します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```

area action=removeFetchedItem
      name=area_name
      item=item_name

```

name

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメインの名前を指定します。

Item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

例：

エリア「WWWWW01B」の抽出項目の一覧から項目「fetch 2 base」を除去するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd area action=removeFetchedItem name=WWWWW01B item="fetch 2 base"
```

包含管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[addToDomains — ドメイングループへのドメインの追加 \(P. 44\)](#)

[removeFromDomains — ドメイングループからのドメインの除去 \(P. 45\)](#)

addToDomains — ドメイングループへのドメインの追加

このアクションでは、Client Automation ドメイン グループの一覧に Client Automation ドメインを追加します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
area action=addToDomains
      name=area_name
      {domain=domain_name}
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメインの名前.

それが 1 つ以上の Client Automation ドメイン グループに追加されます。

domain

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメイングループの名前.

パラメータを何度もコーディングすることができます。Client Automation ドメイン グループをいくつかまとめて割り当てるために、Client Automation ドメイン グループは既存のものである必要があります。

例：

ドメイン「prod.dom」にエリア「WWWWW01B」を追加するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd area action=addToDomains name=WWWWW01B domain=prod.dom
```

removeFromDomains—ドメイン グループからのドメインの除去

このアクションでは、1 つ以上の Client Automation ドメイン グループから Client Automation ドメインを除去します。

ただし、Client Automation ドメインを完全に削除するという意味ではありません。指定されたもの以外の包含関係は何も変わりません。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
area action=removeFromDomains  
      name=area_name  
      {domain=domain_name}
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメインの名前. それが数多くの Client Automation ドメイン グループから除去されます。

domain

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメイン グループの名前. そこから <adsmjp_BDSM_r11_2--DSM Documentation.xml57.xml.ttx ドメインが除去されます。

パラメータを何度もコーディングすることができます。いくつかの Client Automation ドメイン グループから Client Automation ドメインをまとめて除去するために、

例：

ドメイン「prod.dom」からエリア「WWWWW01B」を除去するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd area action=removeFromDomains name=WWWWW01B domain=prod.dom
```

aregsw – ソフトウェアの自動登録

aregsw コマンドで実行できる内容

- 標準の形式ですでにパッケージされている新しいソフトウェア プログラム（たとえば、ソフトウェア ライブラリから以前にエクスポートされたソフトウェア）を登録することができます。
- ライブラリにすでに登録されているプログラム バージョンに基づいており、かつ標準の形式ですでにパッケージされている新しいプログラム バージョンを登録することができます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
aregsw reginfo=reginfo
      path=sourcepath
      [basedonitem=baseproduct basedonversion=baseversion]
```

reginfo

システム上で登録情報サブディレクトリが配置されているディレクトリを指定します。

path

システム上で登録対象の項目のイメージが配置されているディレクトリを指定します。

basedonitem

保留中のインストールがキャンセルされる この新しい項目に基づいている元の項目の製品名。

basedonversion

保留中のインストールがキャンセルされる 基本製品のバージョン。

例：

以下の例は、Linux サーバから、サブディレクトリ **swtest2** にあるソフトウェアを自動的に登録する方法を示しています。¥test¥swtest1 で見つかった登録情報を使用して、自動登録が実行されます。

```
cadsmcmd aregsw reginfo=/test/swtest1 path=/test/swtest2
```

OSIM ブート サーバ

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[assignTargets—ターゲットのブートサーバへの割り当て](#) (P. 47)

[list—ブートサーバの一覧表示](#) (P. 48)

[listImages—ブートサーバでのイメージの一覧表示](#) (P. 48)

[listTargets—ブートサーバに登録されているターゲットの一覧表示](#) (P. 49)

assignTargets—ターゲットのブートサーバへの割り当て

assignTargets は、指定されたシステムを指定されたブートサーバに割り当てます。アドレス指定されたシステムは、非管理対象または管理対象コンピュータとして OSIM に登録する必要があります。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
bootServer      action=assignTargets
                 name=boot_server_name
{computer=target_name|MACaddresses=MAC_address}
```

computer

名前オプションによって識別されるブートサーバに割り当てられる OSIM 管理対象システムの名前を指定します。システムがすでに他のブートサーバに割り当てられている場合、この割り当ては不要となり削除されます。このオプションは、複数回コーディングして、リストを指定することができます。

name

指定されたターゲットのリストが割り当てられるブートサーバの名前を指定します。

MACaddresses

名前オプションによって識別されるブートサーバに割り当てられる OSIM 非管理対象ただし登録済みのシステムの MAC アドレスを指定します。システムがすでに他のブートサーバに割り当てられている場合、この割り当ては不要となり削除されます。このオプションは、複数回コーディングして、リストを指定することができます。

list—ブート サーバの一覧表示

このアクションは、ドメイン データベースに登録されているブート サーバを一覧表示します。

アクション の構文は、以下のとおりです。

```
bootServer      action=list
```

以下は、コマンドをの出力例です。

```
-----  
List of Boot Servers  
-----  
Boot server name.....: «name of boot server 1»  
..Status.....: {active | no response}  
[..ADS server attached.....: «ADS server name»  
..ADS server connection status.....: «active | not responding»]  
    .  
    .  
    .  
Boot server name.....: «name of boot server n»  
..Status.....: {active | no response}  
[..ADS server attached.....: «ADS server name»  
..ADS server connection status.....: «active | not responding»]
```

listImages—ブート サーバでのイメージの一覧表示

このアクションは、ドメイン データベースに登録されているブート サーバを一覧表示します。ブート イメージおよび OS イメージはそのブート サーバで利用可能です。

アクション の構文は、以下のとおりです。

```
bootServer      action=listImages  
                name=boot_server_name
```


name

ブート サーバの名前。このサーバで利用可能なイメージが一覧表示されます。

以下は、コマンドをの出力例です。

```
-----
List.of.Available.Images.at.<boot.server.name>
-----
Boot.server.name.....:«name.of.boot.server.1»
..Image.name.....:«name.of.image.1»
{...Status.....:detected.|
...Image.type.....:«image.type»}
.....•
.....•
.....•
..Image.name.....:«name.of.image.m»
{...Status.....:detected.|
...Image.type.....:«image.type»}
```

listTargets—ブート サーバに登録されているターゲットの一覧表示

このアクションは、指定されたブート サーバに登録されているターゲットを一覧表示します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
bootServer      action=listTargets
                name=boot_server_name
                [{managedOnly | unmanagedOnly | ADSOnly}]
```

name

ブート サーバの名前を指定します。

managedOnly

オプション。これが指定されている場合、OSIM 管理対象システムだけが報告されます。

unmanagedOnly

オプション。これが指定されている場合、OSIM 登録されていて、ただし管理対象外のシステムだけが報告されます。

ADOnly

これが指定されている場合、ADS 管理対象システムだけが一覧表示されます。

注: managedOnly、unmanagedOnly、または ADOnly のいずれもシステムにコーディングされていない場合、システムは OSIM 管理対象または OSIM 管理対象外のどちらに対してもフィルタリングされません。

コマンドは、以下の形式で stdout（標準出力）に出力リストを提供します。

```
-----
List OSIM Targets assigned to «boot server name»
-----
Target name.....: «name of target 1»
..MACAddress.....: «MAC address»
..Status.....: {OSIM managed («status» |
.....OSIM unmanaged | ADS managed}
      .
      .
      .
Target name.....: «name of target n»
..MACAddress.....: «MAC address»
..Status.....: {OSIM managed («status» |
.....OSIM unmanaged | ADS managed}
```

cancel — 配信のキャンセル

エンタープライズマネージャから、**cancel** コマンドを使用して、以前ドメインまたはドメイングループに送信したオーダをキャンセルします。オーダは、まだ開始されていない場合、正常に完了した場合、または失敗した場合にのみキャンセルすることができます。

ドメインマネージャから、ステータスに関係なく、既存のジョブに対して **cancel** コマンドを発行します。ただし、ターゲットコンピュータですでに開始されているアクティブなジョブをキャンセルすると、キャンセル前にそのジョブがインストールされていたターゲットコンピュータでは、ドメインマネージャに失敗したジョブとして一時的に登録されます。ジョブが完了すると、ターゲットコンピュータごとに実際のジョブステータスがドメインマネージャに登録されます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

エンタープライズマネージャでは以下のようになります。

```
cancel item=item_name
      version=version_name
      procedure=procedure_name
      task={install | activate | configure | uninstall}
      installedwith=procedure_name
      {compgrp=computer_group_name}
      {domain=domain_name | area=area_name }
      cname=[name]
```

ドメインマネージャでは以下のようになります。

```
cancel item=item_name
      version=version_name
      procedure=procedure_name
      task={install | activate | configure | uninstall}
      installedwith=procedure_name
      {compgrp=computer_group_name |
      computer=computer_name}
```

area

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前.

このパラメータは、複数回コーディングして、**Client Automation** ドメインのリストに渡すことができます。

cname

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの一意の名前（オプション）/ 配信を指定します。

指定された名前のジョブ コンテナ / 配布がすでに存在する場合、エラーが報告されます。

「cname」がコーディングされていない場合、一般的な名前が生成されます。

compgrp

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの名前を指定します。パラメータを何度もコーディングすることができます。いくつかのコンピュータ グループをまとめて割り当てるために、

computer

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前.

このパラメータを何度か記述すると、コンピュータのリストを割り当てることができます。

domain

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイングループの名前.

このパラメータを何度か記述すると、**Client Automation** ドメイングループのリストを渡すことができます。

installedWith

保留中のインストールがキャンセルされる インストール プロシージャの名前 を指定します。

このパラメータは、キャンセル対象のプロシージャがインストール プロシージャである場合にも必要です。 この場合、**installedWith** とともに再度インストール プロシージャを入力します。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

procedure

キャンセルするジョブの項目プロシージャの名前を指定します。

task

保留中のインストールがキャンセルされる 項目プロシージャによって実行されるタスクのタイプ。

install

インストール プロシージャ

activate

起動プロシージャ

configure

設定プロシージャ

uninstall

アンインストール プロシージャ

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

例

コマンドモードでは、**cadsmcmd** の後にキャンセル コマンドおよびそのパラメータを続けて入力します。

```
cadsmcmd cancel item="Software TestC" version=0.46 installedwith=Install2  
procedure=ConfigureC task=configure compgrp=SDCommandTest  
area=N_LOCAL_SRV area=N_LOCAL_SRV_02 cname=TestCont7
```

comconf—共通設定の管理

comConf コマンドでは、共通設定を管理することができます。管理対象はポリシーと設定です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[ポリシー](#) (P. 54)

[パラメータ](#) (P. 65)

[設定](#) (P. 68)

ポリシー

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[createPolicy—ポリシーを作成](#) (P. 54)

[deletePolicy — ポリシーの削除](#) (P. 56)

[sealPolicy — ポリシーを封印](#) (P. 57)

[showPolicy — ポリシーの詳細な情報の表示](#) (P. 58)

[unsealPolicy — ポリシーの封印解除](#) (P. 64)

createPolicy—ポリシーを作成

このアクションはポリシーを作成します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
comconf action=createPolicy
  [name=policy_name]
  pType=policy_type
  [comment=comment]
  [{configuration=identifier}]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ポリシーの名前を指定します。

pType

保留中のインストールがキャンセルされる ポリシーのタイプを指定します。

有効な値は以下のとおりです。

COMPUTER

以下を指定します：コンピュータおよびコンピュータ グループに関するポリシー

IndividualComputer

以下を指定します：調整済みのコンピュータ設定

comment

を指定します。ポリシーに関するコメントまたは説明

configuration

保留中のインストールがキャンセルされる 設定の **UUID** を指定します。

「設定」をコーディングしない場合には、ポリシーはどの設定にも割り当てられません。

タイプ「**IndividualComputers**」のポリシーでは、このパラメータが必須です。

成功すると、ポリシーが封印解除されたままになり、作成されたポリシー オブジェクトの識別子が以下の形式で標準出力に示されます。

識別子： XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX

例：

タイプが「computer」で名前が「myPolicy」というポリシーを作成する場合は、以下のコマンドを呼び出す必要があります。

```
cadsmcmd comConf action=createPolicy name=myPolicy pType=computer
comment="myContainer"
```

コマンド出力は、以下のようになります。

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード： オフ

```
Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.
マネージャ： myDomMgr.ca.com
ドメイン： myDomMgr
ドメイン タイプ： Domain
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
識別子： 1EED60D7-2CF9-11DB-A2C8-8DB9D78218A7
SDCMD<A0000000>: OK
```

```
comconf action=createPolicy
  [name=policy_name]
  pType=policy_type
  [comment=comment]
  [{configuration=identifier}]
```

deletePolicy — ポリシーの削除

このアクションでは、ポリシーを削除します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
comconf action=deletePolicy
  {policies=(policy_name, policy_type)}...
```


policies

削除されるポリシーをポリシー名およびポリシー タイプで指定します。

有効なタイプ

コンピュータ

以下を指定します： コンピュータおよびコンピュータ グループに関するポリシー

IndividualComputer

以下を指定します： 調整済みのコンピュータ設定

このパラメータは、1 回の呼び出しでポリシーのリストを除去するために、1 回以上記述することができます。

例：

コンピュータ ポリシー「myPolicy」および「mgrPolicy」を削除するには、以下のみを記述します。

```
cadsmcmd comConf action=deletePolicy policies=(myPolicy,computer)
policies=(mgrPolicy,computer)
```

sealPolicy — ポリシーを封印

このアクションでは、ポリシーを封印します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
comconf action=sealPolicy
{policies=(policy_name, policy_type)}...
```

policies

封印されるポリシーをポリシー名およびポリシー タイプで指定します。

有効なタイプ

コンピュータ

以下を指定します： コンピュータおよびコンピュータ グループに関するポリシー

IndividualComputer

以下を指定します： 調整済みのコンピュータ設定

このパラメータは、1 回の呼び出しでポリシーのリストを封印するために、1 回以上記述することができます。

例：

コンピュータ ポリシー「myPolicy」および「mgrPolicy」を封印するには、以下のみを記述します。

```
cadsmcmd comConf action=sealPolicy policies=(myPolicy,computer)
policies=(mgrPolicy,computer)
```

showPolicy — ポリシーの詳細な情報の表示

このアクションは、指定のポリシーについて詳しい情報を表示します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
comconf action=showPolicy
[name=policy_name]
[pType=policy_type]
DETAILED [DESC]][MEMOF]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ポリシーの名前 を指定します。名前にはワイルドカードを含めることができます。この場合、指定したパターンに名前が一致するすべてのポリシーについて詳しい情報が一覧表示されます。

コーディングしない場合には、デフォルトのポリシーが一覧表示されます。

pType

保留中のインストールがキャンセルされる ポリシーのタイプを指定します。

コーディング場合には、一覧では型チェックが行われません。

有効な値は以下のとおりです。

コンピュータ

以下を指定します： コンピュータおよびコンピュータ グループに関するポリシー

IndividualComputer

以下を指定します： 調整済みのコンピュータ設定

ReportedComputer

以下を指定します： レポートされるコンピュータ ポリシー

DETAILED

コーディングされている場合「パラメータ セクション」がポリシーと共に一覧表示されます、コーディングされていない場合は表示されません。

DESC

パラメータ情報がパラメータと共に一覧表示されます。コーディングしない場合には、パラメータ情報が省略されます。

MEMOF

設定がポリシーと共に一覧表示されます。対象のポリシーがメンバとなっている。

コーディングしない場合には、設定情報が表示されません。

例：

ポリシー「enableUserProfiles」の基本情報が一覧表示されます。これは、以下を起動することにより実行できます。

```
cadsmcmd comConf action=showPolicy name=enableUserProfiles pType=computer
```

表示される情報は以下のようになります。

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード： オフ

```
Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.
マネージャ： myDomMgr.ca.com
ドメイン： myDomMgr
ドメイン タイプ： Domain
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
-----
Show Policies
-----
```

```
ポリシー名.....: enableUserProfiles
..タイプ.....: COMPUTER
..コメント.....:
..ステータス.....: 封印済み
```

リストされたポリシーの数: 1

SDCMD<A0000000>: OK

注：セクションの名前は、ポリシーのルートから始まる次の形式の絶対セクションパスです。

"/section_1/section_2/section_3"

セクション名は、Unicenter Client Automation エクスプローラの [内部名] 列でも確認することができます。

詳細な情報が必要な場合は、以下のコマンドを起動します。

```
cadsmcmd comConf action=showPolicy name=enableUserProfiles  
pType=computer detailed
```

表示される情報は、以下のようになります。

```
CA IT Client Manager r12  
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx  
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード： オフ

```
Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.  
マネージャ： myDomMgr.ca.com  
ドメイン： myDomMgr  
ドメイン タイプ： Domain  
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

Show Policies

```
ポリシー名.....: enableUserProfiles  
..タイプ.....: COMPUTER  
..コメント.....:  
..ステータス.....: 封印済み  
..パラメータ セクション  
...パラメータ セクション名.....: /itrm/agent/solutions/usd_agent  
.....識別子.....: 8AC0F5E8-292F-11DB-979E-96A4044440CB  
.....パラメータ  
.....パラメータ名.....: SupportedUnitTypes  
.....識別子.....: 8ACCE1AA-292F-11DB-979E-96A4044440CB  
.....値.....: Computer ComputerUser
```

リストされたポリシーの数: 1

SDCMD<A0000000>: OK

さらにパラメータの説明が必要な場合は、以下のコマンドを起動します。

```
cadsmcmd comConf action=showPolicy name=enableUserProfiles  
pType=computer detailed desc
```

以下のような情報が表示されます。

```
CA IT Client Manager r12  
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx  
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード: オフ

```
Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.  
マネージャ: myDomMgr.ca.com  
ドメイン: myDomMgr  
ドメイン タイプ: Domain  
サポート: CO CCNF USD OSIM
```

ポリシーの表示 [DETAILED [desc]]

```
ポリシー名.....: enableUserProfiles  
..タイプ.....: COMPUTER  
..コメント.....:  
..ステータス.....: 封印済み  
..パラメータ セクション  
...パラメータ セクション名.....: /itrm/agent/solutions/usd_agent  
.....識別子.....: 8AC0F5E8-292F-11DB-979E-96A4044440CB  
.....パラメータ  
.....パラメータ名.....: SupportedUnitTypes  
.....識別子.....: 8ACCE1AA-292F-11DB-979E-96A4044440CB  
.....値.....: Computer ComputerUser  
.....パラメータ情報名.....: pi_SupportedUnitTypes  
.....属性  
.....属性名.....: ppath  
.....値.....: /itrm/agent/solutions/usd_agent/suppor  
.....+ tedunittypes  
.....属性名.....: desc_ja  
.....値.....:  
.....属性名.....: string2_ja  
.....値.....:  
.....属性名.....: string1_ja  
.....値.....:
```

```

.....属性名.....: desc_fr
.....値.....: Les types d'unites pris en charge par
.....+ le module d'extension de l'agent.
.....属性名.....: string2_fr
.....値.....: Ordinateur + profil utilisateur
.....属性名.....: string1_fr
.....値.....: Ordinateur
.....属性名.....: desc_de
.....値.....: Die vom Agent-Plugin unterstützten Ein
.....+ heitstypen.
.....属性名.....: string2_de
.....値.....: Computer + Benutzerprofil
.....属性名.....: string1_de
.....値.....: Computer
.....属性名.....: desc_en
.....値.....: エージェント プラグインでサポート
.....+ ent plugin.
.....属性名.....: string2_en
.....値.....: コンピュータ + ユーザ プロファイル
.....属性名.....: string2
.....値.....: Computer ComputerUser
.....属性名.....: string1_en
.....値.....: Computer
.....属性名.....: string1
.....値.....: Computer
.....属性名.....: type
.....値.....: stringlist

```

リストされたポリシーの数: 1

SDCMD<A0000000>: OK

基本情報のほかに、ポリシーが付加されている設定に関する追加情報も必要な場合は、以下のコマンドを起動します。

```
cadsmcmd comConf action=showPolicy name=enableUserProfiles
pType=computer memof
```

表示される情報は、以下のようになります。

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード: オフ

Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.

マネージャ: myDomMgr.ca.com

ドメイン: myDomMgr

ドメイン タイプ: Domain

サポート: CO CCNF USD OSIM

Show Policies

ポリシー名.....: enableUserProfiles
..タイプ.....: COMPUTER
..コメント.....:
..ステータス.....: 封印済み
..メンバ.....: \$AllComputer_update:1155623899
....ターゲット.....: \$AllComputer

リストされたポリシーの数: 1

SDCMD<A0000000>: OK

unsealPolicy — ポリシーの封印解除

このアクションでは、ポリシーを封印解除します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
comconf action=unsealPolicy
  {policies=(policy_name, policy_type)}...
```

policies

封印解除されるポリシーをポリシー名およびポリシー タイプで指定します。

有効なタイプ

コンピュータ

以下を指定します: コンピュータおよびコンピュータ グループに関するポリシー

IndividualComputer

以下を指定します: 調整済みのコンピュータ設定

このパラメータは、1 回の呼び出しでポリシーのリストを封印解除する場合、複数回コーディングすることができます。

例：

コンピュータ ポリシー「myPolicy」および「mgrPolicy」を封印解除するには、以下のみを記述します。

```
cadsmcmd comConf action=unsealPolicy policies=(myPolicy,computer)
policies=(mgrPolicy,computer)
```

パラメータ

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[setParm — パラメータおよび値の設定](#) (P. 65)

[deleteParm—パラメータの削除](#) (P. 67)

setParm — パラメータおよび値の設定

このアクションでは、パラメータおよび値を設定することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
comconf action=setParm
  name=policy_name,
  pType=policy_type
  parmsec=parameter_section_name
  parameter=parameter_name
  value=parameter_value
```

policy

以下を指定します： ポリシーの名前 を指定します。

pType

保留中のインストールがキャンセルされる ポリシーのタイプ を指定します。

parmsec

保留中のインストールがキャンセルされる **parameter** セクション を指定します。

このセクションは、ポリシーのルート「/section_1/section_2/section_3」からの絶対セクションパスです。

セクション名は、[showPolicy](#) (P. 58) アクションの詳細出力から取得することも、**Client Automation** エクスプローラの [内部名] 列から取得することもできます。

指定したセクションが指定のポリシーに存在しない場合には、そのセクションがデフォルトのポリシーに存在しているかどうか確認され、存在していれば指定どおりにセクションが作成されます。

parameter

保留中のインストールがキャンセルされる パラメータの名前 を指定します。

パラメータが指定のパラメータ セクションで利用できなくても、デフォルトのポリシーと同じセクションで利用できるのであれば、パラメータが作成されます。

value

新しいパラメータの値です。 .

例：

SD エージェントでユーザ プロファイルを有効にするには、以下の内容をコーディングする必要があります。

```
cadsmcmd comconf action=setParm name=myPol3 pType=Computer  
parmsec=/itrm/agent/solutions/usd_agent parameter=SupportedUnitTypes  
Value="Computer ComputerUser"
```

deleteParm—パラメータの削除

このアクションでは、パラメータを削除します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
comconf action=deleteParm
  name=policy_name,pType=policy_type
  parmsec=parameter_section_name
  parameter=parameter_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ポリシーの名前 を指定します。

pType

保留中のインストールがキャンセルされる ポリシーのタイプ を指定します。

parmsec

保留中のインストールがキャンセルされる **parameter** セクション を指定します。このセクションは、ポリシーのルート
「/section_1/section_2/section_3」からの絶対セクションパスです。

セクション名は、[showPolicy](#) (P. 58) アクションの詳細出力から取得することも、**Client Automation** エクスプローラの [内部名] 列から取得することもできます。

parameter

保留中のインストールがキャンセルされる パラメータの名前を指定します。

例：

エージェントからのユーザプロファイルのレポートを再度無効にするには、以下を起動します。

```
cadsmcmd comconf action=deleteParm name=myPol3 pType=Computer
parmsec=/itrm/agent/solutions/usd_agent parameter=SupportedUnitTypes
```

設定

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[activateConfig — 予定済み設定の起動](#) (P. 68)
[addPolicyToConfig—設定へのポリシーの追加](#) (P. 69)
[cancelConfig—スケジュールされている設定の取り消し](#) (P. 70)
[createConfig—設定の作成](#) (P. 70)
[deleteConfig — 設定の削除](#) (P. 72)
[removePolicyFromConfig—設定からのポリシーの除去](#) (P. 73)
[showConfig—設定の表示](#) (P. 74)

activateConfig — 予定済み設定の起動

このアクションでは、ターゲットに対して予定済み設定を起動します。起動化オーダがスケジュールされれば、起動が完了するまで待機することなく、アクションに制御が戻ります。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
comconf action=activateConfig
      confId=configuration_identifier
      [atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
```

confId

起動する予定済み設定の識別子を指定します。

attime

保留中のインストールがキャンセルされるアクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

注：設定を起動するには、この設定にアタッチされているすべてのポリシーが封印されている必要があります。封印されていない場合は、起動に失敗します。

SDCMD<CMD000145>: CCNF API リクエストは失敗しました： 7 - オブジェクト ステータスには互換性がありません。

例：

2007 年 8 月 16 日の 11 時 35 分に、設定 myConfig を起動するには、以下を実行します。

```
cadsmcmd comConf action=activateConfig
confId=AF2BB414-2D11-11DB-A2C8-8DB9D78218A7 attime="2007-08-16 11:35"
```

addPolicyToConfig—設定へのポリシーの追加

このアクションでは、指定した設定にポリシーを追加します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
comconf action=addPolicyToConfig
  confId=configuration_identifier
  {{policies=(policy_name, policy_type)}}
```

confId

指定した既存のポリシーの追加先となる設定の識別子を指定します。

指定した既存のポリシーの追加先となる設定の識別子です。

policies

指定の設定に割り当てるポリシーの名前およびタイプを指定します。

このアクションによって、**stdout** に対して以下の方法で処理される設定に対するこのアクションの成否がレポートされます。

Configuration 《設定名》, 《設定識別子》

Policy added: 《ポリシー名》, 《ポリシー タイプ》, 《ポリシー識別子》

Policy failed: 《ポリシー名》, 《ポリシー タイプ》, 《ポリシー識別子》, 《エラー コード》, 《エラー メッセージ》

例 :

タイプが「computer」のポリシー「anotherPolicy」および「HideSystray」を設定に追加するには、以下を起動します。

```
cadsmcmd comConf action=addPolicyToConfig
confId=AF2BB414-2D11-11DB-A2C8-8DB9D78218A7
policies=(anotherPolicy,computer) policies=(HideSystray,computer)
```

cadsmcmd によって stdout に記録される情報は、以下のようになります。

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード: オフ

Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.

マネージャ: myDomMgr.ca.com

ドメイン: myDomMgr

ドメイン タイプ: Domain

サポート: CO CCNF USD OSIM

```
設定 myConfig、AF2BB414-2D11-11DB-A2C8-8DB9D78218A7.  
追加されたポリシー： anotherPolicy, COMPUTER, 0C165644-2D16-11DB-A2C8-8DB9D78218A7  
追加されたポリシー： HideSystray, COMPUTER, BBD3174E-2D06-11DB-A2C8-8DB9D78218A7  
SDCMD<A0000000>: OK
```

cancelConfig—スケジュールされている設定の取り消し

このアクションでは、スケジュール済み設定をキャンセルします。エージェントでまだ設定の起動が始まっていない場合にのみ、正常に終了します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
comconf action=cancelConfig  
  confId=configuration_identifier  
  [WAIT]
```

confId

キャンセルするスケジュール済み設定の識別子 (uuid) を指定します。

WAIT

コーディングすると、アクションがオーダの完了を待機します。コーディングしないと、オーダが開始された後すぐにアクションに制御が戻ります。

注： WAIT を指定すると、アクションに制御が戻るまで多少時間がかかることがあります。

例：

設定 myConfig をキャンセルして完了を待機するには、以下を起動します。

```
cadsmcmd comConf action=cancelConfig  
confId=AF2BB414-2D11-11DB-A2C8-8DB9D78218A7 待機
```

createConfig—設定の作成

このアクションでは、設定を作成することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
comconf action=createConfig  
  name=configuration_name  
  target=target_name  
  ttype=target_type  
  {policies=(policy_name, policy_type)}...
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる 設定の名前を指定します。

target

保留中のインストールがキャンセルされる 既存のターゲットの名前を指定します。

ttype

を指定します。ターゲットのタイプ

有効な値は以下のとおりです。

コンピュータ

ターゲットはコンピュータです。

このパラメータは、ドメイン マネージャでのみサポートされています。

グループ

ターゲットはコンピュータ グループです。

タイプが一致しない場合には、エラーがレポートされます。

policies

作成する設定に割り当てるポリシーの名前およびタイプを指定します。

この方法ではタイプがコンピュータであるポリシーのみ追加することができます。

作成した設定は、以下の形式で **stdout** に記録されます。

作成される設定： <<設定名>>、<<設定識別子>>

例

タイプが「computer」のポリシー「myPolicy」を設定「myConfig」に割り当て、その設定をコンピュータ グループ myGroup のターゲットとするには、以下を起動します。

```
cadsmcmd comConf action=createConfig name=myConfig target=myGroup ttype=group
policies=(myPolicy,computer)
```

stdout に記録される情報は、以下のようになります。

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード： オフ

```
Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.
マネージャ： myDomMgr.ca.com
ドメイン： myDomMgr
ドメイン タイプ： Domain
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
作成された設定： myConfig,AF2BB414-2D11-11DB-A2C8-8DB9D78218A7.
SDCMD<A000000>: OK
```

deleteConfig — 設定の削除

このアクションでは、指定した設定を削除します。

フォーマットは、以下のとおりです。

```
comconf action=deleteConfiguration
        confId=configuration_identifier}
```

confId

削除する設定の識別子を指定します。

例：

設定識別子 844A8622-2D15-11DB-A2C8-8DB9D78218A7 の設定「obsoleteConfig」を削除するには、以下を起動します。

```
cadsmcmd comConf action=deleteConfig confId=844A8622-2D15-11DB-A2C8-8DB9D78218A7
```


removePolicyFromConfig—設定からのポリシーの除去

このアクションでは、指定の設定からポリシーを除去します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
comconf action=removePolicyFromConfig
  confId=configuration_identifier
  {{policies=(policy_name, policy_type)}}
```

confId

指定のポリシーを除去する設定の識別子を指定します。

policies

指定した設定から除去する、ポリシーの名前およびタイプを指定します。

このアクションによって、**stdout** に対して以下の方法で処理される設定に対するこのアクションの成否がレポートされます。

Configuration 《設定名》, 《設定識別子》

Policy removed: 《ポリシー名》, 《ポリシー タイプ》, 《ポリシー識別子》

Policy failed: 《ポリシー名》, 《ポリシー タイプ》, 《ポリシー識別子》, 《エラー コード》, 《エラー メッセージ》

例

タイプが「computer」のポリシー「anotherPolicy」および「HideSystray」を設定から削除するには、以下を起動します。

```
cadsmcmd comConf action=removePolicyFromConfig
confId=AF2BB414-2D11-11DB-A2C8-8DB9D78218A7
policies=(anotherPolicy,computer) policies=(HideSystray,computer)
```

cadsmcmd によって **stdout** に記録される情報は、以下のようになります。

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード: オフ

```
Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.
マネージャ: myDomMgr.ca.com
ドメイン: myDomMgr
ドメイン タイプ: Domain
サポート: CO CCNF USD OSIM

設定 myConfig、AF2BB414-2D11-11DB-A2C8-8DB9D78218A7.
削除するポリシー: anotherPolicy、COMPUTER、0C165644-2D16-11DB-A2C8-8DB9D78218A7
削除するポリシー: HideSystray、COMPUTER、BBD3174E-2D06-11DB-A2C8-8DB9D78218A7
SDCMD<A0000000>: OK
```

showConfig—設定の表示

このアクションでは、指定の設定の内容を表示します。

フォーマットは、以下のとおりです。

```
comconf action=showConfig
  [{targets=(target_name, target_type)}...]
  [status=configuration_status]
  [{errors=error_code}]
  [DETAILED [DESC]]
```

targets

一覧表示される設定で対応する必要があるターゲットの名前とタイプです。

有効なタイプは「Computer」と「Group」です。「Computer」は、ドメインマネージャでのみ有効です。

このパラメータをコーディングしないと、何をターゲットにしているかに関係なく、設定が一覧表示されます。

status

保留中のインストールがキャンセルされる 設定のステータス。

有効なステータスは、以下のとおりです。

予定済み

予定済みの設定

Scheduled

起動のスケジュールが確定している設定

進行中

進行中の起動

アクティブ

設定がアクティブになっています。

キャンセル

現在の設定はキャンセル中です。

エラー

起動中に発生したエラー

コーディングしないと、ステータスに影響されることなく、設定が一覧表示されます。

エラー

起動中に発生したエラー

コーディングしないと、エラー コードに影響されることなく、設定が一覧表示されます。

DETAILED

コーディングすると、設定がポリシーおよび調整済みの設定情報と共に一覧表示されます。コーディングしないと、そのような情報が表示されません。

DESC

コーディングすると、パラメータ説明情報が一覧表示されます。コーディングしないと、そのような情報が表示されません。

例：

すべての設定の一覧を取得するには、以下のコマンドを起動します。

```
cadsmcmd comConf action=showConfig
```

stdout に表示される結果は、以下のようになります。

```
CA IT Client Manager r12  
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx  
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード： オフ

```
Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.
マネージャ: myDomMgr.ca.com
ドメイン: myDomMgr
ドメイン タイプ: Domain
サポート: CO CCNF USD OSIM
```

設定の表示:

```
設定名.....: $AllComputer_update:1155623899
..識別子.....: A3D1923B-2C28-11DB-935A-B86845DDDD44
..ターゲット.....: $AllComputer
..タイプ.....: GROUP
..識別子.....: 466FC48C-A62A-403F-A811-A1CD7081663D
..ステータス.....: アクティブ
..起動日.....: 2006-08-15 08:38
設定名.....: 677-lab-pimpeL_update:1155623902
..識別子.....: A5A4DF22-2C28-11DB-935A-B86845DDDD44
..ターゲット.....: 677-lab-schge2s
..タイプ.....: COMPUTER
..識別子.....: 8348785D-9148-4ED2-B2F8-EA25082DABB3
..ステータス.....: アクティブ
..起動日.....: 2006-08-15 08:38
```

```
設定名.....: pampel_update:1155623902
..識別子.....: A5BA544C-2C28-11DB-935A-B86845DDDD44
..ターゲット.....: knikl01z
..タイプ.....: COMPUTER
..識別子.....: 89E84AE7-4DD9-470D-86AF-152264A50FD7
..ステータス.....: アクティブ
..起動日.....: 2006-08-15 08:38
```

```
設定名.....: myConfig
..識別子.....: AF2BB414-2D11-11DB-A2C8-8DB9D78218A7
..ターゲット.....: myGroup
..タイプ.....: GROUP
..識別子.....: E8E36096-3503-453A-90BD-40B3208548E2
..ステータス.....: 予定済み
```

```
Number of configurations listed: 4
SDCMD<A0000000>: OK
```

予定済みの設定のみを一覧表示する必要がある場合は、以下を起動します。

```
cadsmcmd comConf action=showConfig status=planned
```

以下のような出力になります。

CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

トレース モード: オフ

Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.
マネージャ: myDomMgr.ca.com
ドメイン: myDomMgr
ドメイン タイプ: Domain
サポート: CO CCNF USD OSIM

設定の表示:

..ステータス.....= 予定済み

設定名.....: myConfig
..識別子.....: AF2BB414-2D11-11DB-A2C8-8DB9D78218A7
..ターゲット.....: myGroup
....タイプ.....: GROUP
....識別子.....: E8E36096-3503-453A-90BD-40B3208548E2
..ステータス.....: 予定済み

Number of configurations listed: 1
SDCMD<A0000000>: OK

詳細な情報を取得するには、以下を起動します。

cadsmcmd comConf action=showConfig status=planned detailed

以下のような出力になります。

CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

トレース モード: オフ

Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.
マネージャ: myDomMgr.ca.com
ドメイン: myDomMgr
ドメイン タイプ: Domain
サポート: CO CCNF USD OSIM

設定の表示:

..ステータス.....= 予定済み
.. (詳細)

設定名.....: myConfig
..識別子.....: AF2BB414-2D11-11DB-A2C8-8DB9D78218A7
..ターゲット.....: myGroup
...タイプ.....: GROUP
...識別子.....: E8E36096-3503-453A-90BD-40B3208548E2
..ステータス.....: 予定済み
..調整された設定
..ポリシー
...ポリシー名.....: myPolicy
...タイプ.....: COMPUTER
...コメント.....: e.g.
...ステータス.....: 封印解除
...パラメータ セクション
...パラメータ セクション名.....: /itm/agent/solutions/usd_agent
...識別子.....: 1AD0030A-2D0D-11DB-A2C8-8DB9D78218A7
...パラメータ
...パラメータ名.....: SupportedUnitTypes
...識別子.....: D2B1604A-2D0D-11DB-A2C8-8DB9D78218A7
...値.....: Computer ComputerUser

Number of configurations listed: 1

SDCMD<A0000000>: OK

また、パラメータの説明を含めるには、以下を起動します。

cadsmcmd comConf action=showConfig status=planned detailed desc

以下のような出力になります。

CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

トレース モード: オフ

Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.

マネージャ: myDomMgr.ca.com

ドメイン: myDomMgr

ドメイン タイプ: Domain

サポート: CO CCNF USD OSIM

設定の表示:

..ステータス.....= 予定済み

. [詳細【記述】]

設定名.....: myConfig

..識別子.....: AF2BB414-2D11-11DB-A2C8-8DB9D78218A7

..ターゲット.....: myGroup

...タイプ.....: GROUP

...識別子.....: E8E36096-3503-453A-90BD-40B3208548E2

..ステータス.....: 予定済み

..調整された設定

..ポリシー

...ポリシー名.....: myPolicy

...タイプ.....: COMPUTER

...コメント.....: e.g.

...ステータス.....: 封印解除

...パラメータ セクション

...パラメータ セクション名.....: /itrm/agent/solutions/usd_agent

...識別子.....: 1AD0030A-2D0D-11DB-A2C8-8DB9D78218A7

...パラメータ

...パラメータ名.....: SupportedUnitTypes

...識別子.....: D2B1604A-2D0D-11DB-A2C8-8DB9D78218A7

...値.....: Computer ComputerUser

...パラメータ情報名.....: pi_SupportedUnitTypes

...属性

...属性名.....: ppath

...値.....: /itrm/agent/solutions/usd_agent/suppor

.....+ tedunittypes

...属性名.....: desc_ja

...値.....:

```

.....属性名.....: string2_ja
.....値.....:
.....属性名.....: string1_ja
.....値.....:
.....属性名.....: desc_fr
.....値.....: Les types d'unites pris en charge par
.....+ le module d'extension de l'agent.
.....属性名.....: string2_fr
.....値.....: Ordinateur + profil utilisateur
.....属性名.....: string1_fr
.....値.....: Ordinateur
.....属性名.....: desc_de
.....値.....: Die vom Agent-Plugin unterstutzten Ein
.....+ heitstypen.
.....属性名.....: string2_de
.....値.....: Computer + Benutzerprofil
.....属性名.....: string1_de
.....値.....: Computer
.....属性名.....: desc_en
.....値.....: エージェント プラグインでサポート
.....+ ent plugin.
.....属性名.....: string2_en
.....値.....: コンピュータ + ユーザ プロファイル
.....属性名.....: string2
.....値.....: Computer ComputerUser
.....属性名.....: string1_en
.....値.....: Computer
.....属性名.....: string1
.....値.....: Computer
.....属性名.....: type
.....値.....: stringlist

Number of configurations listed: 1
SDCMD<A0000000>: OK

```

compgroup—コンピュータ グループ管理

コンピュータ グループ (CompGroup) とは、いくつかのターゲット コンピュータを 1 つにまとめたものです。CompGroup のすべてのメソッドは、特に指定がない限り、ドメインおよびエンタープライズ マネージャで使用することができます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[一般的なグループ管理](#) (P. 81)

[メンバシップ管理](#) (P. 97)

[階層管理](#) (P. 103)

一般的なグループ管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[create—コンピュータ グループまたはクエリ グループの作成](#) (P. 81)

[delete — コンピュータ グループの削除](#) (P. 83)

[cadsmcmd.compgroup.deletewithwarn](#) (P. 84)

[list - コンピュータ グループの一覧表示](#) (P. 84)

[listMembership — コンピュータ グループのメンバシップの一覧表示](#) (P. 86)

[listSWP—コンピュータ グループにリンクされているソフトウェア ポリシーの一覧表示](#) (P. 88)

[modify—コンピュータ グループの変更](#) (P. 89)

[setDownloadMethod — コンピュータ グループのダウンロード方法の設定](#) (P. 92)

[showAttr—コンピュータ グループの属性の表示](#) (P. 93)

create—コンピュータ グループまたはクエリ グループの作成

このアクションを使用すると、コンピュータ グループまたはクエリ グループを作成することができます。

フォーマットは、以下のとおりです。

```
compgroup action=create
  name=group_name
  [superGroup=name_of_supergroup]
  [comment=comment]
  [{queryName=query |sdQuery=query }
  [engineName=engine_name
  [enginePeriod=engine_evaluation_frequence]] |
  [{computer=target_computer} | addall}]
  [InheritPerms[={y|n}]]
```

addall

作成時に存在する SD ターゲット コンピュータがすべてグループに追加されます。

comment

を指定します。コメントを指定します。

computer

SD ターゲット コンピュータの名前、ユーザプロファイル、またはグループに追加されるドッキング デバイスを指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。グループに複数のオブジェクトを追加

engineName

グループ評価を処理するエンジンの名前を指定します。

コーディングしないと、どのエンジンでもグループ評価を処理できるようになります。

このパラメータは、**queryName** または **sdQuery** がコーディングされている場合にのみ有効です。

enginePeriod

エンジンがグループを再評価する期間（分単位）を指定します。

engineName をコーディングしているのに **enginePeriod** をコーディングしていない場合には、デフォルトの 1 分が使用されます。

このパラメータは、**engineName** がコーディングされている場合にのみ有効です。

inheritPerms

このパラメータは、作成中のグループがセキュリティ権限を継承するかどうかを指定します。

「**InheritPerms**」または「**InheritPerms=y**」がコーディングされている場合、指定されたグループでは権限がメンバに継承され、セキュリティグループとなります。

「**InheritPerms=n**」がコーディングされている場合、指定されたグループでは権限がメンバに継承されず、したがってセキュリティグループはありません。

デフォルト : InheritPerms=y

name

作成するコンピュータ グループの名前を指定します。

queryName

保留中のインストールがキャンセルされる グループの評価に使用されるクエリの名前

sdQuery

以下を指定します：グループの評価に使用されるレガシー クエリを指定します。 クエリは、**SD 4.0 SP1** に準拠している必要があります。

superGroup

保留中のインストールがキャンセルされる 問題のグループがサブグループとして作成される既存のコンピュータ グループの名前を指定します。 コーディングしないと、グループがシステム フォルダ「Computers and Users」に作成されます。

例：

コンピュータ グループが作成されます。

- グループは、**LA** という名前にする必要があります。
- 名前が **LA** であるターゲット コンピュータはすべて動的に収集されます。
- グループは、**6 時間**ごとに更新する必要があります。
- 初期状態では、グループはほかのどのグループのサブグループでもない必要があります。

以下のコマンドを実行すると、そのようなグループが作成されます。

```
compGroup action=create name=LA SdQuery="Target.Name MATCHES 'LA.*'"
EnginePeriod=360
```

delete – コンピュータ グループの削除

このアクションを使用すると、コンピュータ グループを削除できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compgroup action=delete name=group_name
name
```

以下を指定します： コンピュータ グループの名前 を指定します。

例：

グループ **qg** を削除するには、以下のコマンドを入力する必要があります。

```
cadsmcmd compgroup action=delete name=qg
```

[cadsmcmd.compgroup.deletewithwarn](#)

このアクションを使用すると、コンピュータ グループを削除できます。

このアクションは、リンクされたソフトウェア ポリシーやカタログ グループがある場合は警告にその旨を表示してコンピュータ グループを削除できるようにします。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compgroup action=deletewithwarn name=group_name  
name
```

削除するコンピュータ グループの名前を指定します。

[cadsmcmd.example.compgroup.deletewithwarn](#)

グループ **qg** を警告付きで削除するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd compgroup action=deletewithwarn name= qg
```

注： コンピュータ グループがエンタープライズ マネージャで削除される場合、従属性の検査は、エンタープライズ マネージャでのみ行われ、グループがレプリケートされるドメイン マネージャでは行われません。そのレプリケーションでは、ユーザ通知なしに、任意のソフトウェア カatalog グループのリンクを解除し、ソフトウェア ポリシーを無効にし、グループのリンクを解除してから、レプリケートされたグループを削除します。

list - コンピュータ グループの一覧表示

このアクションを使用すると、クエリ グループをはじめとするコンピュータ グループおよびソフトウェア テンプレートをすべて一覧表示できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compgroup action=list  
  {filter=filter |filterfile=file_name}
```

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式

コンピュータ グループ名	文字列	
グループ タイプ	{グループ クエリ [/テンプレート] グループ テンプレート グループ}	
スコープ	文字列	
コメント	文字列	
作成日	日付	
作成時間	Time	
変更日	日付	
変更時間	Time	
クエリ	文字列	クエリ グループのみ

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

例：

クエリによって決定されたローカルのグループすべてのリストが必要があるとします。以下のコマンドを実行すると、ドメインマネージャでそのようなグループのリストが作成されます。

```
cadsmcmd compgroup action=list filter="(Group type=Group && Scope=local)"
```

```
-----  
コンピュータ グループのリスト  
フィルタ (Group type=Group && Scope=local)  
-----
```

```
cg_1: (グループ、ローカル)  
cg_2: (グループ、ローカル)
```

```
表示されたオブジェクトの数: 2  
読み取られたオブジェクトの数: 2
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

listMembership – コンピュータ グループのメンバシップの一覧表示

このアクションを使用すると、あるコンピュータ グループがサブグループとして含まれているコンピュータ グループを一覧表示することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compgroup action=listMembership name=group_name  
[groupScope={global | local}]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの
名前 を指定します。

groupScope

指定されたグループのスコープを指定します。このオプションの有効
な値は、以下のとおりです。

グローバル

グループはグローバル グループで、エンタープライズ マネージャ
で作成されます。グループは、ドメイン マネージャに複製される
可能性があります。

ローカル

CADSMCMD が接続しているドメイン マネージャで作成された
ローカル グループを指定します。

「groupScope」が指定されていない場合、CADSMCMD では、最初にグ
ループをローカル グループとして検索します。検索に失敗すると、次
に、グループをグローバル グループとして検索します。

例 :

グループ「cg_2」がメンバーとなっているグループのリストを取得するには、以
下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd compgroup action=listMembership name=cg_2
```

以下の情報が表示されます。

```
-----  
「cg_2」は以下のグループのメンバーです。  
-----
```

```
cg_1 (グループ、操作可能、2005-01-28 09:57)
```

```
cg_x (グループ、操作可能、2005-01-28 10:56)
```

listSWP—コンピュータ グループにリンクされているソフトウェア ポリシーの一覧表示

このアクションは、指定されたコンピュータ グループに現在リンクされているすべてのソフトウェア ポリシーを一覧表示します。

アクション の構文は、以下のとおりです。

```
compgroup      action=listSWP
               name=computer_group_name
               [groupScope={global | local}]]
               [separator=separator_sign]
```

name

すべてのソフトウェア ポリシーがリンクされているコンピュータ グループの名前が一覧表示されます。

groupScope

このオプションは、コンピュータ グループのタイプを判別します。有効な値は以下のとおりです。

≪コーディングなし≫

ローカルで作成された必要な名前のソフトウェア ポリシーがある場合、このポリシーが使用されます。存在しない場合は、エンタープライズ マネージャから配布されたポリシーを探します。後者は、ドメイン マネージャのみです。

distributed

指定するソフトウェア ポリシーはエンタープライズ マネージャで作成され、宛先のマネージャに配信されたポリシーである必要があります。

ローカル

指定するソフトウェア ポリシーはローカルで作成されたポリシーである必要があります。

注：エンタープライズ マネージャでは、すべてのソフトウェア ポリシーのタイプがローカルである必要があります。

separator

セパレータは、リスト内の行で別の出力フィールドを区切るために使用される文字です。デフォルトのセパレータは、「:」（コロン）です。

デフォルトのセパレータを使用した出力の形式は、以下のとおりです。

```
-----
List of Software Policies Linked to «group name» of Scope «group scope»
短整数型
-----
«policy_1 name»:«policy_1 type»:[un]sealed
    •
    •
    •
«policy_n name»:«policy_n type»:[un]sealed
```

modify—コンピュータ グループの変更

このアクションを使用すると、コンピュータ グループを変更することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compgroup action=modify
  name=group_name
  [newName=new_name]
  [comment=comment]
  [{queryName=query |sdQuery=sdquery|noQuery}]
  [engineName=engine_name]
  [enginePeriod=engine_evaluation_frequency]]
  [InheritPerms[={y|n}]]
```

comment

を指定します。コメント。

注： 既存のコメントを消去するには、空の文字列（""）を入力してください。

engineName

グループ評価を処理するエンジンの名前を指定します。空の文字列をコーディングすると、どのエンジンでもクエリを処理できるようになります。

現在グループにクエリが割り当てられていない場合、警告が出され、パラメータは無視されます。

enginePeriod

エンジンが、グループの再評価を行う期間を分単位で指定します。
コーディングされていない場合は、1 と見なされます。

この時点でクエリがグループに 1 つも割り当てられていないうえ、評価を処理する特殊なエンジンもない場合には、警告が表示され、パラメータが無視されます。

inheritPerms

このオプションパラメータは、変更中のグループがセキュリティグループかどうかを指定します。

「InheritPerms=n」がコーディングされている場合、指定されたグループでは権限がメンバに継承されず、したがってセキュリティグループではありません。

「InheritPerms」または「InheritPerms=y」がコーディングされている場合、指定されたグループでは権限がメンバに継承され、したがってセキュリティグループとなります。

パラメータがコーディングされていない場合、グループの権限継承設定は変更されません。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの
名前 を指定します。

newName

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの
新しい名前.

noQuery

コーディングされているクエリがあれば削除されます。

query

テンプレートもクエリ グループであることを示します。コーディング
するクエリは、USD 4.0 SP1 レガシー クエリである必要があります。

queryName

保留中のインストールがキャンセルされる グループの評価に使用さ
れるクエリの名前

sdQuery

保留中のインストールがキャンセルされる グループの評価に使用さ
れるレガシー クエリを指定します。クエリは、SD 4.0 SP1 に準拠して
いる必要があります。

注： parameters not coded は関連する属性を変更しません。

例：

グループ「LA」に変更が必要だとします。

- グループの名前を「LA District」に変更する必要があります。
- グループを 2 時間ごとに更新する必要があります。

以下のコマンドを使用すると、これらを変更できます。

```
cadsmcmd compGroup action=modify name=LA newName="LA District" EvaluationPeriod=120
```

setDownloadMethod – コンピュータ グループのダウンロード方法の設定

このアクションを使用すると、1つまたは複数のコンピュータ グループのダウンロード方法を設定できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compGroup action= setDownloadMethod
[sep=separator_sign]
[{{compgrp=computer_group_name}}
| {{ccompgrp=computer_group_name}}]
downloadMethod={NOS|NOSLESS|DTS}
```

sep

このパラメータは、グループ名を範囲と区別するための1バイトの区切り記号を指定します。区切り記号は、コマンドによって指定されるどの **groupName** の一部であってもなりません。デフォルトはドット (.) です。

compgrp

このアクションで参照されるコンピュータ グループの名前。このパラメータは、グループのリストを指定するために、1回以上コーディングすることができます。CADSMCMD は、このパラメータによって指定されたグループをローカル グループとして検索を試みます。このようなグループが存在しない場合、次にグローバル グループとして検索を試みます。

このアクションでは最低でも1つ **compgrp** または **ccompgrp** パラメータをコーディングしておく必要があります。

ccompgrp

このアクションによって参照されるグループの名前およびタイプ。渡される情報の構文は以下のとおりです。

```
(group_name separator_sign {local|global})
```

区切り記号はデフォルトによりドット (.) になっていますが、「sep」パラメータを使用して変更できます。local がコーディングされている場合、グループはローカル ドメイン マネージャで作成されたグループとみなされます。global がコーディングされている場合、グループはエンタープライズ マネージャから複製とみなされます。

このアクションでは最低でも 1 つ compgrp または ccompgrp パラメータをコーディングしておく必要があります。

downloadMethod

グループのメンバ切り替えられるダウンロード方法を指定します。以下のいずれかを選択します。

NOS	「内部 - NOS」
NOSLESS	「内部 - NOS なし」
DTS	「DTS - NOS なし」

アクションは、SD がインストールされているドメイン マネージャによってのみ実行されます。

showAttr—コンピュータ グループの属性の表示

このアクションを使用すると、コンピュータ グループの属性を一覧表示することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compgroup action=showattr  
name=group_name  
[groupScope={global | local}]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの
名前（属性を以下に示します）

groupScope

指定されたグループのスコープを指定します。このオプションの有効
な値は、以下のとおりです。

グローバル

グループはグローバル グループで、エンタープライズ マネージャ
で作成されます。グループは、ドメイン マネージャに複製される
可能性があります。

ローカル

CADSMCMD が接続しているドメイン マネージャで作成された
ローカル グループを指定します。

「groupScope」が指定されていない場合、CADSMCMD では、最初にグ
ループをローカル グループとして検索します。検索に失敗すると、次
に、グループをグローバル グループとして検索します。

注： テンプレート グループの場合、方法は **templategroup** のアクション **showattr**
(563以下のページで定義参照：) にマッピングされます。

例：

コンピュータ グループの属性を表示するには、以下のコマンドを起動します。

```
cadsmcmd compgroup action=showAttr name=cg
```

出力

標準グループ

たとえば、**cg_1** などの標準コンピュータ グループの場合、出力は以下のようになります。

コンピュータ グループ「cg_1」の属性

コンピュータ グループ名..... : cg_1
グループ タイプ..... : グループ
範囲..... : ローカル
ステータス..... : 操作可能
コメント..... :

セキュリティ タイプ..... : セキュリティ グループ
作成日..... : 2005-01-28
作成時間..... : 09:57
作成日..... : 2005-01-28
変更時間..... : 09:57

クエリ グループ

たとえば、「**qg**」などのクエリ グループの場合、出力は以下のようになります。

コンピュータ グループ「qg」の属性

コンピュータ グループ名..... : qg
グループ タイプ..... : クエリ グループ
範囲..... : ローカル
ステータス..... : 操作可能
コメント..... :

セキュリティ タイプ..... : セキュリティ グループ
作成日..... : 2005-01-21
作成時間..... : 16:06
作成日..... : 2005-01-21
作成時間..... : 16:06
クエリ..... : USD_qg [01/21/05 16:06:56.588]
エンジン名..... : <すべてのエンジン>
エンジンの期間 (分)..... : 60

ソフトウェアテンプレート

注：テンプレート グループの場合、方法は **templategroup** のアクション **showattr** (563以下のページで定義参照：) にマッピングされます。

例：

コンピュータ グループの属性を表示するには、以下のコマンドを起動します。

```
cadsmcmd compgroup action=showAttr name=cg
```

出力

標準グループ

たとえば、**cg_1** などの標準コンピュータ グループの場合、出力は以下のようになります。

```
-----
コンピュータ グループ「cg_1」の属性
-----
コンピュータ グループ名..... : cg_1
グループ タイプ..... : グループ
範囲..... : ローカル
ステータス..... : 操作可能
コメント..... :
作成日..... : 2005-01-28
作成時間..... : 09:57
作成日..... : 2005-01-28
変更時間..... : 09:57
```

クエリ グループ

たとえば、「**qg**」などのクエリ グループの場合、出力は以下のようになります。

```
-----
コンピュータ グループ「qg」の属性
-----
コンピュータ グループ名..... : qg
グループ タイプ..... : クエリ グループ
範囲..... : ローカル
ステータス..... : 操作可能
コメント..... :
作成日..... : 2005-01-21
作成時間..... : 16:06
作成日..... : 2005-01-21
作成時間..... : 16:06
クエリ..... : USD_qg [01/21/05 16:06:56.588]
エンジン名..... : <すべてのエンジン>
エンジンの期間 (分)..... : 60
```


ソフトウェアテンプレート

注：テンプレートグループの場合、方法は `templategroup` のアクション `showattr` (563以下のページで定義参照：) にマッピングされます。

メンバシップ管理

本章の以降のメソッドは、ドメイン マネージャでのみ動作します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[add — コンピュータ グループへのコンピュータの追加](#) (P. 97)

[listmem — コンピュータ グループのメンバの一覧表示](#) (P. 98)

[remove — コンピュータ グループからのコンピュータの削除](#) (P. 100)

[listFailedJobs -- コンピュータ グループの失敗したジョブの一覧表示](#) (P. 101)

[listJobs — グループのメンバに関連付けられている既存のジョブに関する情報の一覧表示](#) (P. 102)

add — コンピュータ グループへのコンピュータの追加

このアクションを使用すると、コンピュータ グループにコンピュータを追加することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compgroup action=add
  name=group_name
  {{computer=computer_name} | addall}
```

addall

作成時に存在する SD ターゲット コンピュータがすべてグループに追加されます。

computer

このパラメータは、SD ターゲット コンピュータの名前、ユーザ プロファイル、またはグループに追加されるドッキング デバイスを指定します。

このパラメータは、グループに 1 個以上のオブジェクトを追加するために、複数回コーディングすることができます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの名前 を指定します。

例：

マシン HOHOH01A および KEKEK01A をグループ `cg_1` に追加するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd compgroup action=add name=cg_1 computer=HOHOH01A computer=KEKEK01A
```

注： `cg_1` がクエリに関連付けられている場合、この操作は失敗します。クエリ グループに割り当てられたマシンのリストは、クエリを変更または再評価することによってのみ変更できます。

listmem — コンピュータ グループのメンバーの一覧表示

このアクションを使用すると、グループのメンバーを一覧表示することができます。

フォーマットは、以下のとおりです。

```
compgroup action=listMem
  name=group_name
  [groupScope={global | local}]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの名前

groupScope

指定されたコンピュータ グループの範囲を指定します。このオプションの有効な値は、以下のとおりです。

グローバル

グループはグローバル グループで、エンタープライズ マネージャで作成されます。グループは、ドメイン マネージャに複製される可能性があります。

ローカル

ローカル スコープ (ドメイン)

「groupScope」が指定されていない場合、CADSMCMD では、最初にグループをローカル グループとして検索します。検索に失敗すると、次に、グループをグローバル グループとして検索します。

以下の出力リストが得られます。

```
-----  
Members of computer group "(<group name>, <group scope>)"  
-----  
<group member>  
<group member>  
<group member>  
...
```

例 :

グループ「cg_1」のメンバーのリストを取得するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd compgroup action=listMem name=cg_1
```

出力は、以下のとおりです。

```
-----  
Members of computer group "(cg_1, local)"  
-----  
GRRGRRGC  
GRGRGRGRU02  
HOHOH01A  
HOHOH01B  
KEKEK01A  
KUKUK01A  
KUKUK01B  
WAUWA01
```

remove—コンピュータ グループからのコンピュータの削除

ドメイン マネージャに接続している場合には、コンピュータを完全に削除するか、またはコンピュータのリンクを解除することによって、コンピュータ グループからメンバを除去することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compgroup action=remove
  name=group_name
  {computer=computer_name}
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの名前 を指定します。

computer

このパラメータは、SD ターゲット コンピュータの名前、ユーザ プロファイル、またはグループから除去されるドッキング デバイスを指定します。

このパラメータは、グループから 1 個以上のオブジェクトを除去するために、複数回コーディングすることができます。

例：

マシン HOHOH01A および KEKEK01A をグループ cg_1 から削除するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd compgroup action=remove name=cg_1 computer=HOHOH01A computer=KEKEK01A
```

注：cg_1 がクエリに関連付けられている場合、この操作は失敗します。クエリ グループに割り当てられたマシンのリストは、クエリを変更または再評価することによってのみ変更できます。

listFailedJobs -- コンピュータ グループの失敗したジョブの一覧表示

このアクションでは、このグループのメンバに関連付けられている失敗したジョブについて詳しい情報を一覧表示します。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compgroup action=listFailedJobs
  name=computer_group_name
  [groupScope={global | local}]
```

名前

既存のコンピュータ グループの名前を指定します。グループのメンバに関連付けられている既存の失敗したジョブについて詳しい情報が一覧表示されます。

名前にはデータベースのワイルドカードを含めることができます。たとえば、以下のようになります。

これは空文字も含め任意の文字列を表します。

これは任意の 1 文字を表します。

groupScope

指定されたグループのスコープを指定します。このオプションの有効な値は、以下のとおりです。

グローバル

グループはグローバル グループで、エンタープライズ マネージャで作成されます。グループは、ドメイン マネージャに複製される可能性があります。

ローカル

CADSMCMD が接続しているドメイン マネージャで作成されたローカル グループを指定します。

groupScope が指定されていない場合、グループがローカルまたはグローバル グループであることはチェックされません。

表示される情報は、compgroup のアクション listJobs (102以下のページで定義参照：) の場合と同じようにフォーマットされます。

listJobs – グループのメンバに関連付けられている既存のジョブに関する情報の一覧表示

このアクションでは、このグループのメンバに関連付けられている既存のジョブについて詳しい情報を一覧表示します。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compgroup action=listJobs
  name=group_name
  [groupScope={global | local}]
```

名前

既存のコンピュータ グループの名前です。グループのメンバに関連付けられている既存の失敗したジョブについて詳しい情報が一覧表示されます。

名前にはデータベースのワイルドカードを含めることができます。たとえば、以下のようになります。

これは空文字も含め任意の文字列を表します。

これは任意の 1 文字を表します。

groupScope

指定されたグループのスコープを指定します。このオプションの有効な値は、以下のとおりです。

グローバル

グループはグローバル グループで、エンタープライズ マネージャで作成されます。グループは、ドメイン マネージャに複製される可能性があります。

ローカル

CADSMCMD が接続しているドメイン マネージャで作成されたローカル グループを指定します。

groupScope が指定されていない場合、グループがローカルまたはグローバル グループであることはチェックされません。

取得された情報は、以下の形式で表示されます。

 グループ `group_name` に関連付けられたジョブの一覧

```

コンピュータ グループ名.....: group_name
..ターゲット.....: ターゲット コンピュータ名
...ジョブ名.....: ジョブ名
...ジョブ識別子.....: コンピュータ ジョブ識別子
...項目名.....: 項目名
...項目バージョン.....: 項目バージョン
...プロシージャ名.....: プロシージャ名
...タスク.....: タスク
...ユーザ パラメータ.....: ユーザ パラメータ
...ジョブ ステータス.....: ジョブ ステータス
...エラー コード.....: エラー コード
...エラー メッセージ.....: エラー メッセージ
...作成日.....: yyyy-mm-dd
...作成時間.....: hh:mm
...起動日.....: yyyy-mm-dd
...起動時間.....: hh:mm
...完了日.....: yyyy-mm-dd
...完了時間.....: hh:mm

```

階層管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[addSubgroups—コンピュータ グループへのサブグループの追加](#) (P. 103)

[listSubgroups—サブグループの一覧表示](#) (P. 104)

[removeSubgroups—サブグループの除去](#) (P. 106)

addSubgroups—コンピュータ グループへのサブグループの追加

このアクションを使用すると、グループにサブグループを追加することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```

compgroup action=addSubgroups
  [name=group_name]
  {compgrp=group_name}

```

name

「compgrp」で指定したコンピュータ グループの追加先となるコンピュータ グループの名前を指定します。

グループをクエリに関連付けしないでください。

このパラメータをコーディングしないと、サブグループがコンテナ「コンピュータおよびユーザ」にコピーされます。

compgrp

追加するコンピュータ グループの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。いくつかのコンピュータ グループにサブグループを追加するために、

注： コンピュータ グループの追加先となるグループにクエリ グループを指定しないでください。

例：

「LA admin」、「LA sales」および「LA rd」という名前のグループを、グループ「LA District」に追加する必要があるとします。以下のコマンドによって、これらのグループがサブグループとして、スーパーグループ「LA District」に割り当てられます。

```
cadsmcmd compGroup action=addSubgroups name="LA District" compgrp="LA admin"
compgrp="LA sales" compgrp="LA rd"
```

この場合、グループ「LA admin」、「LA sales」および「LA rd」は、コマンドの呼び出し時に定義されている必要があります。定義されていない場合には、サブグループがないというエラーが表示されます。

listSubgroups—サブグループの一覧表示

このアクションを使用すると、グループのサブグループを一覧表示することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compgroup action=listSubgroups
  [name=group_name]
  [groupScope={global | local}]
```


name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの名前を指定します。

このパラメータを指定しなかった場合、フォルダ「**Computers and Users**」のコンピュータ グループが一覧表示されます。

groupScope

指定されたグループのスコープを指定します。このオプションの有効な値は、以下のとおりです。

グローバル

グループはグローバル グループで、エンタープライズ マネージャで作成されます。グループは、ドメイン マネージャに複製される可能性があります。

ローカル

CADSMCMD が接続しているドメイン マネージャで作成されたローカル グループを指定します。

「groupScope」が指定されていない場合、CADSMCMD では、最初にグループをローカル グループとして検索します。検索に失敗すると、次に、グループをグローバル グループとして検索します。

例：

グループ「**LA District**」に関連するすべてのサブグループを一覧表示するには、以下のようコード化します。

```
cadsmcmd compGroup action=listSubgroups name="LA District"
```

出力リストのフォーマットは、以下のとおりです。

コンピュータ グループ「**LA District**」のサブグループの一覧

```
LA admin: (グループ、ローカル)
LA sales: (クエリ グループ、ローカル)
LA rd: (テンプレート グループ、ローカル、1)
LA pr: (クエリ/テンプレート グループ、ローカル、1)
```

テンプレート グループ行の数字は、グループに関連付けられたテンプレートの数を示しています。

removeSubgroups—サブグループの除去

このアクションを使用すると、コンピュータ グループからサブグループを除去することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
compgroup action=removeSubgroups
  [name=group_name]
  {compgrp=group_name}
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの名前を指定します。グループをクエリに関連付けないでください。このパラメータをコーディングしないと、サブグループがフォルダ「Computer and User Groups」から除去されます。

compgrp

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。コンピュータグループをいくつかまとめて除去するために、

注：「除去」とは **compgrp** パラメータで指定したコンピュータを完全に削除するという意味ではなく、**name** パラメータで指定したサブグループからリンクを解除するという意味です。

name パラメータで指定するグループには、クエリ グループを指定しないでください。

例：

「LA admin」、「LA sales」および「LA rd」という名前のグループを、グループ「LA District」から再度除去する必要があります。以下のコマンドによって、これらのグループがサブグループとして、スーパーグループ「LA District」から除去されます。

```
cadsmcmd compGroup action=removeSubgroups name="LA District" compgrp="LA admin"
compgrp="LA sales" compgrp="LA rd"
```

グループ「LA admin」、「LA sales」および「LA rd」は、このコマンドではデータベースから削除されません。グループ「LA District」から除去されるだけです。その他の包含関係および以前に表示された包含関係は、まだ存在します。

解除される包含関係が、除去されるサブグループの 1 つに対して唯一のものである場合、このコマンドによってエラーが報告されます。たとえば、「LA admin」は、「LA District」のサブグループとしてのみ指定されますが、ほかのサブグループは、フォルダ「Computer and User Groups」またはほかのグループでも指定されます。その場合、「LA admin」は除去されませんが、他のグループは除去されます。メッセージ「A001513 – 無効なコンピュータ グループ操作です。グループは少なくとも 1 つのスーパー グループを持つ必要があります。」が表示されます。「LA admin」を除去するには、このグループを削除するか（`cadsmcmd compGroup action=delete name="LA admin"`）、またはこのグループをサブグループとして別のグループに割り当ててから「LA District」から除去する方法があります。

configure - ジョブ コンテナで設定ジョブを生成します

Install コマンドを参照してください。

copyfetched—抽出項目のコピー

copyfetched コマンドは、エンタープライズ マネージャから発行されたときにのみ有効です。

ドメイン マネージャからエンタープライズ マネージャに抽出されたファイルにアクセスするときに使用します。このように抽出されたファイルは、エンタープライズ マネージャの抽出エリアに格納されます。このようなファイルにアクセスするには、エンタープライズ マネージャの別の場所にそのファイルをコピーする必要があります。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
copyfetched area=area_name
            item=fetched_item_name
            path=enterprise_manager_path_name
```

area

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメインの名前を指定します。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 抽出項目の名前. この項目名は、その項目を取得した前の抽出操作で使用されたものです。

path

保留中のインストールがキャンセルされる 抽出される項目へのパスを指定します。

指定したパスがまだ存在しない場合は作成されます。

例 :

以下の例では、**copyfetched** は Windows エンタープライズ マネージャから発行されています。「Tested Software」が「Charolette」エリアから抽出され、エンタープライズ マネージャ上のディレクトリ「C:¥TEST¥FETCHED1」にコピーされます。

```
cadsmcmd copyfetched area=CHAROLETTE item=" Tested Software"path=c:¥test¥fetched1
```

dereg—項目の登録解除

このコマンドは、エンタープライズ ライブラリまたはドメイン ライブラリからソフトウェアを登録解除または除去する場合に使用します。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
dereg item=item_name version=item_version
```

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

deregproc—プロセスの登録解除

このコマンドは、ソフトウェア プログラムに関連付けられた項目プロセスを登録解除 (エンタープライズ ライブラリまたはドメイン ライブラリから除去) する場合に使用します。製品がすでに封印されているときには、項目プロセスを埋め込み項目プロセスにすることはできません。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
deregproc item=item_name  
          version=item_version  
          procedure=procedure_name
```

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる プロセスの名前.それが登録解除されます。

distribution—配信コマンド

このアクションはエンタープライズ マネージャに対してのみ有効です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[delete — 配信の削除](#) (P. 110)

[list — 配信の一覧表示](#) (P. 110)

[setDistPriority—配信の優先度の設定](#) (P. 111)

[showAttr — 配信の属性の表示](#) (P. 111)

[showOrderDetails—配信のオーダー詳細の表示](#) (P. 112)

delete — 配信の削除

問題の配信が削除されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
distribution action=delete
               name=distribution_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる **name of the distribution** を指定します。

list — 配信の一覧表示

このアクションでは、配信の一覧を表示します。この一覧には、呼び出し元のユーザが一覧表示する権限を持つ配信のみが掲載されます。配信名およびそのステータスが丸かっこで囲まれて表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
distribution action=list
```

次の情報が表示されます。

```
-----
配信のリスト
-----
```

```
send prod (ok)
send instconf (ok)
remove prod (作成中)
remote reg (ok)
multi (待機中)
-----
```

```
検出された配信の数： 5
```

```
表示された配信の数： 5
```

一覧には、配信名のほか、そのステータスが丸かっこで囲まれて表示されます。

setDistPriority—配信の優先度の設定

このアクションでは、指定された配信が封印済みかそうでないかに関係なく、配信の優先度を変更します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
distribution action=setDistPriority
  name=distribution_name
  [distPriority={1,...,10}]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる **name of the distribution**。

distPriority

保留中のインストールがキャンセルされる 配信に割り当てられる新しい優先度。

優先度は数値で指定し、その値は **1** 以上 **10** 以下である必要があります。

showAttr — 配信の属性の表示

このアクションでは、配信の属性が表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
distribution action=showattr name=distribution_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる **name of the distribution** を指定します。

次の情報が表示されます。

```
ここに挙げたコマンドのいずれかを入力してください.....: distribution
{list | showattr | showorderdetails |
...delete | setdistpriority}.....: showattr
配信名 = <name>.....: DIST_ins_xxx003_def
```

配信「DIST_ins_xxx003_def」の属性を表示します。

```
配信の優先度.....: 5
配信ステータス.....: エラー
アクセス権マスク.....: 13
.....削除は許可されています
```

```

.....更新は許可されています
.....再開は許可されています。
作成日.....: 2006-08-16
作成時間.....: 13:50
配信日.....: 2006-08-16
配信時間.....: 13:50
停止日.....: 2006-08-16
停止時間.....: 19:50
サイトの数.....: 1
.....0 - 待機中
.....0 - アクティブ
.....1 - 失敗
.....0 - OK
..エリア.....: xxx-yyy-zzz
....場所.....:
....送信済みデータ (パーセント) .....: 100
....配信ステータス.....: ok
....オーダー ステータス.....: エラー
....失敗したオーダー番号.....: 1
....オーダー エラー コード.....: 301820
....オーダー エラー メッセージ.....: 配信ステータス エラー オーダー番号: 1
.....+..および以下のオーダーは
.....+ 実行できませんでした。 原因:
.....+ 項目プロシージャに関連する項目が見つかりませ
んでした。または、
.....+ 項目がローカルで登録されました。
注文.....: 1
..注文名:.....: Reg Job Cnr:DIST_ins_xxx003_def
....注文番号.....: 1
....ジョブ コンテナの優先度.....: 5
....ジョブ.....: 1
.....ジョブ名.....: tstxxx_3_es 1.0:inst
.....ジョブの順序番号.....: 0
.....ジョブ ステータス.....: WAITING

SDCMD<A0000000>: OK

```

showOrderDetails—配信のオーダー詳細の表示

このアクションでは配信のオーダー詳細を表示します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```

distribution action=showorderdetails
    name=distribution_name
    ordername=order_name

```


name

保留中のインストールがキャンセルされる name of the distribution を指定します。

orderid

保留中のインストールがキャンセルされる オーダの名前。

次の情報が表示されます。

ここに挙げたコマンドのいずれかを入力してください.....: distribution

{list | showattr | showorderdetails |

...delete | setdistpriority}.....: showorderDetails

配信名 = <name>.....: kkkkk01k [16.08.2006 08:04:40]

orderid = <name>.....: Reg Job Cnr:kkkkk01k
[16.08.2006 08:04:40]

オーダ「Reg Job Cnr:kkkkk01k [16.08.2006 08:04:40]」に関する詳細

.....配信「kkkkk01k [16.08.2006 08:04:40]」

..オーダ名:.....: Reg Job Cnr:kkkkk01k [16.08.2006 08:04:
.....+ :40]

.....注文番号.....: 1

.....オーダ プロパティ.....: 1

.....リンクなし

.....ジョブ コンテナの優先度.....: 5

.....ジョブ.....: 1

.....ジョブ名.....: tstbase 1.0: inst

.....項目名.....: tstbase

.....項目バージョン.....: 1.0

.....項目タイプ.....: SOFTWARE

.....プロシージャ名.....: inst

.....ジョブ ステータス.....: WAITING

.....0 - 待機中

.....0 - アクティブ

.....0 - OK

.....0 - 失敗

.....ジョブの順序番号.....: 0

.....作成日.....: 2006-08-16

.....作成時間.....: 08:05

.....配信日.....: 2006-08-30

.....配信時間.....: 08:04

.....起動日.....: 2006-08-31

.....起動時間.....: 08:04

```
.....配信カレンダー.....:
.....タイムアウト <日/時間>.....: 7 / 0
.....ジョブ起動.....: ローカル時間/正確な時間
.....ジョブのアクセス権.....: 2
.....キャンセルは許可されています
.....ブレイクアクション.....: アクションなし
.....ポストアクション.....: アクションなし
.....ジョブ オペレーション マスク.....: 4
.....カレンダーが制御されています
.....ユーザ パラメータ.....:
.....ジョブ実行モード.....: 1
.....実行
.....プロンプト タイムアウト <日/時間>.....: 1 / 0
.....ジョブ タスク.....: 1 - インストール

SDCMD<A0000000>: OK
```

注：表示される情報は、オーダのタイプによって異なります。

domain—ドメイン グループの管理

このセクションの各メソッドは、エンタープライズ マネージャでのみ有効です。

注：Unicenter Software Delivery 4.0 と比較すると、CA Client Automation の用語が変更されています。SD「エリア」が Client Automation「ドメイン」に相当し、SD「ドメイン」が Client Automation ドメイン グループに相当します。

これに対し、互換性を確保するため、CLI の用語、コマンド名、およびパラメータ名は変更されていません。

あいまいさを避けるため、以降のセクションではエリア（CA Client Automation の用語ではドメイン）を「Client Automation ドメイン」、およびドメイン（CA Client Automation の用語ではドメイン グループ）を「Client Automation ドメイン グループ」という意味で使用します。

Client Automation ドメインは、CLI の `area` コマンドによって処理され、Client Automation ドメイン グループは CLI の `domain` コマンドによって処理されます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[add — ドメイン グループへのドメインの追加](#) (P. 115)

[addSubDomains—ドメイン グループへのドメイン グループの追加](#) (P. 116)

[create — ドメイン グループの作成](#) (P. 117)

[delete — ドメイン グループの削除](#) (P. 119)

[list—ドメイン（サブ）グループの一覧表示](#) (P. 120)

[listMembership—ドメイン スーパーグループの一覧表示](#) (P. 123)

[modify — ドメイン グループ属性の変更](#) (P. 124)

[remove — ドメイン グループからのドメインの削除](#) (P. 125)

[removeSubdomains — ドメイン グループからのドメイン グループの除去](#) (P. 126)

add — ドメイン グループへのドメインの追加

このアクションでは、指定の Client Automation ドメイン グループに Client Automation ドメインを 1 つ、数個、または全部追加します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
domain action=add
  name=domain_name
  {area=area_name | addall}
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイングループの名前を指定します。

area

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前を指定します。

このパラメータを何度かコーディングすると、**Client Automation** ドメインをいくつかまとめてグループに追加することができます。

addall

指定の **Client Automation** ドメイングループに登録済みの **Client Automation** ドメインをすべて追加します。

例：

ドメイン「dom f」にエリア「area 1」および「area 2」を追加するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd domain action=add name="dom f" area="area 1" area="area 2"
```

ドメイン「dom f」に定義済みエリアをすべて追加するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd domain action=add name="dom f" addall
```

addSubDomains—ドメイングループへのドメイングループの追加

このアクションでは、指定の **Client Automation** ドメイングループに **Client Automation** ドメイングループとして **Client Automation** ドメイングループを追加します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
domain action=addSubdomains [name=domainname] {domain=domainname}
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイングループの名前（すでに存在している必要がある）を指定します。指定したドメインは既存のものである必要があります。

コーディングしないと、**Client Automation** ドメイングループがフォルダ「**Domains**」の最上位に追加されます。

domain

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイングループの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。 **Client Automation** ドメイングループをいくつかまとめて追加するために、

例：

ドメイン「**dom e**」をフォルダ「**Domains**」の最上位レベルに表示する必要があるとします。以下のコマンドを実行すると、ドメインがこのレベルにリンクされます。

```
cadsmcmd domain action=addSubdomains domain="dom e"
```

ドメイン「**dom f**」および「**dom g**」をサブドメインとしてドメイン「**dom e**」に追加する必要があるとします。以下のコマンドを実行すると、これらのドメインが「**dom e**」にリンクされます。

```
cadsmcmd domain action=addSubdomains name="dom e" domain="dom f" domain="dom g"
```

create — ドメイングループの作成

このアクションでは、新しい **Client Automation** ドメイングループを作成します。**Client Automation** ドメイングループには、作成時に **Client Automation** ドメインを格納することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
domain action=create name=domain_name
[comment=comment]
[{area=area_name}|addAll]
[superDomain=super_domain_name]
[InheritPerms[={y|n}]]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイングループの名前. ドメイングループが作成されます。

comment

を指定します。コメント。

area

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前を作成する <admin> ドメイングループに指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。 **Client Automation** ドメインをいくつかまとめて追加するために、

「addAll」をコーディングする場合には、このパラメータをコーディングしないでください。

addAll

作成される **Client Automation** ドメイングループに登録済みの **Client Automation** ドメインをすべて追加します。

「area」パラメータをコーディングする場合には、このパラメータをコーディングしないでください。

superDomain

保留中のインストールがキャンセルされる ほかの **Client Automation** ドメイングループを含めることが可能な既存の **Client Automation** ドメイングループの名前. 作成する **Client Automation** ドメイングループは、この **Client Automation** ドメインスーパーグループのサブグループになります。

このパラメータをコーディングしないと、**Client Automation** ドメイングループがフォルダ「**Domains**」に配置されます。

inheritPerms

このパラメータは、作成中のグループがセキュリティ権限を継承するかどうかを指定します。

「InheritPerms」または「InheritPerms=y」がコーディングされている場合、指定されたグループでは権限がメンバに継承され、セキュリティグループとなります。

「InheritPerms=n」がコーディングされている場合、指定されたグループでは権限がメンバに継承されず、したがってセキュリティグループはありません。

デフォルト： InheritPerms=y

注： 作成アクションでは、空の **Client Automation** ドメイン グループを作成することができます。つまり、コマンドを使用して「area」あるいは「addAll」のどちらもコーディングする必要はありません。 **Client Automation** ドメインは、後で「add (115以下のページで定義参照：)」アクションによって割り当てることができます。

例：

ドメイン「dom c」がすでに存在しており、新規のドメイン「dom e」を「dom c」のサブドメインとして作成するとします。また、エリア「area 1」および「area 2」をドメイン「dom e」に追加する必要があるとします。以下のコマンドを実行すると、ドメイン「dom e」が作成されエリアが追加されます。

```
cadsmcmd domain action=create name="dom e" area="area 1" area="area 2"
superDomain="dom c"
```

delete — ドメイン グループの削除

このアクションでは、**Client Automation** ドメイン グループを削除します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
domain action=delete
name=domain_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイン グループの名前を指定します。

例：

ドメイン「dom z」を削除するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd domain action=delete name="dom z"
```

list—ドメイン（サブ）グループの一覧表示

このアクションでは、Client Automation ドメイン（サブ）グループを一覧表示します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
domain action=list [name=domain_name] [recursive]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメイングループの名前. このグループの場合、すべての Client Automation ドメインが一覧表示されます。

コーディングしないと、最上位フォルダ「Domains」の Client Automation ドメイングループが一覧表示されます。

recursive

「name」パラメータで指定した Client Automation ドメイングループに含まれている Client Automation ドメイン サブグループが再帰的に一覧表示されます。

例：

すべてのドメインを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd domain action=list recursive
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```


マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

マネージャ: mymanager

ドメイン: mydomain

ドメイン タイプ: Domain

サポート: CO CCNF USD OSIM

ドメインのリスト

```
dom a (, security group)
..dom b (, security group)
....dom c (, security group)
.....dom d (, security group)
.....dom e (, security group)
dom d (, security group)
dom f (I'm a comment, security group)
dom g (and i2, security group)
```

SDCMD<A0000000>: OK

例 :

最上位レベル、つまり、フォルダ「Domains」のすべてのドメインを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

cadsmcmd domain action=list

CA IT Client Manager r12

ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx

Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.

ドメインのリスト

```
dom a (, security group)
dom d (, security group)
dom f (I'm a comment, security group)
dom g (and i2, security group)
```

SDCMD<A0000000>: OK

例：

ドメイン「dom b」のすべてのサブドメインを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd domain action=list name="dom b"
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.
```

```
-----
ドメインのリスト ( 「dom b」 )
-----
```

```
dom c ( , security group)
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

例：

ドメイン「dom b」のすべてのサブドメインを再帰的に一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd domain action=list name=" dom b" recursive
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
Connecting to manager " <default manager>" as user " <default user>" ...OK.
```

```
-----
List of domains (" dom b" )
-----
```

```
dom c ( , security group)
..dom d ( , security group)
..dom e ( , security group)
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

listMembership—ドメイン スーパーグループの一覧表示

このアクションでは、指定のドメイン グループを Client Automation ドメイン サブグループとして含んでいる Client Automation ドメイン スーパーグループを一覧表示します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
domain action=listmembership name=domain_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメイン グループの名前を指定します。このグループをサブグループとして含んでいる Client Automation スーパーグループが一覧表示されます。

例：

ドメイン「dom c」を含むすべてのドメインを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd domain action=listMembership name=" dom c"
```

```
CA IT Client Manager r12
```

```
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
```

```
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
マネージャ： mymanager
```

```
ドメイン： mydomain
```

```
ドメイン タイプ： Domain
```

```
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
-----  
「dom c」は以下のドメインのサブドメインです。  
-----
```

```
dom b
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

modify – ドメイン グループ属性の変更

このアクションでは、**Client Automation** ドメイン グループの属性を変更します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
domain action=modify name=domain_name  
    [newName=new_domain_name]  
    [InheritPerms[={y|n}]]  
    [comment=comment]
```

inheritPerms

このオプション パラメータは、変更中のグループがセキュリティ グループかどうかを指定します。

「InheritPerms=n」がコーディングされている場合、指定されたグループでは権限がメンバに継承されず、したがってもはやセキュリティ グループではありません。

「InheritPerms」または「InheritPerms=y」がコーディングされている場合、指定されたグループでは権限がメンバに継承され、したがってセキュリティ グループとなります。

パラメータがコーディングされていない場合、グループの権限継承設定は変更されません。

name

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイン グループの名前 を指定します。

newName

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイン グループの新しい名前.

comment

を指定します。コメント.

注： 既存のコメントを消去するには、空の文字列 ("") を入力してください。

例：

ドメイン「dom g」は以下の方法で変更する必要があるとします。

- ドメインの新しい名前は「dom z」
- コメントを「I've been modified」に設定

以下のコマンドを使用すると、これらを変更できます。

```
cadsmcmd domain action=modify name="dom g" newName="dom z" comment="I've been modified"
```

remove — ドメイン グループからのドメインの削除

このアクションでは、指定の Client Automation ドメイン グループから 1 つ以上のドメインを削除します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
domain action=remove name=domain_name  
    {area=area_name}
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメイン グループの名前を指定します。

area

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメイン の名前を指定します。

このパラメータを何度かコーディングすれば、Client Automation ドメインをいくつかまとめてグループから除去することができます。

例：

ドメイン「dom f」からエリア「area 3」および「area 4」を除去するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd domain action=remove name="dom f" area="area 3" area="area 4"
```

removeSubdomains – ドメイン グループからのドメイン グループの除去

このアクションでは、指定の **Client Automation** ドメイン グループから **Client Automation** ドメイン グループとして含まれている **Client Automation** ドメイン グループを除去します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
domain action=removeSubdomains [name=domain_name]]
    {domain=domain_name}
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイン グループの名前 を指定します。

コーディングしないと、**Client Automation** ドメイン サブグループが最上位フォルダ「**Domains**」から除去されます。

domain

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイン グループの名前 を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。いくつかの **Client Automation** ドメイン サブグループをまとめて除去するために、

注： 除去が、必ずしも対象の **Client Automation** ドメイン サブグループを完全に削除することを意味するわけではありません。この除去とは、指定の **Client Automation** ドメイン スーパーグループに関連付けられた **Client Automation** ドメイン サブグループの一覧から、ドメイン サブグループが除去されるだけです。

Client Automation ドメイン サブグループ「**A**」を **Client Automation** ドメイン グループ「**B**」から除去しようとしても、「**B**」が「**A**」を含む唯一のスーパーグループである場合には、除去が失敗します。「**B**」のみを削除することができます。

例 1：

ドメイン「**dom f**」および「**dom g**」をサブドメインとしてドメイン「**dom e**」から除去する必要があるとします。以下のコマンドを実行すると、これらのドメインが「**dom e**」からリンク解除されます。

```
cadsmcmd domain action=removeSubdomains name="dom e" domain="dom f" domain="dom g"
```

例 2 :

ドメイン「dom e」を最上位レベル、つまりフォルダ「Domains」から除去する必要があります。以下のコマンドにより、ドメインがこのレベルからリンク解除されます。

```
cadsmcmd domain action=removeSubdomains domain="dom e"
```

fetch—項目の抽出

fetch コマンドは、エンタープライズ マネージャでのみ有効です。

単一の Client Automation ドメイン マネージャまたはひとまとまりの Client Automation ドメイン マネージャからファイルを抽出して、エンタープライズ マネージャの抽出エリアに格納する場合に使用します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
fetch item=item [comment=comment]
    path=path_name
    [{area=area_name} | {domain=domain_name} | toAllAreas}
    [cname=name]
    [sendTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
    [haltTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
```

area

項目を抽出する Client Automation ドメインを指定します。

このパラメータを何度か指定すると、いくつかの Client Automation ドメインをまとめて処理することができます。

cname

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの一意の名前（オプション）。

指定された名前のジョブ コンテナ / 配布がすでに存在する場合、エラーが報告されます。

「cname」がコーディングされていない場合、一般的な名前が生成されます。

comment

を指定します。コメントを指定します。

domain

保留中のインストールがキャンセルされる 項目を抽出する 1 つ以上の **Client Automation** ドメイン グループの名前

このパラメータを何度か指定すると、いくつかの **Client Automation** ドメイン グループをまとめて処理することができます。

halttime

保留中のインストールがキャンセルされる 配信注文が停止する必要がある日時です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

path

保留中のインストールがキャンセルされる 抽出される項目へのパス
指定するパス名は、ターゲットの **Client Automation** ドメイン マネージャ上に存在するものになります。

ご使用中のオペレーティング システムの表記法に従ってコーディングする必要があります。

Client Automation ドメイン マネージャからデータを取得するには、**fetch** コマンドの「**path**」パラメータを使用して、ドメイン マネージャからどのようなデータを取得するのかを指定します。

利便性向上のために、パスにはシステム定義またはユーザ定義の環境変数を含めたり、**SD** の設定ファイルを指定することができます。

(詳細については、*DSM* エクスプローラ ヘルプを参照してください)。

SD では、環境変数をパーセント記号「%」で囲む必要があります。

sendTime

保留中のインストールがキャンセルされる 関連付けられた配信をアドレス指定されたドメイン マネージャに送信する時間です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。このパラメータが指定されていない場合、現在の日時が使用されます。

toAllAreas

コーディングすると、関連する配信がエンタープライズ マネージャに登録されたすべての Client Automation ドメインに送信されます。

% 記号の使用

エンタープライズ マネージャでもドメイン マネージャでも環境変数 %SAMPLES% が定義されていますが、エンタープライズ マネージャの場合は「c:¥samples」を指し、ドメイン マネージャの場合は「g:¥examples」を指しています。

テキスト ファイルをすべて抽出してください。Windows コマンドプロンプトから以下のコマンドを起動してみます。

```
cadsmcmd fetch item=sample path=%SAMPLES%¥*.txt area=domain_manager
```

すると、エラーになるか、または予期しない結果が発生します。SAMPLES がエンタープライズ マネージャに定義されているため、コマンドプロンプトがこの変数を解決し、以下の path パラメータと共に cadsmcmd を起動します。

```
path=c:¥samples¥*.txt
```

Windows コマンドプロンプトによる変数の解決を避けるには、コマンドプロンプトに解釈されないようパーセント記号をエスケープする必要があります。このためには、パーセント記号の前にカレット「^」を付けます。

このようにして以下の呼び出しを実施すると、どのパラメータもコマンドプロンプトによる変更なしで cadsmcmd に渡され、環境変数 SAMPLES がドメイン マネージャのサイトで解決されます。

```
cadsmcmd fetch item=samples path=^%SAMPLES%^¥*.txt area=domain_manager
```

例

以下の例は、「fetch」コマンドを使用して Windows ドメイン マネージャから「Software TestC」を抽出する方法を示しています。

```
cadsmcmd fetch item="Software TestC" comment="Fetches Software TestC"
path=c:¥test¥swtest3 area=N_LOCAL_SRV cname=TestCont8
sendtime="2006-03-07 22:15" halttime="2006-03-08 03:30"
```

以下の **fetch** 例は前の例と似ていますが、環境変数を使用してパスを示しています。

```
cadsmcmd fetch item="Software TestC" comment="Fetches Software TestC"
path=%FETCHSW%*.exe area=N_LOCAL_SRV cname=FetchContainer
sendtime="2006-03-07 22:15" halttime="2006-03-08 03:30"
```

halt—アクティブな配信の一時停止

halt コマンドは、エンタープライズ マネージャのコマンドラインから発行されたときにのみ有効です。

アクティブな配信を停止する場合に使用します。停止後、配信を削除したり更新することができます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
halt name=job_container_name
name
```

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前を指定します。

例：

以下の停止例を考えてみます。

```
cadsmcmd halt name=Testcont11
```

停止リクエストの進行状況を表示するには、以下の **progress** コマンドを発行します。

```
cadsmcmd progress name=TestCont11
```

このコマンドは、以下のようなステータスを出力します。

```
配信名： TestCont11, ステータス 停止が進行中です。
送信日時： 2003/03/05 17:41, インストール日時： 2003/03/05 17:41,
HaltDateTime： 2003/03/05 17:42
エリアの Nr 合計： 2、 待機中： 0、 アクティブ： 1、 入力エラー数： 0、 OK： 1。

エリア： ダウンタウンの N_LOCAL_SRV 100 % 送信済み。 ステータスはアクティブです。
エリア： 郊外の N_LOCAL_SRV_02 0 % 送信済み。 ステータスはアクティブです。
SDCMD<A0000000>： OK
```

image—OS イメージの管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[assignToTargets—ターゲット コンピュータへの OS イメージの割り当て](#) (P. 131)

[delete—OSIM データベースからイメージを削除](#) (P. 132)

[list—OSIM マネージャに登録済みのイメージの一覧表示](#) (P. 133)

[listDeployed—OSIM イメージが展開されているブートサーバを一覧表示します。](#)
(P. 135)

[listConfigs—OS イメージのターゲットおよび設定を一覧表示](#) (P. 136)

[modify—OSIM イメージの変更](#) (P. 137)

[deploy—ブートサーバへの OSIM イメージの展開](#) (P. 138)

[remove—ブートサーバからの OSIM イメージの除去](#) (P. 141)

assignToTargets—ターゲット コンピュータへの OS イメージの割り当て

このアクションでは、指定のイメージをターゲットの一覧に割り当て、このイメージを使用したターゲット用の新しい計画済みの設定を作成、または既存のイメージを変更します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
image action=assignToTargets
      name=image_name
      {computer={OSIM_target_name} |
      compgrp={computer_group_name} |
      ccompgrp={computer_group_name sep scope}}
```

name

指定のターゲットにインストールされるイメージの名前を指定します。

computer

指定のイメージがインストールされる OSIM ターゲットの名前を指定します。いくつかのターゲットをまとめて処理するために、オプションを 1 回以上指定することができます。このパラメータは、「compgrp」または「ccompgrp」パラメータと一緒にコーディングしないでください。

compgrp

指定のイメージのターゲットとなっている OSIM 管理対象システムがメンバとして属しているコンピュータ グループの名前を指定します。いくつかのグループをまとめて処理するために、オプションを 1 回以上指定することができます。このパラメータは、「computer」パラメータと一緒にコーディングしないでください。

ccompgrp

グループ名およびスコープのペアとして指定されるコンピュータグループを指定します。デフォルトでは、名前とスコープはドット（「.」）で区切られていますが、代替の区切りを **sep** オプションで指定することができます。名前の一部として区切りを使用しないでください。

いくつかのグループをまとめて処理するために、オプションを **1** 回以上指定することができます。

このパラメータは、「**computer**」パラメータと一緒にコーディングしないでください。

scope

グループ スコープのみの場合、有効な値は以下のとおりです。

local

グループはローカル ドメイン マネージャで作成されます。

global

グループはエンタープライズ マネージャで作成され、複製することができます。

sep

ccompgrp オプションで使用する代替の区切りを指定します。区切りは **ccompgroup** オプションで指定したグループ名の一部とはしないでください。

注：登録済みのイメージだけがターゲットに割り当てることができます。イメージが検出された場合、エラー **BMSAPI_IMAGE_DETECTED** – 「イメージの登録は行われず、検出のみ行われました」がこのイメージに対して報告されます。

delete—OSIM データベースからイメージを削除

このアクションは、指定のイメージを **OSIM** データベース、および場合によっては関連する **SD** パッケージからも削除します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
image action=delete
  {[images=image_identifier,...]}
  [sep=separator_sign]
```

images

OSIM データベースから削除されるイメージの名前を指定します。

OSIM からイメージを削除すると、関連するパッケージの可能な SD 登録も削除されます。このオプションは、複数回コーディングして、リストを指定することができます。

イメージの識別子の構造は、以下のとおりです。

```
{«image name» | («image name»«separator sign»{bootImage | osImage})}
```

bootImage または osImage のどちらもコーディングされていない場合、osImage と見なされます。区切り記号はデフォルトによりドット (.) になっていますが、sep パラメータで再定義できます。区切り記号は、イメージ名には指定しないでください。

sep

イメージ識別子で使用する代替の区切りを指定します。イメージ名の一部として区切りを使用しないでください。

注：以下を考慮する必要があります。

- OS イメージが OSIM 設定に割り当てられている場合は、削除されません。エラー BMSAPI_IMAGE_INUSE - 「イメージは使用中です」が報告されます。アクション listConfigs を使用して、使用されている設定を判別します。

いずれにしてもブートイメージは削除されます。

- 削除処理では、イメージがブートサーバに展開済みであるかどうかはチェックされません。展開済みである場合は、後で検出として報告されます。
- イメージを削除する場合、そのセッションを所有している現在のユーザがそのイメージの権限を削除する必要があります。

list—OSIM マネージャに登録済みのイメージの一覧表示

この list アクションでは、現在 OSIM マネージャに登録されているイメージが一覧表示されます。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
image action=list
  [name=image_name]
  [{bootImage | osImage}]
  [detailed]
```

name

イメージの名前を指定します。指定された名前に適合するイメージのみがリスト表示されます。

名前がコーディングされていない場合、名前のチェックは行われません。

{bootImage | osImage}

bootImage がコーディングされている場合、報告されるイメージはブートイメージである必要があります。**osImage** だけがコーディングされている場合、報告されるイメージは **OS** イメージである必要があります。どちらもコーディングされていない場合、両方のタイプのイメージが報告されます。

detailed

このオプションがコーディングされている場合、ブート パラメータのデフォルト設定も一覧表示されます。

コマンドは、以下の形式で **stdout**（標準出力）に出力リストを提供します。

```
-----
[Detailed] List of Images [{bootImage|osImage}]
[Name: <name>]
-----
Image name.....: «name of image 1»
...Image type.....: {boot image | OS image («osType»)}
...Status.....: (registered | detected)
...Image FIPS capability.....: (compliant | noncompliant)
...SD package name.....: «sd package name of the image»
...SD package version.....: «sd package version of the image»
...SD package comment.....: «comment stored with the package»
[...Locale.....: «the locale of the image»
...Batch file.....: «name of the batch file»
...Support Boot Image Type....: <<Support boot image type and boot server mode>>
[...Parameters
.....<name of param 1>.....: «default setting for parameter 1»
.....
.....
```

```

.....]
.....<name of para m>.....: «default setting for parameter m»
.....
.....
.....]
Image name.....: «name of image n»
.....
.....
.....

```

かっこ内の情報は OS イメージでのみ利用可能です。パラメータに関するより詳細な情報は、「**detailed**」がコーディングされている場合にのみ出力されます。ステータスが「**detected**（検出済み）」の場合、後続の情報はすべてスキップされます。

listDeployed—OSIM イメージが展開されているブート サーバを一覧表示します。

このアクションでは、指定されたブートまたは OS イメージが展開されているブート サーバを一覧表示します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```

image  action=listDeployed
        name=name_of_an_image
        [{bootImage | osImage}]

```

name

展開先のすべてのブート サーバが一覧表示するイメージの名前を指定します。

{bootImage | osImage}

このオプションでは、該当するイメージがブートイメージまたは OS イメージのどちらであるかを指定します。「**bootImage**」がコーディングされている場合は、ブート イメージと見なされます。それ以外の場合は、OS イメージと見なされます。

出力リストのフォーマットは、以下のとおりです。

```
-----
List of boot servers where («name of image»,{boot|os}image) is deployed
-----
Image name.....: «name of image»
..Image type.....: {boot image | OS image}
..Status.....: {registered | detected}
..Boot server name.....: «name of boot server 1»
.....
.....
.....
.....: «name of boot server m»
.....
.....
.....
```

listConfigs—OS イメージのターゲットおよび設定を一覧表示

このアクションでは、指定されたイメージに関連付けられたターゲットおよび設定を一覧表示します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
image action=listConfigs
      name=image_name
```

name

このオプションでは、イメージに関連付けられているすべてのターゲットおよび設定を一覧表示する OS イメージの名前を指定します。

提供されるリストのフォーマットは、以下のとおりです。

```
-----
List of Configurations
-----
Image name.....: «name of OS image 1»
..Target name.....: «name of OSIM target 1»
....Configuration Type.....: {planned | scheduled |
.....current}
[....Status .....: {activated|analysing|
.....pending|installing|
.....error|cancelpending|
.....stopped}]
....•
```



```

....•
....Configuration Type.....: {planned | scheduled |
.....current}
[...Status.....: {activated|analysing|
.....pending|installing|
.....error|cancelpending|
.....stopped}]
..•
..•
..•
..Target name.....:«name of OSIM target n»
....Configuration Type.....: {planned | scheduled |
.....current}
..•
..•
..•

```

ステータスブロックおよび期日は、設定のタイプが「スケジュール済み」の場合にのみ出力されます。

modify—OSIM イメージの変更

このアクションは、指定されたイメージのデフォルト設定を変更します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```

image  action=modify
        name=image_name
        paramName=parameter_name
        paramValue=new_default_setting

```

name

パラメータのデフォルト設定を変更するイメージの名前を指定します。

paramName

デフォルトが変更されるパラメータの名前を指定します。

以下のパラメータのデフォルトは変更できません。

- BatchFile
- HostName
- MACAddress
- OSImage

paramValue

新しいデフォルト を指定します。

注： 以下を考慮する必要があります。

- デフォルト設定を変更できるのは、イメージがいずれのターゲット システムにも割り当てられていない場合のみです。
- イメージのデフォルトを変更する場合、そのセッションを所有している現在のユーザはそのイメージの権限を変更する必要があります。
- 設定の削除は、空の文字列を入力するのみです。

deploy—ブート サーバへの OSIM イメージの展開

このアクションは、指定されたイメージを指定されたブート サーバに展開します。`cadsmcmd` では、ブート サーバにイメージを展開するため `SD` のインストール順序を作成します。使用されるジョブ コンテナと作成されたインストール順序およびイメージのマッピングは、`stdout` に報告されます。

アクション の構文は、以下のとおりです。

```
image action=deploy
  {[images=image_identifier,...]}
  [sep=separator_sign]
  [procedure=boot_server_staging_procedure]
  {bootServers=boot_server_name, ...}
  [cname=name_of_job_container_used]
  [{noLinkage | transaction [rollback] [noCascade]| synchronized [noCascade]}]
  [jcPriotrity=job_container_priority]
  [unsealed]
  [atTime=YYYY-MM-HH hh:mm]
  [atTime=YYYY-MM-HH hh:mm]
  [calendarName=name_of_the_delivery_calendar]
```

images

指定されたブート サーバに展開されるイメージの名前を指定します。このパラメータは、イメージのリストを指定するために、1 回以上コーディングすることができます。

イメージの識別子の構造は、以下のとおりです。

```
{image name # |  
(image name #separator sign #{bootImage | osImage})}
```

「bootImage」または「osImage」のどちらもコーディングされていない場合は、「osImage」と見なされます。

区切り記号はデフォルトによりドット (.) になっていますが、「sep」パラメータで再定義できます。区切り記号は、イメージ名には指定しないでください。

sep

イメージ識別子で使用する代替の区切りを指定します。イメージ名の一部として区切りを使用しないでください。

procedure

このパラメータは、指定されたブート サーバにイメージをインストールするため SD で使用されるプロシージャを指定します。デフォルトプロシージャは、OS イメージ用は「Add to BootServer」、ブートイメージ用は「Create Boot Image」です。

bootServers

イメージリストの展開先となるブート サーバを指定します。いくつかのブート サーバをまとめて指定するために、オプションを 1 回以上コーディングすることができます

cname

このオプションは、必要なイメージをステージングするために使用されるジョブ コンテナの名前を指定します。ジョブ コンテナが存在しない場合、指定した属性に基づいて作成されます。すでに存在する場合は、コンテナを封印解除する必要があります。そうしないと、アクションはエラーとなります。既存のコンテナの属性は変更されません。

noLinkage

ジョブの結果は、他のジョブの実行に影響はありません。

(デフォルト)

transaction

コンテナのジョブは、順番に処理されます。ターゲットでジョブが失敗すると、このターゲットでコンテナの後続のジョブは処理されません。

synchronized

コンテナのジョブは、順番に処理されます。任意のターゲットでジョブが失敗すると、任意のターゲットでコンテナの後続のジョブは処理されません。

rollback

コンテナのジョブが失敗した後、影響を受けたターゲットで処理されたすべてのコンテナのジョブに対して可能な限りロールバックが実行されます。

noCascade

コンテナの評価中は、ジョブの依存関係は解決されません。

jcPriority

ジョブ コンテナの優先度を指定します。優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。

指定されていない場合は、優先度 5 と見なされます。

unsealed

生成されたジョブが正常に作成された後も、ジョブ コンテナが封印解除されたままになります。

atTime

アクションが起動される日付と時間を指定します。日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。コーディングされていない場合は、現在の日時が使用されます。

deliveryTime

ドメインマネージャからの配信の開始時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。コーディングされていない場合は、現在の日時が使用されます。

calendarName

評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前を指定します。

出力

コマンドは `stdout` に以下の出力を返します。

```
The commandFollowing job container used for staging: "job container name"
job image name 1 - "job item 1;job version 1;job procedure 1": job return code
.....
.....
.....
job image name n - "job item n;job version n;job procedure n": job return code
```

注：そのためには、イメージを **OSIM** だけでなく **SD** にも登録し、**OSIM** 登録で **SD** 登録を正しく参照する必要があります。参照が見つからなかったり無効な場合、関数は以下のメッセージを出して問題を記録します。

```
SDCMD<A000101> ソフトウェアが存在しません (<<製品名>> - <<製品バージョン>> - <プロシージャ>
> - <プロシージャ タイプ>)
```

remove—ブート サーバからの OSIM イメージの除去

このアクションは、指定されたイメージを指定されたブート サーバから除去します。`cadsmcmd` では、ブート サーバにあるイメージをクリアするため **SD** アンインストール順序を作成します。使用されるジョブ コンテナと作成されたアンインストール順序およびイメージのマッピングは、`stdout` に報告されます。これによって、**SD** による方法でクリアの進行状況を監視できるようになります。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
image action=remove
  {[images=image_identifier,...]}
  [sep=separator_sign]
  [procedure=boot_server_staging_procedure]
  {bootServers=boot_server_name, ...}
  [cname=name_of_job_container_used]
  [{noLinkage | transaction [rollback] [noCascade] | synchronized [noCascade]}]
  [jcPriority=job_container_priority]
  [unsealed]
  [atTime=YYYY-MM-HH hh:mm]
  [atTime=YYYY-MM-HH hh:mm]
  [calendarName=name_of_the_delivery_calendar]
```

images

指定されたブート サーバから除去されるイメージの名前を指定します。このパラメータは、イメージのリストを指定するために、1 回以上コーディングすることができます。

イメージの識別子の構造は、以下のとおりです。

```
{* image name # |  
(* image name #* separator sign #{bootImage | osImage})}
```

「bootImage」または「osImage」のどちらもコーディングされていない場合は、「osImage」と見なされます。区切り記号はデフォルトによりドット (.) になっていますが、sep パラメータで再定義できます。区切り記号は、イメージ名には指定しないでください。

sep

イメージ識別子で使用する代替の区切りを指定します。イメージ名の一部として区切りを使用しないでください。

procedure

このパラメータは、指定されたブート サーバからイメージを除去するため SD で使用されるプロシージャを指定します。デフォルトプロシージャは、OS イメージ用は「Remove from BootServer」、ブートイメージ用は「Remove Boot Image」です。これらのデフォルト名は、ローカライズ可能ではありません。

bootServers

イメージリストを除去するブートサーバを指定します。いくつかのブートサーバをまとめて指定するために、オプションを1回以上コーディングすることができます。

cname

このオプションは、必要なイメージをステージングするために使用されるジョブ コンテナの名前を指定します。ジョブ コンテナが存在しない場合、指定した属性に基づいて作成されます。すでに存在する場合は、コンテナを封印解除する必要があります。そうしないと、アクションはエラーとなります。既存のコンテナの属性は変更されません。

noLinkage

ジョブの結果は、他のジョブの実行に影響はありません。

(デフォルト)

transaction

コンテナのジョブは、順番に処理されます。ターゲットでジョブが失敗すると、このターゲットでコンテナの後続のジョブは処理されません。

synchronized

コンテナのジョブは、順番に処理されます。任意のターゲットでジョブが失敗すると、任意のターゲットでコンテナの後続のジョブは処理されません。

rollback

コンテナのジョブが失敗した後、影響を受けたターゲットで処理されたすべてのコンテナのジョブに対して可能な限りロールバックが実行されます。

noCascade

コンテナの評価中は、ジョブの依存関係は解決されません。

jcPriority

ジョブ コンテナの優先度を指定します。優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。

指定されていない場合は、優先度 5 と見なされます。

unsealed

生成されたジョブが正常に作成された後も、ジョブ コンテナが封印解除されたままになります。

atTime

アクションが起動される日付と時間を指定します。日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。コーディングされていない場合は、現在の日時が使用されます。

deliveryTime

ドメイン マネージャからの配信の開始時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。コーディングされていない場合は、現在の日時が使用されます。

calendarName

評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前を指定します。

出力

コマンドは `stdout` に以下の出力を返します。

```

Following job container used for removing: "job container name"
job image name 1 - "job item 1;job version 1;job procedure 1": job return code
.....
.....
.....
job image name n - "job item n;job version n;job procedure n": job return code

```

注：そのためには、イメージを OSIM だけでなく SD にも登録し、OSIM 登録で SD 登録を正しく参照する必要があります。参照が見つからなかったり無効な場合、関数は以下のメッセージを出して問題を記録します。

```

SDCMD<A000101> ソフトウェアが存在しません (<<製品名>> - <<製品バージョン>> - <プロシージャ> - <プロシージャ タイプ>)

```

インストール - 設定 - 起動 - アンインストール - 設定 - 起動 - アンインストール - ジョブ コンテナ / 配信でのジョブの生成および実行

これらのコマンドは、エンタープライズまたはドメイン マネージャで、ジョブ コンテナ内で「インストール」、「設定」、「起動」または「アンインストール」ジョブを生成し、実行するのに使用されます。

エンタープライズ マネージャで、このジョブ コンテナは配信に割り当てられます。

このコマンドのドメインマネージャでの形式は、以下のとおりです。

```
{install|configure|activate|uninstall}
  item=item_name
  version=item_version
  procedure=procedure_name
  [installedWith=install_procedure]
  { { computer=computer_name }
    |{{compgrp=computer_group_name
    | ccompgrp=(computer_group_name.domain_name)}}}
  [sep=separator_sign]
  [cname=name]
  {nolinkage|transaction|synchronized}
  [rollback=y|n]
  [cascade=y|n]
  [unsealed]
  after={exacttime|boottime}
  [globalTime=y|n]
  [deliveryTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [promptUser[={y|n}]]
  [allowCancel[={y|n}]]
  [execTimedOut[={y|n}]]
  [prompt=days.hours]
  [{preaction={none|reboot|logoff}|bootbefore}]
  [{postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}|boota
fter}]
  [{jobTimeOut=days.hours | timeout=hours}]
  [offline[={y|n}]]
  [runAtShutdown[={y|n}]]
  [preventLogon[={y|n}]]
  [resolveQuery[={y|n}]]
  [calendarname=delivery_calendar]
  [nocalendar[={y|n}]]
  [stagingServer[={y|n}]]
  [parameters=user_parameters]
  jcPriority={1-10}
  [reinstall[={y|n}]]
  [userJobMessage]
  [userMessage]
```

このコマンドのエンタープライズ マネージャでの形式は、以下のとおりです。

```
{install|configure|activate|uninstall}
  item=item_name
  version=item_version
  procedure=procedure_name
  [installedWith=install_procedure]
  [{{compgrp=computer_group_name
  | ccompgrp=(computer_group_name.domain_name)}}]
  [sep=separator_sign]
  after={exacttime|boottime}
  [globalTime=y|n]
  {{area=area_name} | {domain=domain_name} | toAllAreas}
  [deliveryTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  cname=[name]
  {nolinkage|transaction|synchronized}
  [rollback=y|n]
  [cascade=y|n]
  [sendTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [haltTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [promptUser[={y|n}]]
  [allowCancel[={y|n}]]
  [execTimedOut[={y|n}]]
  [prompt=days.hours]
  [{preaction={none|reboot|logoff}|bootbefore}]
  [{postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}|bootafter}]
  [{jobTimeOut=days.hours | timeout=hours}]
  [offline[={y|n}]]
  [runAtShutdown[={y|n}]]
  [preventLogon[={y|n}]]
  [resolveQuery[={y|n}]]
  [calendarname=delivery_calendar]
  [nocalendar[={y|n}]]
  [stagingServer[={y|n}]]
  [parameters=user_parameters]
  [jcPriority={1,...,10}]
  [distPriority={1,...,10}]
  [reinstall[={y|n}]]
  [userJobMessage]
  [userMessage]
```

activate

指定した項目の起動ジョブです。指定したプロシージャに関連付けられたタスクは、タイプが「**activate**」である必要があります。

after

ターゲット システムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「**allowCancel**」または「**allowCancel =y**」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「**allowCancel =n**」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

area

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前を配信のターゲットとして指定します

このパラメータを何度か指定すると、いくつかの **Client Automation** ドメインをまとめて処理することができます。

(エンタープライズマネージャのみ)。

atTime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

cascade

「**cascade**」または「**cascade=y**」をコーディングすると、コンテナのジョブリンクがインストールカスケードへの依存関係の変換に切り替わります。

「**cascade=n**」をコーディングすると、ジョブリンクが変換なしに切り替わります。

cname

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの一意の名前（オプション）。

指定された名前のジョブ コンテナ / 配布がすでに存在する場合、エラーが報告されます。

「cname」がコーディングされていない場合、一般的な名前が生成されます。

注：

ドメイン マネージャ の場合：

指定した名前のジョブ コンテナがすでに存在し、封印解除されている場合は、生成したジョブがこのジョブ コンテナに割り当てられます。コンテナがすでに封印されている場合はエラーが表示されます。

指定した名前のジョブ コンテナが存在しない場合、指定されているジョブ リンク オプションに従って作成されます。

「cname」がコーディングされていない場合、一般的な名前が生成されます。

エンタープライズ マネージャ の場合：

「cname」は、配信および関連するジョブ コンテナの名前を付けるときに使用されます。どちらもまだ存在しないとみなされ、新規に作成されます。指定されているジョブ リンク オプションに従ってジョブ コンテナが作成されます。

「cname」がコーディングされていない場合、一般的な名前が生成されます。

compgrp

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの名前. ジョブによってアドレス指定されます。

パラメータを何度もコーディングすることができます。いくつかのコンピュータ グループをまとめて割り当てるために、

ccompgroup

グループ名およびスコープのペアとして指定されるコンピュータ グループを指定します。デフォルトでは、名前とスコープはドット (「.」) で区切られていますが、「sep」オプションを使用して代替の区切りを指定することができます。名前の一部として区切りを使用しないでください。

グループ スコープのみの場合、有効な値は以下のとおりです。

ローカル

グループはローカル ドメイン マネージャで作成されます。

global

グループはエンタープライズ マネージャで作成され、複製される可能性があります。

「ccompgrp」は、1 回の呼び出しで「compgrp」とともにコーディングできます。

computer

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前. ジョブによってアドレス指定されます。

パラメータを何度もコーディングすることができます。いくつかのコンピュータをまとめて割り当てるために、

(ドメイン マネージャのみ)

configure

指定した項目について設定ジョブを生成します。指定したプロシージャに関連付けられたタスクは、タイプが「設定」である必要があります。

deliveryTime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメイン マネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

distPriority

保留中のインストールがキャンセルされる 配信に割り当てられる優先度。

優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。

指定されていない場合は、優先度 5 と見なされます。

domain

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイングループの名前を指定します

このパラメータを何度か指定すると、いくつかの **Client Automation** ドメイングループをまとめて処理することができます。

(エンタープライズ マネージャのみ)

execTimedOut

「**execTimedOut**」または「**execTimedOut=y**」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「**execTimedOut=n**」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

globalTime

「**globalTime**」または「**globalTime=y**」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズ マネージャ時間に基づいたものになります。

「**globalTime=n**」をコーディングすると、時間指定がドメイン マネージャ時間に基づいたものになります。

haltTime

保留中のインストールがキャンセルされる 配信注文が停止する必要がある日時です。日付は ISO フォーマット「**YYYY-MM-DD hh:mm**」で指定する必要があります。

install

指定した項目についてインストール ジョブを生成します。指定したプロシージャに関連付けられたタスクは、タイプが「インストール」である必要があります。

installedWith

保留中のインストールがキャンセルされる インストール プロシージャの名前を指定します。

このパラメータは、「**activate**」、「**configure**」、「**uninstall**」の各コマンドで指定する必要があります。このパラメータを「**install**」コマンドで指定しても意味がなく、無視されます。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

jcPriority

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの優先度。
優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。
指定されていない場合は、優先度 5 と見なされます。

jobTimeOut=days.hours

保留中のインストールがキャンセルされる `jobTimeout` には、ジョブの有効期間が「d.h」の形式で指定されます。`d` には日数、`h` には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。 どの場合でも警告は出されません。

`jobTimeout` は `timeout` パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、7.0 がデフォルトで設定されます。

noCalendar

「noCalendar」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダーが無視されます。

noCascade

ジョブ リンク オプションが「カスケーディングを無視」に設定されます。

このパラメータは、「transaction」または「synchronized」をコーディングした場合にのみ認められます。

noLinkage

コンテナ内のほかのジョブに影響されることなくジョブを実行します。

offline

「offline」または「offline =y」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「offline =n」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの完了の後にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoffAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの開始前にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの開始前にユーザをログオフします。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャの名前 を指定します。

prompt=days.hours

保留中のインストールがキャンセルされる ユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「*d.h*」です。*d* は日、*h* は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

reinstall

オプションパラメータです。デフォルト：「reinstall=n」

「reinstall」または「reinstall=y」がコーディングされていると、ドメインマネージャによってジョブが評価される前にオーダーに関連付けられている可能なインストールレコードは削除されます。

「reinstall=n」がコーディングされている場合、レコードはそのまま残ります。

注：再インストールオプションは、インストールアクションに対してのみ有効です。設定、起動、またはアンインストールアクションに対しては有効ではありません。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリグループを評価します。

rollback

ジョブリンクオプションを「トランザクションの有効化」に設定します。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブオプション値によってデフォルトが指定されます。このパラメータは、Unix がターゲットの場合にのみ有効です。

sendTime

保留中のインストールがキャンセルされる 関連付けられた配信をアドレス指定されたドメイン マネージャに送信する時間です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。このパラメータが指定されていない場合、現在の日時が使用されます。

sep

「ccompgroup」 オプションで使用する代替の区切りを指定します。区切りは ccompgroup オプションで指定したグループ名の一部には使用しないでください。

stagingServer

関連する製品もターゲット コンピュータのスケラビリティ サーバのステージング ライブラリに配信します。

このパラメータは、タスク タイプ「インストール」のプロシージャにのみ適用されます。

synchronized

ジョブ リンク オプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

timeout

保留中のインストールがキャンセルされる **timeout** には、ジョブの失効期間が「h」の形式で指定されます。ここで、h は時間数です。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

timeout は **jobTimeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**168** がデフォルトで設定されます。

toAllAreas

コーディングすると、関連する配信がエンタープライズ マネージャに登録されたすべての **Client Automation** ドメインに送信されます。

transaction

ジョブ リンク オプションが「バッチ ジョブの実行」に設定されます。

uninstall

指定した項目についてアンインストール ジョブを生成します。指定したプロシージャに関連付けられたタスクは、タイプが「アンインストール」である必要があります。

unsealed

対象のジョブが正常に作成された後も、アドレス指定されたジョブ コンテナが封印解除されたままになります。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

userJobMessage

ジョブ コンテナ内のジョブ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

userMessage

ジョブ コンテナ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

「allowCancel」、「execTimedOut」、「prompt」の各パラメータは、「promptUser」オプションがすでに設定されているか、またはこのコマンドの「promptUser」パラメータで設定される場合に有効になります。
ジョブの「promptUser」オプションもコマンドの「promptUser」パラメータも設定されていない場合は、いずれのパラメータも無視されます。
警告は表示されません。

jobcontainer—ジョブ コンテナのコマンド

本章のメソッドはすべて、ドメイン マネージャでのみ動作します。

ジョブ コンテナが、数多くのジョブをグループ化するための単位になり、どの実行にも共通する属性に各ジョブを関連付けるための単位になります。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[ジョブ コンテナの一般的なコマンド](#) (P. 160)

[ジョブ管理コマンド](#) (P. 191)

ジョブ コンテナの一般的なコマンド

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [activate—ジョブ コンテナの起動 \(P. 160\)](#)
- [create—ジョブ コンテナの作成 \(P. 161\)](#)
- [delete — ジョブ コンテナの削除 \(P. 163\)](#)
- [halt—ジョブ コンテナの停止 \(P. 163\)](#)
- [list — ジョブ コンテナの一覧表示 \(P. 164\)](#)
- [listFailed — 失敗したジョブ コンテナの一覧表示 \(P. 165\)](#)
- [listrenewals — 更新の一覧表示 \(P. 168\)](#)
- [modfiy—ジョブ コンテナの変更 \(P. 169\)](#)
- [recover—失敗したジョブの回復 \(P. 171\)](#)
- [renew—ジョブ コンテナの更新 \(P. 178\)](#)
- [resume—中断したジョブ コンテナの配信の再開 \(P. 186\)](#)
- [seal — ジョブ コンテナの封印 \(P. 186\)](#)
- [setJcPriority—ジョブ コンテナの優先度の設定 \(P. 187\)](#)
- [showAttr — ジョブ コンテナの属性の表示 \(P. 187\)](#)
- [unseal—ジョブ コンテナの封印解除 \(P. 191\)](#)

activate—ジョブ コンテナの起動

このアクションでは、指定のジョブ コンテナを起動します。対象のコンテナはすでに評価されたものである必要があります。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=activate name=jobcontainername
```

名前

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前 を指定します。

例 :

ジョブ コンテナ「myContainer」は封印され、評価されているとします。実行する準備ができています。以下のコマンドにより、コンテナの実行がスケジュールされます。

```
cadsmcmd jobContainer action=activate name="myContainer"
```


create—ジョブ コンテナの作成

このコマンドでは、空のジョブ コンテナを作成します。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
jobcontainer action=create name=job_container_name
  [{noLinkage|{[transaction][rollback]|synchronized}
  [noCascade]]}
  [jcPriority={1,...,10}]
  [userMessage]
```

jcPriority

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの優先度。
優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。
指定されていない場合は、優先度 5 と見なされます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前を
指定します。

noCascade

ジョブ リンク オプションが「カスケーディングを無視」に設定されま
す。

このパラメータは、「transaction」または「synchronized」をコーディ
ングした場合にのみ認められます。

noLinkage

コンテナ内のほかのジョブに影響されることなくジョブを実行します。

rollback

ジョブ リンク オプションを「トランザクションの有効化」に設定しま
す。

synchronized

ジョブ リンク オプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

transaction

ジョブ リンク オプションが「バッチ ジョブの実行」に設定されます。

userMessage

ジョブ コンテナ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

注： ジョブ コンテナのデフォルトの特性は、（トランザクション、ロールバックなし、カスケード）です。

- トランザクション：いくつかのジョブが順次処理されるバッチ ジョブの実行です。いずれかのジョブが失敗すると、それ以降のジョブは処理されません。
- ロールバックなし：失敗した場合、すでに実行されたジョブは自動的にロールバックされません。
- カスケード：依存関係がインストールのカスケードに変換されます。

例：

「4 sample」という名前のジョブ コンテナを作成する必要があるとします。コンテナは以下の要件を満たす必要があります。

- コンテナのジョブは、ターゲットで順番に実行される必要があります。ターゲットでジョブが失敗した場合、コンテナの後続ジョブがこのターゲットで実行され、このコンテナのすでに完了済みであるジョブはロールバックされる必要があります。
- ジョブに依存関係がある場合、その依存関係は解決されません。カスケードはありません。

次のコマンドにより、ジョブ コンテナが作成されます。

```
cadsmcmd jobContainer action=create name="4 sample" transaction rollback nocascade
```

delete — ジョブ コンテナの削除

このアクションでは、指定のジョブ コンテナを削除します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=delete name=jobcontainername
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前 を指定します。

例：

ジョブ コンテナ「myContainer」は廃止されており、削除する必要があるとします。

以下のコマンドにより、コンテナが削除されます。

```
cadsmcmd jobContainer action=delete name="myContainer"
```

halt—ジョブ コンテナの停止

このアクションでは、指定のジョブ コンテナの配信を中断します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=halt name=jobcontainername
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前 を指定します。

注： 配信とは、スケーラビリティ サーバのソフトウェア ライブラリに製品を格納する注文のことです。

例：

起動済みのジョブ コンテナ「myContainer」にスケーラビリティ サーバへの配信オーダが含まれているが、配信を中断する必要がある問題が発生したとします。

以下のコマンドにより、配信が中断されます。

```
cadsmcmd jobContainer action=halt name="myContainer"
```

list – ジョブ コンテナの一覧表示

このアクションでは、必要なジョブ コンテナを一覧表示します。この一覧では、「ステータス更新」の機能がサポートされています。ジョブ コンテナの最初のステータス情報がそのコンテナ本来のステータス情報であるのに対して、2 番目のステータス情報は「ステータス更新」によって発生したものです。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=list
  [{filter=filter|filterfile=file_name}]
```

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式

アトミック フィルタ式の作成に有効な属性は、以下のとおりです。

属性	タイプ

ジョブ コンテナ名	string

ジョブ コンテナステータス	{作成完了 待機中 評価中 カスケード中 作成中 進行中 正常に完了しました 失敗 終了中 正常に作成されました 作成は失敗して終了しました 警告 停止中 停止しました}

ジョブ コンテナ更新ステータス	{作成完了 待機中 評価中 カスケード中 作成中 進行中 正常に完了しました 失敗 終了中 正常に作成されました 作成は失敗して終了しました 警告 停止中 停止しました}

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

例：

```
Cadsmcmd jobcontainer action=list
```

次の情報が表示されます。

```
-----
ジョブ コンテナのリスト
-----
```

```
HHHHH01B [2/4/2003 03:50:26 PM] (正常に完了しました)
SD スケーラビリティ サーバ [04.02.2003 15:42:39] (失敗) (実行中)
-----
```

```
検出されたジョブ コンテナの数： 2
表示されたジョブ コンテナの数： 2
```

「HH」で始まるジョブ コンテナを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd jobcontainer action=list filter="Job container name=HH*"
```

以下の情報が表示されます。

```
-----
ジョブ コンテナのリスト
-----
```

```
HHHHH01B [2/4/2003 03:50:26 PM] (正常に完了しました)
-----
```

```
検出されたジョブ コンテナの数： 2
表示されたジョブ コンテナの数： 1
SDCMD<A0000000>: OK
```

listFailed — 失敗したジョブ コンテナの一覧表示

このアクションでは、指定したジョブ コンテナのうちステータスが失敗になっているものが一覧表示されています。

ジョブ コンテナの最初のステータス情報がそのコンテナ本来のステータス情報であるのに対して、2 番目のステータス情報は「ステータス更新」によるものになります。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=listfailed
  name=job_container_name
  [{filter=filter|filterfile=file_name}]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前 を指定します。

filter

一覧表示するジョブ コンテナの数を制限するためのフィルタを指定します。

アトミック フィルタ式を[作成するための属性が「リスト」セクションに一覧表示されます。](#) (P. 164)

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。.

例：

失敗したコンテナのリストを受信するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd jobContainer action=listFailed
```

次の情報が表示されます。

```
-----  
ジョブ コンテナのリスト  
-----
```

```
jc_DeliveryTrace (失敗)  
jc_DeliveryTrace_SS (失敗)  
jc_ss_www (失敗)  
-----
```

```
検出されたジョブ コンテナの数 : .....4  
表示されたジョブ コンテナの数 : .....3
```

```
SDCMD<A000000>: OK
```

フィルタを使用して、jc_d* で始まる失敗したコンテナのリストを受信するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd jobcontainer action=listfailed filter="Job container name=jc_D*"
```

次の情報が表示されます。

```
-----  
ジョブ コンテナのリスト  
-----
```

```
jc_DeliveryTrace (失敗)  
jc_DeliveryTrace_SS (失敗)  
-----
```

```
検出されたジョブ コンテナの数 : .....4  
表示されたジョブ コンテナの数 : .....2
```

```
SDCMD<A000000>: OK
```

listrenewals — 更新の一覧表示

このアクションを使用すると、ジョブ コンテナに関連する更新を一覧表示することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobContainer action=listRenewals
  name=job_container_name
  [{filter=filter|filterfile=file_name}]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前 および一覧する更新を指定します。

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式。

アトミック フィルタ式を[作成するための属性が「リスト」セクションに一覧表示されます。](#) (P. 164)

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。.

例：

ジョブ コンテナ「myContainer」に関連する更新をすべて一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd jobContainer action=listRenewals name="myContainer"
```

次の情報が表示されます。

ジョブ コンテナ「myContainer」の更新のリスト

jcnt01 [08/12/15 11:34:00] (進行中)

jcnt01 [08/12/16 10:34:00] (進行中)

検出されたジョブ コンテナの数： 2

表示されたジョブ コンテナの数： 2

SDCMD<A000000>: OK

フィルタを使用して、ジョブ コンテナ「jcnt01」に関連する更新をすべて一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd jobcontainer action=listrenewals name=jcnt01 filter="Job container  
name=jcnt01[12/15*]"
```

次の情報が表示されます。

ジョブ コンテナ「jcnt01」の更新のリスト

jcnt01[08/12/15 11:15:56] (失敗)

検出されたジョブ コンテナの数： 2

表示されたジョブ コンテナの数： 1

SDCMD<A000000>: OK

modify—ジョブ コンテナの変更

このコマンドを使用すると、既存の封印解除されたジョブ コンテナの属性を変更することができます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
jobcontainer action=modify name=job_container_name  
  [newName=new_job_container_name]  
  [{nolinkage|transaction|synchronized}]  
  [rollback[={y|n}]]  
  [cascade[={y|n}]]  
  [jcPriority={1,...,10}]  
  [userMessage]
```

cascade

「**cascade**」または「**cascade=y**」をコーディングすると、コンテナのジョブリンクがインストールカスケードへの依存関係の変換に切り替わります。

「**cascade=n**」をコーディングすると、ジョブリンクが変換なしに切り替わります。

jcPriority

保留中のインストールがキャンセルされるジョブコンテナに割り当てられる新しい優先度.

優先度は数値で指定し、その値は **1** 以上 **10** 以下である必要があります。

パラメータを指定しない場合には、優先度は変更されません。

name

保留中のインストールがキャンセルされるジョブコンテナの名前を指定します。

newName

保留中のインストールがキャンセルされるジョブコンテナの新しい名前.

noLinkage

コンテナの各ジョブをそれぞれ個別に実行します。

rollback

ジョブリンクオプションを「トランザクションの有効化」に設定します。

synchronized

ジョブ リンク オプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

transaction

ジョブ リンク オプションが「バッチ ジョブの実行」に設定されます。

userMessage

ジョブ コンテナ用のカスタム管理者メッセージを変更します。

注：ジョブ コンテナを変更するには、そのコンテナを封印解除する必要があります。

関連するパラメータを 1 つもコーディングしないと、属性はどれも変更されません。

例：

ジョブ コンテナ「4 sample」でジョブ間のリンクがこれ以上なくなるように変更し、その名前を「myContainer」に変更する必要があるとします。以下のコマンドを使用すると、これらを変更できます。

```
cadsmcmd jobContainer action=modify name="4 sample" newName="myContainer" nolinkage
```

recover—失敗したジョブの回復

このコマンドは、指定されたコンテナの失敗ジョブをアンインストールし、ターゲット コンピュータをクリーンアップします。回復ジョブのジョブ オプションが、パラメータおよびそのコーディングされた値に従って、関連する失敗ジョブに基づいて変更されます。コーディングされないパラメータ用のオプションは、アンインストール ジョブで変更はありません。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
jobcontainer action=recover name=job_container_name
[newName=new_container_name]
[{transaction|synchronized|noLinkage}]
[rollback[={y|n}]]
[cascade[={y|n}]]
[deliveryTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
[atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
[after={exacttime|boottime}]
[calendarname=delivery_calendar]
[preaction={reboot|logoff}]
[postaction={reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}]
[promptUser[={y|n}]]
```

```
[allowCancel[={y|n}]]  
[execTimeout[={y|n}]]  
[prompt=days.hours]  
[offline[={y|n}]]  
[runAtShutdown[={y|n}]]  
[preventLogon[={y|n}]]  
[globalTime[={y|n}]]  
[nocalendar[={y|n}]]  
[resolveQuery[={y|n}]]  
[parameters=user_parameters]  
[jobTimeout=d.h]  
[userMessage]
```

after

ターゲットシステムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

`atTime` に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

`atTime` が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「allowCancel」または「allowCancel =y」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「allowCancel =n」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

このパラメータは、「promptUser」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

atTime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

calendarName

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

cascade

「cascade」または「cascade=y」をコーディングすると、コンテナのジョブリンクがインストールカスケードへの依存関係の変換に切り替わります。

「cascade=n」をコーディングすると、ジョブリンクが変換なしに切り替わります。

deliveryTime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメイン マネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

execTimedOut

「execTimedOut」または「execTimedOut=y」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「execTimedOut=n」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

このパラメータは、「promptUser」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

globalTime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「globalTime=n」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「d.h」の形式で指定されます。d には日数、h には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**7.0** がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前を指定します。

newName

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの新しい名前を指定します。

このパラメータをコーディングしないと、デフォルトのコンテナ名が「Recover[<タイムスタンプ>] <回復されるコンテナの名前>」という形式で作成されます。

noCalendar

「noCalendar」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲットコンピュータのカレンダーが無視されます。

noLinkage

コンテナ内のほかのジョブに影響されることなくジョブを実行します。

offline

「offline」または「offline =y」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「offline =n」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの完了の後にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoffAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの開始前にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの開始前にユーザをログオフします。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

prompt=d.h

保留中のインストールがキャンセルされるユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「*d.h*」です。*d*は日、*h*は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリ グループを評価します。

rollback

ジョブ リンク オプションを「トランザクションの有効化」に設定します。

このパラメータは、コンテナがすでにバッチ処理モードである場合またはこのコマンド（「**transaction**」パラメータ）によってバッチ処理モードに切り替えられる場合にのみ、コーディングしてください。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、**Unix** がターゲットの場合にのみ有効です。

synchronized

ジョブ リンク オプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

transaction

ジョブ リンク オプションが「バッチ ジョブの実行」に設定されます。

userMessage

ジョブ コンテナ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

注： 問題の項目の最初の「アンインストール」プロシージャは、その項目のアンインストール ジョブを生成する場合に使用されます。

例：

ジョブ コンテナ「myContainer」は完了したものの、いくつかのジョブが失敗したとします。許容できる時間内に問題を解決できません。このため、ターゲットシステム上の失敗した実行の残りの部分を削除する必要があります。システムを正常に復旧するには、以下の要件を満たす必要があります。

- ログイン ユーザがログオフしてからジョブを実行する必要があります。
- ジョブの実行中は、ユーザがターゲットにログインしないようにする必要があります。
- 最後のジョブが正常に完了した後で、ジョブによってシステムが再起動される必要があります。
- デフォルトのアンインストール プロシージャによって、クリーンアップが実行されます。

以下のコマンドにより、失敗したジョブの回復がスケジュールされます。

```
cadsmcmd jobContainer action=recover name="myContainer" preaction=logoff  
postaction=rebootAtEnd preventLogon
```

renew—ジョブ コンテナの更新

このコマンドでは、指定のジョブ コンテナの失敗したジョブをすべて更新します。指定したパラメータは、更新されるどのジョブでもアクティブになります。更新ジョブのジョブ オプションが、関連する失敗したジョブに基づいて、パラメータおよびそのコーディングされた値に従って変更されます。コーディングされないパラメータ用のオプションに変更はありません。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
jobcontainer action=renew name=job_container_name
[newName=new_container_name]
[deliverytime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
[attime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
[after={exacttime|boottime}]
[calendarname=delivery_calendar]
[preaction={none|reboot|logoff}]
[postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}]
[promptUser[={y|n}]]
[allowCancel[={y|n}]]
[execTimedOut[={y|n}]]
[prompt=days.hours]
[offline[={y|n}]]
[runAtShutdown[={y|n}]]
[preventLogon[={y|n}]]
[globalTime[={y|n}]]
[nocalendar[={y|n}]]
[resolveQuery[={y|n}]]
[parameters=user_parameters]
[jobTimeout=d.h]
[userMessage]
```

after

ターゲットシステムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「allowCancel」または「allowCancel =y」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「allowCancel =n」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

このパラメータは、「promptUser」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

atTime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される
日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用
されます。

calendarName

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を
制御するカレンダーの名前です。

deliveryTime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメイン マネージャから
の配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用
されます。

execTimeout

「execTimeout」または「execTimeout=y」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「execTimeout=n」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

このパラメータは、「promptUser」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

globalTime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「globalTime=n」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「d.h」の形式で指定されます。d には日数、h には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、7.0 がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前 を指定します。つまり、その失敗したジョブがすべて更新されます。

newName

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの新しい名前 を指定します。このパラメータをコーディングしないと、古いコンテナが使用されます。

noCalendar

「noCalendar」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダが無視されます。

offline

「offline」または「offline =y」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「offline =n」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの完了の後にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoffAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの開始前にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの開始前にユーザをログオフします。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

prompt=d.h

保留中のインストールがキャンセルされるユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「*d.h*」です。*d* は日、*h* は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

このパラメータは、「promptUser」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリ グループを評価します。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロセスのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、**Unix** がターゲットの場合にのみ有効です。

userMessage

更新されたジョブ コンテナ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

例：

ジョブ コンテナ「myContainer」は完了したものの、いくつかのジョブが失敗したとします。問題は解決されている一方で、ジョブを正常に再スケジュールするには、以下の要件を満たす必要があります。

- ログイン ユーザがログアウトしてからジョブを実行する必要があります。
- ジョブの実行中は、ユーザがターゲットにログインしないようにする必要があります。
- 最後のジョブが正常に完了した後で、ジョブによってシステムが再起動される必要があります。

以下のコマンドにより、失敗したジョブが再スケジュールされます。

```
cadsmcmd jobContainer action=renew name="myContainer" preaction=logoff  
postaction=rebootAtEnd preventLogon
```

resume—中断したジョブ コンテナの配信の再開

このアクションでは、指定したジョブ コンテナの中断した配信を再開します。配信とは、スケーラビリティ サーバのステージング ライブラリに製品を格納する注文のことです。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=resume name=jobcontainername
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前を指定します。つまり、停止されていたスケーラビリティ サーバへの配信が再開されます。

例：

以下のコマンドにより、ジョブ コンテナ「myContainer」の配信が再開されます。

```
cadsmcmd jobContainer action=resume name="myContainer"
```

seal — ジョブ コンテナの封印

このアクションでは、指定のジョブ コンテナを封印します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=seal name=jobcontainername [evaluate]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前を指定します。

evaluate

封印されたジョブ コンテナは評価されるだけであり、起動されません。

このパラメータをコーディングしないと、コンテナが評価され起動されます。

重要： このコマンドは、非同期に実行されます。

例：

ジョブ コンテナ「myContainer」は作成されており封印される必要があるものの、まだ実行がスケジュールされていないとします。以下のコマンドにより、コンテナが封印されます。

```
cadsmcmd jobContainer action=seal name="myContainer" evaluate
```

setJcPriority—ジョブ コンテナの優先度の設定

このアクションでは、封印済みかどうかに関係なく、ジョブ コンテナの優先度を変更します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=setJcPriority
  name=job_container_name
  jcPriority={1,...,10}
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前。

jcPriority

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナに割り当てられる新しい優先度。

優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。

showAttr — ジョブ コンテナの属性の表示

このアクションでは、選択したジョブ コンテナの属性をすべて表示します。

次の 2 種類の表現方法があります。(1) ターゲット指向の表現によるターゲットビュー (TV) と (2) ジョブ指向の表現によるジョブビューです。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=showattr
  name=job_container_name
  [TV]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前.

TV

一覧のビューを調整します。

何も指定されていません

ジョブ ビュー

TV

ターゲット ビュー

例 :

コマンド「`jobcontainer action=showattr`」の説明に表示される一覧を受信するには、ジョブ指向表示に以下を入力します。

```
cadsmcmd jobContainer action=showattr name="SD scalability servers [04.02.2006 15:42:39]"
```

以下のジョブ指向情報が表示されます。

ジョブ コンテナ「SD scalabilityservers [04.02.2005 15:42:39]」の属性の表示

ジョブ コンテナ名.....: SD scalability servers [04.02.2005 15:42:39]

ジョブ コンテナ プロパティ.....: 20

.....トランザクション

.....カスケード インストール

ジョブ コンテナの優先度.....: 5

封印済み.....: Yes

```

作成時間..... : 2006-02-04 15:42
変更時間..... : 2006-02-04 16:08
含まれているオブジェクトの数..... : 1
ジョブ コンテナ ステータス..... : 失敗
.....0 - ジョブが待機しています
.....0 - ジョブがアクティブになっています
.....0 - ジョブは OK です
.....1 - ジョブが失敗しました
ジョブ コンテナ更新ステータス..... : 実行中
ジョブ名..... : tstbase 1.0 : ライブラリに追加
..全体ステータス..... : ERROR
.....0 - ジョブ ターゲットが待機中です
.....0 - ジョブ ターゲットがアクティブです
.....0 - ジョブ ターゲットは OK です
.....1 - ジョブ ターゲットが失敗しました
..RenewState..... : INPROGRESS
..ジョブの順序番号..... : 0
..作成日..... : 2006-02-04 15:42
..起動時間..... : 2006-02-04 15:42
..ステータス メッセージ..... : OK
..ターゲット..... : KKKKK01A
...タスク..... : deliver
...ジョブ ステータス..... : DELIVERY_ERROR
...更新ステータス..... : DELIVERY_ORDERED
...タスク..... : deliver
...開始時間..... : 2006-02-04 15:42
...完了時間..... : 2006-02-04 15:46
...作成時間..... : 2006-02-04 15:42
...送信済みデータ (パーセント) ..... : 100
...ステータス メッセージ..... : DTS エラー : DTS 転送エラー : 447 E E
.....+ (447) 失敗した呼び出し元外部ファイル フィル
タ
.....+ ter <sddtaflt>, 内部コード =<0>, 外部
.....+ コード =<4>, エラー メッセージ =<>.
...注文者..... : kkkkk01
...タイプ..... : 必須
...コメント..... :

```

ターゲット指向表示には以下を入力します。

```
cadsmcmd jobContainer action=showattr name="SD scalability servers [04.02.2006  
15:42:39]" TV
```

以下のターゲット指向情報が表示されます。

ジョブ コンテナ「SD scalability servers [04.02.2005 15:42:39]」の属性の表示 (TV)

```
ジョブ コンテナ名.....: SD scalability servers [04.02.2005 15:42:39]  
ジョブ コンテナ プロパティ.....: 20  
.....トランザクション  
.....カスケード インストール  
封印済み.....: Yes  
作成時間.....: 2006-02-04 15:42  
変更時間.....: 2006-02-04 16:08  
含まれているオブジェクトの数.....: 1  
ジョブ コンテナ ステータス.....: 失敗  
.....0 - ジョブが待機しています  
.....0 - ジョブがアクティブになっています  
.....0 - ジョブは OK です  
.....1 - ジョブが失敗しました  
ジョブ コンテナ更新ステータス.....: 実行中
```

```
ターゲット.....: KKKKK01A  
..ジョブ全体ステータス.....: ERROR  
.....0 - ジョブ ターゲットが待機中です  
.....0 - ジョブ ターゲットがアクティブです  
.....0 - ジョブ ターゲットは OK です  
.....1 - ジョブ ターゲットが失敗しました  
..RenewState.....: INPROGRESS  
..ジョブ名.....: tstbase 1.0: ライブラリに追加  
...ソフトウェア.....: tstbase 1.0  
...プロシージャ.....: 配信プロシージャ  
...インストール プロシージャ.....: 配信プロシージャ  
...ステータス.....: DELIVERY_ERROR  
...更新ステータス.....: DELIVERING  
...タスク.....: deliver  
...開始時間.....: 2006-02-04 15:42  
...完了時間.....: 2006-02-04 15:46  
...作成時間.....: 2006-02-04 15:42  
...送信済みデータ (パーセント) .....: 100
```

```

....ステータス メッセージ.....: DTS エラー: DTS 転送エラー: 447 E E
.....+ (447) 失敗した呼び出し元外部ファイル フィル
タ
.....+ ter <sddtaflt>, 内部コード =<0>, 外部
.....+ コード =<4>, エラー メッセージ =<>.
....注文者.....: kkkkk01
....タイプ.....: 必須
....コメント.....:

```

unseal—ジョブ コンテナの封印解除

このアクションでは、指定のジョブ コンテナを封印解除します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```

jobcontainer action=unseal name=jobcontainername
name

```

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前を指定します。

例 :

ジョブ コンテナ「myContainer」は変更する必要があるため、再度封印解除する必要があります。以下のコマンドにより、コンテナが封印解除されます。

```

cadsmcmd jobContainer action=unseal name="myContainer"

```

ジョブ管理コマンド

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [addJob — ジョブ コンテナへのジョブの追加](#) (P. 192)
- [addDelivery—ジョブ コンテナへの配信の追加](#) (P. 204)
- [addUndelivery—ジョブ コンテナへの配信取り消しの追加](#) (P. 208)
- [listJobs—ジョブの一覧表示](#) (P. 212)
- [listFailedJobs—失敗したジョブのリスト](#) (P. 219)
- [modfiyJob — ジョブの変更](#) (P. 224)
- [recoverJob — 失敗したジョブ コンテナからのジョブの回復](#) (P. 231)
- [removeJob—ジョブ コンテナからのジョブの除去](#) (P. 240)
- [renewJob—ジョブの更新](#) (P. 240)
- [renewTarget — 特定のターゲット コンピュータの失敗したジョブの更新](#) (P. 249)
- [repositionJobs—ジョブ コンテナでのジョブの再配置](#) (P. 250)
- [showAttrJobs—ジョブ属性の表示](#) (P. 251)
- [showJobDetails—ジョブ詳細の表示](#) (P. 252)

addJob — ジョブ コンテナへのジョブの追加

このアクションでは、既存のジョブ コンテナにジョブを追加します。ジョブ コンテナを封印してはなりません。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
jobcontainer action=addjob
  name=job_container_name
  {item=item_name version=item_version
  procedure=procedure_name
  {[task=install]
  |task={configure|activate|uninstall}
  [installedWith=install_procedure]}
  | group=group_name [procedures=file]}
  {{{compgrp=computer_group_name | ccompgrp=(computer_group_name sep groupScope)}}
  [sep=separator_sign]
  [{computer=computer_name}]}
  [deliverytime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
  [atime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
  [{preaction={none|reboot|logoff}|bootbefore]}
  [{postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}|bootafter]}]
  [promptUser[={y|n}]]
  [allowCancel[={y|n}]]
  [execTimedOut[={y|n}]]
  [offline[={y|n}]]
  [runAtShutdown[={y|n}]]
  [preventLogon[={y|n}]]
  after={exacttime|boottime}
  [calendarname=delivery_calendar]
  [globalTime=y|n]
  [nocalendar[={y|n}]]
  [resolveQuery[={y|n}]]
  [stagingServer[={y|n}]]
  [parameters=user_parameters]
  [prompt=days.hours]
  [jobTimeOut=days.hours]
  [reinstall[={y|n}]]
  [userJobMessage]
```


after

ターゲット システムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「**allowCancel**」または「**allowCancel =y**」を指定すると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「**allowCancel =n**」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。
パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

atTime

アクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

calendarname

評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前を指定します。

ccompgrp

グループ名およびスコープのペアとして指定されるコンピュータグループを指定します。デフォルトでは、名前とスコープはドット（「.」）で区切られていますが、「sep」オプションを使用して代替の区切りを指定することができます。名前の一部として区切りを使用しないでください。

グループ スコープのみの場合、有効な値は以下のとおりです。

ローカル

グループはローカル ドメイン マネージャで作成されます。

global

グループはエンタープライズ マネージャで作成され、複製される可能性があります。

「ccompgrp」は、1 回の呼び出しで「compgrp」とともにコーディングできます。

compgrp

指定した製品を処理するコンピュータ グループの名前を指定します。

このパラメータは 1 台以上のコンピュータ グループを指定する場合、1 回以上記述することができます。

このパラメータは、**computer** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

computer

指定した製品を処理するコンピュータの名前を指定します。

このパラメータは 1 台以上のコンピュータを指定する場合、1 回以上記述することができます。

このパラメータは、**compgrp** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

deliveryTime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメイン マネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

execTimeout

「**execTimeout**」または「**execTimeout=y**」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「**execTimeout=n**」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

globalTime

「**globalTime**」または「**globalTime=y**」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズ マネージャ時間に基づいたものになります。

「**globalTime=n**」をコーディングすると、時間指定がドメイン マネージャ時間に基づいたものになります。

group

ジョブを生成するソフトウェアまたはプロシージャ グループの名前を指定します。

このパラメータは、**item** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

`installedWith`

インストール プロシージャの名前を指定します。

設定、起動、アンインストールの各タスクでは、このパラメータが必須です。それ以外では無視されます。

`item`

処理する項目の名前を指定します。

このパラメータは、**group** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

`jobTimeOut`

期間で表したジョブの失効日を指定します。

期間は「**d.h**」という形式で指定します。**d** は日、**h** は時間です。

このパラメータの範囲は、**3 時間から 7 日間**までです (**0.3 - 7.0**) 。

指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。

指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。

警告は表示されません。

name

ジョブが追加されるジョブ コンテナの名前を指定します。

noCalendar

「noCalendar」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダーが無視されます。

offline

「offline」または「offline =y」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「offline =n」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータ

プロシージャに関するユーザ パラメータを指定します。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、それ以降はパラメータがないものと解釈されます。

postaction

指定されたプロシージャを終了した後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの完了の後にシステムを再起動します。

logout

プロシージャの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoutAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの開始前にシステムを再起動します。

logout

プロシージャの開始前にユーザをログオフします。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon =y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

procedure

プロシージャの名前を指定します。

手順

ソフトウェア グループを対象とするプロシージャを定義するファイルの名称かプロシージャ（ソフトウェアおよびプロシージャ グループ）に関する個々のジョブ オプションを定義するファイルの名称、またはその両方の名称を指定します。

このプロシージャ ファイルの内容については、「[プロシージャのファイル形式](#) (P. 202)」を参照してください。

prompt

ユーザにジョブ開始の確認を求める期間を指定します。

期間の形式は「d.h」です。d は日、h は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

reinstall

オプション。デフォルト：「reinstall=n」

「reinstall」または「reinstall=y」がコーディングされていると、ドメインマネージャによってジョブが評価される前にオーダーに関連付けられている可能なインストール レコードは削除されます。

「reinstall=n」がコーディングされている場合、レコードはそのまま残ります。

注： オプションはジョブのインストールにのみ適用されます。それ以外の場合は無視されます。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリ グループを評価します。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、**Unix** がターゲットの場合にのみ有効です。

sep

「ccompgroup」 オプションで使用する代替の区切りを指定します。区切りは **ccompgroup** オプションで指定したグループ名の一部には使用しないでください。

stagingServer

関連する製品もターゲット コンピュータのスケーラビリティ サーバのステー징 ライブラリに配信します。

このパラメータは、タスク タイプ「インストール」のプロシージャにのみ適用されます。

task

項目プロシージャによって実行されるタスクのタイプを指定します。

有効なタイプは以下のとおりです。

activate

プロシージャで項目を起動します。

configure

プロシージャで項目を設定します。

install

プロシージャで項目をインストールします。

uninstall

プロシージャで項目をアンインストールします。

このパラメータをコーディングしないと、**install** を指定したものとみなされます。

version

処理する項目のバージョンを指定します。

userJobMessage

ジョブ コンテナ内のジョブ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

注： 以下を考慮する必要があります。

- 「allowCancel」、「execTimeout」、「prompt」の各パラメータは、「promptUser」オプションがすでに設定されているか、またはこのコマンドの「promptUser」パラメータで設定される場合に有効になります。ジョブの「promptUser」オプションもコマンドの「promptUser」パラメータも設定されていない場合は、いずれのパラメータも無視され、警告もありません。
- グループがプロシージャなしでコーディングされ、指定されたグループがソフトウェア グループの場合、インストール ジョブは、メンバのナンバリングに従って最初のインストール プロシージャがジョブ プロシージャとして取得されたグループ メンバ用に生成されます。

プロシージャのファイル形式

プロシージャ ファイルには、以下の構文のエントリが含まれています。

```
item = item
version = version
procedure = procedure
task={install|configure|activate|uninstall}
[deliverytime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
[attime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
[after={exacttime|boottime}]
[calendarname=deliverycalendar]
[preaction={none|reboot|logoff}]
[postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd}]
[promptUser={y|n}]
[allowCancel={y|n}]
[execTimeout={y|n}]
[prompt=days.hours]
[offline={y|n}]
[RunAtShutdown={y|n}]
[PreventLogon={y|n}]
[GlobalTime={y|n}]
[nocalendar={y|n}]
[ResolveQuery={y|n}]
[Parameters=userparameter]
[stagingserver={y|n}]
[JobTimeout=d.h]
```

item

このエントリが関連付けられているグループ項目の名前

version

このエントリが関連付けられているグループ項目のバージョン

procedure

実行する項目プロシージャを指定します

task

プロシージャ タイプを指定します。

有効なタイプは以下のとおりです。

install

プロシージャで項目をインストールします。

configure

プロシージャで項目を設定します

activate

プロシージャで項目を起動します。

uninstall

プロシージャで項目をアンインストールします。

このパラメータをコーディングしないと、**install** を指定したものとみなされます。

「**item**」、「**version**」、「**procedure**」、「**task**」の各パラメータは、各行の最初のパラメータとしてコーディングする必要があります。また、上記の構文定義に示したのと同じ順序でコーディングする必要があります。その他のパラメータは、任意の順序でコーディングできます。

その他のパラメータの意味は、**cadsmcmd jobcontainer action=addjob** で表示されるコマンドパラメータの意味に対応しています。

ジョブ プロシージャのプロシージャ オプションは、このリストの設定から取得されます。

プロシージャに対して、関連するリストのエントリでオプションがコーディングされていない場合、コマンド レイヤの設定から取得されます。

そこでコーディングされていない場合、登録されているプロシージャ オプションから取得されます。

例：

封印解除されているジョブ コンテナ「myContainer」を考慮に入れてください。インストール プロシージャ「inst」を使用して、バージョン 1.0 の項目「prod 1」を KKKK01A および KKKK01B にインストールする必要があるとします。ターゲットのユーザにはインストールを要求するプロンプトが表示されます。インストールの注文は、ジョブ コンテナ「myContainer」に配置する必要があります。

次のコマンドにより、必要なジョブを実行できます。

```
cadsmcmd jobContainer action=addJob name=myContainer item="prod 1" version=1.0
procedure=inst task=install computer=KKKK01A computer=KKKK01B promptUser
after=exacttime
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード： オフ

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

マネージャ： mymanager

ドメイン： mydomain

ドメイン タイプ： Domain

サポート： CO CCNF USD OSIM

生成されたジョブ "prod 1 1.0:inst"： OK。

SDCMD<A0000000>: OK

addDelivery—ジョブ コンテナへの配信の追加

このアクションでは、アドレス指定されたスケーラビリティ サーバに指定のソフトウェア製品を配信するジョブ、つまりスケーラビリティ サーバのソフトウェアライブラリにソフトウェア製品を格納するジョブを指定のジョブ コンテナに追加します。指定されたジョブ コンテナを封印解除する必要があります。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=addDelivery
  name=job_container_name
  {item=item_name
  version=item_version| group=software_group_name}
  {{compgrp=computer_group_name | ccompgrp=(computer_group_name sep groupScope)}}
```

```
[sep=separator_sign]
|{computer=computer_name}}
[calendar_name=delivery_calendar]
[deliverytime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
[jobTimeOut=d.h]
```

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

ccompgrp

グループ名およびスコープのペアとして指定されるコンピュータグループを指定します。デフォルトでは、名前とスコープはドット(「.」)で区切られていますが、「sep」オプションを使用して代替の区切りを指定することができます。名前の一部として区切りを使用しないでください。

グループ スコープのみの場合、有効な値は以下のとおりです。

ローカル

グループはローカル ドメイン マネージャで作成されます。

global

グループはエンタープライズ マネージャで作成され、複製される可能性があります。

「ccompggrp」は、1 回の呼び出しで「compggrp」とともにコーディングできます。

compggrp

保留中のインストールがキャンセルされる サーバ グループの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。複数の複数のコンピュータ グループをまとめて指定するために、

このパラメータは、**computer** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

computer

保留中のインストールがキャンセルされる スケーラビリティ サーバの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。複数のスケーラビリティ サーバのアドレス指定をするために、

このパラメータは、**compggrp** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

deliverytime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメイン マネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

group

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア グループの名前そのメンバが指定のスケーラビリティ サーバに配信されます。

このパラメータは、**item** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

このパラメータは、**group** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「**d.h**」の形式で指定されます。**d** には日数、**h** には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**7.0** がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前を指定します。

sep

「**ccompgroup**」 オプションで使用する代替の区切りを指定します。区切りは **ccompgroup** オプションで指定したグループ名の一部には使用しないでください。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

例：

封印解除されているジョブ コンテナ「**myContainer**」を考慮に入れてください。バージョン **1.0** の項目「**prod 2**」をスケーラビリティ サーバ **KKKKK01B** に配信する必要があります。配信 オーダは、ジョブ コンテナ「**myContainer**」に配置する必要があります。次のコマンドにより、必要なジョブを実行できます。

```
cadsmcmd jobContainer action=addDelivery name="myContainer" item="prod 2"
version=1.0 computer=KKKKK01B
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード： オフ

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

マネージャ: mymanager

ドメイン: mydomain

ドメイン タイプ: Domain

サポート: CO CCNF USD OSIM

SDCMD<A0000000>: OK

addUndelivery—ジョブ コンテナへの配信取り消しの追加

このアクションでは、アドレス指定されたスケーラビリティ サーバから指定のソフトウェア製品を除去するジョブを指定のジョブ コンテナに追加します。指定されたジョブ コンテナを封印解除する必要があります。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=addUnDelivery
  name=job_container_name
  {item=item_name
  version=item_version| group=software_group_name}
  {{compgrp=computer_group_name | ccompgrp=(computer_group_name sep groupScope)}}
  [sep=separator_sign]
  [{computer=computer_name}]
  [deliverytime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
  [calendar_name=delivery_calendar]
  [jobTimeOut=d.h]
```


calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

ccompgrp

グループ名およびスコープのペアとして指定されるコンピュータグループを指定します。デフォルトでは、名前とスコープはドット（「.」）で区切られていますが、「sep」オプションを使用して代替の区切りを指定することができます。名前の一部として区切りを使用しないでください。

グループ スコープのみの場合、有効な値は以下のとおりです。

ローカル

グループはローカル ドメイン マネージャで作成されます。

global

グループはエンタープライズ マネージャで作成され、複製される可能性があります。

「ccompgrp」は、1 回の呼び出しで「compgrp」とともにコーディングできます。

compgrp

保留中のインストールがキャンセルされる サーバグループの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。複数のサーバグループのアドレス指定をするために、

このパラメータは、**computer** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

computer

保留中のインストールがキャンセルされる スケーラビリティ サーバの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。複数のスケーラビリティ サーバのアドレス指定をするために、

このパラメータは、**compgrp** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

deliverytime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメイン マネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

group

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア グループの名前そのメンバが指定のスケラビリティ サーバから削除されます。

このパラメータは、**item** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

このパラメータは、**group** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「**d.h**」の形式で指定されます。**d** には日数、**h** には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**7.0** がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前 を指定します。

sep

「**ccompgroup**」 オプションで使用する代替の区切りを指定します。区切りは **ccompgroup** オプションで指定したグループ名の一部には使用しないでください。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

listJobs—ジョブの一覧表示

このアクションでは、指定のジョブ コンテナのジョブを一覧表示します。一覧表示するジョブの数を制限するため、フィルタを指定することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=listJobs
  name=job_container_name
  [{filter=filter|filterfile=file_name}]
  [TV] | TV alt}
```

alt

を指定します。alternate - ターゲット ビューにさらに詳細な一覧を表示します。 .

項目名およびバージョンにのみ基づく代替リストが提供されます。

このパラメータをコーディングすると、item パラメータおよび version パラメータの値にデータベース対応のワイルドカードを含めることができるようになります。たとえば、以下のものがあります。

"%"

これは空文字も含め任意の文字列を表します。

" "

これは任意の 1 文字を表します。

また、Microsoft SQL Server の場合、角かっこ（「[」、「]」）には特別な意味があります。このことは名前をコーディングする際に考慮する必要があります。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前を指定します。

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式。

属性

ジョブ名

タイプ

文字列

属性	タイプ
全ステータス	{ WAITING INPROGRESS OK ERROR BUILDING REMOVING NOT_AVAILABLE CREATED OBSOLETE}
ソフトウェア	文字列
プロシージャ	文字列
配信日時	日付時刻
起動日時	日付時刻
ステータス メッセージ	文字列
ジョブ状態	{UNDEFINED WAITING DELIVERY_ORDERED DELIVERING DELIVERY_OK DELIVERY_ERROR ALREADY_DELIVERED EXECUTION_ORDERED EXECUTING EXECUTION_OK EXECUTION_ERROR UNDELIVERY_ORDERED UNDELIVERING UNDELIVERY_OK UNDELIVERY_ERROR ALREADY_INSTALLED MANIPULATION_NOT_ALLOWED}
ジョブ タスク	{INSTALL CONFIGURE ACTIVATE UNINSTALL DELIVER UNDELIVER}
プレアクション	{NO ACTION REBOOT LOGOFF}
ポストアクション	{NO ACTION REBOOT LOGOFF REBOOT AFTER LAST JOB LOGOFF AFTER LAST JOB}
配信カレンダー	文字列
ユーザ パラメータ	文字列

このアトミック属性は、`showAttrJobs` または `showJobDetails` で示されているものに対応しています。

filterfile

フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

TV

一覧のビューを調整します。

何も指定されていません

ジョブ ビュー

TV

ターゲット ビュー

例：

コンテナ「e.g.」の内容を一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。
`cadsmcmd jobContainer action=listJobs name=e.g.`

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

ジョブ コンテナ “e.g.” のジョブ リスト

ジョブ名..... : prod 1 1.0:inst
..タスク..... : install
..全体ステータス..... : WAITING
..ジョブの順序番号..... : 1

ジョブ名..... : prod 3 1.0:inst
..タスク..... : install
..全体ステータス..... : WAITING
..ジョブの順序番号..... : 2

ジョブ名..... : prod 2 1.0:delivery proc
..タスク..... : deliver
..全体ステータス..... : WAITING
..ジョブの順序番号..... : 3

読み取られたジョブの数 : 3
リストされたジョブの数 : 3
sdcmcmd<a0000000> : OK

ジョブ コンテナが封印されていない場合、前回のリストが表示されます。封印後、以下のリストを受け取る可能性があります。

CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

ジョブ コンテナ “e.g.” のジョブ リスト

ジョブ名..... : prod 1 1.0:inst
..タスク..... : install
..全体ステータス..... : OK
..ジョブの順序番号..... : 1
..ターゲット..... : KKKKK01A
...ジョブ ステータス..... : EXECUTION_OK
..ターゲット..... : KKKKK01B
...ジョブ ステータス..... : EXECUTION_OK

```

ジョブ名.....: prod 3 1.0:inst
..タスク.....: install
..全体ステータス.....: ERROR
..ジョブの順序番号.....: 2
..ターゲット.....: KKKKK01A
....ジョブ ステータス.....: EXECUTION_OK
..ターゲット.....: KKKKK01B
....ジョブ ステータス.....: EXECUTION_ERROR

ジョブ名.....: prod 2 1.0:delivery proc
..タスク.....: deliver
..全体ステータス.....: OK
..ジョブの順序番号.....: 3
..ターゲット.....: KKKKK01B
....ジョブ ステータス.....: DELIVERY_OK
-----
読み取られたジョブの数: 3
リストされたジョブの数: 3
sdcmcmd<a0000000>: OK

```

このリストはジョブ指向のリストです。ターゲット指向のリストを取得するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd jobContainer action=listJobs name="e.g." TV
```

```

CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

```

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

```

-----
ジョブ コンテナ "e.g." (TV) のジョブ リスト
-----
ターゲット.....: KKKKK01A
..ジョブ全体ステータス.....: OK
..ジョブ名.....: prod 1 1.0:inst
....タスク.....: install
....ジョブ ステータス.....: EXECUTION_OK
..ジョブ名.....: prod 3 1.0:inst
....タスク.....: install
....ジョブ ステータス.....: EXECUTION_OK

```



```
ターゲット..... : KKKKK01B
..ジョブ全体ステータス..... : ERROR
..ジョブ名..... : prod 1 1.0:inst
....タスク..... : install
....ジョブ ステータス..... : EXECUTION_OK
..ジョブ名..... : prod 3 1.0:inst
....タスク..... : install
....ジョブ ステータス..... : EXECUTION_ERROR
..ジョブ名..... : prod 2 1.0: 配信プロシージャ
....タスク..... : deliver
....ジョブ ステータス..... : DELIVERY_OK
```

```
-----
読み取られたジョブの数 : 5
リストされたジョブの数 : 5
sdcmcmd<A0000000>: OK
```

以下のコマンドを実行すると

```
cadsmcmd jobContainer action=listJobs name="e.g." TV alt
```

返されるリストは、以下のようになります。

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード : オフ

```
Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.
マネージャ : mgr_1
ドメイン : mgr-1
ドメイン タイプ : Domain
サポート : CO CCNF USD OSIM
```

 ジョブ コンテナ “e.g.” の項目のジョブ リスト

```

ターゲット..... : KKKKK01
..ジョブ名..... : prod 1 1.0:inst
..ジョブ識別子..... : 27B1661D-ED2D-DB01-B402-000F1F7090E6
..項目名..... : prod 1
..項目バージョン..... : 1.0
..プロシージャ名..... : inst
..タスク..... : install
..ユーザ パラメータ..... :
..ジョブ ステータス..... : EXECUTION_ERROR
..エラー コード..... : 228001
..エラー メッセージ..... : 1
..作成日..... : 2006-08-17
..作成時間..... : 14:37
..起動日..... : 2006-08-17
..起動時間..... : 14:36
..完了日..... : 2006-08-17
..完了時間..... : 14:37

```

全体ステータスが「ok」のジョブを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd jobcontainer action=listjobs name=e.g. filter="Overall state=OK"
```

返されるリストは、以下のようになります。

```

ジョブ名..... : prod 1 1.0:inst
..タスク..... : install
..全体ステータス..... : OK
..ジョブの順序番号..... : 1
..ターゲット..... : KKKKK01A
....ジョブ ステータス..... : EXECUTION_OK
..ターゲット..... : KKKKK01B
....ジョブ ステータス..... : EXECUTION_OK
ジョブ名..... : prod 2 1.0:delivery proc
..タスク..... : deliver
..全体ステータス..... : OK
..ジョブの順序番号..... : 3
..ターゲット..... : KKKKK01B
....ジョブ ステータス..... : DELIVERY_OK

```

```

読み取られたジョブの数 : 3
リストされたジョブの数 : 2
sdcmcmd<a0000000> : OK

```

listFailedJobs—失敗したジョブのリスト

このアクションでは、指定のジョブ コンテナの失敗したジョブを一覧表示します。一覧表示する失敗したジョブの数を制限するため、フィルタを指定することができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=listFailedJobs
  name=job_container_name
  [{filter=filter|filterfile=file_name}]
  [TV] | TV alt}
```

alt

を指定します。alternate - ターゲット ビューにさらに詳細な一覧を表示します。.

項目名およびバージョンにのみ基づく代替リストが提供されます。

このパラメータをコーディングすると、**item** パラメータおよび **version** パラメータの値にデータベース対応のワイルドカードを含めることができるようになります。たとえば、以下のものがあります。

"%"

これは空文字も含め任意の文字列を表します。

" "

これは任意の 1 文字を表します。

また、Microsoft SQL Server の場合、角かっこ（「[」、「]」）には特別な意味があります。このことは名前をコーディングする際に考慮する必要があります。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前を指定します。ただし、失敗したジョブのみが一覧表示されます。

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式。

フィルタ式を作成するアトミック式は、**listjobs** の式に対応しています。

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。。

TV

一覧のビューを調整します。

何も指定されていません

ジョブ ビュー

TV

ターゲット ビュー

一覧表示される情報は、「ジョブの一覧表示」の場合と同じ形式になります。

例：

コンテナ「myContainer」の失敗したジョブを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd jobContainer action=listFailedJobs name="myContainer"
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
マネージャ： mymanager
```

```
ドメイン： mydomain
```

```
ドメイン タイプ： Domain
```

```
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
-----
ジョブ コンテナ "myContainer"のジョブ リスト
-----
```

```
ジョブ名.....: prod 2 1.0:inst
..タスク.....: install
..全体ステータス.....: ERROR
..ジョブの順序番号.....: 2
..ターゲット.....: KKKKK01A
...ジョブ ステータス.....: EXECUTION_OK
..ターゲット.....: KKKKK01B
...ジョブ ステータス.....: EXECUTION_ERROR
ジョブ名.....: prod 3 1.0:inst
..タスク.....: configure
..全体ステータス.....: ERROR
..ジョブの順序番号.....: 3
..ターゲット.....: KKKKK01A
...ジョブ ステータス.....: EXECUTION_ERROR
..ターゲット.....: KKKKK01B
...ジョブ ステータス.....: EXECUTION_ERROR
-----
```

```
読み取られたジョブの数： 2
```

```
リストされたジョブの数： 2
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

ターゲット指向のリストを表示するには、以下を入力します。

```
cadsmcmd jobContainer action=listFailedJobs name=myContainer TV
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

ジョブ コンテナ "myContainer" (TV) のジョブ リスト

```
ターゲット..... : KKKKK01B
..ジョブ全体ステータス..... : ERROR
..ジョブ名..... : prod 3 1.0:inst
....タスク..... : install
....ジョブ ステータス..... : EXECUTION_ERROR
```

読み取られたジョブの数 : 1
リストされたジョブの数 : 1
SDCMD<A0000000>: OK

以下のコマンドを実行すると

```
cadsmcmd jobContainer action=listFailedJobs name="e.g." TV alt
```

返されるリストは、以下のようになります。

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved
```

トレース モード : オフ

Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.

マネージャ: mgr_1

ドメイン: mgr-1

ドメイン タイプ: Domain

サポート: CO CCNF USD OSIM

ジョブ コンテナ "e.g." の項目のジョブ リスト

ターゲット.....: KKKKK01

..ジョブ名.....: prod 1 1.0:inst

..ジョブ識別子.....: 27B1661D-ED2D-DB01-B402-000F1F7090E6

..項目名.....: prod 1

..項目バージョン.....: 1.0

..プロシージャ名.....: inst

..タスク.....: install

..ユーザ パラメータ.....:

..ジョブ ステータス.....: EXECUTION_ERROR

..エラー コード.....: 228001

..エラー メッセージ.....: 1

..作成日.....: 2006-08-17

..作成時間.....: 14:37

..起動日.....: 2006-08-17

..起動時間.....: 14:36

..完了日.....: 2006-08-17

..完了時間.....: 14:37

フィルタを使用して、インストール中に失敗したジョブを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd jobContainer action=listFailedJobs name=myContainer filter="Job
task=INSTALL"
```

出力は以下のようになります。

```
-----
ジョブ コンテナ "myContainer"のジョブ リスト
-----
ジョブ名.....: prod 2 1.0:inst
..タスク.....: install
..全体ステータス.....: ERROR
..ジョブの順序番号.....: 2
..ターゲット.....: KKKKK01A
....ジョブ ステータス.....: EXECUTION_OK
..ターゲット.....: KKKKK01B
....ジョブ ステータス.....: EXECUTION_ERROR
-----

読み取られたジョブの数: 2
リストされたジョブの数: 1
SDCMD<A0000000>: OK
```

modfiyJob – ジョブの変更

このコマンドを使用すると、指定されたジョブ コンテナのジョブを変更することができます。ジョブ コンテナを封印解除する必要があります。

どのパラメータもジョブ オプションに関連付けられています。パラメータをコーディングしないと、そのパラメータに関連付けられたオプションは変更されません。インストール タスクでパラメータ「stagingServer」をコーディングする必要があります。そうしないと、エラーになります。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
jobcontainer action=modifyjob
  name=job_container_name
  jobName=job_name [newJobName=new_job_name]
  [deliveryTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
```



```
[atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
[after={exacttime|boottime}]
[calendarname=delivery_calendar]
[preaction={none|reboot|logoff}]
[postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}]
[promptUser[={y|n}]]
[allowCancel[={y|n}]]
[execTimeout[={y|n}]]
[prompt=days.hours]
[offline[={y|n}]]
[runAtShutdown[={y|n}]]
[preventLogon[={y|n}]]
[globalTime[={y|n}]]
[nocalendar[={y|n}]]
[resolveQuery[={y|n}]]
[stagingServer[={y|n}]]
[parameters=user_parameters]
[jobTimeout=d.h]
[reinstall[={y|n}]]
[userJobMessage]
```

after

ターゲットシステムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「allowCancel」または「allowCancel =y」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「allowCancel =n」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

このパラメータは、「promptUser」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

atTime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される
日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を
制御するカレンダーの名前です。

deliverytime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメイン マネージャから
の配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

execTimedOut

「execTimedOut」または「execTimedOut=y」を指定すると、ユーザに
確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が
始まります。

「execTimedOut=n」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始
されません。

このパラメータは、「promptUser」がすでに有効であるか、またはこ
の呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ
以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

globalTime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「globalTime=n」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。

jobName

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブの名前 を指定します。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「d.h」の形式で指定されます。d には日数、h には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、7.0 がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前 を指定します。

newJobName

保留中のインストールがキャンセルされる 新規ジョブ名。

noCalendar

「noCalendar」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダーが無視されます。

offline

「offline」または「offline =y」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「offline =n」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの完了の後にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoffAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの開始前にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの開始前にユーザをログオフします。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

prompt=d.h

保留中のインストールがキャンセルされるユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「*d.h*」です。*d* は日、*h* は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

このパラメータは、「promptUser」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

reinstall

「reinstall」オプションは任意です。デフォルトはありません。

これがコーディングされていない場合、指定されたジョブの再インストール設定は変更されません。それ以外の場合は、コーディングに従って変更されます。

注： オプションはジョブのインストールにのみ適用されます。それ以外の場合は無視されます。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリ グループを評価します。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、**Unix** がターゲットの場合にのみ有効です。

stagingServer

関連する製品もターゲット コンピュータのスケラビリティ サーバのステージング ライブラリに配信します。

このパラメータは、タスク タイプ「インストール」のプロシージャにのみ適用されます。

このパラメータは、タスク タイプ「インストール」のプロシージャと共にのみコーディングしてください。 それ以外の場合はエラーがレポートされます。

userJobMessage

ジョブ コンテナ内のジョブ用のカスタム管理者メッセージを変更します。

例：

コンテナ「myContainer」は封印解除されており、割り当てられたターゲットに関連するスケーラビリティ サーバに製品が自動的に配信されるように、ジョブ「prod 3 1.0:inst」を変更する必要があるとします。以下のコマンドによって、この要件を満たすようにジョブが変更されます。

```
cadsmcmd jobContainer action=modifyJob name="myContainer" jobName="prod 3 1.0:inst" stagingServer=y
```

recoverJob — 失敗したジョブ コンテナからのジョブの回復

このコマンドでは、指定されたジョブ コンテナから失敗ジョブを回復します。つまり、アンインストール プロシージャを実行して、失敗ジョブの残留物をクリーンアップします。

回復ジョブのジョブ オプションは、参照されたジョブを基に、パラメータおよびそのコーディングされた値に従って、変更されます。回復ジョブの場合、コーディングしないパラメータに関するオプションは変更されません。同じことが回復コンテナのオプションについても当てはまります。デフォルト値がソース コンテナ ("name" パラメータ) から取得されます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
jobcontainer action=recoverJob
  name=job_container_name
  jobName=job_name
  [newName=new_container_name]
  [newJobName=new_job_name]
  [procedure=procedure_name]
  [{transaction|synchronized|noLinkage}]
  [rollback[={y|n}]]
  [cascade[={y|n}]]
  [deliveryTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [after={exacttime|boottime}]
  [calendarname=delivery_calendar]
  [preaction={none|reboot|logoff}]
  [postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}]
  [promptUser[={y|n}]]
  [allowCancel[={y|n}]]
  [execTimedOut[={y|n}]]
  [prompt=days.hours]
  [offline[={y|n}]]
  [runAtShutdown[={y|n}]]
```

```
[preventLogon[={y|n}]]  
[globalTime[={y|n}]]  
[nocalendar[={y|n}]]  
[resolveQuery[={y|n}]]  
[stagingServer[={y|n}]]  
[parameters=user_parameters]  
[jobTimeout=d.h]  
[userJobMessage]  
[userMessage]
```

after

ターゲット システムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「allowCancel」または「allowCancel =y」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「allowCancel =n」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

このパラメータは、「promptUser」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合のみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

atTime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

calendarName

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

cascade

「**cascade**」または「**cascade=y**」をコーディングすると、コンテナのジョブリンクがインストールカスケードへの依存関係の変換に切り替わります。

「**cascade=n**」をコーディングすると、ジョブリンクが変換なしに切り替わります。

このパラメータは、コンテナがすでにバッチ処理モードである場合またはこのコマンド（「**transaction**」パラメータ）によってバッチ処理モードに切り替えられる場合にのみ、コーディングしてください。

deliveryTime

保留中のインストールがキャンセルされるドメインマネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISOの形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

execTimeout

「**execTimeout**」または「**execTimeout=y**」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「**execTimeout=n**」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

このパラメータは、「**promptUser**」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

globalTime

「**globalTime**」または「**globalTime=y**」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「**globalTime=n**」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。

jobName

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブの名前 を指定します。

失敗したどのターゲットシステムでも、「アンインストール」プロセスが起動してシステムがクリーンアップされます。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「d.h」の形式で指定されます。**d** には日数、**h** には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**7.0** がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前 を指定します。

newJobName

保留中のインストールがキャンセルされる 新規ジョブ名、つまり回復ジョブの名前を指定します。

このパラメータをコーディングしないと、デフォルトのジョブ名が

「<項目名> <項目バージョン> : <選択したアンインストール プロシージャ名>」

という形式で生成されます。

newName

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの新しい名前 を指定します。

このパラメータをコーディングしないと、デフォルトのコンテナ名が

"Recover[<タイムスタンプ>] <回復するジョブの名前> [<タイムスタンプ>]"

という形式で生成されます。

noCalendar

「noCalendar」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダが無視されます。

noLinkage

コンテナ内のほかのジョブに影響されることなくジョブを実行します。

offline

「offline」または「offline =y」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「offline =n」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの完了の後にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoffAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの開始前にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの開始前にユーザをログオフします。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる 実行する「アンインストール」プロシージャの名前

prompt=d.h

保留中のインストールがキャンセルされる ユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「*d.h*」です。*d* は日、*h* は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

このパラメータは、「promptUser」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリ グループを評価します。

rollback

ジョブ リンク オプションを「トランザクションの有効化」に設定します。

このパラメータは、コンテナがすでにバッチ処理モードである場合またはこのコマンド（「**transaction**」パラメータ）によってバッチ処理モードに切り替えられる場合にのみ、コーディングしてください。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロセスのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、Unix がターゲットの場合にのみ有効です。

synchronized

ジョブ リンク オプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

transaction

ジョブ リンク オプションが「バッチ ジョブの実行」に設定されます。

これはデフォルトです。

userJobMessage

ジョブ コンテナ内のジョブ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

userMessage

ジョブ コンテナ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

注： 問題の項目の最初の「アンインストール」プロシージャは、その項目のアンインストール ジョブを生成する場合に使用されます。

例：

ジョブ コンテナ「myContainer」は完了したが、いくつかのジョブが失敗したとします。許容できる時間内に問題を解決できません。このため、ターゲットシステム上の失敗した実行の残りの部分を削除する必要があります。システムを正常に復旧するには、以下の要件を満たす必要があります。

- ログイン ユーザがログオフしてからジョブを実行する必要があります。
- ジョブの実行中は、ユーザがターゲットにログインしないようにする必要があります。
- 最後のジョブが正常に完了した後で、ジョブによってシステムが再起動される必要があります。
- デフォルトのアンインストール プロシージャによって、クリーンアップが実行されます。

以下のコマンドにより、失敗したジョブの回復がスケジュールされます。

```
cadsmcmd jobContainer action=recover name="myContainer" preaction=logoff  
postaction=rebootAtEnd preventLogon
```

removeJob—ジョブ コンテナからのジョブの除去

このアクションでは、ジョブ コンテナからジョブを除去します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=removeJob  
    name=jobcontainername  
    jobName=jobname
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前 を指定します。

jobName

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブの名前 を指定します。

例 :

ジョブ コンテナ「myContainer」はまだ封印解除されており、必要なくなったジョブ「prod xy 99/aa:enable trace」を含んでいるとします。 以下のコマンドにより、コンテナからこのジョブが除去されます。

```
cadsmcmd jobContainer action=removeJob name="myContainer" jobName= job "prod xy  
99/aa:enable trace"
```

renewJob—ジョブの更新

このコマンドでは、指定したジョブ コンテナの失敗したジョブを更新します。更新したジョブのジョブ オプションは、パラメータとそのコーディングされた値に従って変更されます。コーディングされないパラメータに関するオプションは変更されません。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=renewJob
```

```
name=job_container_name
  jobName=job_name
  [newName=new_container_name]
  [newJobName=new_job_name]
  [deliveryTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [after={exacttime|boottime}]
  [calendarname=delivery_calendar]
  [preaction={none|reboot|logoff}]
  [postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}]
  [promptUser[={y|n}]]
  [allowCancel[={y|n}]]
  [execTimedOut[={y|n}]]
  [prompt=days.hours]
  [offline[={y|n}]]
  [runAtShutdown[={y|n}]]
  [preventLogon[={y|n}]]
  [globalTime[={y|n}]]
  [nocalendar[={y|n}]]
  [resolveQuery[={y|n}]]
  [parameters=user_parameters]
  [jobTimeout=d.h]
  [userJobMessage]
  [userMessage]
```

after

ターゲット システムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「**allowCancel**」または「**allowCancel =y**」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「**allowCancel =n**」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

このパラメータは、「**promptUser**」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

atTime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

deliveryname

保留中のインストールがキャンセルされる ドメイン マネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

execTimeout

「execTimeout」または「execTimeout=y」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「execTimeout=n」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

このパラメータは、「promptUser」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

globalTime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「globalTime=n」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。

jobName

保留中のインストールがキャンセルされるジョブの名前を指定します。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「d.h」の形式で指定されます。d には日数、h には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、7.0 がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされるジョブ コンテナの名前を指定します。

newJobName

保留中のインストールがキャンセルされる新規ジョブ名. コーディングしないと、更新対象のジョブのジョブ名が使用されます。

newName

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの新しい名前 を指定します。このパラメータをコーディングしないと、デフォルトのコンテナ名が

<ジョブ名> [<タイムスタンプ>]

という形式で生成されます。

noCalendar

「noCalendar」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダーが無視されます。

offline

「offline」または「offline=y」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「offline=n」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの完了の後にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoffAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの開始前にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの開始前にユーザをログオフします。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

prompt=d.h

保留中のインストールがキャンセルされる ユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「**d.h**」です。**d** は日、**h** は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

このパラメータは、「**promptUser**」がすでに有効であるか、またはこの呼び出しで有効になる場合にのみコーディングしてください。それ以外の場合は、この設定が無視されます。警告は表示されません。

promptUser

「**promptUser**」または「**promptUser=y**」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「**promptUser=n**」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリ グループを評価します。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロセスのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、**Unix** がターゲットの場合にのみ有効です。

userJobMessage

ジョブ コンテナ内の更新ジョブ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

userMessage

ジョブ コンテナ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

注： タイプ「noLinkage」のジョブ コンテナのジョブのみが、単一ジョブとして更新することができます。その他のタイプのジョブ コンテナについては、コンテナの更新のみ可能です。

例：

コンテナ「myContainer」のジョブ「prod 3 1.0:inst」は失敗したが、現在では問題が解決されているとします。したがって、ジョブを更新する必要があります。更新されたジョブは、以下の要件を満たす必要があります。

- 更新されたジョブは、「Renew 0」という名前になります。
- 更新されたジョブは、コンテナ「prod 3 1.0:inst」に保存されます。
- 実行前にはプロンプトが表示されます。
- ユーザには、ジョブをキャンセルする権限があります。

以下のコマンドにより、このジョブが更新されます。

```
cadsmcmd jobContainer action=renewJob name="myContainer" jobName="prod 3 1.0:inst"
newName="prod 3 1.0:inst" newJobname=renew promptUser allowCancel
```


renewTarget – 特定のターゲット コンピュータの失敗したジョブの更新

このアクションでは、ジョブ コンテナの失敗したジョブのうち、このコンピュータの特定のターゲット コンピュータをアドレス指定しているものをすべて更新します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=renewTarget name=job_container_name  
[newName=new_container_name]  
{computer=computer_name}  
[userMessage]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前 を指定します。

newName

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの新しい名前 を指定します。このパラメータをコーディングしないと、元のジョブ コンテナの名前が使用されます。

computer

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前 を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。いくつかのターゲットをまとめて処理するために、

userMessage

更新されたジョブ コンテナ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

注：ジョブ コンテナがタイプ「synchronized job execution」のものである場合は、個々のターゲットを更新することはできませんが、ジョブ コンテナ全体であれば更新することができます。

例：

システム「KKKKK01B」上の問題によってコンテナ「myContainer」が失敗したが、現在では問題が解決されているとします。したがって、このターゲットのコンテナ「myContainer」の失敗したジョブを更新する必要があります。更新されたジョブは、以下の要件を満たす必要があります。

- 更新されたジョブは、コンテナ「renew KKKKK01B」に保存されます。

以下のコマンドにより、この更新が実行されます。

```
cadsmcmd jobContainer action=renewTarget name=myContainer newName="renew KKKKK01B"
computer=KKKKK01B
```

repositionJobs—ジョブ コンテナでのジョブの再配置

このアクションでは、ジョブ コンテナのジョブに新しい順序番号を割り当てることによって、ジョブ コンテナを並べ替えることができます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobContainer action=repositionJobs
  name=job_container_name
  cjobname=job_name position=newposition
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前 を指定します。

jobName

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブの名前 を指定します。

position

保留中のインストールがキャンセルされる 新しい位置 を指定します。
位置は0よりも大きく、ジョブ コンテナ内のジョブの数を超えない値である必要があります。

注： そのジョブ コンテナは封印解除されている必要があります。

例：

ジョブ「prod 3 1.0:inst」は、封印解除されたジョブ コンテナ「myContainer」の 2 番目のジョブであるが、整合性を取るため、1 番目のジョブにする必要があるとします。以下のコマンドにより、ジョブが再配置されます。

```
cadsmcmd jobContainer action=repositionJobs name=myContainer jobName="prod 3
1.0:inst" position=1
```

showAttrJobs—ジョブ属性の表示

このアクションでは、指定のジョブ コンテナに所属するジョブの属性を一覧表示します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
jobcontainer action=showAttrJobs
  name=job_container_name
  jobName=job_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前を指定します。

jobName

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブの名前を指定します。

例：

「myContainer」のジョブ「prod 3 1.0:inst」に関連する属性を表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd jobContainer action=showAttrJobs name="myContainer" jobName="prod 3
1.0:inst"
```

出力は、以下のとおりです。

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

```

-----
コンテナ「myContainer」に所属するジョブ「prod 3 1.0:inst」属性のリスト
-----
ジョブ名.....: prod 3 1.0:inst
ソフトウェア.....: prod 3 1.0
プロシージャ..... instCrash
配信日時.....: 20035-04-12 10:49
起動時間.....: 2005-04-12 10:49
ステータス メッセージ.....: OK
全体ステータス.....: ERROR
.....0 - ジョブ ターゲットが待機中です
.....0 - ジョブ ターゲットがアクティブです
.....1 - ジョブ ターゲットは OK です
.....1 - ジョブ ターゲットが失敗しました
ジョブ タスク.....: install
プレアクション.....: アクションなし
ポストアクション.....: アクションなし
ユーザに知らせる.....: はい
特性フラグ.....:
.....ローカル時間/正確な時間
.....カレンダーが制御されています
配信カレンダー.....:
ユーザ パラメータ.....:
プロンプト期間.....: 1 Days, 0 Hours
ジョブ タイムアウト.....: 7 Days, 0 Hours

sdcmcmd<A0000000>: OK

```

showJobDetails—ジョブ詳細の表示

このアクションでは、評価済みのジョブ コンテナのジョブ詳細を表示します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```

jobcontainer action=showjobdetails
  name=job_container_name
  jobname=job_name
  destination=destination_name
  [task={install|uninstall|activate|configure|deliver|undeliver }]

```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前.

jobname

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブの名前 を指定します。

ジョブは、指定したジョブ コンテナのメンバである必要があります。

destination

保留中のインストールがキャンセルされる デスティネーションを指定します。

task

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブのタスク を指定します。

以下のいずれかです。

install

インストール プロシージャ

uninstall

アンインストール プロシージャ

activate

起動 プロシージャ

configure

設定 プロシージャ

deliver

配信 プロシージャ

undeliver

配信取り消し プロシージャ

例：

ターゲット KKKKK01B に関連するジョブ「prod 3 1.0:inst」についての詳細情報を取得するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd jobContainer action=showJobDetails name="myContainer" jobName="prod 3 1.0:inst" destination=KKKKK01B
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード： オフ

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

マネージャ： mymanager

ドメイン： mydomain

ドメイン タイプ： Domain

サポート： CO CCNF USD OSIM

ジョブ「prod 3 1.0:inst」の詳細
「myContainer」の「KKKKK01B」関連

コメント.....：
ジョブ コンテナのステータス.....： 失敗
ジョブ コンテナ プロパティ.....： 9
.....リンクなし
.....失敗した場合には以前のジョブにロールバックします
封印済み.....： Yes
作成日.....： 2005-04-12
作成時間.....： 08:30
作成日.....： 2005-04-12
作成時間.....： 12:16
含まれているオブジェクトの数.....： 4

```
ジョブ名..... : prod 3 1.0:inst
全体ステータス..... : ERROR
.....0 - 待機中
.....0 - アクティブ
.....1 - ok
.....1 - 失敗
..ジョブの順序番号..... : 1
..作成日..... : 2005-04-12
..作成時間..... : 10:57
..配信日..... : 2003-04-12
..配信時間..... : 10:49
..起動日..... : 2005-04-12
..起動時間..... : 10:49
..配信カレンダー..... :
..タイムアウト <日/時間>..... : 7 / 0
..ジョブ起動..... : ローカル時間/正確な時間
..ジョブのアクセス権..... : 7
.....更新は許可されています
.....キャンセルは許可されています
.....回復は許可されています
..アクション実行前..... : no action
..アクション実行後..... : no action
..ジョブ オペレーション マスク..... : 134
.....ユーザに通知します
.....カレンダーが制御されています
.....各評価で繰り返します
..ユーザ パラメータ..... :
..ジョブ実行モード..... : 1
.....実行
..タイムアウトのプロンプト <日/時間>..... : 1 / 0
..ジョブ タスク..... : 1 - インストール
..ターゲットシステム..... : KKKKK01B
....タスク..... : 1
```

```

.....インストール
....プロシージャ名.....: inst
....注文者.....: KKKKK01
....ジョブ ステータス.....: EXECUTION_ERROR
....エラー メッセージ.....: 終了コード 2 はエラーの可能性がありますが
....エラーの原因.....: 228001
....コメント.....:
....コンピュータのインストール プロシージャ.....: inst
....起動日.....: 2005-04-12
....起動時間.....: 10:49
....作成日.....: 2005-04-12
....作成時間.....: 12:16
....完了日.....: 2005-04-12
....完了時間.....: 12:16
....送信済みデータ (パーセント) .....: 100

```

SDCMD<A0000000>: OK

注: 表示されたジョブが再インストール ジョブの場合、出力には対応するエントリがあります。再インストール ジョブでない場合、その行は出力されません。

managedcomputer—コンピュータ設定の管理

managedcomputer コマンドは、コンピュータ設定を管理する場合に使用します。

ドメイン マネージャでのみサポートされています。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[listConfigs — コンピュータ設定の一覧表示](#) (P. 256)

[reportCurrentConfig—現在のコンピュータ設定のレポート](#) (P. 258)

[requestConfigReport — 設定レポートのリクエスト](#) (P. 259)

listConfigs — コンピュータ設定の一覧表示

このアクションは、指定のコンピュータに関連付けられた利用可能な設定を一覧表示します。 レポートされた設定は一覧表示されません。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```

managedcomputer action=listConfigs
    name=computer_name
    [status=configuration_status]
    [DETAILED [DESC]]

```


name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前 を指定します。

名前にはワイルドカードを含めることができます。

この場合、指定したパターンに名前が一致するコンピュータの設定が一覧表示されます。

status

保留中のインストールがキャンセルされる 設定のステータス。

DETAILED

詳しい情報の一覧表示

それ以外の場合は、「識別子」、「ターゲット」、「ステータス」、および「起動日」のみが設定と共に一覧表示されます。

DESC

コーディングすると、パラメータ説明情報が一覧表示されます。コーディングしないと、そのような情報が表示されません。

例：

```
cadsmcmd managedcomputer action=listconfigs name=myComp DETAILED
```

出力は以下のようになります。

myComp の設定のリスト (詳細)

```
-----
コンピュータ名..... : myComp
設定名..... : myComp_update:1132585401
..識別子..... : F492710E-5A9F-11DA-89FD-AB3891E877B6
..ターゲット..... : myComp
....タイプ..... : COMPUTER
....識別子..... : 7EF10641-43DC-4DFA-82B2-9D595F58081B
..ステータス..... : アクティブ
..起動日..... : 2006-11-21 16:03
..調整された設定
..ポリシー
```

```
設定名..... : myComp: API [2005/11/21 16:02:20 UTC]
..識別子..... : 31D27494-5AA8-11DA-89FD-AB3891E877B6
..ターゲット..... : myComp
...タイプ..... : COMPUTER
...識別子..... : 7EF10641-43DC-4DFA-82B2-9D595F58081B
..ステータス..... : scheduled
..調整された設定
..ポリシー
...ポリシー名..... : myPol
...タイプ..... : COMPUTER
...コメント..... :
...ステータス..... : 封印済み
...パラメータ セクション
.....パラメータ セクション名..... : /itrm/usd/Server
.....識別子..... : 09625218-5AA8-11DA-89FD-AB3891E877B6
.....パラメータ
.....パラメータ名..... : WaitBetweenStageChecks
.....識別子..... : 0977C742-5AA8-11DA-89FD-AB3891E877B6
.....値..... : 10
```

reportCurrentConfig—現在のコンピュータ設定のレポート

このアクションは、指定のコンピュータについて現在のレポートされた設定を一覧表示します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
managedcomputer action=reportCurrentConfig
  name=computer_name
  [DETAILED [DESC]]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前を指定します。コンピュータ名にはワイルドカードを含めることができます。この場合、指定したパターンに名前が一致するコンピュータに関してレポートが一覧表示されます。

DETAILED

詳しい情報の一覧表示 それ以外の場合は、指定のコンピュータについて「ステータス」のほか「リクエスト日付」または「時間」が一覧表示されます。

DESC

コーディングすると、パラメータ説明情報が一覧表示されます。コーディングしないと、そのような情報が表示されません。

例：

```
cadsmcmd managedcomputer action=reportcurrentconfig name=mycomp
```

出力は以下のようになります。

```
-----  
myComp の現在の設定レポートのリスト  
-----
```

```
コンピュータ名..... : myComp  
..ステータス..... : 受信済み  
..時間..... : 2006-11-21 15:51
```

設定の数： 0

リストされたレポートの数： 1

requestConfigReport — 設定レポートのリクエスト

このアクションは、指定のコンピュータに関する設定レポートをリクエストします。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
managedcomputer action=requestConfigReport  
  name=computer_name  
  [WAIT]
```

name

現在の設定をレポートするコンピュータの名前を指定します。

名前には、ワイルドカードを含めることができます。この場合、指定のパターンに名前が一致するオブジェクトについてリクエストが実施されます。

WAIT

コーディングすると、アクションがオーダの完了を待機します。コーディングしないと、オーダが開始された後すぐにアクションに制御が戻ります。

manager—DSM マネージャの管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[list — マネージャの一覧表示](#) (P. 260)

[modify—Modify Manager Atributes](#) (P. 260)

[showAttr—マネージャの属性の表示](#) (P. 261)

list — マネージャの一覧表示

マネージャの属性を一覧表示するにはこのアクションを使用します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
manager action=list
```

出力形式：

取得された情報は、以下の形式で表示されます。

```
-----  
Attributes of manager "«manager name»"  
-----
```

```
Manager name.....«name of the manager»  
..Manager type.....{domain|enterprise}  
..Manager address.....«manager address»  
..Description : «description of manager»  
..Domain database name.....:«domain database label»  
.  
.  
.  
Manager name.....«name of the manager»  
..Manager type.....{domain|enterprise}  
..Manager address.....«manager address»  
..Description : «description of manager»  
..Domain database name.....:«domain database label»
```

modify—Modify Manager Atributes

マネージャの属性を変更するにはこのアクションを使用します。

コマンドの構文は、以下のとおりです。

```
manager action=modify  
    [name=manager_name]  
    [newName=new_manager_name]  
    [comment=description_for_manager]
```

name

属性を変更するマネージャの名前を指定します。

これがコーディングされていない場合、現在セッション中の **CADSMCMD** で指定されているマネージャが使用されます。

newName

マネージャの新しい名前を指定します。

comment

マネージャの新しい説明を指定します。

注：マネージャは、現在 **CADSMCMD** が動作しているドメインに配置されている必要があります。

showAttr—マネージャの属性の表示

マネージャの属性を一覧表示するにはこのアクションを使用します。

コマンドの構文は、以下のとおりです。

```
manager action=showAttr  
  [name=manager_name  
  [domain=domain_name]]
```

name

属性が一覧表示されるマネージャの名前を指定します。

これがコーディングされていない場合、セッション中の **CADSMCMD** で指定されているマネージャが使用されます。

domain

マネージャが属するドメインの名前です。

出力形式：

取得された情報は、以下の形式で表示されます。

```
-----
Attributes of manager "«manager name»"
-----
Manager name.....«name of the manager»
..Manager type.....{domain|enterprise}
..Manager address.....«manager address»
..Description.....«description»
..Created at.....«yyyy-mm-dd HH:MM:SS»
..Last modified at.....«yyyy-mm-dd HH:MM:SS»
..Domain database name.....«database name»
...Network address.....«database host name»
...Instance.....«database instance»
...Database type.....{MS SQL|Ingres|Oracle}
..Components
...Name.....«component name»
.....Version:.....«component version»
.....
.....
.....
...Name.....«component name»
.....Version:.....«component version»
[...Enterprise database name.....«enterprise database label»
...Enterprise database address.....«enterprise database address»]
[...Sub domain database name.....«sub domain database label»
...Sub domain database address.....«sub domain database address»]
.....
.....
.....
...Sub domain database name.....«sub domain database label»
...Sub domain database address.....«sub domain database address»]
```

progress—配信の進捗状況のチェック

`progress` コマンドは、いずれかのソフトウェア配信コマンドによって開始された配信、または別の **SD** ユーザによって開始された配信について、ステータスを返す場合に使用します。

エンタープライズ マネージャに対して発行されたときにのみ有効です。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
progress name=job_container_name
```

`name`

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの名前を指定します。

rdereg — リモートからの項目の登録解除

`rdereg` コマンドは、1 つ以上のドメイン マネージャでソフトウェア ライブラリからソフトウェア項目を登録解除（除去）する注文を送信する場合に使用します。注文は、エンタープライズ マネージャから送信されます。登録解除注文が、エンタープライズ マネージャから指定した **Client Automation** ドメインまたはドメイン グループに送信されます。

このコマンドは、エンタープライズ マネージャでのみ有効です。

フォーマットは、以下のとおりです。

```
rdereg item=item_name
      version=version_name
      [{area=area_name} | {domain=domain_name} | toAllAreas}
      [cname=name]
      [sendTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
      [haltTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
```

area

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前を指定します。

項目を何度か指定すれば、いくつかの **Client Automation** ドメインをまとめて処理することができます。

項目は、**domain** パラメータまたは **toAllAreas** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

cname

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの一意の名前（オプション）。

指定された名前のジョブ コンテナ / 配布がすでに存在する場合、エラーが報告されます。

「**cname**」がコーディングされていない場合、一般的な名前が生成されます。

domain

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイングループの名前を指定します。

このパラメータを何度か指定すれば、いくつかの **Client Automation** ドメイングループをまとめて処理することができます。

このパラメータは、**area** パラメータまたは **toAllAreas** パラメータと一緒に指定しないでください。

haltTime

保留中のインストールがキャンセルされる 配信注文が停止する必要がある日時です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

sendTime

保留中のインストールがキャンセルされる 関連付けられた配信をアドレス指定されたドメイン マネージャに送信する時間です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。このパラメータが指定されていない場合、現在の日時が使用されます。

toAllAreas

コーディングすると、関連する配信がエンタープライズ マネージャに登録されたすべての **Client Automation** ドメインに送信されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

例 :

```
cadsmcmd rdereg item="Software TestC" version=0.46
area=N_LOCAL_SRV area=N_LOCAL_SRV_02 area=W0_LOCAL_SRV cname=TestCont4
sendtime="2005-03-05 18:35" halttime="2005-03-04 23:30"
```

rderegproc — リモートからのプロシージャの登録解除

このコマンドは、1つ以上のドメイン マネージャでライブラリ内のソフトウェアプログラムに関連付けられた項目プロシージャを登録解除（ライブラリから除去）する注文を送信する場合に使用します。対象の項目プロシージャとして、埋め込み項目プロシージャを指定することはできません。

このコマンドはエンタープライズ マネージャに対してのみ有効です。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
rderegproc item=item_name
           version=version_name
           procedure=procedure_name
           [{area=area_name} | {domain=domain_name}] toAllAreas
           [cname=name]
           [sendTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
           [haltTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
```

area

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前を指定します。

項目を何度か指定すれば、いくつかの **Client Automation** ドメインをまとめて処理することができます。

項目は、**domain** パラメータまたは **toAllAreas** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

cname

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの一意の名前（オプション）を指定します。

指定された名前のジョブ コンテナ / 配布がすでに存在する場合、エラーが報告されます。

「**cname**」がコーディングされていない場合、一般的な名前が生成されます。

domain

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイングループの名前を指定します。

このパラメータを何度か指定すれば、いくつかの **Client Automation** ドメイングループをまとめて処理することができます。

このパラメータは、**area** パラメータまたは **toAllAreas** パラメータと一緒に指定しないでください。

haltTime

保留中のインストールがキャンセルされる 配信注文が停止する必要がある日時です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャの名前。

sendTime

保留中のインストールがキャンセルされる 関連付けられた配信をアドレス指定されたドメイン マネージャに送信する時間です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。このパラメータが指定されていない場合、現在の日時が使用されます。

toAllAreas

コーディングすると、関連する配信がエンタープライズ マネージャに登録されたすべての **Client Automation** ドメインに送信されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

例：

```
cadsmcmd rderegproc item="Software TestC" version=0.46 procedure=Install2  
area=N_LOCAL_SRV area=N_LOCAL_SRV_02 area=W0_LOCAL_SRV cname=TestCont3  
sendtime="2005-03-06 18:45" halttime="2005-03-06 23:30"
```

recover — 失敗したインストールの回復

recover コマンドは失敗したインストールを回復します。またこのコマンドでは、失敗したインストールをクリーンアップします。

この **recover** コマンドはドメイン マネージャ上でのみ有効です。

このコマンドのフォーマットには、以下の 2 つがあります。

```
recover {item=item_name version=version_name
    installedwith=install_procedure
    procedure=un_install_procedure_name
    [{computer=computer_name}]
    [after={exacttime|boottime}]
    [nocalendar[={y|n}]]
    [offline[={y|n}]]
    [deliverytime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
    [attime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
    [promptUser[={y|n}]]
    [bootbefore[={y|n}]]
    [bootafte[={y|n}]]
    [timeout=hours]
    [calendarname=delivery_exclusion_calendar]
    [runAtShutdown[={y|n}]]
    [userJobMessage]
    [userMessage]
```

```
recover cname=name
    [item=item_name
    version=version_name
    installedwith=install_procedure
    procedure=un_install_procedure_name
    [after={exacttime|boottime}]
    [globalTime[={y|n}]]
    [nocalendar[={y|n}]]
    [offline[={y|n}]]
    [deliverytime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
    [attime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
    [promptUser[={y|n}]]
    [bootbefore[={y|n}]]
    [bootafte[={y|n}]]
    [timeout=hours]
    [calendarname=delivery_exclusion_calendar]
    [nopurge]
    [runAtShutdown[={y|n}]]
    [userJobMessage]
    [userMessage]
```

after={exacttime | boottime }

ターゲット システムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

atTime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

bootafter

ターゲット コンピュータを再起動してからプロシージャを開始する必要があることを示します。

bootbefore

プロシージャの完了後、ターゲット コンピュータを再起動する必要があることを示します。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 配信の除外期間を指定するカレンダーの名前。

cname

回復対象のジョブが取得されるジョブ コンテナの名前を指定します。

computer

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前。

deliveryTime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメインマネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

このパラメータをコーディングしないと、現在の日付と時間が使用されます。

globaltime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「globalTime=n」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。

installedWith

保留中のインストールがキャンセルされる インストール プロシージャの名前。

このパラメータは、**item** パラメータのみとともにコーディングしてください。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

このパラメータは、**version**、**installedWith**、**procedure** の各パラメータのみと共にコーディングしてください。

item パラメータをコーディングしないと、回復対象の項目に関連付けられた最初のアニインストール プロシージャを使用して、指定のコンテナの回復可能なジョブがすべて回復されます。

noCalendar

「**noCalendar**」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダーが無視されます。

nopurge

このパラメータをコーディングすると、**cname** にコーディングしたジョブ コンテナが保持されます。コーディングしないと、そのジョブ コンテナは削除されます。

offline

「**offline**」または「**offline =y**」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「**offline =n**」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる 実行する「アンインストール」 プロシージャの名前

このパラメータは、**item** パラメータのみと共にコーディングしてください。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。
このパラメータは、**Unix** がターゲットの場合にのみ有効です。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

timeout

保留中のインストールがキャンセルされる **timeout** には、ジョブの失効期間が「h」の形式で指定されます。ここで、h は時間数です。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

timeout は **jobTimeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**168** がデフォルトで設定されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

このパラメータは、**item** パラメータのみと共にコーディングしてください。

userJobMessage

ジョブ コンテナ内の失敗ジョブ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

userMessage

ジョブ コンテナ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

注： コマンドの **cname** 変数がコーディングされている場合、パラメータ **item version installed** のあるブロックはオプションになります。これらのパラメータをコーディングしない場合、コンテナの回復可能なジョブはすべて回復されます。使用されたアンインストール プロシージャは、関連する製品に割り当てられたアンインストール プロシージャ リストの最初のプロシージャになります。

例：

以下の例では、**recover** コマンドを使用して、ドメインマネージャからコンピュータ **N_LOCAL_SRV** 上の失敗したインストールを回復する方法を示しています。

```
cadsmcmd recover item="Software TestC" version=0.49A
installedwith=Install2 procedure=UninstallC
computer=N_LOCAL_SRV after=exacttime
attime="2005-10-10 10:55" promptuser timeout=168
```

regproc--プロシージャの登録

regproc コマンドは、既存のソフトウェア プログラムに埋め込み項目プロシージャまたは追加の項目プロシージャを登録する場合に使用します。対象の項目プロシージャは、エンタープライズ マネージャまたはドメイン マネージャにアクセス可能なディレクトリに存在している必要があります。

コマンドの構文は、以下のとおりです。

```
cadsmcmd regproc      item=item_name
                      version=version_name
                      task={install | activate | configure | uninstall}
                      procedure=procedure_name
                      os=os
                      type={executable | command | SWD | MSI | SXP | PKG | PIF | IPS | PALM | WINCE|
RPM | NOKIA}
                      [enduser]
                      [notRAC]
                      [externalproc]
                      file=file_name
                      path=path_name
                      [parameters=procedure_parameters]
                      [defaultProc][query=query_name][sep=separator_sign]
                      [comment=comment]
                      [usedefaultMsg]
```

comment

を指定します。コメント を指定します。

defaultProc

コーディングされている場合、プロシージャの登録は同じタイプのすべてのプロシージャでデフォルト プロシージャとなります。

enduser

(オプション) エンドユーザがカタログ **GUI** を使用して、プロシージャの実行スケジュールを設定することができます。.

externalproc

(オプション) 以下を指定します: **procedure** パラメータで指定したプロシージャは外部プロシージャ (プロシージャは問題のターゲットシステムによって提供される必要があります) 。

ファイル

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャ ファイルの名前.

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

notRAC

(オプション) **Reinstall After Crash (RAC)** で、プロシージャが考慮されないことを指定します。

OS

保留中のインストールがキャンセルされる オペレーティング システム タイプ を指定します。

値 :

```
os={AIX|AIX_3.2_RS/6000|AIX_4.1_RS/6000
...|AIX_4.2_RS/6000|AIX_4.3_RS/6000
...|AIX_5.0_RS/6000|AIX_5.1_RS/6000
...|AIX_5.2_RS/6000|AIX_5.3_RS/6000
...|AIX_5.4_RS/6000|AIX_5.5_RS/6000
...|AIX_5.6_RS/6000|AIX_5.7_RS/6000
...|AIX_5.8_RS/6000|ANY|COMPAQ_TRU64_(DEC)
...|COMPAQ_TRU64_5.X_ALPHA
...|DEC_3.0_ALPHA|DEC_3.2_ALPHA
...|DEC_4.0_ALPHA|DGUX|DGUX_4.1_INTEL
...|DGUX_4.1_MC88|DGUX_4.2_INTEL
...|DOS|DRS/NX_7MP_SPARC|DRS/NX_7_SPARC
...|DRS/NX_SPARC|DYNIX|DYNIX_4.2.X_INTEL
...|DYNIX_4.4.X_INTEL|HPUX
...|HPUX_10|HPUX_10_700|HPUX_10_800
...|HPUX_11|HPUX_11I_V2|HPUX_11_700
...|HPUX_11_800|HPUX_11_IA64
...|HPUX_12|HPUX_12I_V2|HPUX_12_700
...|HPUX_12_800|HPUX_12_IA64
...|HPUX_9|HPUX_9_700|HPUX_9_800
...|IRIX|IRIX_6.2|IRIX_6.3
...|IRIX_6.4|IRIX_6.5|LINUX
...|LINUX_2.1_INTEL|LINUX_2.2_INTEL
...|LINUX_2.2_S/390|LINUX_2.3_INTEL
...|LINUX_2.3_S/390|LINUX_2.4_INTEL
...|LINUX_2.4_S/390|LINUX_2.5_INTEL
...|LINUX_2.5_S/390|LINUX_2.6_INTEL
...|LINUX_2.6_INTEL_64-BIT
...|LINUX_2.6_S/390|MACINTOSH
...|MACINTOSH_10.0_PPC|MACINTOSH_10.1_PPC
...|MACINTOSH_10.2_PPC|MACINTOSH_10.3_PPC
...|MACINTOSH_10.4_PPC|NCR_SST
...|NCR_SST_S4I_INTEL|NCR_SST_S4_INTEL
...|NCR_SV|NCR_SV_2X_INTEL
...|NCR_SV_3X_INTEL|NETWARE
...|NETWARE_3_INTEL|NETWARE_4_INTEL
...|NETWARE_5_INTEL|NETWARE_6_INTEL
...|NOKIA_ADMINISUITE|NOKIA_ADMINISUITE_1.0
...|OPENVMS|OPENVMS_5.5_VAX
...|OPENVMS_6.0_ALPHA|OPENVMS_6.0_VAX
...|OPENVMS_6.1_ALPHA|OPENVMS_6.1_VAX
...|OPENVMS_6.2_ALPHA|OPENVMS_6.2_VAX
...|OPENVMS_7.0_ALPHA|OPENVMS_7.0_VAX
```

```

...|OPENVMS_7.1_ALPHA|OPENVMS_7.1_VAX
...|OPENVMS_7.2_ALPHA|OPENVMS_7.2_VAX
...|OS/2_16-BIT|OS/2_32-BIT
...|PALM_OS|SCO|SCO_3.2_V5_INTEL
...|SCO_5.2_V5_INTEL|SINIX
...|SINIX_5.42_R4000|SINIX_5.43_R4000
...|SINIX_5.44_R4000|SINIX_5.45_R4000
...|SOLARIS|SOLARIS_10_INTEL
...|SOLARIS_10_SPARC|SOLARIS_2.3_SPARC
...|SOLARIS_2.4_INTEL|SOLARIS_2.4_SPARC
...|SOLARIS_2.5_INTEL|SOLARIS_2.5_SPARC
...|SOLARIS_2.6_INTEL|SOLARIS_2.6_SPARC
...|SOLARIS_7_INTEL|SOLARIS_7_SPARC
...|SOLARIS_8_INTEL|SOLARIS_8_SPARC
...|SOLARIS_9_INTEL|SOLARIS_9_SPARC
...|SUNOS|SUNOS_4.1.4_SPARC
...|UNIX|UNIXWARE|UNIXWARE2.0_INTEL
...|UNIXWARE2.1_INTEL|UNIXWARE7.X_INTEL
...|WINDOWS_16-BIT|WINDOWS_32-BIT
...|WINDOWS_95|WINDOWS_98
...|WINDOWS_ME|WIN_2000|WIN_2000_INTEL
...|WIN_CE|WIN_CE_2.00_MIPS
...|WIN_CE_2.00_SH3|WIN_CE_2.01_MIPS
...|WIN_CE_2.01_SH3|WIN_CE_2.11_ARM
...|WIN_CE_2.11_MIPS|WIN_CE_2.11_SH3
...|WIN_CE_2.11_SH4|WIN_CE_3.00_ARM
...|WIN_CE_3.00_MIPS|WIN_CE_3.00_PPC2002_ARM
...|WIN_CE_3.00_SH3|WIN_CE_3.00_SH4
...|WIN_CE_4.20_MOBILE2003_ARM
...|WIN_LONGHORN_SERVER_INTEL
...|WIN_LONGHORN_SERVER_ITANIUM
...|WIN_LONGHORN_SERVER_X64
...|WIN_NT|WIN_NT_ALPHA|WIN_NT_INTEL
...|WIN_NT_MIPS|WIN_SERVER_2003
...|WIN_SERVER_2003_INTEL
...|WIN_SERVER_2003_ITANIUM
...|WIN_SERVER_2003_X64|WIN_VISTA_INTEL
...|WIN_VISTA_ITANIUM|WIN_VISTA_X64
...|WIN_XP|WIN_XP_INTEL|WIN_XP_ITANIUM
...|WIN_XP_X64}

```

注：詳細モードで `regproc` コマンドを発行すると、実際に使用しているバージョンについて有効な値の一覧が表示されます。

パラメータ

実行時にプロシージャに渡されるパラメータ。

path

使用法に応じて以下のいずれかのプロシージャを示します。

内部プロシージャ

内部プロシージャは、製品パッケージに欠くことのできない部分です。このため、そのパスは製品ルートを起点としたプロシージャ ファイルへの相対パスとみなされます。

たとえば、製品が `c:\$swtest1`（製品ルート）からロードされ、プロシージャが `c:\$swtest1\procs` に配置されている場合、そのプロシージャを特定するには `path=PROCS` をコーディングします。

プロシージャも `c:\$swtest1` にある場合は、Windows では `path=¥¥`、Linux では `path=./` をコーディングします。

（関連項目：円記号（Windows）とスラッシュ（Linux））

追加されたプロシージャ

このプロシージャはパッケージに欠かせないものではありませんが、マネージャ上の任意の場所で利用することができます。このため、パスはマネージャ上のプロシージャ ファイルへの絶対アクセスパスになります。

たとえば、製品が `c:\$swtest1` からロードされるものの、割り当てられるプロシージャがコマンドの起動されるマネージャ上の `d:\$procpool` にある場合は、`path=d:\$procpool` をコーディングします。

外部プロシージャ

このプロシージャはパッケージにとって必要不可欠な部分ではなく、コマンドが起動されるマネージャ上で利用することもできませんが、後でこのプロシージャを実行することになるターゲット コンピュータには必ず搭載しておく必要があります。

その場合、外部プロシージャはアドレス指定されるどのターゲット コンピュータでも同じ場所に配置する必要があります。

たとえば、プロシージャを問題のターゲット コンピュータの `c:\$usd_supp\procs` に配置するとします。この場合は、`path=c:\$usd_supp\procs` をコーディングします。

注：externalProc 引数をコーディングしている場合には、このパラメータは必須ではありません。この場合、ファイルの引数によって渡される情報は、ターゲットシステムで呼び出されるプロシージャを判別するのに使用されます。

externalProc 引数がコーディングされていない場合、このパラメータは必須となります。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャの名前. プロシージャが登録されます。

query

このプロシージャを実行するための前提条件を記述している既存のクエリの名前を指定します。コーディングされていない場合、前線条件は設定されません。

クエリ名の構文は、以下のとおりです。

`{query_name | (query_name separator_sign domain_name)}`

domain_name は、このクエリが作成されたドメインの名前を指定します。separator_sign は、domain_name の query_name を区切ります。separator_sign は、sep パラメータによって定義されます。query_name だけが指定されている場合、ドメインに対するクエリのメンバシップはチェックされません。

sep

このアクションで使用される区切り記号を指定します。デフォルトの区切り記号はドット「.」です。

task

保留中のインストールがキャンセルされる 項目プロシージャによって実行されるタスクのタイプ。

インストール

以下を登録します： インストール プロシージャ

起動

以下を登録します： 起動プロシージャ

設定

以下を登録します： 設定プロシージャ

アンインストール

以下を登録します： アンインストール プロシージャ

type

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャ タイプ。
有効な値は以下のとおりです。

executable

実行可能ファイル (.exe または .com)

command

コマンドファイル (.cmd または .bat)

swd

ソフトウェア ディテクタ スクリプト

msi

Microsoft Windows Installer パッケージ ファイル

sxp

Windows 用 SD パッケージ フォーマット

pkg

UNIX 用 SD パッケージ フォーマット

pif

Product Interchange File : UNIX 用 SD パッケージ フォーマット

rpm

Linux RedHat パッケージ マネージャ パッケージ フォーマット

ips

拡張子が .ips の <adms> スクリプト ファイル

palm

拡張子が .prc の Palm アプリケーション ファイル

wince

拡張子が .cab の Windows CE キャビネット ファイル

nokia

NOKIA 9210 Communicator ファイル

usedefaultMsg

(オプション) `usedefaultMsg` 引数がコーディングされている場合、項目プロシージャに関連付けられたコメントはユーザ ジョブ メッセージとして使用されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン.

例 :

以下の例では、プロシージャが Windows サーバ コマンド ライン から登録され、カタログ経由のリクエストで使用できるようになります。プロシージャ ファイル `install1.cmd` は現在のディレクトリまたはシステム パスではなくターゲット システムに存在するため、このプロシージャは外部プロシージャであり、フルパスを指定する必要があります。

```
cadsmcmd regproc item="Software Test" version=0.45 task=install  
procedure=Install os=WINDOWS_32-BIT type=command enduser externalproc  
file=install.cmd path=c:%test%swtest1 comment="Install Proc 1"
```

以下の例では、引数 `externalProc` がコーディングされています。パス パラメータは使用されていません。プロシージャ `conf_ext` に関連付けられた実行ファイルは、`c:¥myProcs¥Prod` に格納されているプログラム `configure.exe` となります。

```
regproc item=prod1 version=1.2/98 task=configure procedure=conf_ext os=WIN_NT
type=executable externalProc file=c:¥myProcs¥Prod1
```

また、以下の例では、`path` パラメータは使用されません。プロシージャ `act_ext` に関連付けられた実行ファイルは、ターゲット システムの `%PATH%` 内に格納されているプログラム `act.exe` です。

```
regproc item=prod1 version=1.2/98 task=activate procedure=act_ext os=WIN_NT
type=executable externalProc file=c:¥myProcs¥Prod1¥act.exe
```

以下の例では、`path` パラメータが使用されています。プロシージャ `inst_ext` に関連付けられた実行ファイルは、プログラム `install.exe` です。このファイルは、ターゲット システムの `c:¥myProcs¥Prod1` に格納されています。

```
regproc item=prod1 version=1.2/98 task=install procedure=inst_ext os=WIN_NT
type=executable externalProc file=install.exe path=c:¥myProcs¥Prod1
```

regsw -- ソフトウェアの登録

`regsw` コマンドでは、以下のことを実行することができます。

- 新しいソフトウェア プログラムの登録
- ライブラリにすでに登録されているプログラム バージョンに基づいた、新しいプログラム バージョンの登録

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
regsw {item=item_name
      version=item_version
      [basedonitem=baseproduct basedonversion=baseversion] path=sourcepath
      [comment=comment]
      [supplier=supplier]
      [procedures=procedurelistname]}
      [nochecksum]
```

basedonitem

保留中のインストールがキャンセルされる この新しい項目に基づいている元の項目の製品名.

basedonversion

保留中のインストールがキャンセルされる 基本製品のバージョン.

comment

を指定します。コメントを指定します。

item

新しい項目の名前を指定します。

noChecksum

このオプションのパラメータをコーディングしている場合は、以下があります： チェックサムによる整合性チェックが実施されません。

デフォルトでは、パッケージが「regsw」によって定義されていれば、チェックサム制御が有効になります。チェックサム制御を無効にする場合は、このパラメータをコーディングする必要があります。

詳細モードでは、「NoChecksum」パラメータについて「Yes」または「No」を入力するよう求められます。パラメータを設定するには「Yes」を入力し、パラメータを無効にするには「No」を入力します。

詳細モードのデフォルトではこのパラメータが「No」になり、チェックサム制御が有効になります。

path

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のイメージを保持するマネージャ上のディレクトリ を指定します。

「*sourcepath*」がマップされたドライブを参照している場合は、そのドライブが SD サービスにアクセス可能である必要があります。

手順

このパラメータでは、登録対象項目の埋め込みプロシージャを定義するファイルの名前を指定します。

SD には、このファイルへのアクセス権が必要です。

プロシージャは、**regproc** コマンドによって定義されます。

このファイルの内容については以下のことが当てはまります。

- **item** パラメータおよび **version** パラメータなしで **regproc** をコーディングすることができます。どちらのパラメータも、このようなファイルではオプションになります。ただし、コーディングする場合は、登録対象の製品を参照している必要があります。参照していない場合は、エラーがレポートされます。
- **regproc** が複数行にまたがることができます。
- コメントを追加することができます。コメントの先頭にはハッシュ記号 (#) を付ける必要があります。
- 空白が含まれるパラメータ値は二重引用符 (") で囲む必要があります。

procedures パラメータをコーディングすると、製品が正常に登録された後自動的に封印されます。コーディングしないと、製品はさらなる処理のため封印解除されたままになります。

サプライヤ

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のサプライヤ。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン。

以下の例では、Linux から **regsw** コマンドを発行して、ソフトウェア パッケージ「Software Test」のバージョン 0.45 を登録する方法を示します。

```
cadsmcmd regsw item="Software Test" version=0.45 path=/usr/test/swtest1  
comment="Test software registration" supplier=CA procedures=/usr/test/proclist.txt
```

以下の例では、同じソフトウェア パッケージを **Windows** サーバから登録する方法を示しており、4 つの埋め込み項目プロシージャが含まれています。プロシージャ パラメータによって、プロシージャがリストされているファイル名が指定されています。

```
cadsmcmd regsw item="Software Test" version=0.45 path=c:%test%swtest1  
comment="Test software registration"supplier=CA procedures=c:%test%proclist.txt
```

以下に、プロシージャの一覧が含まれるサンプル ファイルを示します。

このファイルは、Software Test のバージョン 0.45 のすべての埋め込み項目プロシージャの一覧です。

```
regproc task=install procedure="Install Proc 1" os=WINDOWS_32-BIT type=command
enduser file=install1.cmd path=¥
```

```
regproc task=activate procedure="Activate Proc 1" os=WINDOWS_32-BIT type=command
enduser file=activ1.cmd path=¥
```

```
regproc task=configure procedure="Configure Proc 1" os=WINDOWS_32-BIT type=command
enduser file=config1.cmd path=¥
```

```
regproc task=uninstall procedure="Uninstall Proc 1" os=WINDOWS_32-BIT type=command
enduser file=uninst1.cmd path=¥
```

プロシージャはソフトウェアそれ自体と同じディレクトリに存在するため、パスは「¥」となります。プロシージャがサブディレクトリ「C:¥test¥swtest1¥proc」に存在する場合、プロシージャ ファイルでは「path=¥proc」を使用する必要があります。パスは Linux サーバと同じ方法で定義します。ディレクトリの区切りは、「/」に変更します。

renew — 配信の更新

renew コマンドは、エンタープライズ マネージャから発行されたときにのみ有効です。

失敗または停止した配信を更新する場合に使用します。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
renew name=distribution_name
      [sendTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
      [haltTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
```

halttime

保留中のインストールがキャンセルされる 配信注文が停止する必要のある日時です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。

name

保留中のインストールがキャンセルされる **name of the distribution** を指定します。

sendtime

保留中のインストールがキャンセルされる 関連付けられた配信をアドレス指定されたドメイン マネージャに送信する時間です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。このパラメータが指定されていない場合、現在の日時が使用されます。

例：

以下の例では、**cadsmcmd progress** コマンドを発行しています。この例について検討します。

```
cadsmcmd progress name=TestCont11
```

このコマンドでは、**TestCont11** が停止した配信として表示されます。

配信名： **TestCont11**、ステータスは停止です。

送信日時： **2003/03/05 18:04**，インストール日時： **2003/03/05 18:10**，停止日時： **2003/03/05 18:15**

エリアの Nr 合計： **2**、待機中： **1**、アクティブ： **0**、入力エラー数： **0**、OK： **1**。

エリア： ダウンタウンの **N_LOCAL_SRV 100 %** 送信済み。ステータスは **OK** です。

エリア： 郊外の **N_LOCAL_SRV_02 0 %** 送信済み。ステータスは停止です。

SDCMD<A0000000>： OK

cadsmcmd renew コマンドを発行すると、停止した **TestCont11** 配信が更新されます。

```
cadsmcmd renew name=TestCont11
```

cadsmcmd progress コマンドを再発行すると、TestCont11 配信が更新されステータスがアクティブになります。

配信名： TestCont11、ステータスはアクティブです。

送信日時： 2003/03/05 18:04, インストール日時： 2003/03/05 19:10:00, 停止日時： 2003/03/05 22:30:00

エリアの Nr 合計： 2、 待機中： 0、 アクティブ： 1、 入力エラー数： 0、 OK： 1。

エリア： ダウンタウンの N_LOCAL_SRV 100 % 送信済み。 ステータスは OK です。

エリア： 郊外の N_LOCAL_SRV_02 0 % 送信済み。 ステータスはアクティブです。

SDCMD<A000000>： OK

renewjob — ジョブの更新

renewjob コマンドは失敗したジョブを更新します。このコマンドは、ドメイン マネージャから発行された場合のみ有効です。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
renewjob
  item=item_name
  version=version_name
  procedure=procedure_name
  installedwith=install_procedure_name
  task={install | activate | configure | uninstall}
  [deliverytime="yyyy-mm-dd hh:mm" ]
  [calendarname=delivery_exclusion_calendar]
  [attime="yyyy-mm-dd hh:mm" ]
  [timeout=hours]
  [runAtShutdown[={y|n}]]
  [userJobMessage]
  [userMessage]
```

または

```
renewjob
  cname=[name]
  [item=item_name
  version=version_name
  procedure=procedure_name ]
  [deliverytime="yyyy-mm-dd hh:mm" ]
  [attime="yyyy-mm-dd hh:mm" ]
  [calendarname=delivery_exclusion_calendar]
  [timeout=hours]
  [runAtShutdown[={y|n}]]
  [userJobMessage]
  [userMessage]
```

atTime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される
日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 配信の除外期間を指定する
カレンダーの名前

cname

を指定します。ジョブ コンテナの一意の名前（オプション）を指定します。

cname をコーディングしたときには、**item**、**version**、**procedure** の各パラメータはオプションになります。

この 3 つのパラメータをコーディングすると、指定のコンテナのジョブのうちその各パラメータで特定されるジョブのみが更新されます。

3 つともコーディングしないと、指定のコンテナに含まれる更新可能なジョブがすべて更新されます。

cname をコーディングしないと、更新対象のジョブは **item**、**version**、**installedWith**、**procedure**、**task** の各パラメータで指定した内容と最初に一致した更新可能なジョブになります。

deliverytime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメインマネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

installedWith

保留中のインストールがキャンセルされる インストールプロシージャの名前。

更新対象のジョブは、このプロシージャと共にインストールされたものです。

cname がコーディングされている場合、このパラメータは無視されます。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前。更新対象のジョブは、この項目を処理するものである必要があります。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャの名前。更新対象のジョブは、このプロシージャを処理するものである必要があります。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、Unix がターゲットの場合にのみ有効です。

task

保留中のインストールがキャンセルされる 項目プロシージャによって実行されるタスクのタイプ。

回復対象のプロシージャは、このタスク タイプのプロシージャを処理するものである必要があります。

install

インストール プロシージャ。

configure

設定 プロシージャ。

activate

起動 プロシージャ。

uninstall

アンインストール プロシージャ。

cname がコーディングされている場合、このパラメータは無視されます。

timeout

保留中のインストールがキャンセルされる **timeout** には、ジョブの失効期間が「h」の形式で指定されます。ここで、h は時間数です。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

timeout は **jobTimeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**168** がデフォルトで設定されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

userJobMessage

ジョブ コンテナ内の更新ジョブ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

userMessage

ジョブ コンテナ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

注：ジョブ一覧でエラー ステータスを示し、かつ **item**、**version**、**procedure**、**installedWith** の各パラメータに最初に一致したジョブが更新操作の対象に選択され、**procedure** パラメータで指定したプロシージャで処理されることになります。

注：コマンドの「cname」 -variant では、**item**、**version**、**procedure** の各パラメータがオプションになります。このパラメータを 3 つともコーディングしないと、コンテナ内の更新可能なジョブがすべて更新されます。

resume — 停止した配信の再開

このコマンドは、停止した配信を再開する場合に使用します。

フォーマットは、以下のとおりです。

```
resume name=jobcontainer_name
[sendtime="yyyy-mm-dd hh:mm" ]
[halttime="yyyy-mm-dd hh:mm" ]
```

halttime

保留中のインストールがキャンセルされる 配信注文が停止する必要のある日時です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。

注：Max_Dist_Time によって、コンテナ配信がエラー状態に設定されるまでの最大分数が決定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる name of the distribution を指定します。

sendtime

保留中のインストールがキャンセルされる 関連付けられた配信をアドレス指定されたドメイン マネージャに送信する時間です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。このパラメータが指定されていない場合、現在の日時が使用されます。

rregproc — リモートからのプロシージャの登録

このコマンドは、1つ以上のドメイン マネージャのライブラリにプロシージャを登録する注文を送信する場合に使用します。エンタープライズ マネージャに対して与えられ、ドメインまたはドメイン グループを処理対象とするコマンドです。

このコマンドはエンタープライズ マネージャに対してのみ有効です。

フォーマットは、以下のとおりです。

```
rregproc item=item_name
         version=version_name
         procedure=procedure_name
         [{area=area_name} | {domain=domain_name} | toAllAreas]
         [cname=name]
         [sendTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
         [haltTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
```

area

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前を指定します。

このパラメータを何度か指定すると、いくつかの **Client Automation** ドメインをまとめて処理することができます。

このパラメータは、**domain** または **toAllAreas** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

cname

以下を指定します： 配信コンテナの一意な名前（オプション）。

cname パラメータが指定されていない場合、名前が内部で生成され、コマンドラインインターフェースで識別子が返されます。

domain

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイングループの名前を指定します。

このパラメータを何度か指定すると、いくつかの **Client Automation** ドメイングループをまとめて処理することができます。

このパラメータは、**area** または **toAllAreas** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

haltTime

保留中のインストールがキャンセルされる 配信注文が停止する必要のある日時です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャの名前 を指定します。

sendTime

保留中のインストールがキャンセルされる 関連付けられた配信をアドレス指定されたドメイン マネージャに送信する時間です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。このパラメータが指定されていない場合、現在の日時が使用されます。

toAllAreas

コーディングすると、関連する配信がエンタープライズ マネージャに登録されたすべての Client Automation ドメインに送信されます。

「toAllAreas」は、「area」または「domain」パラメータと一緒にコーディングしないでください。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

例：

以下の構文の例を検討します。Windows サーバから入力したと想定します。

```
cadsmcmd rregproc item="Software TestC" version=0.46 procedure=Install2  
area=N_LOCAL_SRV_02 area=W0_LOCAL_SRV cname=TestCont2 sendtime="2005-03-04 17:35"  
halttime="2005-03-04 22:55"
```

rregsw — ソフトウェアのリモートでの登録

rregsw コマンドを使用すると、新しいソフトウェア プログラムをエンタープライズ マネージャ ライブラリからドメインまたはドメイン グループの名前付きリストに配信でき、これらのドメインのドメイン マネージャのライブラリに登録することができます。

rregsw コマンドは、エンタープライズ マネージャのコマンドラインから発行された場合のみに有効です。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
rregsw item=item_name
      version=version_name
      {{area=area_name} | {domain=domain_name} | toAllAreas}
      [cname=name]
      [sendTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
      [haltTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
      [delta[={y|n}]]
```

area

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前を指定します。

このパラメータを何度か指定すると、いくつかの **Client Automation** ドメインをまとめて処理することができます。

このパラメータは、**domain** または **toAllAreas** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

cname

オプションで一意の **name of the distribution**.

cname パラメータが指定されていない場合、名前が内部で生成され、コマンドライン インターフェイスで識別子が返されます。

delta

項目が以前のバージョンに基づいている場合に、差分のみがリモートの **Client Automation** ドメインに送信されることを示します。以前のバージョンは、すでにリモートの **Client Automation** ドメインに登録されている必要があります。

domain

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイングループの名前 を指定します。

このパラメータを何度か指定すると、いくつかの **Client Automation** ドメイングループをまとめて処理することができます。

このパラメータは、**area** または **toAllAreas** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

halttime

保留中のインストールがキャンセルされる 配信注文が停止する必要がある日時です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。

停止された配信の再開の詳細については、**resume** コマンドを参照してください。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

sendtime

保留中のインストールがキャンセルされる 関連付けられた配信をアドレス指定されたドメイン マネージャに送信する時間です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。このパラメータが指定されていない場合、現在の日時が使用されます。

toAllAreas

コーディングすると、関連する配信がエンタープライズ マネージャに登録されたすべての **Client Automation** ドメインに送信されます。

「**toAllAreas**」は、「**area**」または「**domain**」パラメータと一緒にコーディングしないでください。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

例：

```
cadsmcmd rregsw item="Software TestC" version=0.46 area=N_LOCAL_SRV  
area=N_LOCAL_SRV_02 area=W0_LOCAL_SRV  
cname=TestCont1 sendtime="2005-03-03 17:05" halttime="2005-03-03 21:05"
```


scalabilityServer

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[collectSector—スケーラビリティ サーバでのセクタ情報の収集 \(P. 297\)](#)

collectSector—スケーラビリティ サーバでのセクタ情報の収集

このアクションを使用して、指定されたスケーラビリティ サーバでのセクタ情報の収集の要求をスケジュールします。

以下に構文を示します。

```
scalabilityServer action=collectSector  
    name=name_of_scalability_server  
    [COLLECTALL]
```

name

セクタ情報の収集元となるスケーラビリティ サーバの名前を指定します。

COLLECTALL

(オプション) このオプションによって、セクタから収集されるデータ量が増加します。

これがコーディングされていない場合は、共通のコンピュータおよびユーザに関する情報のみが収集されます。

コーディングされている場合、アセット管理インベントリ データを含む、利用可能なセクタ全体に関する情報が収集されます。

注： 以下を考慮する必要があります。

- アクションは非同期に動作します。要求がスケジュールされるとすぐに制御が戻ります。このタスクを完了するためのエンジンを待機しません。
- スケーラビリティ サーバの名前は一意である必要があります。そうでない場合、アクションは失敗します。
- アドレス指定されたアセット管理マネージャは、スケーラビリティ サーバの名前からこの要求の処理を担当しているエンジンを自動的に判別します。
- このアクションは、ドメイン マネージャに対してのみ提供されます。エンタープライズ マネージャに対して起動すると、拒否されてエラーが出されます。

security

security アクションを使用して、ポスト処理によって配信されるオブジェクトのタイプに対するセキュリティ エリアの割り当てを管理します。

コマンドはドメイン マネージャに対して利用可能です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[linkSATOso](#) (P. 298)

[unlinkSAFromSO](#) (P. 301)

linkSATOso

このコマンドは、指定された保護対象オブジェクトのリストを指定されたセキュリティ エリアにリンクします。

このコマンドは、ドメイン マネージャに対してのみ有効です。

フォーマットは、以下のとおりです。

```
cadsmcmd security          action=linkSATOso
  name=security_area_name
  {soName=secured_object_name}
  classId=security_class_identifier
  [folderName=folder_name
  folderClassId=identifier_of_the_folder's_class]
  [domainName=domain_name]
```

name

指定されたオブジェクトのリンク先となるセキュリティ エリアの名前を指定します。

soName

指定されたセキュリティ エリアにリンクされる保護対象オブジェクトの名前（ラベル）を指定します。

保護対象オブジェクトをまとめて渡すために、オプションを 1 回以上コーディングすることができます。

保護対象オブジェクトのセキュリティ クラスが「SoftwarePackage」である場合、以下の形式で名前とバージョンを指定します。

«名前»|«バージョン»

«名前» に空白が含まれる場合は、以下のように引用符で «名前»|«バージョン» を囲みます。

"«name»|«version»"

例：

名前 testPackage およびバージョン 1.0

soname=testPackage|1.0

名前 CA ITCM Manager およびバージョン 12.0

soname="CA ITCM Manager|12.0"

classId

保護対象オブジェクトが属しているセキュリティ クラスの識別子を指定します。有効な識別子は以下のとおりです。

SoftwarePackage

ソフトウェア パッケージ クラスの場合

SoftwareJob

ソフトウェア ジョブ クラスの場合

SoftwareJobContainer

ソフトウェア ジョブ コンテナ クラスの場合

SoftwarePolicy

ソフトウェア ベースのポリシーのクラスの場合

folderName

指定されたすべての保護対象オブジェクトが属するフォルダまたはコンテナの名前を指定します。このオプションは、以下のセキュリティ クラスでは必須です。

SoftwareJob

それ以外の場合、パラメータは無視されます。

folderClassId

指定されたフォルダが属するセキュリティ クラスの識別子を指定します。有効な識別子は以下のとおりです。

- SoftwareJobContainer
- SoftwarePolicy

folderName パラメータが無視されると、このパラメータも無視されます。

domainName

指定されたすべての保護対象オブジェクトおよび可能なフォルダが属するドメインの名前を指定します。このパラメータがコーディングされていない場合、すべてのオブジェクトは、この **CADSMCMD** 呼び出しによってアドレス指定されるマネージャのローカル ドメインに属するものと見なされます。

注： このオプションは、タイプが **SoftwarePackage** のセキュリティ オブジェクトに対しては廃止されており、コーディングされている場合は無視されます。

cadsmcmd.example.linkSAToSo

以下の例は、保護されたオブジェクト「RAC : srktest」をセキュリティ領域「m1_area001」にリンクする方法を示しています。

```
Cadsmcmd security action=linkSAToSO name=m1_area001 soname="RAC:srktest [1/8/2010 12:55PM]" classid=softwarejobcontainer domainname=testdomain
```

unlinkSAFromSO

このコマンドは、指定された保護対象オブジェクトのリストを指定されたセキュリティ エリアからリンク解除します。

このコマンドは、ドメイン マネージャに対してのみ有効です。

フォーマットは、以下のとおりです。

```
cadsmcmd security          action=unlinkSAFromSO
      name=security_area_name
      {soName=secured_object_name}
      classId=security_class_identifier
      [folderName=folder_name
      folderClassId=identifier_of_the_folder's_class]
      [domainName=domain_name]
```

name

指定されたオブジェクトがリンク解除されるセキュリティ エリアの名前を指定します。

soName

指定されたセキュリティ エリアからリンク解除される保護対象オブジェクトの名前（ラベル）を指定します。

保護対象オブジェクトをまとめて渡すために、オプションを 1 回以上コーディングすることができます。

保護対象オブジェクトのセキュリティ クラスが「SoftwarePackage」である場合、以下の形式で名前とバージョンを指定します。

«名前»|«バージョン»

«名前» に空白が含まれる場合は、以下のように引用符で «名前»|«バージョン» を囲みます。

"«name»|«version»"

例：

名前 testPackage およびバージョン 1.0

soname=testPackage|1.0

名前 CA ITCM Manager およびバージョン 12.0

soname="CA ITCM Manager|12.0"

classId

保護対象オブジェクトが属しているセキュリティ クラスの識別子を指定します。有効な識別子は以下のとおりです。

SoftwarePackage

ソフトウェア パッケージ クラスの場合

SoftwareJob

ソフトウェア ジョブ クラスの場合

SoftwareJobContainer

ソフトウェア ジョブ コンテナ クラスの場合

SoftwarePolicy

ソフトウェア ベースのポリシーのクラスの場合

folderName

指定されたすべての保護対象オブジェクトが属するフォルダまたはコンテナの名前を指定します。このオプションは、以下のセキュリティ クラスでは必須です。

SoftwareJob

それ以外の場合、パラメータは無視されます。

folderClassId

指定されたフォルダが属するセキュリティ クラスの識別子を指定します。有効な識別子は以下のとおりです。

- SoftwareJobContainer
- SoftwarePolicy

folderName パラメータが無視されると、このパラメータも無視されます。

domainName

指定されたすべての保護対象オブジェクトおよび可能なフォルダが属するドメインの名前を指定します。このパラメータがコーディングされていない場合、すべてのオブジェクトは、この CADSMCMD 呼び出しによってアドレス指定されるマネージャのローカル ドメインに属するものと見なされます。

注： このオプションは、タイプが **SoftwarePackage** のセキュリティ オブジェクトに対しては廃止されており、コーディングされている場合は無視されます。

cadsmcmd.example.unlinkSAFromSO

以下の例は、保護されたオブジェクト「RAC : srktest」をセキュリティ領域「m1_area001」からリンク解除する方法を示しています。

```
Cadsmcmd security action=unlinkSAFromSO name=m1_area001 soname="RAC:srktest  
[1/8/2010 12:55PM]" classid=softwarejobcontainer domainname=testdomain
```

servergroup—サーバグループの管理

サーバグループ (ServerGroup) とは、スケーラビリティ サーバの集まりです。

ServerGroup のすべてのメソッドは、特に指定がない限り、ドメインおよびエンタープライズ マネージャで 사용할 수 있습니다。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[一般的なグループ管理](#) (P. 304)

[メンバシップ管理](#) (P. 310)

[階層管理](#) (P. 314)

一般的なグループ管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[create—サーバグループの作成](#) (P. 305)

[delete—サーバグループの削除](#) (P. 307)

[list—サーバグループの一覧表示](#) (P. 307)

[modfiy—サーバグループの変更](#) (P. 307)

[showAttr—サーバグループの属性の表示](#) (P. 308)

create—サーバグループの作成

このアクションを使用すると、サーバグループを作成できます。

フォーマットは、以下のとおりです。

```
servergroup action=create
  name=groupname
  [superGroup=nameofsupergroup]
  [comment=comment]
  [{server=scalability_server} | addall]
  [InheritPerms[={y|n}]]
```

addall

すべてのスケーラビリティサーバがグループに追加されます（作成時に存在するすべて）

comment

作成するグループのコメントを指定します。

inheritPerms

このパラメータは、作成中のグループがセキュリティ権限を継承するかどうかを指定します。

「InheritPerms」または「InheritPerms=y」がコーディングされている場合、指定されたグループでは権限がメンバに継承され、セキュリティグループとなります。

「InheritPerms=n」がコーディングされている場合、指定されたグループでは権限がメンバに継承されず、したがってセキュリティグループはありません。

デフォルト： InheritPerms=y

name

作成するサーバグループの名前を指定します。

サーバ

グループに追加するスケーラビリティサーバの名前を指定します。

このパラメータは、1台以上のサーバをグループに追加するために、1回以上記述することができます。

superGroup

該当するグループがサブグループとして作成される既存のサーバグループの名前を指定します。

コーディングしない場合、グループがシステムフォルダ「Scalability Server Groups」に作成されます。

例

サーバグループが作成されます。

- グループは、LA_Server という名前にする必要があります。
- このグループには、スケーラビリティサーバ LA_Server01 および LA_Server02 を収集する必要があります。
- 初期状態では、グループはほかのどのグループのサブグループでもない必要があります。

以下のコマンドを実行すると、そのようなグループが作成されます。

```
cadsmcmd servergroup action=create name=LA_Server server=LA_Server01  
server=LA_Server02
```

delete—サーバグループの削除

このアクションを使用すると、サーバグループを削除できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
servergroup action=delete name=groupname  
name
```

削除するサーバグループの名前を指定します。

例

グループ **sg** を削除するには、以下のコマンドを入力する必要があります。

```
cadsmcmd servergroup action=delete name=sg
```

list—サーバグループの一覧表示

このアクションを使用すると、すべてのサーバグループを一覧表示できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
servergroup action=list
```

例

以下のコマンドでは、すべてのサーバグループのリストが生成されます。

```
cadsmcmd servergroup action=list
```

modfiy—サーバグループの変更

このアクションを使用すると、サーバグループを変更できます。

フォーマットは、以下のとおりです。

```
servergroup action=modify  
  name=groupname  
  [NewName=newname]  
  [InheritPerms[={y|n}]]  
  [comment=comment]
```

comment

グループの新しいコメントを指定します。 コメントを消去するには、空の文字列（""）を入力します。

inheritPerms

このオプションパラメータは、変更中のグループがセキュリティグループかどうかを指定します。

「InheritPerms=n」がコーディングされている場合、指定されたグループでは権限がメンバに継承されず、したがってもはやセキュリティグループではありません。

「InheritPerms」または「InheritPerms=y」がコーディングされている場合、指定されたグループでは権限がメンバに継承され、したがってセキュリティグループとなります。

パラメータがコーディングされていない場合、グループの権限継承設定は変更されません。

name

変更するサーバグループの名前を指定します。

NewName

保留中のインストールがキャンセルされるサーバグループの新しい名前。

例

グループ「LA_Server」に変更が必要だとします。

グループの名前を「LA District」に変更する必要があります。

以下のコマンドを使用すると、この変更を実行することができます。

```
cadsmcmd servergroup action=modify name=LA_Server newName="LA District"
```

showAttr—サーバグループの属性の表示

このアクションを使用すると、サーバグループの属性を一覧表示できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
servergroup action=showattr
  name=groupname
  [groupScope={global | local}]
```

name

属性を表示するサーバグループの名前を指定します。

groupScope

指定されたグループの範囲を指定します。このオプションの有効な値は、以下のとおりです。

グローバル

グループはグローバルグループで、エンタープライズマネージャで作成されます。グループは、ドメインマネージャに複製される可能性があります。

ローカル

CADSMCMD が接続しているドメインマネージャで作成されたローカルグループを指定します。

「groupScope」が指定されていない場合、CADSMCMD では、最初にグループをローカルグループとして検索します。検索に失敗すると、次に、グループをグローバルグループとして検索します。

例

```
cadsmcmd servergroup action=showattr name=sg_1
```

出力は、以下のとおりです。

```
-----  
サーバ グループ "sg_1" の属性  
-----
```

```
サーバ グループ名..... : sg_1  
コメント..... :  
セキュリティ タイプ..... : セキュリティ グループ  
作成日..... : 2006-08-28  
作成時間..... : 09:57  
変更日..... : 2006-08-28  
変更時間..... : 09:57
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

メンバシップ管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[add—サーバグループへのサーバの追加](#) (P. 310)

[listMem—サーバグループのメンバの一覧表示](#) (P. 311)

[listMembership—サーバグループのメンバシップのリスト](#) (P. 312)

[remove—サーバのサーバグループからの除去](#) (P. 313)

add—サーバグループへのサーバの追加

このアクションを使用すると、サーバをサーバグループに追加できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
servergroup action=add
  name=groupname
  {{server=server_name |
  qserver=(server_name sep domain_name)}}
  | addall}
  [sep=separator_sign]
```

name

サーバが追加されるサーバグループの名前を指定します。

qserver

サーバ名およびそのサーバが所属するドメイン名を対にして、サーバを指定します。デフォルトでは、名前はドット（「.」）で区切られますが、**sep** オプションを使用すると、代替の区切りを指定することもできます。名前の一部として区切りを使用しないでください。

qserver は 1 回の呼び出しで **server** と共に指定できます。

このサーバが追加されます。

sep

qserver オプションで使用する代替の区切りを指定します。**qserver** オプションと共にコーディングする場合、区切りを名前的一部分としないでください。

サーバ

グループに追加するスケーラビリティ サーバの名前を指定します。

addall

作成時に存在するすべてのスケーラビリティ サーバは、グループに追加されます。

注：いくつかのスケーラビリティ サーバをまとめてアドレス指定するため、スケーラビリティ サーバ（ターゲット）をアドレス指定するパラメータを 1 回以上コーディングすることができます。

例

サーバ **server01** および **server02** をグループ **sg_1** に追加するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd servergroup action=add name=sg_1 server=server01 server=server02
```

listMem—サーバ グループのメンバの一覧表示

このアクションを使用すると、グループのメンバを一覧表示できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
servergroup action=listMem  
    name=groupname  
    [groupScope={global | local}]
```

name

グループの名前を指定します。

groupScope

指定されたグループのスコープを指定します。このオプションの有効な値は、以下のとおりです。

グローバル

グループはグローバル グループで、エンタープライズ マネージャで作成されます。グループは、ドメイン マネージャに複製される可能性があります。

ローカル

CADSMCMD が接続しているドメイン マネージャで作成されたローカル グループを指定します。

「groupScope」が指定されていない場合、CADSMCMD では、最初にグループをローカル グループとして検索します。検索に失敗すると、次に、グループをグローバル グループとして検索します。

例

グループ「sg_1」のメンバーのリストを取得するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd servergroup action=listMem name=sg_1
```

以下の出力リストが得られます。

```
-----  
Members of server group "sg_1" (local)  
-----
```

```
server01 (server01)  
server02 (server02)
```

listMembership—サーバグループのメンバシップのリスト

このアクションを使用すると、グループがサブグループとして含まれるグループを一覧表示できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
servergroup action=listMembership  
             name=groupname  
             [groupScope={global | local}]
```


name

メンバシップがリストされるサーバグループの名前を指定します。

groupScope

指定されたグループの範囲を指定します。このオプションの有効な値は、以下のとおりです。

グローバル

グループはグローバルグループで、エンタープライズマネージャで作成されます。グループは、ドメインマネージャに複製される可能性があります。

ローカル

CADSMCMD が接続しているドメインマネージャで作成されたローカルグループを指定します。

「groupScope」が指定されていない場合、CADSMCMD では、最初にグループをローカルグループとして検索します。検索に失敗すると、次に、グループをグローバルグループとして検索します。

例

servergroup のリストを受信するには、以下のコマンドを入力する必要があります。

```
cadsmcmd servergroup action=listMembership name=sg_2
```

以下の情報が表示されます。

```
-----
"sg_2" is member of the following Groups
-----
```

```
sg_1 (2006-08-28 09:57)
```

```
sg_x (2006-08-28 10:56)
```

remove—サーバのサーバグループからの除去

このアクションを使用すると、サーバをサーバグループから除去できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
servergroup action=remove
  name=groupname
  {{{server=server_name |
    qserver=(server_name sep domain_name)}}}
  [sep=separator_sign]
```

name

1 人以上のメンバが除去されるサーバ グループの名前を指定します。

qserver

サーバ名およびそのサーバが所属するドメイン名を対にして、サーバを指定します。デフォルトでは、名前はドット（「.」）で区切られますが、**sep** オプションを使用すると、代替の区切りを指定することもできます。名前の一部として区切りを使用しないでください。

このサーバが除去されます。

sep

qserver オプションで使用する代替の区切りを指定します。**qserver** オプションと共にコーディングする場合、区切りを名前的一部分としないでください。

サーバ

グループから除去するサーバの名前を指定します。

このパラメータは、1 台以上のサーバをグループから除去するために、1 回以上記述することができます。

注：グループから除去するサーバの名前がはっきりしない場合、**qserver** オプションを使用してサーバを除去してください。**qserver** オプションを使用しない場合には、予測できない結果になることがあります。

例

サーバ **server01** および **server02** をグループ **sg_1** から除去するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd servergroup action=remove name=sg_1 server=server01 server=server02
```

階層管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[addSubgroups—サーバグループへのサブグループの追加](#) (P. 315)

[listSubgroups—サーバグループのサブグループのリスト](#) (P. 316)

[removeSubgroups—サブグループのサーバグループからの除去](#) (P. 317)

addSubgroups—サーバグループへのサブグループの追加

このアクションを使用すると、サブグループをサーバグループに追加できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
servergroup action=addSubgroups  
  [name=groupname]  
  {servgrp=groupname}
```

name

servgrp によって指定されるサーバグループが追加されるサーバグループの名前です。

このパラメータが記述されていない場合、サブグループはコンテナ「Scalability Server Groups」にコピーされます。

servgrp

追加する既存のサーバグループの名前を指定します。

このパラメータは、サーバのリストを追加するために、1 回以上記述することができます。

例

「LA admin」および「LA sales」という名前のサーバグループを、サーバグループ「LA District」にサブグループとして追加する必要があるとします。

以下のコマンドによって、これらのグループがサブグループとして、スーパーグループ「LA District」に割り当てられます。

```
cadsmcmd servergroup action=addSubgroups name="LA District" servgrp="LA admin"  
servgrp="LA sales"
```

なお、グループ「LA admin」および「LA sales」は、コマンドの呼び出し時に定義する必要があります。定義しないと、サブグループがないというエラーが報告されます。

listSubgroups—サーバグループのサブグループのリスト

このアクションを使用すると、サーバグループのサブグループを一覧表示できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
servergroup action=listSubgroups
  [name=groupname]
  [groupScope={global | local}]
```

name

サブグループがリストされるサーバグループの名前を指定します。

このパラメータが記述されていない場合、コンテナのサーバグループ「Scalability Server Groups」がリストされます。

groupScope

指定されたグループのスコープを指定します。このオプションの有効な値は、以下のとおりです。

グローバル

グループはグローバルグループで、エンタープライズマネージャで作成されます。グループは、ドメインマネージャに複製される可能性があります。

ローカル

CADSMCMD が接続しているドメインマネージャで作成されたローカルグループを指定します。

「groupScope」が指定されていない場合、CADSMCMD では、最初にグループをローカルグループとして検索します。検索に失敗すると、次に、グループをグローバルグループとして検索します。

出力リストのフォーマットは、以下のとおりです。

```
-----
サーバグループ「groupname」のサブグループのリスト
-----
```

```
subgroupname
subgroupname
...
```

例

サーバグループ「LA District」に関連するすべてのサブグループをリストするには、以下のように記述します。

```
cadsmcmd servergroup action=listSubgroups name="LA District"
```

removeSubgroups—サブグループのサーバグループからの除去

このアクションを使用すると、サブグループをサーバグループから除去できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
servergroup action=removeSubgroups  
  [name=groupname]  
  {servgrp=groupname}
```

name

servgrp によって指定されるサーバグループが除去されるサーバグループの名前を指定します。

このパラメータが記述されていない場合、サブグループはコンテナ「Scalability Server Groups」から除去されます。

servgrp

除去する既存のサーバグループの名前を指定します。

このパラメータは、サーバグループのリストを除去するために、1回以上記述することができます。

注：「除去」とは、**servgrp** パラメータのサーバグループが削除されることを意味しません。**name** パラメータで指定されるスーパーグループからリンク解除されるだけです。

注：サーバグループ **A** にサーバグループ **B** が含まれ、**B** がほかのサーバグループまたはコンテナ「Scalability Server Groups」に含まれていない場合、**B** を **A** から除去しようとするエラーが発生します。これらの包含の少なくとも1つが残されている必要があります。

例

「LA admin」および「LA sales」という名前のサーバグループを、サーバグループ「LA District」から再び除去する必要があるとします。

以下のコマンドによって、これらのグループがサブグループとして、スーパーグループ「LA District」から除去されます。

```
cadsmcmd servergroup action=removeSubgroups name="LA District" servgrp="LA admin"
servgrp="LA sales"
```

グループ「LA admin」および「LA sales」は、このコマンドではデータベースから削除されません。グループ「LA District」から除去されるだけです。そのほかの包含関係および以前に表示された包含関係は、まだ存在します。

解除される包含関係が、除去されるサブグループの1つに対して唯一のものである場合、このコマンドによってエラーが報告されます。たとえば、「LA admin」は、「LA District」のサブグループとしてのみ指定されますが、ほかのサブグループは、フォルダ [スケーラビリティ サーバグループ] またはほかのグループでも指定されます。

stagingserver—スケーラビリティ サーバ コマンド

スケーラビリティ サーバは、以前のリリースでは「ステージング サーバ」と呼ばれていました。このサーバは、SD ネットワークで使用され、アタッチしているターゲット コンピュータにインストールするためにソフトウェアを提供し、ドメイン マネージャと関連するターゲット コンピュータとの間の通信リンクを最適化します。スケーラビリティ サーバは、常に一意のドメイン マネージャにアタッチされています。

コマンド `stagingserver` は、ドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[activateStageCheck—ステージ確認プログラムの起動](#) (P. 319)

[addItem—スケーラビリティ サーバへの項目の追加](#) (P. 319)

[list—スケーラビリティ サーバの一覧表示](#) (P. 321)

[例](#) (P. 322)

[listComp—スケーラビリティ サーバに割り当てられたコンピュータのリスト](#) (P. 323)

[listItem—スケーラビリティ サーバのすべての項目](#) (P. 323)

[removeItem—ステージング ライブラリからの項目の除去](#) (P. 324)

activateStageCheck—ステージ確認プログラムの起動

このアクションは、保留オーダーの確認を開始するステージ確認プログラムを起動します。

このアクションは完了を待ちません。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
stagingserver action=activatestagecheck  
computer=name
```

computer

ステージ確認プログラムが起動されるコンピュータの名前を指定します。

addItem—スケーラビリティ サーバへの項目の追加

このアクションを実行すると、項目が複数のステージング ライブラリに追加されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
stagingserver action=additem  
item=item_name  
version=item_version  
{ {computer=computer_name} | {compgrp=computer_group_name} }  
[cname=name]  
[atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]  
[timeout=hours]  
[{nolinkage | transaction | synchronized } ]  
[jcPriority={1,...,10}]
```

attime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される
日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

cname

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの一意の
名前（オプション）を指定します。

指定された名前のジョブ コンテナ / 配布がすでに存在する場合、エ
ラーが報告されます。

「cname」がコーディングされていない場合、一般的な名前が生成さ
れます。

compgrp

項目の配信先のスケラビリティ サーバのサーバ グループの名前を
指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。いくつかの
サーバ グループをまとめて指定するために、

このパラメータは、**computer** パラメータと一緒にコーディングしない
でください。

computer

項目の配信先のスケラビリティ サーバの名前を指定します。

いくつかのスケラビリティ サーバをまとめて指定するために、パラ
メータを 1 回以上コーディングすることができます。

このパラメータは、**compgrp** パラメータと一緒にコーディングしない
でください。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前指定します。

jcPriority

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの優先度。

優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。

指定されていない場合は、優先度 5 と見なされます。

nolinkage

コンテナ内のほかのジョブに影響されることなくジョブを実行します。

synchronized

ジョブ リンク オプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

timeout

保留中のインストールがキャンセルされる **timeout** には、ジョブの失効期間が「h」の形式で指定されます。ここで、h は時間数です。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

timeout は **jobTimeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**168** がデフォルトで設定されます。

transaction

ジョブ リンク オプションが「バッチ ジョブの実行」に設定されます。

version

追加する項目のバージョンを指定します。

list—スケーラビリティ サーバの一覧表示

すべてのスケーラビリティ サーバのリストが表示されます。追加フィルタを指定して、フィルタ条件を満たすスケーラビリティ サーバのみにリストを制限することができます。フィルタが指定されていない場合、製品の全リストが表示されます。フィルタは **100** バイトに制限されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
stagingserver action=list
  [{filter="filter"
   | filterfile=file_name}]
```

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式.

また、「**targetcomputer list**」アクションによって表示される属性を使用することもできます。

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

例

すべてのサーバ グループのステージング サーバのリストを生成するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd stagingserver action=list
```

コマンドは、以下の形式で **stdout**（標準出力）に出力リストを提供します。

ステージング サーバのリスト

```
Test01mc  
Test02mc  
wwwH01
```

コンピュータの合計数： 3
検出されたステージング サーバの数： 3
表示されたステージング サーバの数： 3
SDCMD<A000000>: OK

フィルタを使用して、「Test」で始まるすべてのサーバグループのステージングサーバのリストを生成するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd stagingserver action=list filter="computer name=Test*"
```

stdout への出力は以下のとおりです。

ステージング サーバのリスト

Test01mc

Test02mc

コンピュータの合計数： 3

検出されたステージング サーバの数： 3

表示されたステージング サーバの数： 2

SDCMD<A0000000>: OK

listComp—スケーラビリティ サーバに割り当てられたコンピュータのリスト

このアクションを実行すると、指定したスケーラビリティ サーバに割り当てられたすべてのコンピュータが一覧表示されます。リストには、コンピュータの名前のみが含まれます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
stagingserver action=listcomp  
name=staging_server_name
```

name

割り当てられたコンピュータがリストされるスケーラビリティ サーバの名前を指定します。

listItem—スケーラビリティ サーバのすべての項目

このアクションを実行すると、指定されたスケーラビリティ サーバで利用できる項目が表示されます。リストには、項目名とバージョンが表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
stagingserver action=listitem  
name=staging_server_name
```

name

関連する項目が表示されるスケーラビリティ サーバの名前を指定します。

removeItem—ステージング ライブラリからの項目の除去

このアクションを実行すると、複数のステージング ライブラリから項目が除去されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
stagingserver action=removeitem
  item=item_name
  version=item_version
  { { computer=computer_name }
    | { compgrp=computer_group_name } }
  [cname=name]
  [{nolinkage | transaction | synchronized } ]
  [atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [ timeout=hours]
  [jcPriority={1,...,10}]
```

attime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

cname

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの一意の名前（オプション）を指定します。

指定された名前のジョブ コンテナ / 配布がすでに存在する場合、エラーが報告されます。

「cname」がコーディングされていない場合、一般的な名前が生成されます。

compgrp

項目を除去するスケーラビリティ サーバのサーバ グループの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。いくつかのサーバ グループをまとめて指定するために、

このパラメータは、**computer** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

computer

保留中のインストールがキャンセルされる スケーラビリティ サーバの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。いくつかのスケラビリティ サーバをまとめて指定するために、

このパラメータは、**compgrp** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

jcPriority

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの優先度。

優先度は数値で指定し、その値は **1** 以上 **10** 以下である必要があります。

指定されていない場合は、優先度 **5** と見なされます。

nolinkage

コンテナ内のほかのジョブに影響されることなくジョブを実行します。

synchronized

ジョブ リンク オプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

timeout

保留中のインストールがキャンセルされる **timeout** には、ジョブの失効期間が「**h**」の形式で指定されます。ここで、**h** は時間数です。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

timeout は **jobTimeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**168** がデフォルトで設定されます。

transaction

ジョブ リンク オプションが「バッチ ジョブの実行」に設定されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョンを指定します。

注：「synchronized」または「transaction」のどちらも記述されていない場合、「nolinkage」タイプのジョブ コンテナが作成されます。

swlibrary—ソフトウェア ライブラリ コマンド

本章のすべてのメソッドは、特に指示がない限り、エンタープライズおよびドメインマネージャで提供されます。

ソフトウェア パッケージ ライブラリ (swlibrary) では、すべてのソフトウェア、およびエンタープライズマネージャとドメインマネージャが処理するソフトウェアとプロシージャのグループが管理されます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[一般的なソフトウェア グループ管理](#) (P. 326)

[ソフトウェア グループ管理](#) (P. 381)

[カタログ グループ管理](#) (P. 392)

[プロシージャ グループ管理](#) (P. 396)

[製品の管理](#) (P. 402)

一般的なソフトウェア グループ管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[assignGroupToTarget — グループのターゲットへの割り当て](#) (P. 327)

[createGroup—グループの作成](#) (P. 358)

[deleteGroup—ソフトウェアまたはプロシージャ グループの削除](#) (P. 362)

[deliverGroupToStage—ソフトウェア グループの項目のスケラビリティ サーバへの配信](#) (P. 363)

[listGroups—グループのリスト](#) (P. 371)

[listMembership—メンバシップの一覧表示](#) (P. 373)

[modifyGroup—ソフトウェアグループまたはプロシージャ グループの属性の変更](#) (P. 374)

[undeliverGroupFromStage—ソフトウェア グループの項目のスケラビリティ サーバからの配信の取り消し](#) (P. 375)

assignGroupToTarget – グループのターゲットへの割り当て

このアクションを使用すると、ソフトウェア グループまたはプロシージャ グループを（ソフトウェア テンプレートを含む）ターゲット コンピュータまたはコンピュータ グループに割り当てることができます。 ソフトウェア グループにサブグループが含まれる場合、それらのサブグループも再帰的に割り当てに参加します。

ほかの情報に加えて、使用されているジョブ コンテナまたは配信の名前が標準出力に出力されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=assignGroupToTarget name=group_name
  {{computer=computer_name} |
  {compgrp=computer_group_name | ccompgrp=(computer_group_name sep groupScope)}}
  [sep=separator_sign]
  | {swTemplates=software_template_name}}
  cname=[name]
  [dname=distribution_name]
  [unsealed]
  [{nolinkage|transaction[rollback]|synchronized}[nocascade]]
  [deliveryTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  after={exacttime|boottime}
  [calendarname=delivery_calendar]
  [preaction={none|reboot|logoff}]
  [postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}]
  [promptUser[={y|n}]]
  [allowCancel[={y|n}]]
  [execTimedOut[={y|n}]]
  [prompt=days.hours]
  [offline[={y|n}]]
  [runAtShutdown[={y|n}]]
  [preventLogon[={y|n}]]
  [globalTime]
  [nocalendar]
  [resolveQuery]
  [parameters=user_parameters]
  [repeat={y|n}]
  [stagingserver]
  [jobTimeout=d.h]
  [procedures=procedures_file]
```

```
[{{area=area_name} | {domain=domain_name} | toAllAreas}}  
[sendTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]  
[haltTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]  
[jcPriority={1,...,10}]  
[distPriority={1,...,10}]  
[reinstall[={y|n}]]
```

after

ターゲットシステムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「allowCancel」または「allowCancel =y」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「allowCancel =n」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

promptUser がこの呼び出しによって設定されていないか、すでに有効になっていない場合、このパラメータは無視されます。警告は表示されません。

area

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。 **Client Automation** ドメインのリストを指定するために、

このパラメータが記述されている場合、配信は封印され、コマンドが正常に実行された後で、自動的に宛先へ送信されます。

area、domain、または toAllAreas パラメータのいずれも記述されていない場合、配信は封印解除されたままで、操作が可能です。

このパラメータは、domain または toAllAreas パラメータと一緒にコーディングしないでください。

(エンタープライズ マネージャのみ)

atTime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

ccompgrp

グループ名およびスコープのペアとして指定されるコンピュータグループを指定します。デフォルトでは、名前とスコープはドット（「.」）で区切られていますが、「sep」オプションを使用して代替の区切りを指定することができます。名前の一部として区切りを使用しないでください。

グループ スコープのみの場合、有効な値は以下のとおりです。

ローカル

グループはローカル ドメイン マネージャで作成されます。

global

グループはエンタープライズ マネージャで作成され、複製される可能性があります。

「ccompgrp」は、1 回の呼び出しで「compgrp」とともにコーディングできます。

cname

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの一意の名前（オブション）。

cname パラメータが指定されていない場合、名前が内部で生成され、コマンドライン インターフェイスで識別子が返されます。

生成されたジョブがこれに割り当てられます。

このジョブ コンテナが存在しない場合は、作成されます。

存在する場合は、コンテナが封印解除されると、生成されたジョブが追加されます。

封印解除された場合は、**cadsmcmd** がエラーとなって終了します。

compgrp

アドレス指定するコンピュータ グループを指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。複数のコンピュータ グループをまとめて指定するために、

このパラメータは、**computer** または **swTemplates** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

computer

アドレス指定するコンピュータの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。複数のコンピュータをまとめて指定するために、

このパラメータは、**compgrp** または **swTemplates** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

(ドメイン マネージャのみ)

deliveryTime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメイン マネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

distPriority

保留中のインストールがキャンセルされる 配信に割り当てられる優先度。

優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。指定されていない場合は、優先度 5 と見なされます。

dname

保留中のインストールがキャンセルされる **name of the distribution** を指定します。

配信がすでに存在する場合は、この配信が使用されます。ただし、操作できるように開いている場合に使用され、開いていない場合は、エラーメッセージが起動されます。配信が存在しない場合は、作成されます。

パラメータが記述されていない場合は、デフォルトの名前の配信が生成されます。

(エンタープライズ マネージャのみ)

domain

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイングループの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。 **Client Automation** ドメイングループをいくつかまとめて指定するために、

このパラメータが記述されている場合、配信は封印され、コマンドが正常に実行された後で、自動的に宛先へ送信されます。

area、**domain**、または **toAllAreas** パラメータのいずれも記述されていない場合、配信は封印解除されたままで、操作が可能です。

このパラメータは、**area** または **toAllAreas** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

(エンタープライズ マネージャのみ)

execTimedOut

「execTimedOut」または「execTimedOut=y」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「execTimedOut=n」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

promptUser がこの呼び出しによって設定されていないか、すでに有効になっていない場合、このパラメータは無視されます。警告は表示されません。

globalTime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「globalTime=n」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。(デフォルト)

haltTime

保留中のインストールがキャンセルされる 配信注文が停止する必要がある日時です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。

停止された配信の再開の詳細については、**resume** コマンドを参照してください。

jcPriority

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの優先度.
優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。
パラメータを指定しない場合には、優先度は変更されません。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「**d.h**」の形式で指定されます。**d** には日数、**h** には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。 どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**7.0** がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる グループの名前. ソフトウェア グループの場合、グループのメンバがターゲット サイトにインストールされます。

ターゲットで実行するメンバのプロシージャを **procedures** オプションで指定して設定できます。オプションがコーディングされていない場合は、メンバのデフォルト インストール プロシージャが使用されます。

プロシージャ グループの場合、含まれるプロシージャがターゲット サイトで実行されます。

noCalendar

「**noCalendar**」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダが無視されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

noCascade

ジョブ リンク オプションが「カスケーディングを無視」に設定されます。

このパラメータは、「**transaction**」または「**synchronized**」をコーディングした場合にのみ認められます。

noLinkage

コンテナ内のほかのジョブに影響されることなくジョブを実行します。

offline

「offline」または「offline =y」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「offline =n」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロセスの完了の後にシステムを再起動します。

logout

プロセスの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoutAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロセスのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロセスの開始前にシステムを再起動します。

logout

プロセスの開始前にユーザをログオフします。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロセスのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

手順

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア グループを対象とするプロシージャを定義するファイルの名前かプロシージャ（ソフトウェアおよびプロシージャ グループ）に関する個々のジョブ オプションを定義するファイルの名前、またはその両方の名前。

このプロシージャ ファイルの内容は、[プロシージャ ファイル形式](#) (P. 341)で表示されます。

prompt=d.h

保留中のインストールがキャンセルされる ユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「*d.h*」です。*d* は日、*h* は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

reinstall

「reinstall」オプションは任意です。デフォルトは「reinstall=n」です。

「reinstall」または「reinstall=y」がコーディングされていると、ドメインマネージャによってジョブが評価される前にオーダーに関連付けられている可能なインストール レコードは削除されます。

「reinstall=n」がコーディングされている場合、レコードはそのまま残ります。

注：オプションはジョブのインストールにのみ適用されます。それ以外の場合は無視されます。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリ グループを評価します。

rollback

ジョブ リンク オプションを「トランザクションの有効化」に設定します。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロセスのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、Unix がターゲットの場合にのみ有効です。

sendtime

保留中のインストールがキャンセルされる 関連付けられた配信をアドレス指定されたドメイン マネージャに送信する時間です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。このパラメータが指定されていない場合、現在の日時が使用されます。

(エンタープライズ マネージャのみ)

sep

「ccompgroup」 オプションで使用する代替の区切りを指定します。区切りは **ccompgroup** オプションで指定したグループ名の一部には使用しないでください。

stagingServer

関連する製品もターゲット コンピュータのスケラビリティ サーバのステージング ライブラリに配信します。

このパラメータは、タスク タイプ「インストール」のプロシージャにのみ適用されます。

swTemplates

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。 .

このパラメータは 1 つ以上のソフトウェア テンプレートを指定する場合、1 回以上コーディングすることができます。

これがコーディングされていると、**cname** パラメータは無効となり、生成されるジョブはソフトウェア テンプレート以外どのジョブ コンテナにも割り当てられません。そのためには、リストのソフトウェア テンプレートを封印しないようにする必要があります。

このパラメータは、**computer** または **compgrp** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

synchronized

ジョブ リンク オプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

toAllAreas

コーディングすると、関連する配信がエンタープライズ マネージャに登録されたすべての **Client Automation** ドメインに送信されます。

「toAllAreas」は、「area」または「domain」パラメータと一緒にコーディングしないでください。

area、**domain**、または **toAllAreas** パラメータのいずれも記述されていない場合、配信は封印解除されたままで、操作が可能です。

(エンタープライズ マネージャのみ)

transaction

ジョブ リンク オプションが「バッチ ジョブの実行」に設定されます。

これはデフォルトです。

unsealed

対象のジョブが正常に作成された後も、アドレス指定されたジョブ コンテナが封印解除されたままになります。

(ドメイン マネージャのみ)

注：

area、domain、または toAllAreas のいずれも記述されていない場合、配信コンテナは封印が解除されたままであるため、さらに操作することもできます。

「allowCancel」、「execTimedOut」、「prompt」の各パラメータは、「promptUser」オプションがすでに設定されているか、またはこのコマンドの「promptUser」パラメータで設定される場合に有効になります。
ジョブの「promptUser」オプションもコマンドの「promptUser」パラメータも設定されていない場合は、いずれのパラメータも無視されます。
警告は表示されません。

プロシージャのファイル形式

プロシージャ ファイルの内容には、以下の構文のエントリが含まれています。

```
item = item
version = version
procedure = procedure
task={install|configure|activate|uninstall}
[deliverytime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
[attime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
[after={exacttime|boottime}]
[calendarname=deliverycalendar]
[preaction={none|reboot|logoff}]
[postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd}]
[promptUser={y|n}]
[allowCancel={y|n}]
[execTimedOut={y|n}]
```

```
[prompt=days.hours]  
[offline={y|n}]  
[RunAtShutdown={y|n}]  
[PreventLogon={y|n}]  
[GlobalTime={y|n}]  
[nocalendar={y|n}]  
[ResolveQuery={y|n}]  
[Parameters=userparameter]  
[stagingserver={y|n}]  
[JobTimeout=d.h]
```

item

このエントリが関連付けられているグループ項目の名前

version

このエントリが関連付けられているグループ項目のバージョン

procedure

実行する項目プロシージャを指定します

task

プロシージャ タイプを指定します。

有効なタイプは以下のとおりです。

install

プロシージャで項目をインストールします。

configure

プロシージャで項目を設定します

activate

プロシージャで項目を起動します。

uninstall

プロシージャで項目をアンインストールします。

このパラメータをコーディングしないと、**install** を指定したものとみなされます。

「**item**」、「**version**」、「**procedure**」、および「**task**」の各パラメータは、各行で最初のパラメータとしてコーディングする必要があります。また、**cadsmcmd swlibrary action=assigngrouptotarget shown** の構文定義のとおり順序でコーディングする必要があります。その他のパラメータは、任意の順序でコーディングできます。

その他のパラメータの意味は、**cadsmcmd swlibrary action=assigngrouptotarget** で表示されるコマンドパラメータの意味に対応しています。

ジョブ プロシージャのプロシージャ オプションは、このリストの設定から取得されます。

プロシージャに対して、関連するリストのエントリでオプションがコーディングされていない場合、コマンド レイヤの設定から取得されます。

そこでコーディングされていない場合、登録されているプロシージャ オプションから取得されます。

例

コマンドで指定された属性は、生成されるすべてのジョブのデフォルトとなります。プロシージャ グループの場合、ソフトウェア グループでどのプロシージャが実行されるかについては明確ですが、これは確定していません。ソフトウェア グループ製品のデフォルトとして、そのジョブに対する製品のデフォルト インストール ルーチンがコマンドによって選択されます。これらのデフォルトはすべて、「**procedures**」ファイルで追加指定することにより上書きできます。

「**procedures**」ファイルが指定されているとします。プロシージャ グループの各エントリについて、プロシージャまたは製品が指定の「**procedures**」ファイルにあるかどうかを確認されます。指定がない場合、コマンドのデフォルトを使用してジョブが生成されます。指定された場合は、最初に一致する「**procedures**」ファイルのエントリ指定によってデフォルトが上書きされ、これらの変更された属性を使用してジョブが生成されます。ジョブは、グループ内でソートされているプロシージャの順番で生成されます。

たとえば、ドメイン マネージャの場合は、以下のようなプロシージャ グループおよびコマンドを想定します。

```
pg :
.....プロシージャ : .....configure_001
.....製品.....test_001
.....バージョン.....1.0
.....プロシージャ : .....activate_002
.....製品.....test_002
.....バージョン.....1.1

cadsmcmd swlibrary action=assignGroupToTarget name=pg computer=tar01
after=exacttime promptUser allowCancel Parameters="-xon xf -rs"
procedures=c:¥temp¥procFile.txt
```

さらに進んで、c:¥temp¥procFile.txt に以下の内容が含まれていると想定します。

```
Item=test_002 version=1.1 procedure=activate_002 task=activate after=boottime
allowCancel=n GlobalTime=y Parameters=""
```

2 つのジョブが生成されます。最初のジョブは configure_001 に対するジョブで、コマンドの属性、つまり、after=exacttime, promptUser, cancelAllow および Parameters="-xon xf -rs" は、デフォルトとして使用されます。2 番目のジョブは activate_002 に対して生成され、この場合はコマンドからのデフォルトも使用されます。ただし、デフォルトの一部は、関連する「procedures」ファイルのエントリによって上書きされます。この結果、ジョブの属性は after=boottime、promptUser および GlobalTime となり、allowCancel は設定されず Parameters は空になります。

ソフトウェア グループの場合、製品が「procedures」ファイルのエントリに一致するときのみ確認されます。検出された最初のエントリが使用されます。一致しているエントリで指定されたプロシージャおよび指定されたパラメータによりデフォルトが上書きされ、これらの変更された属性を使用してジョブが生成されます。

たとえば、ドメイン マネージャの場合、以下のようなソフトウェア グループおよびコマンドになります。

```
swg :
.....製品 : .....test_011
.....バージョン.....2.1
.....デフォルト インストール プロシージャ.....inst_011
.....製品 : .....test_012
.....バージョン.....2.2
.....デフォルト インストール プロシージャ.....inst_012

cadsmcmd swlibrary action=assignGroupToTarget name=swg computer=tar01
after=exacttime promptUser allowCancel Parameters="-xon xf -rs" preaction=logoff
procedures=c:¥temp¥procFile.txt
```


さらに進んで、`c:\temp\procFile.txt` に以下の内容が含まれていると想定します。

```
Item=test_012 version=2.2 procedure=activate_012 task=activate after=boottime
allowCancel=n GlobalTime=y Parameters="-cleanUp"
```

```
Item=test_011 version=2.0 procedure=activate_011 task=activate allowCancel=n
GlobalTime=y Parameters="-format"
```

2つのジョブが生成されます。最初のジョブは、バージョン 2.1 の製品 **test_011** 製品およびデフォルトプロシージャ **inst_011** を使用するインストール ジョブ用です。ジョブは、「プロシージャ」ファイルに一致するエントリがないため、たとえば製品 **test_011** がファイル内で参照されていても別のバージョンであるため、ジョブはコマンドのデフォルト設定を使用して生成されます。したがって、ジョブは属性 **after=exacttime**, **promptUser**, **allowCancel** および **Parameters="-xon xf -rs"** を使用して生成されます。

2 番目のジョブはバージョン 2.2 の製品 **test_012** に対して生成されます。ここでは「**procedures**」ファイルの中に一致するエントリがあるため、コマンドはエントリの属性で更新され、そのコマンドによりデフォルトが指定されます。作成されたジョブは起動プロシージャ **activate_012** で使用され、属性は **after=boottime**, **promptUser**, **GlobalTime**, **preaction=logoff** および **Parameters="-cleanUp"** となりますが、**allowCancel** は設定されません。

ソフトウェア グループは階層構造を持つ、つまり、ソフトウェア グループに別のソフトウェア グループまたはプロシージャ グループが含まれている場合があります。コマンドは、再帰的に動作します。つまり、コマンドによりサブグループが評価され、そのエントリに対してジョブが生成されます。階層グループ構造を使用すると、ユーザは、この階層の中では製品およびプロシージャが一意であることを考慮する必要があります。たとえば、以下の構造について検討します。

```
swg : (ソフトウェア グループ)
.....製品 : .....test_001
.....バージョン.....2.1
.....デフォルト インストール プロシージャ.....inst_001
.....製品 : .....test_022
.....バージョン.....1.1/00
.....デフォルト インストール プロシージャ.....inst_022
swg_1 : (ソフトウェア グループ)
.....製品.....test_010
.....バージョン.....1.0
.....デフォルト インストール プロシージャ.....inst_010
.....製品 : .....test_001
.....バージョン.....2.1
.....デフォルト インストール プロシージャ.....inst_001
```

```
pg_11: (プロシージャ グループ)
.....プロシージャ: .....configure_001
.....製品.....test_001
.....バージョン.....2.1
.....プロシージャ: .....activate_022
.....製品.....test_022
.....バージョン.....1.1/00
pg_1: (プロシージャ グループ)
.....プロシージャ: .....configure_022
.....製品.....test_022
.....バージョン.....1.1/00
.....プロシージャ: .....activate_022
.....製品.....test_022
.....バージョン.....1.1/00
```

このグループに対してコマンドを起動すると、警告が表示されて一部の製品およびプロシージャが無視されます。このコマンドでは、**swg_1** 内のバージョン **2.1** の製品 **test_001** はすでに **swg** で指定されているため保持され、同様に **pg_11** の **1.1/00** の製品 **test_022** のプロシージャ **activate_022** はすでに **pg_1** で指定されているため保持されます。「プロシージャ」ファイルがコマンドによってコーディングされている場合、エントリが一致するかどうか最初にプロシージャ グループが検査されます。すべて完了した後、階層のソフトウェア グループが「**procedure**」ファイルの残りのエントリ、つまり、プロシージャ グループ内ですでに使用されていないエントリに対して確認されます。

たとえば、前述の **swg** 構造およびドメイン マネージャ上の以下のコマンドについて検討します。

```
cadsmcmd swlibrary action=assignGroupToTarget name=swg computer=tar01
after=exacttime promptUser allowCancel Parameters="-xon xf -rs"
procedures=c:¥temp¥procFile.txt
```

さらに進んで、c:\temp\procFile.txt に以下の内容が含まれていると想定します。

```
Item=test_001 version=2.1 procedure=configure_001 task=configure allowCancel=n  
Parameters="-init" preaction=reboot
```

```
Item=test_001 version=2.1 procedure=install_min task=install allowCancel=n  
Parameters="-x -y -z" preaction=logoff postaction=reboot
```

```
Item=test_022 version=1.1/00 procedure=configure_022 task=configure  
preaction=logoff Repeat noCalendar
```

```
Item=test_022 version=1.1/00 procedure=activate_022 task=activate preaction=logoff  
Repeat noCalendar
```

これは、以下の属性をもつジョブを生成します。

```
test_001 2.1: install_min  
task=install  
after=exacttime  
promptUser  
Parameters="-x -y -z"  
preaction=logoff  
postaction=reboot  
test_022 1.0/00:inst_002  
task=install  
after=exacttime  
promptUser  
allowCancel  
Parameters="-xon xf -rs"  
test_022 1.0/00:configure_022  
task=configure  
after=exacttime  
preaction=logoff  
promptUser  
allowCancel  
Repeat  
noCalendar
```

```
Parameters="-xon xf -rs"
test_022 1.0/00:activate_022
task=activate
after=exacttime
preaction=logoff
promptUser
allowCancel
Repeat
noCalendar
Parameters="-xon xf -rs"
test_010 1.0:inst_010
task=install
after=exacttime
promptUser
allowCancel
Parameters="-xon xf -rs"
test_001 1.0/00:configure_001
task=configure
after=exacttime
promptUser
Parameters="-init"
preaction=reboot
```

swg_1 のバージョン 2.1 の test_001 と、および in pg_11 のバージョン 1.1/00 の test_022 の activate_022 は無視されます。

プロシージャ ファイルのエントリは、以下の形式になります。

```
item=item

version=version

procedure=procedure task={install|configure|activate|uninstall}
[deliverytime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
[attime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
[after={exacttime|boottime}] [calendarname=deliverycalendar]
[preaction={none|reboot|logoff}]
[postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd}]
[promptUser={y|n}]
[allowCancel={y|n}]
[execTimedOut={y|n}]
[prompt=days.hours]
[offline={y|n}]
[RunAtShutdown={y|n}]
[PreventLogon={y|n}]
[GlobalTime={y|n}]
[nocalendar={y|n}]
[ResolveQuery={y|n}]
```

```
[Parameters=userparameter]  
[repeat={y|n}]  
[stagingserver={y|n}]  
[JobTimeout=d.h]
```

item

このエントリが関連付けられているグループ項目の名前

version

このエントリが関連付けられているグループ項目のバージョン

procedure

実行する項目プロシージャを指定します

task

プロシージャ タイプを指定します。有効なタイプは以下のとおりです。

install

プロシージャで項目をインストールします。

configure

プロシージャで項目を設定します。

activate

プロシージャで項目を起動します。

uninstall

プロシージャで項目をアンインストールします。

このパラメータをコーディングしないと、**install** を指定したものとみなされます。

item、version、procedure、task の各パラメータは、各行の最初のパラメータとしてコーディングする必要があります。また、上記の構文定義に示したのと同じ順序でコーディングする必要があります。その他のパラメータは、任意の順序でコーディングできます。

他のパラメータの意味は、前述のコマンドパラメータに対応しています。y をコーディングするとパラメータが設定され、そうでない場合は設定されません。設定されなかったパラメータについては、それぞれのコマンドのパラメータ設定からデフォルトが取得されます。

グループ q_grp で指定されるターゲットに配信する必要があるソフトウェアグループ swg_1 について検討します。swg_1 には以下の内容および構造があります。

```
cadsmcmd swlibrary action=listswg name=swg_1
```

```
CA IT Client Manager r12
```

```
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
```

```
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード: オフ
```

```
マネージャ "default manager" にユーザ "<default user>" として接続しています...OK。
```

```
マネージャ: mymanager
```

```
ドメイン: mydomain
```

```
ドメイン タイプ: Domain
```

```
サポート: CO CCNF USD OSIM AM
```

```
-----  
プロセス グループ "swg_1" のメンバをリストします"  
-----
```

```
InstallActivateConfigureUninstall 1 <Generic>, <Regular>, 3(0), schbe05,
```

```
ユーザ パラメータとして返される必要のある終了コードを渡します。
```

```
TransferComplexDirectoryStructure 1 <Generic>, <Regular>, 329(0), QA Mch schir03,  
複雑なディレクトリ構造の SD Package です。
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

使用されるジョブ コンテナの要件は以下のとおりであると想定します。

- ジョブは順番どおりに実行されます。1 つでもジョブが失敗すると、それ以上は実行されません。すでに実行済みのジョブは、ロールバックされます。
- 依存関係を解決し、インストールカスケードを作成する必要があります。

すべてのジョブに対して生成されるデフォルトは、以下のとおりです。

- 配信時間は 2005-06-30 1:00 pm です。
- ターゲットでの処理の開始時間は 2005-07-05 01:00 am です。タイムスタンプに達するとただちに処理を開始できます。
- ジョブが生成される前に、コンピュータ グループで可能なクエリが評価される必要があります。
- 残りの属性については、デフォルトが使用されます。
- 各ジョブの個々の属性は、プロシージャ ファイル「c:¥temp¥proc.usd」を使用して指定されます。

各ジョブおよび項目の個々の要件は、以下のとおりです。

- プロシージャ グループ pg_1 のプロシージャの場合
- tstbase の remdir および setdir では、インストール後に再起動が必要です。
- tstpk01 の inst では、これ以上の要件はありません。
- ソフトウェア グループ swg_1 の項目の場合
- tstbase は、インストール プロシージャ「inst」によってインストールされます。
- ログイン ユーザがログオフしてからインストールが開始されます。
- インストール中は、すべてのログオンが拒否されます。
- DMS エディタ は、デフォルト プロシージャ「Local Install」によってインストールされます。
- これ以上、個別の要件はありません。

関連するジョブを配信および実行するには、コマンド **assignGroupToTarget** を使用します。いくつかのジョブに個別要件があるため、そのような個々の要件を記述するにはプロシージャ ファイルが必要です。このプロシージャ ファイルの内容は、以下のとおりです。

```
item=tstbase version=1.0 procedure=remdir task=configure postaction=reboot
```

```
item=tstbase version=1.0 procedure=setdir task=configure postaction=reboot
```

```
item=tstbase version=1.0 procedure=inst task=install preaction=logoff preventLogon
```

以下のコマンドでは、デフォルト名のジョブ コンテナ作成、必要なジョブへの格納、および実行のためスケジュールを行います。

```
cadsmcmd swlibrary action=assignGroupToTarget name=swg_1 compgrp=q_grp transaction
rollback deliveryTime="2005-06-30 13:00" atTime="2005-07-05 01:00" after=exacttime
resolveQuery procedures=c:¥temp¥proc.usd
```

CA IT Client Manager r12

ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx

Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

q_grp [04/11/02 10:44:10.093] という名前のコンテナが作成されました。

グループ swg_1 の評価

グループ swg_1/pg_1 の評価

プロシージャ ファイル c:\temp\proc.usd の評価

ジョブ "tstbase 1.0:inst" を生成します: OK。

ジョブ "DMS Editor 6.01.0000:Local Install" を生成します: OK。

ジョブ "stbase 1.0:remdir" を生成します: OK。

ジョブ "tstbase 1.0:setdir" を生成します: OK。

ジョブ "tstkpk01 1.0:inst" を生成します: OK。

SDCMD<A000000>: OK

以下のコマンドによって、生成されたジョブ コンテナが表示されます。

cadsmcmd jobContainer action=showAttr name="q_grp [04/11/02 10:44:10.093]"

CA IT Client Manager r12

ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx

Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

ジョブ コンテナ「q_grp [04/11/02 10:44:10.093]」の属性の表示

ジョブ コンテナ名.....: q_grp [04/11/02 10:44:10.093]

ジョブ コンテナ プロパティ.....: 28

.....トランザクション

.....失敗した場合には以前のジョブにロールバックしま
す

.....カスケード インストール

封印済み.....: Yes

作成時間.....: 2005-04-11 10:45

変更時間.....: 2005-04-11 10:45

含まれているオブジェクトの数.....: 5


```
ジョブ コンテナ ステータス..... : 待機
.....3 - ジョブが待機しています
.....0 - ジョブがアクティブになっています
.....2 - ジョブは OK です
.....0 - ジョブが失敗しました

ジョブ名..... : tstbase 1.0:inst
..全体ステータス..... : WAITING
.....2 - ジョブ ターゲットが待機中です
.....0 - ジョブ ターゲットがアクティブです
.....0 - ジョブ ターゲットは OK です
.....0 - ジョブ ターゲットが失敗しました
..ジョブの順序番号..... : 0
..作成時間..... : 2005-06-30 13:00
..起動時間..... : 2005-07-05 01:00
..ステータス メッセージ..... : OK
..ターゲット..... : KKKKK01B
...タスク..... : install
...ジョブ ステータス..... : WAITING
...タスク..... : install
...開始時間..... : 2005-07-05 01:00
...完了時間..... : 2005-04-11 10:45
...作成時間..... : 2005-04-11 10:45
...送信済みデータ (パーセント) ..... :
..ステータス メッセージ..... : OK
...注文者..... : KKKKK01
...タイプ..... : 必須
...コメント..... :
..ターゲット..... : KKKKK01C
...タスク..... : install
...ジョブ ステータス..... : WAITING
...タスク..... : install
...開始時間..... : 2005-07-05 01:00
...完了時間..... : 2005-04-11 10:45
...作成時間..... : 2005-04-11 10:45
...送信済みデータ (パーセント) ..... :
```

```
..ステータス メッセージ..... : OK
...注文者..... : KKKKK01
...タイプ..... : 必須
...コメント..... :

ジョブ名..... : DMS Editor 6.01.0000 : ローカル インストール
..全体ステータス..... : WAITING
.....2 - ジョブ ターゲットが待機中です
.....0 - ジョブ ターゲットがアクティブです
.....0 - ジョブ ターゲットは OK です
.....0 - ジョブ ターゲットが失敗しました
..ジョブの順序番号..... : 1
..作成時間..... : 2005-06-30 13:00
..起動時間..... : 2005-07-05 01:00
..ステータス メッセージ..... : OK
..ターゲット..... : KKKKK01B
...タスク..... : install
...ジョブ ステータス..... : WAITING
...タスク..... : install
...開始時間..... : 2005-07-05 01:00
...完了時間..... : 2005-04-11 10:45
...作成時間..... : 2005-04-11 10:45
...送信済みデータ (パーセント) ..... :
..ステータス メッセージ..... : OK
...注文者..... : KKKKK01
...タイプ..... : 必須
...コメント..... :
..ターゲット..... : KKKKK01C
...タスク..... : install
...ジョブ ステータス..... : WAITING
...タスク..... : install
...開始時間..... : 2005-07-05 01:00
...完了時間..... : 2005-04-11 10:45
...作成時間..... : 2005-04-11 10:45
...送信済みデータ (パーセント) ..... :
..ステータス メッセージ..... : OK
...注文者..... : KKKKK01
...タイプ..... : 必須
...コメント..... :
```

```
ジョブ名.....: tstbase 1.0:remdir
..全体ステータス.....: 不明 (9)
.....0 - ジョブ ターゲットが待機中です
.....0 - ジョブ ターゲットがアクティブです
.....0 - ジョブ ターゲットは OK です
.....0 - ジョブ ターゲットが失敗しました
..ジョブの順序番号.....: 2
..作成時間.....: 2005-06-30 13:00
..起動時間.....: 2005-07-05 01:00
..ステータス メッセージ.....: ジョブのセットアップ警告です。 評価手順で
.....ターゲット インストールが見つかりませんでした。
```

```
ジョブ名.....: tstbase 1.0:setdir
..全体ステータス.....: 不明 (9)
.....0 - ジョブ ターゲットが待機中です
.....0 - ジョブ ターゲットがアクティブです
.....0 - ジョブ ターゲットは OK です
.....0 - ジョブ ターゲットが失敗しました
..ジョブの順序番号.....: 3
..作成時間.....: 2005-06-30 13:00
..起動時間.....: 2005-07-05 01:00
..ステータス メッセージ.....: ジョブのセットアップ警告です。 評価手順で
.....ターゲット インストールが見つかりませんでした。
```

```
ジョブ名.....: tstkpk01 1.0:inst
..全体ステータス.....: WAITING
.....2 - ジョブ ターゲットが待機中です
.....0 - ジョブ ターゲットがアクティブです
.....0 - ジョブ ターゲットは OK です
.....0 - ジョブ ターゲットが失敗しました
..ジョブの順序番号.....: 4
..作成時間.....: 2005-06-30 13:00
..起動時間.....: 2005-07-05 01:00
..ステータス メッセージ.....: OK
..ターゲット.....: KKKKK01B
...タスク.....: install
...ジョブ ステータス.....: WAITING
...タスク.....: install
...開始時間.....: 2005-07-05 01:00
...完了時間.....: 2005-04-11 10:45
...作成時間.....: 2005-04-11 10:45
...送信済みデータ (パーセント).....:
```

```
..ステータス メッセージ..... : OK
....注文者..... : KKKKK01
....タイプ..... : 必須
....コメント..... :
..ターゲット..... : KKKKK01C
....タスク..... : install
....ジョブ ステータス..... : WAITING
....タスク..... : install
....開始時間..... : 2005-07-05 01:00
....完了時間..... : 2005-04-11 10:45
....作成時間..... : 2005-04-11 10:45
....送信済みデータ (パーセント) ..... :
..ステータス メッセージ..... : OK
....注文者..... : KKKKK01
....タイプ..... : 必須
....コメント..... :
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

以下のコマンドを使用すると、このコンテナの特殊ジョブの属性を表示できます。

```
cadsmcmd jobContainer action=showAttrJobs name=" q_grp [04/11/02
10:44:10.093]"jobName=" tstbase 1.0:inst"
```

CA IT Client Manager r12

ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx

Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

コンテナ「tstbase 1.0:inst」に所属するジョブ「q_grp [04/11/02 10:44:10.093]」の属性の一覧

```
ジョブ名.....: tstbase 1.0:inst
ソフトウェア.....: tstbase 1.0
プロシージャ.....: inst
配信日時.....: 2005-06-30 13:00
起動日時.....: 2005-07-05 01:00
ステータス メッセージ.....: OK
全体ステータス.....: WAITING
.....2 - ジョブ ターゲットが待機中です
.....0 - ジョブ ターゲットがアクティブです
.....0 - ジョブ ターゲットは OK です
.....0 - ジョブ ターゲットが失敗しました
ジョブ タスク.....: install
プレアクション.....: ユーザのログオフ
ポストアクション.....: アクションなし
ユーザに知らせる.....: いいえ
特性フラグ.....:
.....ジョブ実行中はユーザのログオンを中止
.....ローカル時間/正確な時間
.....カレンダーが制御されています
.....クエリ グループの解決
配信カレンダー.....:
ユーザ パラメータ.....:
プロンプト期間.....: 1 Days, 0 Hours
ジョブ タイムアウト.....: 7 Days, 0 Hours
```

SDCMD<A0000000>: OK

createGroup—グループの作成

このアクションを使用すると、ソフトウェア グループまたはプロシージャ グループを作成できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=createGroup name=group_name  
  [superGroup=super_group_name]  
  [GroupType={SWG|PG}]  
  [comment=comment]
```

name

作成するグループの名前を指定します。

superGroup

新しいグループがサブグループとして作成されるスーパーグループの名前を指定します。スーパーグループは、ソフトウェア グループである必要があります。このパラメータが記述されていない場合、グループはトップ レベルで作成され、[Software Package Library] フォルダに配置されます。

GroupType

作成するグループのタイプを指定します。有効な値は以下のとおりです。

SWG

グループをソフトウェア グループとして定義します。これはデフォルトです。

PG

グループをプロシージャ グループとして定義します。

comment

グループに関するコメントです。

例：

「swg_1」という名前のソフトウェア グループを作成し、その後に「pg_1」という名前のプロシージャ グループを作成して既存のソフトウェア グループ「swg_1」のサブグループにする必要があると想定します。以下のコマンドによって、これらのグループが作成されます。

```
cadsmcmd swlibrary action=createGroup name=swg_1
```

```
cadsmcmd swlibrary action=createGroup name=pg_1 groupType=PG superGroup=swg_1
```

作成されたことを確認するには、利用可能なすべてのソフトウェア グループおよびプロシージャ グループを以下のコマンドを使用して一覧表示します。

```
cadsmcmd swlibrary action=listGroups recursive
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
マネージャ： mymanager
```

```
ドメイン： mydomain
```

```
ドメイン タイプ： Domain
```

```
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
-----
ソフトウェア ライブラリのグループのリスト
-----
```

```
ソフトウェア グループ
```

```
..グループ名.....: Catalog
....コメント.....: CA-Software Delivery の予約済みグループ
....作成日.....: 2005-04-09 11:26
....変更日.....: 2005-04-09 11:26
..グループ名.....: Software Delivery
....コメント.....: CA-Software Delivery の予約済みグループ
....作成日.....: 2005-04-09 11:26
....変更日.....: 2005-04-09 11:27
..グループ名.....: swg_1
```

```
....コメント.....:
....作成日.....: 2005-04-10 08:51
....変更日.....: 2003-04-10 09:11
....プロシージャ グループ
....グループ名.....: pg_1
....コメント.....:
....作成日.....: 2005-04-10 09:11
....変更日.....: 2005-04-10 09:11
```

SDCMD<A0000000>: OK

引数「recursive」を追加することが重要です。この引数がない場合、サブグループとしてのプロシージャ グループ「pg_1」は一覧表示されず、最上位レベルのグループのみが表示されます。

cadsmcmd swlibrary action=listGroups

CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

マネージャ "kkkkk01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

ソフトウェア ライブラリのグループのリスト

```
ソフトウェア グループ
..グループ名.....: Catalog
....コメント.....: CA-Software Delivery の予約済みグループ
....作成日.....: 2005-04-09 11:26
....変更日.....: 2005-04-09 11:26
..グループ名.....: Software Delivery
....コメント.....: CA-Software Delivery の予約済みグループ
....作成日.....: 2005-4-09 11:26
....変更日.....: 200504-09 11:27
..グループ名.....: swg_1
....コメント.....:
```



```
....作成日.....: 2005-04-10 08:51
....変更日.....: 2005-04-10 09:11
```

```
SDCMD<A000000>: OK
```

ソフトウェア グループ「swg_2」を作成し、ソフトウェア グループ「swg_2_1」を swg_2 のサブグループにすると想定します。また、pg_2 という名前の別のプロシージャ グループが必要であるとして、以下のコマンドによって、これらのグループおよび目的の階層が生成されます。

```
cadsmcmd swlibrary action=createGroup name=swg_2 groupType=SWG
```

```
cadsmcmd swlibrary action=createGroup name=swg_2_1 superGroup=swg_2
```

```
cadsmcmd swlibrary action=createGroup name=pg_2 groupType=PG
```

グループの再帰的な一覧は以下のようになります。

```
cadsmcmd swlibrary action=listGroups recursive
```

```
CA IT Client Manager r12
```

```
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
```

```
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
マネージャ "kkkkk01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
-----
ソフトウェア ライブラリのグループのリスト
-----
```

```
ソフトウェア グループ
```

```
..グループ名.....: Catalog
....コメント.....: CA-Software Delivery の予約済みグループ
....作成日.....: 2005-04-09 11:26
....変更日.....: 2005-04-09 11:26
..グループ名.....: Software Delivery
....コメント.....: CA-Software Delivery の予約済みグループ
....作成日.....: 2005-04-09 11:26
....変更日.....: 2005-04-09 11:27
..グループ名.....: swg_1
....コメント.....:
....作成日.....: 2005-04-10 08:51
....変更日.....: 2005-04-10 09:11
....プロシージャ グループ
```

```

.....グループ名..... : pg_1
.....コメント.....:
.....作成日..... : 2005-04-10 09:11
.....変更日..... : 2005-04-10 09:11
..グループ名..... : swg_2
....コメント..... :
....作成日..... : 2005-04-10 09:28
....変更日..... : 200504-10 09:28
....ソフトウェア グループ
.....グループ名..... : swg_2_1
.....コメント.....:
.....作成日..... : 2005-04-10 09:28
.....変更日..... : 2005-04-10 09:28
プロセス グループ
..グループ名..... : pg_2
....コメント..... :
....作成日..... : 2005-04-10 09:29
....変更日..... : 2005-04-10 09:29

```

SDCMD<A0000000>: OK

deleteGroup—ソフトウェアまたはプロセス グループの削除

このアクションを使用すると、ソフトウェア グループまたはプロセス グループを削除できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=deleteGroup name=groupname [recursive]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる グループの名前 を指定します。

このメソッドに対して無効なグループ名は、「すべてのソフトウェア」および「カタログ」です。

recursive

グループだけでなく、再帰的に含まれているすべてのサブグループも削除されます。

削除するグループに割り当てられている製品またはプロセスは、そのグループからのリンクが解除されますが、削除されません。

注: 削除するグループが存在しない場合は、アクションが正常に実行されます (リターン コード : SDCMD<A0000000> : OK) 。

例：

ソフトウェア グループ「**swg_2**」は必要でなくなったため、削除する必要があると想定します。また、このグループのサブグループもすべて削除する必要があります。以下のコマンドによって、削除が実行されます。

```
cadsmcmd swlibrary action=deleteGroup name=swg_2 recursive
```

以下のコマンド

```
cadsmcmd swlibrary action=deleteGroup name=swg_2
```

を起動すると、指定したグループのみが削除されます。グループ **swg_2** にサブグループが含まれている場合、および **swg_2** がこのサブグループのただ 1 つのサブグループである場合、削除は失敗します。

ほかのサブグループがある場合、そのサブグループは指定されたグループからリンク解除され、グループが削除されます。

deliverGroupToStage—ソフトウェア グループの項目のスケーラビリティ サーバへの配信

このアクションを使用すると、ソフトウェア グループの項目をスケーラビリティ サーバに配信できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=deliverGroupToStage name=group_name
  {{computer=computer_name
  | {compgrp=computer_group_name | ccompgrp=(computer_group_name sep
groupScope)}}}
  [sep=separator_sign]
  [dname=distribution_name]
  cname=[name]
  [unsealed]
  [{nolinkage|transaction[rollback]|synchronized}[nocascade]]
  [deliveryTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [calendarname=deliverycalendar]
  [globalTime]
```

```
[{{area=area_name} | {domain=domain_name} | toAllAreas}]  
[sendTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]  
[haltTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]  
[jcPriority={1,...,10}]  
[distPriority={1,...,10}]
```

area

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。 **Client Automation** ドメインをいくつかまとめて追加するために、

このパラメータが記述されている場合、配信は封印され、宛先に送信されます。

area、**domain**、または **toAllAreas** パラメータのいずれも記述されていない場合、配信は封印解除されたままで、操作が可能です。

このパラメータは、**domain** または **toAllAreas** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

(エンタープライズ マネージャのみ)

calendarName

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

ccompgrp

グループ名およびスコープのペアとして指定されるコンピュータグループを指定します。デフォルトでは、名前とスコープはドット(「.」)で区切られていますが、「**sep**」オプションを使用して代替の区切りを指定することができます。名前の一部として区切りを使用しないでください。

グループ スコープのみの場合、有効な値は以下のとおりです。

ローカル

グループはローカル ドメイン マネージャで作成されます。

global

グループはエンタープライズ マネージャで作成され、複製される可能性があります。

「**ccompgrp**」は、1 回の呼び出しで「**compgrp**」とともにコーディングできます。

cname

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの一意の名前（オブション）。

cname パラメータが指定されていない場合、名前が内部で生成され、コマンドライン インターフェイスで識別子が返されます。

compgrp

アドレス指定されるスケーラビリティ サーバが含まれるサーバグループの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。複数のサーバグループのアドレス指定をするために、

compgrp および **computer** パラメータは混在しないようにする必要があります（ドメイン マネージャのみ）。

computer

指定するスケーラビリティ サーバの名前を指定します。

このパラメータは 1 つ以上のスケーラビリティ サーバを指定する場合、1 回以上コーディングすることができます。

compgrp および **computer** パラメータは混在しないようにする必要があります。

（ドメイン マネージャのみ）

deliveryTime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメイン マネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

distPriority

保留中のインストールがキャンセルされる 配信に割り当てられる優先度。

優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。

指定されていない場合は、優先度 5 と見なされます。

dname

保留中のインストールがキャンセルされる name of the distribution.

指定されていない場合は、名前が自動的に生成されます。

(エンタープライズ マネージャのみ)

domain

保留中のインストールがキャンセルされる Client Automation ドメイングループの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。 Client

Automation ドメイン グループをいくつかまとめて指定するために、

このパラメータが記述されている場合、配信は封印され、宛先に送信されます。

area、domain、または toAllAreas パラメータのいずれも記述されていない場合、配信は封印解除されたままで、操作が可能です。

このパラメータは、area または toAllAreas パラメータと一緒にコーディングしないでください。

(エンタープライズ マネージャのみ)

globalTime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズ マネージャ時間に基づいたものになります。

「globalTime=n」をコーディングすると、時間指定がドメイン マネージャ時間に基づいたものになります。

haltTime

保留中のインストールがキャンセルされる 配信注文が停止する必要がある日時です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。

(エンタープライズ マネージャのみ)

jcPriority

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの優先度。優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。パラメータを指定しない場合には、優先度は変更されません。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア グループの名前 を指定します。

noCascade

ジョブ リンク オプションが「カスケードイングを無視」に設定されます。

このパラメータは、「**transaction**」または「**synchronized**」をコーディングした場合にのみ認められます。

noLinkage

コンテナ内のほかのジョブに影響されることなくジョブを実行します。

rollback

ジョブ リンク オプションを「トランザクションの有効化」に設定します。

sendTime

保留中のインストールがキャンセルされる 関連付けられた配信をアドレス指定されたドメイン マネージャに送信する時間です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。このパラメータが指定されていない場合、現在の日時が使用されます。
(エンタープライズ マネージャのみ)

sep

「ccompgroup」 オプションで使用する代替の区切りを指定します。区切りは ccompgroup オプションで指定したグループ名の一部には使用しないでください。

synchronized

ジョブ リンク オプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

transaction

ジョブ リンク オプションが「バッチ ジョブの実行」に設定されます。これはデフォルトです。

toAllAreas

コーディングすると、関連する配信がエンタープライズ マネージャに登録されたすべての **Client Automation** ドメインに送信されます。

このパラメータが記述されている場合、配信は封印され、コマンドが正常に実行された後で、自動的に宛先へ送信されます。

area、domain、または toAllAreas パラメータのいずれも記述されていない場合、配信は封印解除されたままで、操作が可能です。

(エンタープライズ マネージャのみ)

unsealed

対象のジョブが正常に作成された後も、アドレス指定されたジョブ コンテナが封印解除されたままになります。

(ドメイン マネージャのみ)

area、domain、または toAllAreas のいずれも記述されていない場合、配信コンテナは封印が解除されたままであるため、さらに操作することもできます。

例：

「swg_1」という名前のソフトウェア グループの項目をすべてのスケーラビリティ サーバに配信する必要があると想定します。 コマンドはドメイン マネージャで起動されます。 swg_1 の内容は以下のとおりです。

```
cadsmcmd swlibrary action=listSWG name=swg_1
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
マネージャ： mymanager
```

```
ドメイン： mydomain
```

```
ドメイン タイプ： Domain
```

```
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
-----
ソフトウェア グループ "swg_1" のメンバをリストします
-----
```

```
tstbase 1.0 <Generic>, <Regular>, 22622(0), CA, http://supportconnect.ca.com/
tstkpk01 1.0 <Generic>, <Regular>, 22752(0), CA, http://supportconnect.ca.com/
tstkpk02 1.0 <Generic>, <Regular>, 22832(0), CA, http://supportconnect.ca.com/
DMS Editor 6.01.0000 <MSI>, <Regular>, 22972(0), CA, http://supportconnect.ca.com/
pg_1 <プロシージャ グループ>
```

注：製品をスケーラビリティ サーバに配信する場合、プロシージャ グループは有効でないため、サブグループ pg_1 のエントリは無視されます。

```
SDCMD<A000000>: OK
```

```
cadsmcmd swlibrary action=listPG name=pg_1
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

```
-----
プロセス グループ "pg_1" のメンバをリストします"
-----
```

```
remdir (tstbase 1.0 <1>)
setdir (tstbase 1.0 <2>)
```

SDCMD<A000000>: OK

以下のコマンドによって、配信が実行されます。

```
cadsmcmd swlibrary action=deliverGroupToStage name=swg_1 compgrp="SD scalability
servers"
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

SD scalability servers [04/10/02 14:26:39.578] という名前のコンテナが作成されました。

グループ swg_1 の評価

グループ swg_1/pg_1 の評価

ジョブ "tstbase 1.0:delivery procr" を生成します: OK。

ジョブ "tstpk01 1.0:delivery proc" を生成します: OK。

ジョブ "tstpk02 1.0:delivery proc" を生成します: OK。

ジョブ "DMS Editor 6.01.0000:delivery proc" を生成します: OK。

SDCMD<A000000>: OK

生成されたジョブ コンテナの内容は、以下のコマンドにより表示されます。

```
cadsmcmd jobContainer action=listJobs name="SD staging servers [04/10/02
14:26:39.578]"
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

ジョブ コンテナ「SD scalability servers [04/10/02 14:26:39.578]」のジョブ一覧

```
ジョブ名.....: tstbase 1.0: 配信プロシージャ
..タスク.....: deliver
..全体ステータス.....: WAITING
..ジョブの順序番号.....: 1
```

```
ジョブ名.....: tstkpk01 1.0: 配信プロシージャ
..タスク.....: deliver
..全体ステータス.....: WAITING
..ジョブの順序番号.....: 2
```

```
ジョブ名.....: tstkpk02 1.0: 配信プロシージャ
..タスク.....: deliver
..全体ステータス.....: WAITING
..ジョブの順序番号.....: 3
```

```
ジョブ名.....: DMS Editor 6.01.0000: 配信プロシージャ
..タスク.....: deliver
..全体ステータス.....: WAITING
..ジョブの順序番号.....: 4
```

読み取られたジョブの数: 4
リストされたジョブの数: 4
SDCMD<A000000>: OK

listGroups—グループのリスト

このアクションを実行すると、すべてのソフトウェア グループおよびプロシージャ グループが一覧表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=listGroups [recursive]
```

recursive

サブディレクトリを再帰的にリスト表示します。

このパラメータを省略した場合は、トップ レベル グループのみがリストされます。

例

```
cadsmcmd swlibrary action=listgroups recursive
```

以下の情報がリストされます。

ソフトウェア ライブラリ内のグループのリスト

ソフトウェア グループ

```
..グループ名.....: Catalog
...コメント.....: CA-Software Delivery の予約済みグループ
...作成日.....: 2001-07-05 10:28
...変更日.....: 2001-08-28 17:42
..グループ名.....: Software Delivery
...コメント.....: CA-Software Delivery の予約済みグループ
...作成日.....: 2001-07-05 10:29
...変更日.....: 2001-09-06 10:36
..グループ名.....: swg 0
...コメント.....:
...作成日.....: 2001-09-12 10:35
...変更日.....: 2001-09-12 10:35
..グループ名.....: swg 1
...コメント.....: ソフトウェア グループ 4 テスト
...作成日.....: 2001-09-12 08:54
...変更日.....: 2001-09-12 10:35
....ソフトウェア グループ
.....グループ名.....: swg 0
.....コメント.....:
.....作成日.....: 2001-09-12 10:35
.....変更日.....: 2001-09-12 10:35
.....グループ名.....: swg 2
.....コメント.....: レベル 1 のソフトウェア グループに組み込み
.....作成日.....: 2001-09-12 09:19
.....変更日.....: 2001-09-12 09:31
```

```

....ソフトウェア グループ
.....グループ名.....: swg 3
.....コメント.....: レベル 2 のソフトウェア グループに組み込み
.....作成日.....: 2001-09-12 09:31
.....変更日.....: 2001-09-12 10:16
.....ソフトウェア グループ
.....グループ名.....: swg 4
.....コメント.....: これもまた組み込みソフトウェア グループです。
.....作成日.....: 2001-09-12 10:15
.....変更日.....: 2001-09-12 10:15
.....プロシージャ グループ
.....グループ名.....: pg 2
.....コメント.....: これは組み込みプロシージャ グループです
.....作成日.....: 2001-09-12 10:16:00
.....変更日.....: 2001-09-12 10:16:00
....プロシージャ グループ
.....グループ名.....: pg 0
.....コメント.....:
.....作成日.....: 2001-09-12 10:35
.....変更日.....: 2001-09-12 10:35
プロシージャ グループ
..グループ名.....: pg 0
....コメント.....:
....作成日.....: 2001-09-12 10:35
....変更日.....: 2001-09-12 10:35
..グループ名.....: pg 1
....コメント.....: プロシージャ グループ 4 テスト
....作成日.....: 2001-09-12 08:54
....変更日.....: 2001-09-12 08:54

SDCMD<A0000000>: OK

```

listMembership—メンバシップの一覧表示

このアクションを実行すると、グループのメンバシップが一覧表示されます。つまり、サブグループとして割り当てられているグループが表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=listMembership name=group_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェアまたはプロシージャ グループの名前 を指定します。

例：

プロシージャ グループ pg_1 を含むこれらのソフトウェア グループに関する情報を取得するには、以下を入力します。

```
cadsmcmd swlibrary action=listMembership name=pg_1
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
マネージャ： mymanager
```

```
ドメイン： mydomain
```

```
ドメイン タイプ： Domain
```

```
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
-----
"pg_1" は次のグループのメンバです。
-----
```

```
swg_1 (ソフトウェア グループ、2005-04-10 08:51)
```

```
swg_2.1 (ソフトウェア グループ、2005-04-10 09:28)
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

modifyGroup—ソフトウェアグループまたはプロシージャ グループの属性の変更

このアクションを実行すると、ソフトウェア グループまたはプロシージャ グループの属性が変更されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=modifyGroup name=group_name
    [newName=new_group_name]
    [comment=comment]
```

comment

グループの新しいコメントを指定します。

注： 既存のコメントを消去するには、空の文字列 ("") を入力してください。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの
名前 を指定します。

newName

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの
新しい名前.

new コンピュータ グループの名前.

例：

「swg_2_1」という名前のソフトウェア グループを変更する必要があると想定します。グループの新しい名前は「swg_2.1」で、コメント「4 test only」が追加されます。以下のコマンドによって、変更が実行されます。

```
cadsmcmd swlibrary action=modifyGroup name=swg_2_1 newName=swg_2.1 comment="4 test only"
```

undeliverGroupFromStage—ソフトウェア グループの項目のスケラビリティ サーバからの配信の取り消し

このアクションを実行すると、スケラビリティ サーバからのソフトウェア グループの項目の「配信の取り消し」が実行されます。つまり、項目がスケラビリティ サーバのソフトウェア ライブラリから除去されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=undeliverGroupFromStage name=group_name
  {{computer=computer_name
  | {compgrp=computer_group_name | ccompgrp=(computer_group_name sep
groupScope)}}}
  [sep=separator_sign]
  [dname=distribution_name]
  cname=[name]
  [unsealed]
  [{nolinkage|transaction[rollback]|synchronized}{nocascade]}
```

```
[deliveryTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
[calendarname=deliverycalendar]
[globalTime]
[{{area=area_name} | {domain=domain_name} | toAllAreas}]
[sendTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
[haltTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
[jcPriority={1,...,10}]
[distPriority={1,...,10}]
```

area

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメインの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。 **Client Automation** ドメインをいくつかまとめて追加するために、

このパラメータが記述されている場合、配信は封印され、コマンドが正常に実行された後で、自動的に宛先へ送信されます。

area、**domain**、または **toAllAreas** パラメータのいずれも記述されていない場合、配信は封印解除されたままで、操作が可能です。

このパラメータは、**domain** または **toAllAreas** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

(エンタープライズ マネージャのみ)

calendarName

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

ccompgrp

グループ名およびスコープのペアとして指定されるコンピュータグループを指定します。デフォルトでは、名前とスコープはドット（「.」）で区切られていますが、「sep」オプションを使用して代替の区切りを指定することができます。名前の一部として区切りを使用しないでください。

グループ スコープのみの場合、有効な値は以下のとおりです。

ローカル

グループはローカル ドメイン マネージャで作成されます。

global

グループはエンタープライズ マネージャで作成され、複製される可能性があります。

「ccompgrp」は、1 回の呼び出しで「compgrp」とともにコーディングできます。

cname

以下を指定します： ジョブ コンテナの一意の名前（オプション）。

cname パラメータが指定されていない場合、名前が内部で生成され、コマンドラインインターフェースで識別子が返されます。

compgrp

アドレス指定されるスケーラビリティ サーバが含まれるサーバグループの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。複数の複数のコンピュータ グループをまとめて指定するために、

このパラメータは、**computer** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

computer

指定するスケーラビリティ サーバの名前を指定します。

このパラメータは **1** つ以上のスケーラビリティ サーバを指定する場合、**1** 回以上コーディングすることができます。

compgrp および **computer** パラメータは混在しないようにする必要があります。

（ドメイン マネージャのみ）

deliveryTime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメイン マネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

distPriority

保留中のインストールがキャンセルされる 配信に割り当てられる優先度。

優先度は数値で指定し、その値は **1** 以上 **10** 以下である必要があります。

指定されていない場合は、優先度 **5** と見なされます。

dname

保留中のインストールがキャンセルされる **name of the distribution**

（エンタープライズ マネージャのみ）

domain

保留中のインストールがキャンセルされる **Client Automation** ドメイングループの名前 を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。 **Client Automation** ドメイングループをいくつかまとめて指定するために、このパラメータが記述されている場合、配信は封印され、コマンドが正常に実行された後で、自動的に宛先へ送信されます。

area、**domain**、または **toAllAreas** パラメータのいずれも記述されていない場合、配信は封印解除されたままで、操作が可能です。

このパラメータは、**area** または **toAllAreas** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

(エンタープライズ マネージャのみ)

globalTime

「**globalTime**」または「**globalTime=y**」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズ マネージャ時間に基づいたものになります。

「**globalTime=n**」をコーディングすると、時間指定がドメイン マネージャ時間に基づいたものになります。

haltTime

保留中のインストールがキャンセルされる 配信注文が停止する必要がある日時です。日付は ISO フォーマット「**YYYY-MM-DD hh:mm**」で指定する必要があります。

jcPriority

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの優先度。優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。指定されていない場合は、優先度 5 と見なされます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア グループの名前 を指定します。

noCascade

ジョブ リンク オプションが「カスケーディングを無視」に設定されます。

このパラメータは、「transaction」または「synchronized」をコーディングした場合にのみ認められます。

noLinkage

コンテナ内のほかのジョブに影響されることなくジョブを実行します。

rollback

ジョブ リンク オプションを「トランザクションの有効化」に設定します。

sendTime

保留中のインストールがキャンセルされる 関連付けられた配信をアドレス指定されたドメイン マネージャに送信する時間です。日付は ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。このパラメータが指定されていない場合、現在の日時が使用されます。

(エンタープライズ マネージャのみ) を指定します。

sep

「ccompgroup」 オプションで使用する代替の区切りを指定します。区切りは ccompgroup オプションで指定したグループ名の一部には使用しないでください。

synchronized

ジョブ リンク オプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

toAllAreas

コーディングすると、関連する配信がエンタープライズ マネージャに登録されたすべての **Client Automation** ドメインに送信されます。

このパラメータが記述されている場合、配信は封印され、コマンドが正常に実行された後で、自動的に宛先へ送信されます。

area、domain、または toAllAreas パラメータのいずれも記述されていない場合、配信は封印解除されたままで、操作が可能です。

「toAllAreas」は、「area」または「domain」パラメータと一緒にコーディングしないでください。

(エンタープライズ マネージャのみ)

transaction

ジョブ リンク オプションが「バッチ ジョブの実行」に設定されます。

unsealed

対象のジョブが正常に作成された後も、アドレス指定されたジョブ コンテナが封印解除されたままになります。

(ドメイン マネージャのみ)

area、domain、または toAllAreas のいずれも記述されていない場合、配信コンテナは封印が解除されたままであるため、さらに操作することもできます。

ソフトウェア グループ管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[addGroupToSWG—グループのソフトウェア グループへの追加](#) (P. 381)

[addItemToSWG—項目をソフトウェア グループに追加](#) (P. 382)

[listSWG—ソフトウェア グループの製品のリスト](#) (P. 384)

[removeGroupFromSWG—ソフトウェア グループからのグループの削除](#) (P. 390)

[removeItemFromSWG—ソフトウェア グループからの項目の除去](#) (P. 390)

addGroupToSWG—グループのソフトウェア グループへの追加

このアクションを使用すると、新しいサブグループをソフトウェア グループに追加できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=addGroupToSWG [name=group_name]
      {subGroup=group_name}
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア グループの
名前 を指定します。

このパラメータがコーディングされていない場合は、最上位のフォル
ダ「**Software Library**」であると見なされます。

subGroup

保留中のインストールがキャンセルされる サブグループの名前 を指
定します。

サブグループはグループとして、すでにソフトウェア ライブラリに存
在している必要があります。

パラメータを何度もコーディングすることができます。いくつかのサ
ブグループのリストをまとめて追加するために、

addItemToSWG—項目をソフトウェア グループに追加

このアクションを使用すると、製品をソフトウェア グループに追加できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=addItemToSWG
name=software_group_name
{item=item_name version=item_version
| {itemList=(item_name/item_version)}}
```

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

このパラメータがコーディングされている場合は、パラメータのバージョンが必須になります。

このパラメータは **itemList** パラメータでコーディングしないでください。

itemList

以下を指定します： ペア (**itemname itemversion**) によって識別される項目を指定します。

このパラメータは、項目のリストを作成するために、1 回以上記述することができます。 追加する

スラッシュ（「/」）を区切り文字として使用するため、スラッシュが含まれる項目名または項目のバージョンは、引用符（"）で囲む必要があります。

このパラメータは、**item** パラメータと一緒にコーディングしないでください。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア グループの
名前 を指定します。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョンを指定
します。

このパラメータは項目パラメータでのみコーディングします。

注： 追加する項目をコーディングするには 2 つの方法があります。最初の方法では、パラメータ **item** および **version** を使用し、もう 1 つの方法では、パラメータ **itemList** を使用します。 コマンドに両方のフォーマットを混在させることはできませんが、少なくともそれらの 1 つを使用する必要があります。

追加する項目は、コマンドの呼び出し時にはすでにソフトウェア ライブラリで定義されている必要があります。このコマンドを実行しても、ソフトウェアライブ内に新規の項目は作成されません。

temList パラメータをバッチまたはコマンドライン インターフェースで使用し、項目の名前または項目のバージョンにスラッシュが含まれる場合は、項目の名前またはバージョンのスラッシュを重複させる必要があります。

itemList パラメータに空白が含まれる場合、引用符 (") で囲みます。（コマンドラインまたはバッチで使用するために保持されます）。

listSWG—ソフトウェア グループの製品のリスト

このアクションでは、ソフトウェア グループの製品が再帰的に一覧表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=listSWG name=groupname [recursive]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア グループの
名前を指定します。

recursive

サブディレクトリを再帰的にリスト表示します。

このパラメータを省略した場合は、トップ レベル グループのみがリストされます。

例

ソフトウェア グループ `swg_1` を例にとります。変更する前に、グループ、グループの構造、および内容をリストする必要があります。これは、以下のコマンドを使用して実行することができます。

```
cadsmcmd swlibrary action=listSWG name=swg_1
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
トレース モード: FILE
トレース ファイル名: C:\ProgramFiles\CA\DSM\SD\..\logs\cadsmcmd.log
Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.
マネージャ: mymanager
ドメイン: mydomain
ドメイン タイプ: Domain
サポート: CO CCNF USD OSIM AM
```

ソフトウェア グループ "swg_1" のメンバをリストします

```
tstbase 1.0 <Generic>, <Regular>, 22622(0), CA, http://supportconnect.ca.com/
tstpk01 1.0 <Generic>, <Regular>, 22752(0), CA, http://supportconnect.ca.com/
tstpk02 1.0 <Generic>, <Regular>, 22832(0), CA, http://supportconnect.ca.com/
tstpk03 1.0 <Generic>, <Regular>, 22962(0), CA, http://supportconnect.ca.com/
pg_1 <プロシージャ グループ>
SDCMD<A0000000>: OK
```

```
cadsmcmd swlibrary action=listPG name=pg_1
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "kkkkk01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

プロシージャ グループ "pg_1" のメンバをリストします

```
inst (tstbase 1.0 <1>)
inst (tstpk02 1.0 <3>)
SDCMD<A0000000>: OK
```

tstpkp03 のエントリは古いので除去する必要があります。このアクションを実行するには、以下のコマンドを使用します。

```
cadsmcmd swlibrary action=removeItemFromSWG name=swg_1 item=tstpkp03 version=1.0
```

この削除は、項目 **tstpkp03** がソフトウェア ライブラリから削除されることを意味しません。この項目は、割り当てられている「すべてのソフトウェア」および他のすべてのグループでまだ利用可能です。グループ **swg_1** から除去されるのみです。

もし **tstpkp03** に加えて、エントリ **tstbase** も削除する必要がある場合、以下のコマンドで 1 つのコールで両方のエントリを削除します。

```
cadsmcmd swlibrary action=removeItemFromSWG name=swg_1 itemList=(tstbase/1.0)
itemList=("tstpkp03" /"1.0")
```

次に、グループに追加する必要がある、バージョン **6.01.0000** の「MS Editor」という名前の製品について考慮します。以下のコマンドを使用して、この割り当てを実行します。

```
cadsmcmd swlibrary action=addItemToSWG name=swg_1 item="DMS Editor"
version=6.01.0000
```

別の製品（たとえば、バージョン **6.01.0000** の「DMS Interpreter」）を追加する場合、このアクションは、以下のコマンドを使用して、1 つのコールで実行できます。

```
cadsmcmd swlibrary action=addItemToSWG name=swg_1 itemList=("DMS Editor" /6.01.0000)
itemList=("DMS Interpreter" /6.01.0000)
```

グループには以下の内容が含まれます。

```
cadsmcmd swlibrary action=listSWG name=swg_1
```

```
CA IT Client Manager r12
```

```
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
```

```
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
マネージャ "kkkkk01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK.
```

```
-----
ソフトウェア グループ "swg_1" のメンバをリストします
-----
```

```
tstbase 1.0 <Generic>, <Regular>, 22622(0), CA, http://supportconnect.ca.com/
tstpkp01 1.0 <Generic>, <Regular>, 22752(0), CA, http://supportconnect.ca.com/
tstpkp02 1.0 <Generic>, <Regular>, 22832(0), CA, http://supportconnect.ca.com/
DMS Editor 6.01.0000 <MSI>, <Regular>, 22972(0), CA http://supportconnect.ca.com/
pg_1 <プロシージャ グループ>
SDCMD<A0000000>: OK
```

```
cadsmcmd swlibrary action=listPG name=pg_1
```

```
CA IT Client Manager r12
```

```
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
```

```
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
マネージャ "kkkkk01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
-----
プロセスグループ "pg_1" のメンバをリストします"
-----
```

```
inst (tstbase 1.0 <1>)
```

```
inst (tstpk2 1.0 <3>)
```

```
SDCMD<A000000>: OK
```

以下のような状況が考えられます。

```
cadsmcmd swlibrary action=listGroups recursive
```

```
CA IT Client Manager r12
```

```
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
```

```
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
マネージャ "kkkkk01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
-----
ソフトウェア ライブラリのグループのリスト
-----
```

```
ソフトウェア グループ
```

```
..グループ名.....: Catalog
```

```
...コメント.....: CA-Software Delivery の予約済みグループ
```

```
...作成日.....: 2003-04-09 11:26
```

```
...変更日.....: 2003-04-09 11:26
```

```
..グループ名.....: Software Delivery
```

```
...コメント.....: CA-Software Delivery の予約済みグループ
```

```
...作成日.....: 2003-04-09 11:26
```

```
...変更日.....: 2003-04-09 11:27
```

```
..グループ名.....: swg_1
```

```
...コメント.....:
```

```
...作成日.....: 2003-04-10 08:51
```

```
...変更日.....: 2003-04-10 10:33
```

```
...プロセスグループ
```

```
.....グループ名.....: pg_1
```

```
.....コメント.....:
```

```
.....作成日.....: 2003-04-10 09:11
```

```
.....変更日.....: 2003-04-10 10:13
```

```
..グループ名.....: swg_2
```

```
...コメント.....:
```

```
...作成日.....: 2003-04-10 09:28
```

```
...変更日.....: 2003-04-10 09:28
```

```
....ソフトウェア グループ
.....グループ名..... : swg_2.1
.....コメント..... : 4 テストのみ
.....作成日..... : 2003-04-10 09:28
.....変更日..... : 2003-04-10 09:57
..グループ名..... : swg_2.1
....コメント..... : 4 テストのみ
....作成日..... : 2003-04-10 09:28
....変更日..... : 2003-04-10 09:57
プロシージャ グループ
..グループ名..... : pg_2
....コメント..... :
....作成日..... : 2003-04-10 09:29:00
....変更日..... : 2003-04-10 09:29:00
SDCMD<A0000000>: OK
```

ソフトウェア グループ **swg_2.1** をサブグループとしてグループ **swg_2** から削除し、**pg_2** を **swg_2** の新しいサブグループとして追加する必要があります。以下のコマンドを使用すると、階層を再調整することができます。

```
cadsmcmd swlibrary action=removeGroupFromSWG name=swg_2 subgroup=swg_2.1
```

```
cadsmcmd swlibrary action=addGroupToSWG name=swg_2 subgroup=pg_2
```

階層は、以下のとおりです。

```
cadsmcmd swlibrary action=listGroups recursive
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
マネージャ "kkkkk01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK.
```

```
-----
ソフトウェア ライブラリのグループのリスト
-----
```

```
ソフトウェア グループ
..グループ名..... : Catalog
....コメント..... : CA-Software Delivery の予約済みグループ
....作成日..... : 2003-04-09 11:26
....変更日..... : 2003-04-09 11:26
..グループ名..... : Software Delivery
....コメント..... : CA-Software Delivery の予約済みグループ
....作成日..... : 2003-04-09 11:26
....変更日..... : 2003-04-09 11:27
```

```
..グループ名..... : swg_1
....コメント..... :
....作成日..... : 2003-04-10 08:51
....変更日..... : 2003-04-10 10:58
....プロシージャ グループ
.....グループ名..... : pg_1
.....コメント..... :
.....作成日..... : 2003-04-10 09:11
.....変更日..... : 2003-04-10 10:13
..グループ名..... : swg_2
....コメント..... :
....作成日..... : 2003-04-10 09:28
....変更日..... : 2003-04-10 11:11
....プロシージャ グループ
.....グループ名..... : pg_2
.....コメント..... :
.....作成日..... : 2003-04-10 09:29:00
.....変更日..... : 2003-04-10 09:29:00
..グループ名..... : swg_2.1
....コメント..... : 4 テストのみ
....作成日..... : 2003-04-10 09:28
....変更日..... : 2003-04-10 09:57
プロシージャ グループ
..グループ名..... : pg_2
....コメント..... :
....作成日..... : 2003-04-10 09:29:00
....変更日..... : 2003-04-10 09:29:00
SDCMD<A000000>: OK
```

swg_2.1 が swg_2 の外部に割り当てられていない、つまり、swg_2 がその唯一のスーパーグループである場合、このサブグループを swg_2 から削除するコマンドは、エラー A001563 で失敗します。

removeGroupFromSWG—ソフトウェア グループからのグループの削除

このアクションでは、ソフトウェア グループからサブグループを除去します。ただし、この場合、サブグループが削除されるわけではありません。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=removeGroupFromSWG [name=group_name]
      {subGroup=group_name}
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる グループの名前を指定します。

このパラメータがコーディングされていない場合は、最上位のフォルダ「Software Package Library」であると見なされます。

subGroup

保留中のインストールがキャンセルされる サブグループの名前を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。いくつかのサブグループをまとめて削除するために、

サブグループは、グループからのリンクが解除されます。

指定されたグループがサブグループの唯一のスーパーグループの場合、このプロセスは失敗します。このようなサブグループは、**action=deleteGroup** でのみ削除できます。

グループからサブグループを削除しても、サブグループが削除されるわけではありません。

removeItemFromSWG—ソフトウェア グループからの項目の除去

このアクションでは、ソフトウェア グループから製品を除去します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=removeItemFromSWG
      name=software_group_name
      {item=item_name
      version=item_version |
      itemList=(item_name/item_version)}
```

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

itemList

以下を指定します： ペア (**itemname itemversion**) によって識別される項目を指定します。

このパラメータは、項目のリストを作成するために、1 回以上記述することができます。 削除する

スラッシュ（「/」）を区切り文字として使用するため、スラッシュが含まれる項目名または項目のバージョンは、引用符（"）で囲む必要があります。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア グループの名前 を指定します。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョンを指定します。

注： 除去する項目を記述するには、2つの可能性があります。最初の方法では、パラメータ **item** および **version** を使用し、もう 1つの方法では、パラメータ **itemList** を使用します。コマンドに両方のフォーマットを混在させることはできませんが、少なくともそれらの 1つを使用する必要があります。

ソフトウェア グループから項目を削除しても、ソフトウェア ライブラリから項目が削除されるわけではありません。ほかのソフトウェア グループに対するほかの項目の割り当ては、変更されません。**temList** パラメータをバッチまたはコマンドライン インターフェースで使用し、項目の名前または項目のバージョンにスラッシュが含まれる場合は、項目の名前またはバージョンのスラッシュを重複させる必要があります。

itemList パラメータに空白が含まれる場合、引用符 (") で囲みます。（コマンドラインまたはバッチで使用するために保持されます）。

例 (385以下のページで定義参照：)

カタログ グループ管理

カタログ処理は、ソフトウェア グループ処理の特殊な形式です。以下のカタログメソッドが提供されています。

これらのメソッドは、ドメイン マネージャでのみ有効です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[createCG—カタログ グループの作成](#) (P. 392)

[listCG—カタログ グループのリスト](#) (P. 393)

[removeCG—カタログ グループの削除](#) (P. 396)

createCG—カタログ グループの作成

このアクションを使用すると、カタログ グループを作成できます。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=createCG
  name=computer_group_name
  [groupScope={global | local}]
```


groupScope

指定されたグループのスコープを指定します。このオプションの有効な値は、以下のとおりです。

グローバル

グループはグローバル グループで、エンタープライズ マネージャで作成されます。グループは、ドメイン マネージャに複製される可能性があります。

ローカル

CADSMCMD が接続しているドメイン マネージャで作成されたローカル グループを指定します。

「groupScope」が指定されていない場合、CADSMCMD では、最初にグループをローカル グループとして検索します。検索に失敗すると、次に、グループをグローバル グループとして検索します。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータ グループの名前を指定します。

注：createCG コマンドの使用例については、listCG コマンドの例を参照してください。

listCG—カタログ グループのリスト

このアクションを使用すると、既存のカタログ グループをすべて一覧表示できます。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=listCG [detailed]
```

detailed

割り当てられている製品のリスト。

例：

定義済みのカタログ グループをすべて表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd swlibrary action=listCG
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
トレース モード： FILE
トレース ファイル名： C:\ProgramFiles\CA\DSM\SD\...\Logs\cadsmcmd.log
```

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

```
マネージャ： mymanager
ドメイン： mydomain
ドメイン タイプ： Domain
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

カタログ グループのリスト

```
c_grp (cgrp, local)
q_grp (qgrp, local)
t_grp (tgrp, local)
SDCMD<A0000000>: OK
```

カタログ グループに割り当てられた製品も一覧表示する必要がある場合は、以下のコマンドを起動する必要があります。

```
cadsmcmd swlibrary action=listCG detailed
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
トレース モード： FILE
トレース ファイル名： C:\ProgramFiles\CA\DSM\SD\...\Logs\cadsmcmd.log
マネージャ "default manager" にユーザ "<default user>" として接続しています...OK。
```

```

マネージャ: mymanager
ドメイン: mydomain
ドメイン タイプ: Domain
サポート: CO CCNF USD OSIM

```

 カタログ グループのリスト

```

c_grp (cgrp, local)
..DMS Editor 6.01.0000 <MSI>, <Regular>, 22422<0>, CA, http://supportconnect.ca.com/
q_grp (qgrp, local)
..DM Script Generator 4.0 <Generic>, <Regular>, 22722<0>, CA,
http://supportconnect.ca.com/
t_grp (tgrp, local)
..SD Boot Server Extension for WinNT/W2K 4.0 <Generic>, <Regular>, 22922<0>, CA,
http://supportconnect.ca.com/
SDCMD<A0000000>: OK

```

カタログ グループ「t_grp」が使用されなくなったため、除去する必要があると想定します。また、新しいカタログ グループをコンピュータ グループ tq_grp に追加する必要があると想定します。以下のコマンドにより、この再編成を実行できます。

```
cadsmcmd swlibrary action=removeCG name=t_grp
```

```
cadsmcmd swlibrary action=createCG name=tq_grp
```

バージョン「2.0 SP1 ENU」の項目「Data Transport Service for Win32」をカタログ グループ tq_grp に追加するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd swlibrary action=addItemToSWG name=tq_grp item="Data Transport Service for Win32" version="2.0 SP1 ENU"
```

アクション removeItemFromSWG を使用して、カタログ グループから項目を削除できます。

これで、カタログ一覧は以下のとおりになります。

```

cadsmcmd swlibrary action=listCG detailed

CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
トレース モード: FILE
トレース ファイル名: C:\ProgramFiles\CA\DSM\SD\..\logs\cadsmcmd.log
マネージャ "default manager" にユーザ "<default user>" として接続しています...OK。
マネージャ: mymanager
ドメイン: mydomain
ドメイン タイプ: Domain
サポート: CO CCNF USD OSIM

```

```
-----  
カタログ グループのリスト  
-----
```

```
c_grp (cgrp, local)  
..DMS Editor 6.01.0000 <MSI>, <Regular>, 22422<0>, CA, http://supportconnect.ca.com/  
q_grp (qgrp, local)  
..DM Script Generator 4.0 <Generic>, <Regular>, 22722<0>, CA,  
http://supportconnect.ca.com/  
tq_grp (tgrp, local)  
..Data Transport Service for Win32 2.0 SP1 ENU <Generic>, <Regular>, 22922<0>, CA,  
http://supportconnect.ca.com/  
SDCMD<A0000000>: OK
```

removeCG—カタログ グループの削除

このアクションでは、カタログ グループを除去します。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=removeCG name=catalog_group_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる カタログ グループの名前を指定します。

注: removeCG コマンドの使用例については、listCG コマンドの例を参照してください。

プロシージャ グループ管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[addProcToPG—プロシージャのプロシージャ グループへの追加](#) (P. 397)

[listPG—プロシージャ グループのプロシージャのリスト](#) (P. 397)

[removeProcFromPG—プロシージャ グループからのプロシージャの除去](#) (P. 400)

[repositionItem—プロシージャ グループの再配置項目](#) (P. 401)

addProcToPG—プロシージャのプロシージャ グループへの追加

このアクションを使用すると、製品のプロシージャをプロシージャ グループに追加できます。

項目は、ソフトウェア ライブラリですでに定義されていて、プロシージャがその項目に対して定義されている必要があります

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=addProcToPG name=procedure_group_name  
          procedure=procedure_name  
          item=item_name  
          version=item_version
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャ グループの名前を指定します。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャの名前を指定します。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョンを指定します。

listPG—プロシージャ グループのプロシージャのリスト

このアクションでは、プロシージャ グループに割り当てられたプロシージャが一覧表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=listPG name=procedure_group_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャ グループの名前を指定します。

以下の情報が表示されます。

```
-----  
プロシージャ グループ "pg 0" のメンバをリストします  
-----
```

```
パッケージの再インストール (xxbl0del (SXP) 2.0/00 <1>)  
パッケージの再インストール (xxbl1del (SXP) 2.0/00 <2>)  
パッケージの再インストール (xxbl4del (SXP) 2.0/00 <3>)
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

山形かっこ内の数字は、プロシージャ グループのプロシージャの順序番号を示しています。

例 :

プロシージャ グループ pg_1 の内容を一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd swlibrary action=listPG name=pg_1
```

```
CA IT Client Manager r12  
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx  
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード: オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続していま  
す...OK。
```

```
マネージャ: mymanager  
ドメイン: mydomain  
ドメイン タイプ: Domain  
サポート: CO CCNF USD OSIM
```

```
-----  
プロシージャ グループ "pg_1" のメンバをリストします"  
-----
```

```
inst (tstbase 1.0 <1>)  
inst (tstpk2 1.0 <3>)
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

tstbase エントリは、プロシージャ remdir および setdir を呼び出すことにより、ほかの 2 つのエントリで置き換えられる必要があります。以下のコマンドにより、要求に応じて内容を変更します。

```
cadsmcmd swlibrary action=removeProcFromPG name=pg_1 procedure=inst item=tstbase  
version=1.0
```

```
cadsmcmd swlibrary action=addProcToPG name=pg_1 procedure=remdir item=tstbase  
version=1.0
```

```
cadsmcmd swlibrary action=addProcToPG name=pg_1 procedure=setdir item=tstbase  
version=1.0
```

グループ pg_1 では、以下の内容が表示されます。

```
cadsmcmd swlibrary action=listPG name=pg_1
```

```
CA IT Client Manager r12  
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx  
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "kkkkk01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

```
-----  
プロシージャ グループ "pg_1" のメンバをリストします"  
-----
```

```
inst (tstpkp1 1.0 <3>)  
remdir (tstbase 1.0 <2>)  
setdir (tstbase 1.0 <3>)
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

プロシージャ グループのプロシージャは、プロシージャ グループ内での順番に従ってターゲット システムで実行されます。プロシージャのこの順序番号は、山形かっこで表示されます。 `inst` プロシージャを正しく実行するには、`remdir` および `setdir` を最初に実行する必要があります。以下のコマンドにより、プロシージャ グループが並び替えられます。

```
cadsmcmd swlibrary action=repositionItem name=pg_1 procedure=inst item=tstkp03
version=1.0 position=3
```

グループ `pg_1` では、以下の内容が表示されます。

```
cadsmcmd swlibrary action=listPG name=pg_1
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "kkkkk01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

```
-----
プロシージャ グループ "pg_1" のメンバをリストします"
-----
```

```
remdir (tstbase 1.0 <1>)
setdir (tstbase 1.0 <2>)
inst (tstkp03 1.0 <3>)
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

removeProcFromPG—プロシージャ グループからのプロシージャの除去

このアクションでは、プロシージャ グループからプロシージャを除去します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swLibrary action=removeProcFromPG name=procedure_group_name
      procedure=procedure_name
      item=item_name
      version=item_version
```


item

プロシージャが存在する項目の名前を指定します。

name

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャ グループの名前を指定します。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャの名前を指定します。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョンを指定します。

注：この機能では、プロシージャ グループからのプロシージャのリンク解除のみが行われます。項目からプロシージャを除去することも、該当するプロシージャ グループに含まれていない限り、ほかのプロシージャおよびソフトウェア グループに影響を与えることもありません。

repositionItem—プロシージャ グループの再配置項目

このアクションでは、プロシージャ グループの要素に新しい順序番号を割り当てることによって、プロシージャ グループを並べ替えます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swlibrary action=repositionItem name=procedure_group_name  
  procedure=procedure_name  
  item=item_name  
  version=item_version  
  position=new_position
```

item

プロシージャが存在する項目の名前を指定します。

name

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャ グループの名前を指定します。

position

プロシージャの新しい位置を指定します。

位置は 0 よりも大きく、プロシージャ グループ内のプロシージャ数を超えない値である必要があります。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャの名前 を指定します。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョンを指定します。

製品の管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[archive—ソフトウェア ライブラリの製品のアーカイブ](#) (P. 402)

[export—製品のエクスポート](#) (P. 403)

[list — ソフトウェア ライブラリ内の製品のリスト](#) (P. 404)

[ListFailedJobs—失敗したジョブのリスト](#) (P. 406)

[listJobs—ジョブの一覧表示](#) (P. 411)

[restore—アーカイブから製品のリストア](#) (P. 416)

[sealItem—製品の封印](#) (P. 416)

archive—ソフトウェア ライブラリの製品のアーカイブ

このアクションでは、指定した場所で指定の製品をアーカイブします。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swlibrary action=archive
  item=item_name
  version=item_version
  path=path_name
  [purge]
  [onserver]
  [comment=comment]
```

comment

アクションのコメント（オプションパラメータ）です。

item

以下を指定します： 製品の名前 を指定します。

onserver

コーディングされている場合は、インストール先はサーバで決定され、その他の場合は決定されません。

path

保留中のインストールがキャンセルされる 空のディレクトリの名前を指定します。

purge

製品がすでにアーカイブされている場合は、製品ファイルはソフトウェア ライブラリから削除されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 製品のバージョン を指定します。

export—製品のエクスポート

このアクションでは、指定した製品を指定の場所へエクスポートします。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swlibrary action=export
  item=item_name
  version=item_version
  path=path_name
  [onserver]
  [as_image]
```

as_image

コーディングされている場合は、ソフトウェアは、ソフトウェア管理インストーラが CD からパッケージを取得するのに使用できるライブラリ イメージにエクスポートされます。

item

エクスポートする製品の名前を指定します。

version

エクスポートする製品のバージョンを指定します。

path

エクスポートされた製品が格納されるインストール先を指定します。ディレクトリは空にする必要があります。

onserver

コーディングされている場合は、インストール先はマネージャで決定され、その他の場合は決定されません。

list – ソフトウェア ライブラリ内の製品のリスト

このアクションでは、ソフトウェア ライブラリの製品の一覧が表示されます。追加フィルタを指定して、フィルタ条件を満たす製品のみにリストを制限することができます。フィルタが指定されていない場合、製品の全リストが表示されます。フィルタは 100 バイトに制限されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swlibrary action=list [{filter="filter" | filterfile=filename }]
```

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式、この場合は、表示する製品を指定します。

また、このリスト アクションにより表示される属性も使用できます。

注： 以下のフィルタのいずれかを指定して、仮想または通常のソフトウェア パッケージのリストを表示できます。

フィルタ = "Package format=Virtual"

フィルタ = "Package format=Regular"

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

例：

ソフトウェア ライブラリの製品のリストを表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd swlibrary action=list
```

次の情報が表示されます。

```
-----  
ライブラリ項目のリスト  
-----
```

```
項目名.....: tstool_1  
..項目バージョン.....: 1.0  
..項目タイプ.....: SOFTWARE  
..パッケージ タイプ.....: Generic  
..パッケージ形式...: Regular  
..パッケージ サイズ.....: 90  
..項目を基準.....:  
..バージョンを基準.....:  
..作成日.....: 2009-09-25  
..作成時間.....: 11:39  
..変更日.....: 2009-09-25  
..変更時間.....: 11:41  
..チェックサム有効...: Yes
```

```
.....  
項目名.....: tstool_1  
..項目バージョン.....: 1.1  
..項目タイプ.....: SOFTWARE  
..パッケージ タイプ.....: Generic  
..パッケージ形式...: Regular  
..パッケージ サイズ.....: 70  
..項目を基準.....: tstool_1  
..バージョンを基準.....: 1.0  
..作成日.....: 2009-09-25  
..作成時間.....: 11:41  
..変更日.....: 2009-09-25  
..変更時間.....: 11:45:00  
..チェックサム有効...: Yes
```

```
-----  
項目の合計数: 74
```

```
読み込まれた項目の合計数: 74
```

```
表示された項目の合計数: 74
```

```
SDCMD<A000000>: OK
```

フィルタを使用して、ソフトウェア ライブラリ内で「tst」で始まり、バージョン 1.1 の製品のリストを表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd swlibrary action=list filter="(Item name=tst* && Item version=1.1)"
```

次の情報が表示されます。

ライブラリ項目のリスト

```
項目名.....: tstool_1
..項目バージョン.....: 1.1
..項目タイプ.....: SOFTWARE
..パッケージ タイプ.....: Generic
..パッケージ形式...: Regular
..パッケージ サイズ.....:80
..項目を基準.....: tstool_1
..バージョンを基準.....: 1.0
..作成日.....: 2009-09-25
..作成時間.....: 11:41
..変更日.....: 2009-09-25
..変更時間.....: 11:45:00
..チェックサム有効...: Yes
```

項目の合計数: 74
読み込まれた項目の合計数: 74
表示された項目の合計数 1
SDCMD<A000000>: OK

ListFailedJobs—失敗したジョブのリスト

このアクションでは、失敗したジョブの一覧が表示されます。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swlibrary action=listfailedjobs
  item=item_name
  version=version_name
  {alt |
  procedure=procedure_name
  [{filter=filter|filterfile=file_name}]}
```

alt

項目名およびバージョンにのみ基づく代替リストが提供されます。

このパラメータをコーディングすると、**item** パラメータおよび **version** パラメータの値にデータベース対応のワイルドカードを含めることができるようになります。たとえば、以下のものがあります。

"%"

これは空文字も含め任意の文字列を表します。

" - "

これは任意の 1 文字を表します。

また、Microsoft SQL Server の場合、角かっこ（「[」、「]」）には特別な意味があります。このことは名前をコーディングする際に考慮する必要があります。

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式を指定します。この場合は製品量です。

また、このリスト アクションにより表示される属性も使用できます。

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる 項目プロシージャの名前 を指定します。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

例：

```
C:\>cadsmcmd local mydomain swlibrary action=listfailedjobs item=tstprod version=1.5  
procedure=inst
```

```
CA IT Client Manager r12  
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx  
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード： オフ

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

```
マネージャ： mymanager  
ドメイン： mydomain  
ドメイン タイプ： Domain  
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

ジョブ「tstprod 1.5:inst」のリスト

```
ジョブ名.....: tstprod 1.5:inst  
..ジョブ識別子.....: 19438  
..ジョブ ステータス.....: ERROR  
..ジョブの順序番号.....: 0  
..ジョブ タスク.....: 1 - インストール  
..作成日.....: 2005-02-14  
..作成時間.....: 11:13  
..配信日.....: 2005-02-14  
..配信時間.....: 11:13  
..起動日.....: 2005-02-14  
..起動時間.....: 11:13  
..ターゲット システム.....: ZZZZ01B  
....コンピュータ ジョブ識別子.....: 19470  
....ステータス.....: EXECUTION_ERROR
```



```
....エラー メッセージ.....: 終了コード 2 はエラーの可能性がありますが
....エラーの原因.....: 228001
....完了日.....: 2005-02-14
....完了時間.....: 11:14
ジョブ名.....: tstprod 1.5:inst
..ジョブ識別子.....: 19446
..ジョブ ステータス.....: ERROR
..ジョブの順序番号.....: 2
..ジョブ タスク.....: 1 - インストール
..作成日.....: 2005-03-17
..作成時間.....: 12:23
..配信日.....: 2005-03-17
..配信時間.....: 12:23
..起動日.....: 2005-03-17
..起動時間.....: 12:23
..ターゲット システム.....: ZZZZ01A
....コンピュータ ジョブ識別子.....: 19485
....ステータス.....: EXECUTION_ERROR
....エラー メッセージ.....: 終了コード 2 はエラーの可能性がありますが
....エラーの原因.....: 228001
....完了日.....: 2005-03-17
....完了時間.....: 12:25
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

ジョブの順序番号が 0 の失敗したジョブを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd swlibrary action=listfailedjobs item=tstprod version=1.5 procedure=inst  
filter="Job order number=0"
```

返されるリストは以下のとおりです。

ジョブ「tstprod 1.5:inst」のリスト

```
ジョブ名.....: tstprod 1.5:inst  
..ジョブ識別子.....: 19438  
..ジョブ ステータス.....: ERROR  
..ジョブの順序番号.....: 0  
..ジョブ タスク.....: 1 - インストール  
..作成日.....: 2005-02-14  
..作成時間.....: 11:13  
..配信日.....: 2005-02-14  
..配信時間.....: 11:13  
..起動日.....: 2005-02-14  
..起動時間.....: 11:13  
..ターゲット システム.....: ZZZZ01B  
....コンピュータ ジョブ識別子.....: 19470  
....ステータス.....: EXECUTION_ERROR  
....エラー メッセージ.....: 終了コード 2 はエラーの可能性あります  
....エラーの原因.....: 228001  
....完了日.....: 2005-02-14  
....完了時間.....: 11:14
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

listJobs—ジョブの一覧表示

このアクションでは、項目に関連したジョブの一覧が表示されます。この情報にはまた、ジョブによりアドレスされたコンピュータ、および各コンピュータに対する個々のジョブの結果も表示されます。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swlibrary action=listjobs
  item=item_name
  version=version_name
  {alt |
  procedure=procedure_name
  [{filter=filter|filterfile=file_name}]}
```

alt

項目名およびバージョンにのみ基づく代替リストが提供されます。

項目名およびバージョンにのみ基づく代替リストが提供されます。

このパラメータをコーディングすると、**item** パラメータおよび **version** パラメータの値にデータベース対応のワイルドカードを含めることができるようになります。たとえば、以下のものがあります。

"%"

これは空文字も含め任意の文字列を表します。

" "

これは任意の 1 文字を表します。

また、Microsoft SQL Server の場合、角かっこ（「[」、「]」）には特別な意味があります。このことは名前をコーディングする際に考慮する必要があります。

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式.

また、このリスト アクションにより表示される属性も使用できます。

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる 項目プロシージャの名前 を指定します。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

例：

以下の情報が表示されます。

```
C:\>cadsmcmd local mydomain swlibrary action=listjobs item=tstprod version=1.5  
procedure=inst
```

```
CA IT Client Manager r12  
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx  
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード： オフ

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

マネージャ： mymanager

ドメイン： mydomain

ドメイン タイプ： Domain

サポート： CO CCNF USD OSIM

ジョブ「tstprod 1.5:inst」のリスト

ジョブ名.....: tstprod 1.5:inst
..ジョブ識別子.....: 19438
..ジョブ ステータス.....: ERROR
..ジョブの順序番号.....: 0
..ジョブ タスク.....: 1 - インストール
..作成日.....: 2006-02-14
..作成時間.....: 11:13
..配信日.....: 2006-02-14
..配信時間.....: 11:13
..起動日.....: 2006-02-14
..起動時間.....: 11:13
..ターゲット システム.....: ZZZZ01A
....コンピュータ ジョブ識別子.....: 19472
....ステータス.....: EXECUTION_OK
....エラー メッセージ.....: OK
....エラーの原因.....: 0
....完了日.....: 2006-02-14
....完了時間.....: 11:18:00
..ターゲット システム.....: ZZZZ01B
....コンピュータ ジョブ識別子.....: 19470
....ステータス.....: EXECUTION_ERROR
....エラー

```
....エラー メッセージ.....: 終了コード 2 はエラーの可能性があります
....エラーの原因.....: 228001
....完了日.....: 2006-02-14
....完了時間.....: 11:14
.....
ジョブ名.....: tstprod 1.5:inst
..ジョブ識別子.....: 19454
..ジョブ ステータス.....: OK
..ジョブの順序番号.....: 0
..ジョブ タスク.....: 1 - インストール
..作成日.....: 2006-02-14
..作成時間.....: 11:14:00
..配信日.....: 2006-02-14
..配信時間.....: 11:13
..起動日.....: 2006-02-14
..起動時間.....: 11:14:00
..ターゲット システム.....: YYYY
....コンピュータ ジョブ識別子.....: 19481
....ステータス.....: EXECUTION_OK
....エラー メッセージ.....: OK
....エラーの原因.....: 0
....完了日.....: 2006-02-14
....完了時間.....: 11:18:00
..ターゲット システム.....: XXXX01
....コンピュータ ジョブ識別子.....: 19479

....ステータス.....: EXECUTION_OK
....エラー メッセージ.....: OK
....エラーの原因.....: 0
....完了日.....: 2006-02-14
....完了時間.....: 11:14

SDCMD<A0000000>: OK
```

エラー状態のジョブを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd swlibrary action=listjobs item=tstprod version=1.5 procedure=inst  
filter="Job state=ERROR"
```

返されるリストは以下のとおりです。

ジョブ「tstprod 1.5:inst」のリスト

```
ジョブ名.....: tstprod 1.5:inst  
..ジョブ識別子.....: 19438  
..ジョブ ステータス.....: ERROR  
..ジョブの順序番号.....: 0  
..ジョブ タスク.....: 1 - インストール  
..作成日.....: 2006-02-14  
..作成時間.....: 11:13  
..配信日.....: 2006-02-14  
..配信時間.....: 11:13  
..起動日.....: 2006-02-14  
..起動時間.....: 11:13  
..ターゲット システム.....: ZZZZ01A  
....コンピュータ ジョブ識別子.....: 19472  
....ステータス.....: EXECUTION_OK  
....エラー メッセージ.....: OK  
....エラーの原因.....: 0  
....完了日.....: 2006-02-14  
....完了時間.....: 11:18:00  
..ターゲット システム.....: ZZZZ01B  
....コンピュータ ジョブ識別子.....: 19470  
....ステータス.....: EXECUTION_ERROR  
....エラー  
....エラー メッセージ.....: 終了コード 2 はエラーの可能性がありますが  
....エラーの原因.....: 228001  
....完了日.....: 2006-02-14  
....完了時間.....: 11:14
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

restore—アーカイブから製品のリストア

このアクションでは、指定した製品をソフトウェア ライブラリ内のアーカイブからリストアします。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swlibrary action=restore
  {item=item_name version=item_version
  | path=path_name }
```

item

保留中のインストールがキャンセルされる 製品の名前 を指定します。

path

保留中のインストールがキャンセルされる デスティネーション を指定します。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 製品のバージョン を指定します。

注：製品が名前およびバージョンによって識別されている場合は、アーカイブは製品に格納されているアーカイブ パス情報により決定されます。パス名が指定されている場合は、アーカイブされた製品はそのパスからリストアされ、そこに保存されている情報により識別されます。

sealItem—製品の封印

このアクションでは、指定した製品を封印します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
swlibrary action=sealitem
  item=item_name
  version=item_version
```

item

保留中のインストールがキャンセルされる 製品の名前を指定します。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 製品のバージョンを指定します。

swpolicy—ソフトウェア ポリシー コマンド

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [addItem—封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーへのジョブの追加 \(P. 417\)](#)
- [create—ローカル ソフトウェア ポリシーの作成 \(P. 429\)](#)
- [removeItem—封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーからのジョブの除去 \(P. 439\)](#)
- [listItem—ソフトウェア ポリシーに対して割り当てられたジョブに関する情報の表示 \(P. 440\)](#)
- [modifyItem—封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーのジョブの変更 \(P. 443\)](#)
- [showAttrItem—ソフトウェア ポリシーに対して割り当てられたジョブに関する情報の表示 \(P. 451\)](#)
- [repositionItem—封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーに割り当てられたジョブの並べ替え \(P. 453\)](#)
- [link—コンピュータ グループへのソフトウェア ポリシーのリンク \(P. 454\)](#)
- [unlink—コンピュータ グループからソフトウェア ポリシーをリンク解除 \(P. 457\)](#)
- [seal—ソフトウェア ポリシーの封印解除 \(P. 459\)](#)
- [unseal—ソフトウェア ポリシーの封印解除 \(P. 460\)](#)
- [register—ドメインでのソフトウェア ポリシーの登録 \(P. 461\)](#)
- [deregister—ドメインからソフトウェア ポリシーの登録解除 \(P. 463\)](#)
- [list—ソフトウェア ポリシーの一覧表示 \(P. 465\)](#)
- [modify—封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーの属性の変更 \(P. 467\)](#)
- [showAttr—ソフトウェア ポリシーの属性の一覧表示 \(P. 472\)](#)
- [ソフトウェア ポリシーの削除 \(P. 473\)](#)
- [listViolators—封印解除されたソフトウェア ポリシーの違反者の一覧表示 \(P. 474\)](#)

addItem—封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーへのジョブの追加

このコマンドでは、封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーにジョブを追加します。追加するジョブは、プロシージャまたはソフトウェア グループ別、すべての必要な情報を含むファイルによって、またはコールと共にジョブの情報を渡して、指定できます。ジョブが正常に追加された場合、オプションで、このアクションでポリシーを封印することができます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
swPolicy action=addItem
  name=software_policy_name
  {group=name_of_a_software_or_procedure_group|
  procedures=job_file|
  item=item_name
  version=item_version
  [task={activate | configure | install | uninstall}]
  procedure=procedure_name
  [installedWith=install_procedure_name]
  [after={exacttime | boottime}]
  [reinstall[={y|n}]]
  [preaction={none | reboot | logoff}]
  [postaction={none | reboot | logoff | rebootAtEnd | logoffAtEnd | shutdownAtEnd}]
  [promptUser[={y|n}]]
  [allowCancel[={y|n}]]
  [execTimedOut[={y|n}]]
  [offline[={y|n}]]
  [runAtShutdown[={y|n}]]
  [preventLogon[={y|n}]]
  [triggeredByScalSrv[={y|n}]]
  [globaltime[={y|n}]]
  [calendarname=delivery_calendar_name]
  [noCalendar[={y|n}]]
  [resolveQuery[={y|n}]]
  [stagingServer[={y|n}]]
  [parameters=user_parameters]
  [prompt=d.h]
  [jobTimeout=d.h]
  [repeat[={y|n}]]
  [seal[={y|n}]]
  [userJobMessage]
```

name

ジョブの追加先となるソフトウェア ポリシーの名前。

group

このオプションではソフトウェア グループまたはプロシージャ グループの名前を指定します。グループのメンバは、ソフトウェア ポリシーにジョブを追加するのに使用されます。

- 指定されているグループが「ソフトウェア グループ」の場合：

ポリシーのジョブは、グループ メンバのデフォルト インストール プロシージャ（存在する場合）から、または最初のインストール プロシージャから順番に生成されます。ジョブ オプションはデフォルトから取得されるか、またはプロシージャから継承されます。メンバに対するインストール プロシージャが存在しない場合、そのメンバはスキップされて警告が出されます。

- 指定されているグループが「プロシージャ グループ」の場合：

ポリシーのジョブは、グループのプロシージャから生成されます。ジョブ オプションはデフォルトから取得されるか、またはプロシージャから継承されます。

このオプションがコーディングされていない場合、作成されたソフトウェア ポリシーの生成に対して、どのグループも評価されません。

group オプションは、**procedures** または **item** オプションと一緒にコーディングしないでください。

procedures

このオプションは、ソフトウェア ポリシー用のジョブを生成するためのプロシージャが含まれるファイルの名前を指定します。ポリシーに対して作成および割り当てられるジョブごとに、ファイル内で以下の構文のエントリを作成する必要があります。

```
item=item_name version=item_version
procedure=procedure_name
task={activate | configure | install | uninstall}
[installedWith=install_procedure_name]
[after={exacttime | boottime}]
[reinstall[={y|n}]]
[preaction={none | reboot | logoff}]
[postaction={none | reboot | logoff | rebootAtEnd | logoffAtEnd | shutdownAtEnd}]
[promptUser[={y|n}]]
[allowCancel[={y|n}]]
[execTimeout[={y|n}]]
[offline[={y|n}]]
[runAtShutdown[={y|n}]]
[preventLogon[={y|n}]]
[triggeredByScalSrv[={y|n}]]
[globaltime[={y|n}]]
[calendarname=delivery_calendar_name]
[noCalendar[={y|n}]]
[resolveQuery[={y|n}]]
[stagingServer[={y|n}]]
[parameters=user_parameters]
[prompt=d.h]
[jobTimeout=d.h]
[repeat[={y|n}]]
```

エントリは1行に1つずつ、またエントリが複数の行にまたがることはできません。エントリは先頭が「**item**」、「**version**」、「**procedure**」、「**task**」で開始される必要があります、またこの順番で表示される必要があります。残りのパラメータの順番は、任意です。空白が含まれるパラメータ値は二重引用符 (") で囲む必要があります。パラメータ値に引用符が含まれている場合は、重複させる必要があります。

パラメータの意味については、以下の「説明」を参照してください。

procedures オプションは、「**group**」または「**item**」オプションと一緒にコーディングしないでください。

item

登録されている項目製品の名前を指定します。この項目に対してジョブが生成され、ソフトウェア ポリシーに追加されます。

item オプションは、「**group**」または「**procedures**」オプションと一緒にコーディングしないでください。

version

指定されている項目のバージョンを指定します。これはジョブの生成で使用されます。

task

ソフトウェア ポリシーにジョブを追加するプロシージャのタイプを指定します。有効なタスク タイプは、以下のとおりです。

activate

選択されたプロシージャは、起動プロシージャです。

configure

選択されたプロシージャは、設定プロシージャです。

install

選択されたプロシージャは、インストール プロシージャです。

uninstall

選択されたプロシージャは、アンインストール プロシージャです。

オプションがコーディングされていない場合、「インストール」がデフォルトとなります。

procedure

ソフトウェア ポリシーにジョブを追加するプロシージャを生成するのに使用される項目プロシージャの名前です。

installedWith

これが指定されている場合、指定された項目のインストール プロシージャの名前です。生成されるジョブは、この指定されたプロシージャによってインストールされた項目が実行されるマシンでのみ実行されます。追加されたジョブがインストール ジョブそのものの場合、このパラメータは無視されます。

オプションがコーディングされていない場合、項目をインストールする方法はチェックされません。

after

このオプションは、ターゲット システムでジョブの実行が開始される時間を指定します。有効な値は以下のとおりです。

exacttime

オーダーが期限になるとプロシージャはただちに処理を開始します。

boottime

期限になった後、プロシージャの処理は次の（再）ブート時刻まで遅延されます。

デフォルトは「exacttime」です。

reinstall

「reinstall」または「reinstall=y」がコーディングされている場合、ソフトウェア ポリシーの評価のたびにターゲットで項目が再インストールされます。「reinstall=n」がコーディングされている、またはオプションが指定されていない場合、ターゲットで項目がない場合にのみインストールされます。このオプションは、インストール プロシージャで有効です。他のタイプのプロシージャでは、このオプションは無視されます。

preaction={none | reboot | logoff}

ターゲット コンピュータで関連ジョブが処理される前に実行する必要がある、任意のアクションを指定します。有効なプレアクションは、以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

ジョブを実行する前にシステムを再起動します。

logoff

ジョブを実行する前にユーザをログオフします。

このオプションがコーディングされていない場合、デフォルト値が項目プロシージャのオプションによって指定されます。

postaction={none | reboot | logoff | rebootAtEnd | logoffAtEnd | shutdownAtEnd}

ターゲット コンピュータで関連ジョブが処理された後に実行する必要がある、任意のアクションを指定します。有効なポストアクションは以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

ジョブの実行後にシステムを再起動します。

logoff

ジョブを実行した後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

ジョブ処理の終了後に、ジョブの再起動が必要であることを指定します。ただし、同じくソフトウェア ポリシーの評価によって起動されたすべてのジョブの処理が完了するまで、あるいは後続のジョブで処理の前後にただちに再起動が必要になるまで、再起動を遅延させることができます。

logoffAtEnd

ジョブ処理後に、ジョブでユーザのログオフが必要になることを指定します。ただし、同じくソフトウェア ポリシーの評価によって起動されたすべてのジョブの処理が完了するまで、あるいは後続のジョブで処理の前後にただちに再起動が必要になるまで、ログオフを遅延させることができます。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

このオプションがコーディングされていない場合、デフォルト値が項目プロシージャのオプションによって指定されます。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」が指定されている場合、ジョブを実行する前にターゲットのユーザにはプロンプトが表示されます。「prompt=n」が指定されている場合、ユーザにプロンプトが表示されないでジョブが実行されます。

このオプションがコーディングされていない場合、デフォルトは項目プロシージャのオプションによって指定されます。

`allowCancel`

「`allowCancel`」または「`allowCancel=y`」が指定されている場合、ターゲットのユーザは実行のプロンプトが表示されたときに、ジョブの実行を取り消すことができます。「`allowCancel=n`」が指定されている場合、ユーザはジョブを取り消すことはできません。

取り消すことができるようにするには、プロンプトの表示を許可しておく必要があります。許可しておかないと、エラーが表示されます。

このオプションがコーディングされていない場合、デフォルトは項目プロシージャのオプションによって指定されます。

`execTimedOut`

「`execTimedOut`」または「`execTimedOut=y`」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的にジョブの処理が始まります。「`execTimedOut=n`」を指定した場合は、ジョブはタイムアウト時には開始されません。

タイムアウト時の開始を有効にするには、プロンプトを許可しておく必要があります。そうでないと、エラーが表示されます。

このオプションがコーディングされていない場合、デフォルトは項目プロシージャのオプションによって指定されます。

`offline`

「`offline`」または「`offline=y`」をコーディングすると、ターゲットコンピュータと関連付けられたサーバ間の接続がジョブの実行のために解放され、「`offline=n`」をコーディングすると接続は開放されません。

このオプションがコーディングされていない場合、デフォルトは項目プロシージャのオプションによって指定されます。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

このオプションがコーディングされていない場合、デフォルトは項目プロシージャのオプションによって指定されます。

これは、UNIX のみに適用されます。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はターゲットでのユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザがすでにログインしようとして、実行中にログインしようと、ジョブの処理には関係ありません。

このオプションがコーディングされていない場合、デフォルトは項目プロシージャのオプションによって指定されます。

このオプションは Windows ターゲットにのみ適用されます。

triggeredByScalSrv

「triggeredByScalSrv」または「triggeredByScalSrv=y」をコーディングすると、ターゲットに関連付けられたスケーラビリティ サーバはジョブの実行を開始します。「triggeredByScalSrv=n」をコーディングすると、ターゲットでは再起動または jobCheck 時に実行を開始します。

デフォルトは「triggeredByScalSrv」です。

globaltime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、ジョブに関連付けられたすべての日付がエンタープライズ マネージャ 時間に基づいたものになります。コーディングしない場合、日付はドメイン マネージャ 時間に基づいたものになります。

デフォルトは「globaltime=n」です。

calendarname

スケーラビリティ サーバおよびターゲットへのジョブの配信を担当するカレンダーの名前を指定します。

noCalendar

「noCalendar」または「noCalendar=y」をコーディングすると、ターゲットコンピュータに接続されているカレンダーの実行は、ジョブの処理に対して無視されます。「noCalendar=n」をコーディングすると、カレンダーは無視されません。

デフォルトは「noCalendar=n」です。

resolveQuery

「resolveQuery」または「resolveQuery=y」をコーディングし、ソフトウェアテンプレートに関連付けられているグループがクエリグループの場合、ジョブ作成の前にこのグループは再評価されます。それ以外の場合、再評価は実行されません。

デフォルトは「resolveQuery=n」です。

stagingserver

「stagingserver」または「stagingserver=y」をコーディングすると、関連する項目は、アドレス指定されたターゲットに関連付けられているスケーラビリティサーバでステージされます。それ以外の場合はステージされません。プロシージャがインストールプロシージャでない場合、このオプションは無視されます。このオプションが指定されていない、または「stagingserver=n」をコーディングすると、ステージングステップはスキップされます。

デフォルトは「stagingserver=n」です。

parameter

ジョブのプロシージャに渡されるパラメータを指定します。空の文字列をコーディングすると、パラメータの指定はなしと見なされます。

コーディングしないと、項目プロシージャのオプションからユーザパラメータが取得されます。

prompt

ユーザがジョブの実行を延期した場合、ユーザにジョブ開始の再確認を求める期間を指定します。期間のフォーマットは「d.h」の形式で指定されます。ここで、dには日数、hには時間数が指定されます。範囲は $0.3 \leq d.h \leq 7.0$ となります。

指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定され、指定した値が上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。その場合、警告は出されません。

jobTimeout

期間で表したジョブの失効日を指定します。期間の形式は「d.h」です。d は日、h は時間です。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。

指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定され、指定した値が上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。その場合、警告は出されません。指定されていない場合は、7.0 がデフォルトで設定されます。

repeat

「repeat」または「repeat=y」をコーディングすると、評価が実行されるたびに関連するジョブが繰り返されます。「repeat=n」をコーディングした場合は、関連するジョブは繰り返されません。

デフォルトは「repeat=n」です。

seal

「seal」または「seal=y」をコーディングすると、ジョブが追加された後でポリシーは封印されます。コーディングされていない場合は、さらに変更を行うため封印解除されたままです。封印は、必要なジョブがすべて正しく生成および追加され、いずれのジョブでもエラーが発生しなかった場合にのみ実行されます。生成されたジョブの警告によって封印できなくなることはありません。

デフォルトは「seal=n」。

userJobMessage

ソフトウェア ポリシー内のジョブ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

注：追加されたジョブがグループまたはプロシージャ ファイルによって指定されたものである場合、ジョブの生成中に検出されたエラーは関連するジョブに報告され、処理は次のジョブの生成へと続行されます。ロールバックは実行されません。

create—ローカル ソフトウェア ポリシーの作成

このコマンドでは、指定されたオプションに基づいてローカル ソフトウェア ポリシーを作成します。オプションで、ソフトウェア ポリシーをローカルまたはグローバル コンピュータ グループにリンクし、作成段階でそれらのポリシーにジョブをロードすることができます。ポリシーを正常にリンクしてロードできれば、それを封印することもできます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
swPolicy action=create
  name=software_policy_name
  [target=computer_group_name
  [groupScope={local|global}]]
  [seal[={y|n}]]
  [{group=name_of_a_software_or_procedure_group|
  procedures=job_file}]
  [jcPriority=1...10]
  [{transaction|synchronized|nolinkage}]
  [rollback[={y|n}]]
  [cascade[={y|n}]]
  [{setup_jobs|setup&activate_jobs}]
  [regenerate[={y|n}]]
  [evaluateGroup[={y|n}]]
  [evaluationStart=YYYY-MM-DD hh:mm]
  [globalTime[={y|n}]]
  [evaluationPeriod=hours]
  [calendarname=calendar_name]
  [{adhoc_only|adhoc_always}]
  [comment=comment_on_software_policy]
  [userMessage]
```

name

このオプションを使用して、作成されたソフトウェア ポリシーの名前を指定できます。この名前は一意である必要があります。

target

このオプションで指定される名前は、ソフトウェア ポリシーのリンク先となるコンピュータ グループの名前です。コンピュータ グループはすでに存在している必要があります。グループは、エンタープライズ マネージャではグローバル グループ、ドメイン マネージャではローカル グループまたはグローバル グループのどちらでもかまいません。.

このオプションをコーディングしないと、作成されたソフトウェア ポリシーはどのコンピュータ グループにもリンクされません。

groupScope

ソフトウェア ポリシーがリンクされるコンピュータ グループのタイプを決めます。

⌘ not set ♪

指定された名前のローカル コンピュータ グループが存在する場合は、これが使用されます。存在しない場合は、グローバル コンピュータ グループを探します。

local

コンピュータ グループはローカル グループである必要があります。

global

コンピュータ グループはグローバル グループである必要があります。

seal

「**seal**」または「**seal=y**」をコーディングすると、作成されたポリシーは封印されます。コーディングされていない場合は、さらに変更を行うため封印解除されたままです。

seal オプションは、作成ジョブによってポリシーが正しくリンクおよび生成された場合にのみ許可され、リンクと作成が正しく完了した場合にのみ処理されます。

group

このオプションではソフトウェア グループまたはプロシージャ グループの名前を指定します。グループのメンバは、ジョブを使用しての作成処理の際に、ソフトウェア ポリシーを生成するのに使用されます。

- 指定されているグループが「ソフトウェア グループ」の場合：

ポリシーのジョブは、グループ メンバのデフォルト インストール プロシージャ（存在する場合）から、または最初のインストール プロシージャから順番に生成されます。ジョブ オプションはデフォルトから取得されるか、またはプロシージャから継承されます。

- 指定されているグループが「プロシージャ グループ」の場合：

ポリシーのジョブは、グループのプロシージャから生成されます。ジョブ オプションはデフォルトから取得されるか、またはプロシージャから継承されます。

このオプションがコーディングされていない場合、作成されたソフトウェア ポリシーの生成に対して、どのグループも評価されません。

group オプションは、**procedures** オプションと一緒にコーディングしないでください。

procedures

このオプションは、ソフトウェア ポリシー用のジョブを生成するための情報が含まれるファイルの名前を指定します。ポリシーに対して生成および割り当てられるジョブごとに、ファイル内で以下の構文のエントリを作成する必要があります。

```
item=item_name version=item_version
procedure=procedure_name
task={activate | configure | install | uninstall}
[installedWith=install_procedure_name]
[after={exacttime | boottime}]
[reinstall={y|n}]
[preaction={none | reboot | logoff}]
[postaction={none | reboot | logoff | rebootAtEnd | logoffAtEnd | shutdownAtEnd}]
[promptUser={y|n}]
[allowCancel={y|n}]
[execTimedOut={y|n}]
[offline={y|n}]
[runAtShutdown={y|n}]
[preventLogon={y|n}]
[triggeredByScalSrv={y|n}]
[globaltime={y|n}]
[calendarname=delivery_calendar_name]
[noCalendar={y|n}]
[resolveQuery={y|n}]
[stagingServer={y|n}]
[parameters=user_parameters]
[prompt=d.h]
[jobTimeout=d.h]
[repeat={y|n}]
```

エントリは1行に1つずつ、またエントリが複数の行にまたがることはできません。エントリは先頭が「item」、「version」、「procedure」、「task」で開始される必要があります、またこの順番で表示される必要があります。残りのパラメータの順番は、任意です。空白が含まれるパラメータ値は二重引用符 (") で囲む必要があります。パラメータ値に引用符が含まれている場合は、重複させる必要があります。

パラメータの意味については、「[cadsmcmd swPolicy action=addItem \(P. 417\)](#)」を参照してください。

procedures オプションは、「group」オプションと一緒にコーディングしないでください。

jcPriority

このオプションは、SD オーダを起動するためのジョブ コンテナを作成するポリシーで使用される、ジョブ コンテナの優先度を指定します。有効な優先度の値は、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10 のいずれかです。10 は最も優先度が低く、1 は最も高くなります。オプションをコーディングしないと、優先度は 5 に設定されます。

{transaction|synchronized|nolinkage}

このオプションは、SD オーダを起動するポリシーによって作成されるジョブ コンテナ内のジョブ リンクを指定します。

≪コーディングなし≫

オーダー間の関連はありません。

transaction

トランザクションなしでのバッチ ジョブの実行。

synchronized

同期化されたジョブの実行。

nolinkage

オーダー間の関連はありません。

rollback

「rollback」または「rollback=y」オプションをコーディングすると、ジョブ リンクは「トランザクションの有効化」に設定されます。

「rollback=n」オプションをコーディングすると、「トランザクションの有効化」は設定されません。

デフォルトは「rollback=n」です。

このコマンドで「transaction」パラメータがコーディングされている場合にのみ、パラメータをコーディングする場合にのみ、パラメータをコーディングできます。

cascade

「**cascade**」または「**cascade=y**」をコーディングすると、SDによってカスケード済みインストールリクエストの依存関係が解決され、見つからないインストールのオーダは自動的に追加されます。オプションを「**cascade=n**」にコーディングすると、依存関係は解決されません。デフォルトは「**cascade**」です。

{setup_jobs|setup&activate_jobs}

このオプションは、ポリシーの評価の結果を進めます。

<<コーディングなし>>

SDは、ポリシーを評価する際に適合性のみを確認し、適合しないターゲットを報告します。しかし、適合しないターゲットを適用するよう変換するためのジョブは生成されません。

setup_jobs

評価の結果、SDはすべての適合しないターゲットを適用するよう変換するためのジョブを生成しますが、これらのジョブは実行するために起動されはしません。実行はユーザに委任されます。

setup&activate_jobs

評価の結果、SDはすべての適合しないターゲットを適用するよう変換するためのジョブを生成し、これらのジョブを実行するために起動します。

regenerate

「regenerate」または「regenerate=y」のオプションをコーディングすると、前に失敗してまだ完了していないすべてのジョブの実行が、適合性を得るために再スケジュールされます。「regenerate=n」オプションをコーディングすると、この再スケジュールはスキップされます。

デフォルトは「regenerate」です。

evaluateGroup

「evaluateGroup」または「evaluateGroup=y」をコーディングすると、クエリグループがポリシーに関連付けられている場合、ポリシーの評価中にこのグループも再評価されます。「evaluationGroup=n」をコーディングすると、グループのこの再評価は実行されません。

デフォルトは「evaluationGroup=n」です。

evaluationStart

このオプションは、ポリシーの評価が開始される、もっと早い開始ポイントを指定します。値は、ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定されます。ここで **where** YYYY は年、MM は月、DD は日付、hh は時間、mm は分を表します。このオプションがコーディングされていない場合は、現在の時間が使用されます。

globalTime

このオプションは、ポリシーの時間指定がエンタープライズ時間またはドメイン時間のどちらに基づくかを指定します。このオプションをコーディングすると、時間はエンタープライズに基づきます。コーディングしないと、ドメイン時間になります。

evaluationPeriod

このオプションは、ポリシーの評価が実行される期間を指定します。値は、時間単位で指定します。0 を指定すると、評価は一度のみ実行されます。

calendarname

このオプションは、ポリシーのアクションを実行する時間をスケジュールするために SD で使用されるカレンダーの名前を指定します。

{adhoc_only|adhoc_always}

このオプションは、ターゲットでインベントリが報告されるときに SD でこのポリシーを評価するかどうかおよび処理のモードを指定します。

<<コーディングなし>>

ポリシーの評価は、いずれのターゲットのインベントリ レポートによっても開始されません。

adhoc_only

評価は、新規または再インストールされたターゲットのインベントリ レポートによって開始されます。

ad_hoc_always

評価は、ターゲットの任意のインベントリ レポートによって開始されます。

comment

このオプションは、ポリシーと一緒に保存されるコメントを指定します。

userMessage

ソフトウェア ポリシー用のカスタム管理者メッセージを指定します。

注： 以下を考慮する必要があります。

- リンク中、または封印フェーズでエラーが検出された場合、それ以降の処理が停止され、エラーが報告されます。 ロールバックは実行されず、ポリシーは障害が発生したときのままの状態に残ります。
- ポリシーへのフィード中にエラーが検出された場合、関連するジョブのエラーが報告されますが、フィードは続行され、必要な封印処理のみが行われません。

removeItem—封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーからのジョブの除去

このアクションは、封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーからジョブを除去します。除去されるジョブは、コマンドによって直接渡されるか、あるいはプロシージャまたはソフトウェア グループによって指定されます。ポリシーが正しく除去された場合、オプションで封印することができます。

アクション の構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=removeItem
  name=«software_policy_name»
  {group=«name_of_a_software_or_procedure_group»|
  {jobNames=«job_name», ...}}
  [seal[={y|n}]]
```

name

指定されたジョブが除去されるソフトウェア ポリシーの名前。

group

このオプションではソフトウェア グループまたはプロシージャ グループの名前を指定します。グループのメンバは、ソフトウェア ポリシーから除去するジョブを判別するのに使用されます。

- 指定されているグループが「ソフトウェア グループ」の場合：

ポリシーから除去されるジョブは、グループのメンバおよび関連付けられたデフォルトのインストールプロシージャによって判別されます。メンバがデフォルトのインストール グループを持っていない場合、順番の最初のインストール プロシージャが使用されます。インストール パラメータが何も指定されていないメンバが存在する場合、そのメンバはスキップされ、警告が出されます。

- 指定されているグループが「プロシージャ グループ」の場合：

ポリシーから除去されるジョブは、グループのプロシージャ によって判別されます。

除去されるジョブがポリシーに割り当てられていない場合、このジョブに対してエラーが出され、アクションは次のジョブを続行します。

このオプションがコーディングされていない場合、ソフトウェア グループからジョブを削除するためにどのグループも評価されません。

group オプションは、「**jobNames**」 オプションと一緒にコーディングしないでください。

jobNames

ソフトウェア ポリシーから除去されるジョブの名前を指定します。いくつかのジョブ名をまとめて渡すために、オプションを 1 回以上コーディングすることができます

リストでポリシーに割り当てられていないジョブが指定された場合、エラーが出され、アクションはリストの次のジョブを実行します。

jobNames オプションは、「**group**」オプションと一緒にコーディングしないでください。

seal

「**seal**」または「**seal=y**」をコーディングすると、ジョブが除去された後でポリシーは封印されます。コーディングされていない場合は、さらに変更を行うため封印解除されたままです。封印は、必要なジョブがすべて正しく除去され、これらのいずれのジョブでもエラーが発生しなかった場合にのみ実行されます。生成されたジョブの警告によって封印できなくなることはありません。

ポリシーのジョブ割り当てが、このアクションによって空になった場合も封印は中止されます。

listItem—ソフトウェア ポリシーに対して割り当てられたジョブに関する情報の表示

このアクションは、指定されたソフトウェア ポリシーに割り当てられたジョブに関する情報を提供します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=listItem
  name=software_policy_name
  [swpScope={distributed | local}]
  [detailed]
```

name

ジョブのリストを表示するソフトウェア ポリシーの名前。

swpScope

このオプションにより、アクションに関するソフトウェア ポリシーの種類が決まります。

＜＜コーディングなし＞＞

ローカルで作成された必要な名前のソフトウェア ポリシーがある場合、このポリシーが使用されます。存在しない場合は、エンタープライズ マネージャから配布されたポリシーを探します。後者は、ドメイン マネージャのみです。

distributed

指定するソフトウェア ポリシーはエンタープライズ マネージャで作成され、宛先のマネージャに配信されたポリシーである必要があります。
(ドメイン マネージャのみ)

local

指定するソフトウェア ポリシーはローカルで作成されたポリシーである必要があります。

注：エンタープライズ マネージャでは、すべてのソフトウェア ポリシーのタイプがローカルである必要があります。

detailed

これをコーディングする場合、詳細なリストが提供されます。それ以外の場合は、割り当てられたジョブの名前だけが一覧表示されます。

提供される簡潔な一覧のフォーマットは、以下のとおりです。

```
-----  
List Jobs Assigned To Software Policy «software policy name»  
短整数型  
-----
```

```
«name of job 1»  
  •  
  •  
  •  
«name of job n»
```

詳細な一覧のフォーマットは、以下のとおりです。

```
-----  
List Jobs Assigned To Software Policy «software policy name»  
Detailed  
-----
```

```
Job name: «name of job 1»  
..Item name      : «name of item»  
..Item version   : «version of item»  
..Procedure name : «procedure name»  
..Job task       : {configure|activate|  
install|uninstall}  
..Position       : «position of the job»  
..Reinstall required : {yes|no}  
..Preaction      : {none|reboot|logoff}  
..Postaction     : {none|reboot|logoff|  
rebootAtEnd|logoffAtEnd}  
..Prompt user    : {yes|no}  
...Allow cancel : {yes|no}  
...Execute jobs if prompt times out : {yes|no}  
...Prompt during (days/hours) : d/h  
..Run offline from server : {yes|no}  
..Run at shutdown : {yes|no}  
..Prevent user login : {yes|no}  
..Job startup      : {local|global} time/{exact|at boot}  
..Delivery calendar : «delivery calendar name»  
..Ignore job calendars at target : {yes|no}
```

```

..Resolve query groups : {yes|no}
..Stage item : {yes|no}
..User parameters : «user parameters»
..Job time out (days/hours) : d/h
Job name: «name of job 2»
.
.
.
Job name: «name of job 2»

```

modifyItem—封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーのジョブの変更

このコマンドでは、封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーのジョブを変更します。 オプションで、このコマンドでポリシーを封印できます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```

swPolicyaction=modifyItem
  name=software_policy_name
  jobname=name_of_job
  [newjobname=new_job_name]
  [after={exacttime | boottime}]
  [reinstall[={y|n}]]
  [preaction={none | reboot | logoff}]
  [postaction={none | reboot | logoff | rebootAtEnd | logoffAtEnd | shutdownAtEnd}]
  [promptUser[={y|n}]]
  [allowCancel[={y|n}]]
  [execTimedOut[={y|n}]]
  [offline[={y|n}]]
  [runAtShutdown[={y|n}]]
  [preventLogon[={y|n}]]
  [triggeredByScalSrv[={y|n}]]
  [globaltime[={y|n}]]
  [calendarname=delivery_calendar_name]
  [noCalendar[={y|n}]]
  [resolveQuery[={y|n}]]
  [stagingServer[={y|n}]]
  [parameters=user_parameters]
  [prompt=d.h]
  [jobTimeout=d.h]
  [repeat[={y|n}]]
  [seal[={y|n}]]
  [userJobMessage]

```

name

変更するジョブが含まれているソフトウェア ポリシーの名前。

jobname

変更されるジョブの名前。

newjobname

ジョブの新しい名前。これをコーディングしないと、古い名前のままとなります。

after

このオプションは、ターゲット システムでジョブの実行が開始される時間を指定します。有効な値は以下のとおりです。

exacttime

オーダーが期限になるとジョブはただちに処理を開始します。

boottime

期限になった後、ジョブの処理は次の（再）ブート時刻まで遅延されます。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

reinstall

「reinstall」または「reinstall=y」がコーディングされている場合、ソフトウェア ポリシーの評価のたびにターゲットで項目が再インストールされます。「reinstall=n」がコーディングされている場合、ターゲットで項目がない場合にのみインストールされます。このオプションは、インストール プロシージャでのみ有効です。他のタイプのプロシージャでは、このオプションは無視されます。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

preaction={none | reboot | logoff}

ターゲット コンピュータで関連ジョブが処理される前に実行する必要がある、任意のアクションを指定します。有効なプレアクションは、以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

ジョブを実行する前にシステムを再起動します。

logoff

ジョブを実行する前にユーザをログオフします。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

postaction={none | reboot | logoff | rebootAtEnd | logoffAtEnd | shutdownAtEnd}}

ターゲット コンピュータで関連ジョブが処理された後に実行する必要がある、任意のアクションを指定します。有効なポストアクションは以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

ジョブの実行後にシステムを再起動します。

logoff

ジョブを実行した後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

ジョブ処理の終了後に、ジョブの再起動が必要であることを指定します。ただし、同じくソフトウェア ポリシーの評価によって起動されたすべてのジョブの処理が完了するまで、あるいは後続のジョブで処理の前または後でただちに再起動を必要するまで、再起動を遅延させることができます。

logoffAtEnd

ジョブ処理の終了後に、ジョブの再起動が必要であることを指定します。ただし、同じくソフトウェア ポリシーの評価によって起動されたすべてのジョブの処理が完了するまで、あるいは後続のジョブで処理の前または後でただちに再起動またはログオフを必要とするまで、ログオフを遅延させることができます。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」が指定されている場合、ジョブを実行する前にターゲットのユーザにはプロンプトが表示されます。「promptUser=n」が指定されている場合、ユーザにプロンプトが表示されないでジョブが実行されます。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

allowCancel

「allowCancel」または「allowCancel=y」が指定されている場合、ターゲットのユーザは実行のプロンプトが表示されたときに、ジョブの実行を取り消すことができます。「allowCancel=n」が指定されている場合、ユーザはジョブを取り消すことはできません。

取り消すことができるようにするには、プロンプトの表示を許可しておく必要があります。そうでないと、エラーが表示されます。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

execTimedOut

「execTimedOut」または「execTimedOut=y」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的にジョブの処理が始まります。「execTimedOut=n」を指定した場合は、プロセスはタイムアウト時には開始されません。

タイムアウト時の開始を有効にするには、プロンプトを許可しておく必要があります。そうでないと、エラーが表示されます。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

offline

「offline」または「offline=y」をコーディングすると、ターゲットコンピュータと関連付けられたサーバ間の接続がジョブの実行のために解放され、「offline=n」をコーディングすると接続は開放されません。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

これは、UNIX のみに適用されます。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はターゲットでのユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザがすでにログインしようとして、実行中にログインしようと、ジョブの処理には関係ありません。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

このオプションは Windows ターゲットにのみ適用されます。

triggeredByScalSrv

「triggeredByScalSrv」または「triggeredByScalSrv=y」をコーディングすると、ターゲットに関連付けられたスケーラビリティ サーバはジョブの実行を開始します。「triggeredByScalSrv=n」をコーディングすると、ターゲットでは再起動または jobCheck 時に実行を開始します。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

globaltime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、ジョブに関連付けられたすべての日付がエンタープライズ マネージャ 時間に基づいたものになります。「globaltime=n」をコーディングすると、日付はドメイン マネージャ 時間に基づいたものになります。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

calendarname

スケーラビリティ サーバおよびターゲットへのジョブの配信を担当するカレンダーの名前を指定します。空の文字列 ("") をコーディングすると、配信カレンダーのエントリは空になります。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

noCalendar

「noCalendar」または「noCalendar=y」をコーディングすると、ターゲットコンピュータに接続されているカレンダーの実行は、ジョブの処理に対して無視されます。「noCalendar=n」をコーディングすると、カレンダーは無視されません。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

resolveQuery

「resolveQuery」または「resolveQuery=y」をコーディングし、ソフトウェアテンプレートに関連付けられているグループがクエリグループの場合、ジョブ作成の前にこのグループは再評価されます。

「resolveQuery=n」をコーディングすると、再評価は実行されません。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

stagingserver

「stagingserver」または「stagingserver=y」をコーディングすると、関連する項目はターゲットに関連付けられているスケーラビリティサーバでステージされます。それ以外の場合はステージされません。ジョブがインストールジョブでない場合、このオプションは無視されます。「stagingserver=n」をコーディングすると、ステージングステップはスキップされます。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

parameter

Specifies the parameters that are passed to the job procedure. 空の文字列(“”)をコーディングすると、渡すパラメータはないと見なされます。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

prompt

ユーザがジョブの実行を延期した場合、ユーザにジョブプロシージャ開始の再確認を求める期間を指定します。期間のフォーマットは「d.h」の形式で指定されます。ここで、dには日数、hには時間数が指定されます。範囲は $0.3 \leq d.h \leq 7.0$ となります。

指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定され、指定した値が上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。その場合、警告は出されません。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

jobTimeout

期間で表したプロシージャの失効日を指定します。期間の形式は「d.h」です。d は日、h は時間です。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。

指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定され、指定した値が上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。その場合、警告は出されません。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

repeat

「repeat」または「repeat=y」をコーディングすると、評価が実行されるたびに関連するジョブが繰り返されます。「repeat=n」をコーディングした場合は、関連するジョブは繰り返されません。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

seal

「seal」または「seal=y」をコーディングすると、変更が完了した後でポリシーは封印されます。コーディングされていない場合は、さらに変更を行うため封印解除されたままです。封印は変更が正しく完了され、エラーが何も報告されなかった場合にのみ実行されます。警告によって封印できなくなることはありません。

これをコーディングしないと、このオプションは変更されません。

userJobMessage

ソフトウェア ポリシー内のジョブ用のカスタム管理者メッセージを変更します。

showAttrItem—ソフトウェア ポリシーに対して割り当てられたジョブに関する情報の表示

このアクションは、指定されたソフトウェア ポリシーに割り当てられた指定のジョブに関する情報を提供します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=showAttrItem
  name=software_policy_name
  [swpScope={distributed | local}]
  jobname=job_name
```

name

表示されるジョブが配置されているソフトウェア ポリシーの名前。

swpScope

このオプションにより、アクションに関係するソフトウェア ポリシーの種類が決まります。

≪コーディングなし≫

ローカルで作成された必要な名前のソフトウェア ポリシーがある場合、このポリシーが使用されます。存在しない場合は、エンタープライズ マネージャから配布されたポリシーを探します。後者は、ドメイン マネージャのみです。

distributed

指定するソフトウェア ポリシーはエンタープライズ マネージャで作成され、宛先のマネージャに配信されたポリシーである必要があります。

local

指定するソフトウェア ポリシーはローカルで作成されたポリシーである必要があります。

注：エンタープライズ マネージャでは、すべてのソフトウェア ポリシーのタイプがローカルである必要があります。

jobname

一覧表示されるジョブの名前

一覧表示される情報のフォーマットは、以下のとおりです。

```
-----  
Show Jobs «job name» of Software Policy «software policy name»  
-----
```

```
Item name      : «name of item»  
Item version   : «version of item»  
Procedure name : «procedure name»  
Job task: {configure|activate|  
install|uninstall}  
Position: «position of the job»  
Reinstall required : {yes|no}  
Preaction       : {none|reboot|logoff}  
Postaction      : {none|reboot|logoff|  
rebootAtEnd|logoffAtEnd}  
Prompt user     : {yes|no}  
..Allow cancel  : {yes|no}  
..Execute jobs if prompt times out : {yes|no}  
..Prompt during (days/hours) : d/h  
Run offline from server : {yes|no}  
Run at shutdown : {yes|no}  
Prevent user login : {yes|no}  
Job startup     : {local|global} time/{exact|at boot}  
Delivery calendar : «delivery calendar name»  
Ignore job calendars at target : {yes|no}  
Resolve query groups : {yes|no}  
Stage item      : {yes|no}  
User parameters : «user parameters»  
Job time out (days/hours) : d/h
```

repositionItem—封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーに割り当てられたジョブの並べ替え

このアクションは、指定された封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーに割り当てられたジョブの並べ替えを許可します。このことは、ターゲットでのジョブの実行順序が変わることを意味します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=repositionItem
  name=software_policy_name
  jobName=name_of_the_job
  position=new_position_of_the_job
  [seal[={y|n}]]
```

name

並べ替えを行うソフトウェア ポリシーの名前。

jobName

再配置されるジョブの名前。

position

ソフトウェア ポリシー内での指定されたジョブの新しい位置。

seal

「seal」または「seal=y」をコーディングすると、再配置が完了した後でポリシーは封印されます。コーディングされていない場合は、さらに変更を行うため封印解除されたままです。封印は再配置が正しく完了され、エラーが何も報告されなかった場合にのみ実行されます。警告によって封印できなくなることはありません。

link-コンピュータ グループへのソフトウェア ポリシーのリンク

このアクションは、ソフトウェア ポリシーを既存のコンピュータ グループにリンクまたは再リンクします。コンピュータ グループは、ローカルであってもグローバルであってもかまいません。ソフトウェア ポリシーは、封印解除されている必要があります。そうでない場合、エラーが発生してアクションは中止されます。ポリシーを再リンクする場合は、呼び出しで「**currentGroup**」オプションまたは「**replace**」オプションをコーディングする必要があります。コーディングしない場合、再リンクは失敗します。

ソフトウェア ポリシーはどんな範囲においても封印解除される必要があります。後者のオプションによってポリシーがリンクされているコンピュータ グループも一時停止されます。

リンク アクションを使用して、オプションでポリシーを封印することができます。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=link
  name=software_policy_name
  [swpScope={distributed | local}]
  group=computer_group_name
  [groupScope={global | local}]
  [{currentGroup=current_computer_group_name
  [currentGroupScope={global | local}]]| replace}]
  [seal[={y|n}]]

name
```

指定されたコンピュータ グループにリンクされるソフトウェア ポリシーの名前。

swpScope

このオプションにより、アクションに関するソフトウェア ポリシーの種類が決まります。

≪コーディングなし≫

ローカルで作成された必要な名前のソフトウェア ポリシーがある場合、このポリシーが使用されます。存在しない場合は、エンタープライズ マネージャから配布されたポリシーを探します。後者は、ドメイン マネージャのみです。

distributed

指定するソフトウェア ポリシーはエンタープライズ マネージャで作成され、宛先のマネージャに配信されたポリシーである必要があります。

local

指定するソフトウェア ポリシーはローカルで作成されたポリシーである必要があります。

注：エンタープライズ マネージャでは、すべてのソフトウェア ポリシーのタイプがローカルである必要があります。

group

このオプションでは、指定したソフトウェア ポリシーが割り当てられる既存のコンピュータ グループの名前を指定します。

groupScope

このオプションでは、ソフトウェア ポリシーが割り当てられるグループのタイプを指定します。

global

コンピュータ グループはエンタープライズ マネージャで作成され、ドメインに複製されることがあります。

local

ドメイン マネージャで作成されたコンピュータ グループ。

エンタープライズ マネージャでは、すべてのコンピュータがグローバルです。

このオプションがコーディングされていない場合、CADSMCMD は最初にグループをローカル グループとして探し、なければグローバル グループを探します。

currentGroup

このオプションでは、すでにソフトウェア ポリシーがリンクしているコンピュータ グループの名前を指定します。このオプションがコーディングされない場合は、現在のグループとソフトウェア ポリシーのリンクは解除され、ソフトウェア ポリシーと新しいターゲット コンピュータ グループのリンクで置き換えられます。

currentGroupScope

このオプションでは、ソフトウェア ポリシーがすでにリンクされているグループのタイプを指定します。

global

コンピュータ グループはエンタープライズ マネージャで作成され、ドメインに複製されることがあります。

local

ドメイン マネージャで作成されたコンピュータ グループ。
エンタープライズ マネージャでは、すべてのコンピュータがグローバルです。

このオプションがコーディングされていない場合、CADSMCMD は最初にグループをローカル グループとして探し、なければグローバル グループを探します。

replace

このオプションが指定された場合、該当のポリシーに他のグループがリンクされているかどうかにかかわらず、指定されたグループは指定されたソフトウェア ポリシーにリンクされます。

seal

「seal」または「seal=y」をコーディングすると、リンクが完了した後でポリシーは封印されます。コーディングされていない場合は、さらに変更を行うため封印解除されたままです。封印はリンクが正しく完了され、エラーが何も報告されなかった場合にのみ実行されます。警告によって封印できなくなることはありません。

注：replace オプションも currentGroup オプションも指定されていない場合、すでにソフトウェア ポリシーにリンクされているグループがあると、エラーが発生してアクションは失敗します。

unlink—コンピュータ グループからソフトウェア ポリシーをリンク解除

このアクションでは、割り当て先のコンピュータ グループからソフトウェア ポリシーをリンク解除します。割り当てられたコンピュータ グループがない場合、コマンドはエラーも警告もレポートしないで正常終了します。ソフトウェア ポリシーは、封印解除されている必要があります。そうでない場合、エラーが発生してアクションは中止されます。

アクション の構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=unlink
  name=software_policy_name
  [swpScope={distributed | local}]
  [group=computer_group_name
  [groupScope={global | local}]]
```

name

割り当てられたコンピュータ グループからリンク解除されるソフトウェア ポリシーの名前。

swpScope

このオプションにより、アクションに関するソフトウェア ポリシーの種類が決まります。

<<コーディングなし>>

ローカルで作成された必要な名前のソフトウェア ポリシーがある場合、このポリシーが使用されます。存在しない場合は、エンタープライズ マネージャから配布されたポリシーを探します。後者は、ドメイン マネージャのみです。

distributed

指定するソフトウェア ポリシーはエンタープライズ マネージャで作成され、宛先のマネージャに配信されたポリシーである必要があります。

local

指定するソフトウェア ポリシーはローカルで作成されたポリシーである必要があります。

エンタープライズ マネージャでは、すべてのソフトウェア ポリシーが「ローカル」である必要があります。

group

このオプションがコーディングされている場合、ソフトウェア ポリシーからリンク解除するコンピュータ グループが、このオプションで指定された名前と同じかどうかを確認されます。名前が一致する場合はアクションは継続しますが、一致しない場合には、エラーが発生してアクションは失敗します。オプションがコーディングされていない場合、このような確認は行われず、リンク解除のアクションが処理されます。

groupScope

このオプションがコーディングされている場合、指定されたソフトウェア ポリシーに関連付けられたグループが、このオプションで指定したグループ タイプであるかどうかを確認されます。タイプが一致する場合はアクションは継続しますが、一致しない場合には、エラーが発生してアクションは失敗します。このオプションをコーディングしない場合、このような確認は実行されません。有効なグループ タイプは、以下のとおりです。

global

コンピュータ グループはエンタープライズ マネージャで作成され、ドメインに複製されることがあります。

local

ドメイン マネージャで作成されたコンピュータ グループ。

このオプションがコーディングされていない場合、CADSMCMD は最初にグループをローカル グループとして探し、なければグローバル グループを探します。

エンタープライズ マネージャでは、すべてのコンピュータがグローバルです。

seal—ソフトウェア ポリシーの封印解除

このアクションでは、ソフトウェア ポリシーを封印します。ドメイン マネージャでポリシーが空であるか、またはコンピュータ グループに割り当てられていない場合、エラーが発生してアクションは失敗します。ただし、エンタープライズ マネージャでは、空でないリンク解除されたポリシーを封印することは許可されます。ソフトウェア ポリシーがすでに封印されている場合、エラーまたは警告は発生せず、アクションは正常に終了します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=seal
  name=software_policy_name
  [swpScope={distributed | local}]
```

name

封印されるソフトウェア ポリシーの名前。

swpScope

このオプションにより、アクションに関するソフトウェア ポリシーの種類が決まります。

≪コーディングなし≫

ローカルで作成された必要な名前のソフトウェア ポリシーがある場合、このポリシーが使用されます。存在しない場合は、エンタープライズ マネージャから配布されたポリシーを探します。後者は、ドメイン マネージャのみです。

distributed

指定するソフトウェア ポリシーはエンタープライズ マネージャで作成され、宛先のマネージャに配信されたポリシーである必要があります。

local

指定するソフトウェア ポリシーはローカルで作成されたポリシーである必要があります。

エンタープライズ マネージャでは、すべてのソフトウェア ポリシーのタイプがローカルである必要があります。

unseal—ソフトウェア ポリシーの封印解除

このアクションでは、ソフトウェア ポリシーを封印解除します。ソフトウェア ポリシーがすでに封印解除されている場合には、エラーまたは警告は発生せず、アクションは正常に終了します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=unseal
  name=software_policy_name
  [swpScope={distributed | local}]
```

name

封印解除されるソフトウェア ポリシーの名前。

swpScope

このオプションにより、アクションに関するソフトウェア ポリシーの種類が決まります。

<<コーディングなし>>

ローカルで作成された必要な名前のソフトウェア ポリシーがある場合、このポリシーが使用されます。存在しない場合は、エンタープライズ マネージャから配布されたポリシーを探します。後者は、ドメイン マネージャのみです。

distributed

指定するソフトウェア ポリシーはエンタープライズ マネージャで作成され、宛先のマネージャに配信されたポリシーである必要があります。

local

指定するソフトウェア ポリシーはローカルで作成されたポリシーである必要があります。

エンタープライズ マネージャでは、すべてのソフトウェア ポリシーが「ローカル」である必要があります。

register—ドメインでのソフトウェア ポリシーの登録

このアクションは、エンタープライズ マネージャからドメインでソフトウェア ポリシーを登録します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=register
  {names=software_policy_name}
  [dname=distribution_name]
  [{area=area_name}|
  {domain=domain_name}| toAllAreas}
  [sendtime=yyyy-mm-dd HH:MM]
  [halttime=yyyy-mm-dd HH:MM]]
  [replace]
  [distPriority={1,...,10}]
```

names

配布および登録されるソフトウェア ポリシーの名前。複数のポリシーをまとめて処理するために、引数を 2 回以上コーディングすることができます。

dname

登録リクエストを指定された **DSM** ドメインに送信するのに使用される配布の名前。このような配布が存在し、まだ封印されていない場合、オーダがこの配布に追加されます。配布がすでに封印されている場合、アクションはエラーで終了します。

指定された名前の配布が存在しない場合は、作成されます。

このオプションが指定されていない場合、デフォルト名が生成され、CLI によって **stdout** に報告されます。

area

登録リクエストの送信先となる **DSM** ドメインの名前を指定します。いくつかの **DSM** ドメインをまとめて指定するために、このパラメータを 1 回以上コーディングすることができます。

このオプションがコーディングされている場合、関連する配布は封印されて、処理するためにスケジュールされます。

「domain」オプションまたは「toAllAreas」オプションがコーディングされている場合は、このオプションをコーディングしないでください。

domain

登録リクエストの送信先となる **DSM** ドメイン グループの名前を指定します。いくつかの **DSM** ドメイン グループをまとめて指定するために、このパラメータを 1 回以上コーディングすることができます。

このオプションがコーディングされている場合、関連する配布は封印されて、処理するためにスケジュールされます。

「area」オプションまたは「toAllAreas」オプションがコーディングされている場合は、このオプションをコーディングしないでください。

toAllAreas

コーディングすると、関連する配信がエンタープライズ マネージャに登録されたすべての ドメイン マネージャに送信されます。

このオプションがコーディングされている場合、関連する配布は封印されて、処理するためにスケジュールされます。

「area」オプションまたは「domain」オプションがコーディングされている場合は、このオプションをコーディングしないでください。

sendtime

エンタープライズ マネージャで配信の処理が開始される時間を指定します。日付は **ISO** フォーマットで指定されます。このオプションがコーディングされていない場合は、現在の日時が使用されます。

halttime

配信の処理を停止する時間を指定します。日付は **ISO** フォーマットで指定されます。このオプションがコーディングされていない場合は、実際の日時に 1 時間足した時間が使用されます。

replace

このオプションを指定すると、ソフトウェア ポリシーは更新されます。このオプションをコーディングしないと、ソフトウェア ポリシーが作成されます。ただし、すでに存在する場合は、エラーが報告されます。

distPriority

配信に割り当てる優先度を指定します。優先度は、1（最も高い）から 10（最も低い）の範囲の数値です。
デフォルト：5

注：「area」、「domain」、または「toAllAreas」オプションのどれもコーディングされていない場合、配信は封印解除されたままとなり、さらにオーダを追加することができます。

deregister—ドメインからソフトウェア ポリシーの登録解除

このアクションは、エンタープライズ マネージャからドメインでソフトウェア ポリシーを登録解除します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=deregister
  {names=software_policy_name}
  [dname=distribution_name]
  [{area=area_name}|
  {domain=domain_name}| toAllAreas]
  [sendtime=yyyy-mm-dd HH:MM]
  [halttime=yyyy-mm-dd HH:MM]
  [distPriority={1,...,10}]
```

names

配布および登録解除されるソフトウェア ポリシーの名前。複数のポリシーをまとめて処理するために、引数を 1 回以上コーディングすることができます。

dname

登録解除リクエストを指定された DSM ドメインに送信するのに使用される配布の名前。このような配布が存在し、まだ封印されていない場合、オーダがこの配布に追加されます。配布がすでに封印されている場合、アクションはエラーで終了します。

指定された名前の配布が存在しない場合は、作成されます。

このオプションが指定されていない場合、デフォルト名が生成され、CLI によって **stdout** に報告されます。

area

登録解除リクエストの送信先となる **DSM** ドメインの名前を指定します。いくつかの **DSM** ドメインをまとめて指定するために、このパラメータを **1** 回以上コーディングすることができます。

このオプションがコーディングされている場合、関連する配布は封印されて、処理するためにスケジュールされます。

「**domain**」オプションまたは「**toAllAreas**」オプションがコーディングされている場合は、このオプションをコーディングしないでください。

domain

登録解除リクエストの送信先となる **DSM** ドメインの名前を指定します。いくつかの **DSM** ドメイングループをまとめて指定するために、このパラメータを **1** 回以上コーディングすることができます。

このオプションがコーディングされている場合、関連する配布は封印されて、処理するためにスケジュールされます。

「**area**」オプションまたは「**toAllAreas**」オプションがコーディングされている場合は、このオプションをコーディングしないでください。

toAllAreas

コーディングすると、関連する配信がエンタープライズマネージャで登録解除されたすべての **DSM** マネージャに送信されます。

このオプションがコーディングされている場合、関連する配布は封印されて、処理するためにスケジュールされます。

「**area**」オプションまたは「**domain**」オプションがコーディングされている場合は、このオプションをコーディングしないでください。

sendtime

エンタープライズマネージャで配信の処理が開始される時間を指定します。日付は **ISO** フォーマットで指定されます。このオプションがコーディングされていない場合は、現在の日時が使用されます。

halttime

配信の処理を停止する時間を指定します。日付は **ISO** フォーマットで指定されます。このオプションがコーディングされていない場合は、実際の日時に **1** 時間足した時間が使用されます。

distPriority

配信に割り当てる優先度を指定します。優先度は、1（最も高い）から 10（最も低い）の範囲の数値です。

デフォルト：5

注：「area」、「domain」、または「toAllAreas」オプションのどれもコーディングされていない場合、配信は封印解除されたままとなり、さらにオーダを追加することができます。

list—ソフトウェア ポリシーの一覧表示

このアクションは、ドメインまたはエンタープライズに登録されているすべてのソフトウェア ポリシーを一覧表示します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=list
  [{detailed |separator=separator_sign}]
```

detailed

このオプションをコーディングすると、詳細なリストが提供されます。コーディングしない場合は、簡潔なリストのみ提示されます。

separator

セパレータは、リスト内の行で別の出力フィールドを区切るために使用される文字です。デフォルトのセパレータは、「:」（コロン）です。

デフォルトのセパレータを使用した簡潔なリストのフォーマットは、以下のとおりです。

```
-----
List of Software Policies
```

```
短整数型
```

```
-----
* policy_1 name #: * policy_1 type #: * linked group #: * lgroup scope #: [un]sealed
    ...
    ...
    ...
* policy_n name #: * policy_n type #: * linked group #: * group scope #: [un]sealed)
```

詳細リストのフォーマットは、以下のとおりです。

```
-----
List of Software Policies
Detailed
-----
Policy name      : ⚡ name of policy 1 ⚡
..Policy type    : {distributed|local}
..State : {disabled|not evaluated|evaluating|not conformant|conformant}
..Priority       : ⚡ priority of the template ⚡
..Associated group : ⚡ group name ⚡
..Group type     : {global|local}
..Last evaluated: ⚡ yyyy-mm-dd HH:MM ⚡
..Violators      : ⚡ number of violators ⚡
..Linkage        : {batch|transaction|
synchronized|no linkage}
..Cascade install : {yes|no}
..Degree of automation : {conformity check|setup jobs|setup and activate jobs}
..Regeneration of jobs : {yes|no}
..Dynamic group evaluation : {yes|no}
..Activation time : ⚡ yyyy-mm-dd HH:MM ⚡
..Enterprise time driven: {yes|no}
..Evaluation period : ⚡ evaluation period ⚡
..Evaluation calendar : ⚡ calendar name ⚡
..Adhoc evaluation : {disabled|on new inventory only|always}
Policy name      : ⚡ name of policy 2 ⚡
.
.
.
Policy name      : ⚡ name of policy n ⚡
```

modify—封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーの属性の変更

このコマンドでは、封印解除されたローカル ソフトウェア ポリシーの属性を変更します。 オプションで、このコマンドでポリシーを封印できます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=modify
  name=software_policy_name
  [newName=new_name_of_software_template]
  [jcPriority=«1..10»]
  [{transaction|synchronized|nolinkage}]
  [rollback[={y|n}]]
  [cascade[={y|n}]]
  [{nosetup|setup_jobs|setup&activate_jobs}]
  [regenerate[={y|n}]]
  [evaluateGroup[={y|n}]]
  [evaluationStart=YYYY-MM-DD hh:mm]
  [globalTime[={y|n}]]
  [evaluationPeriod=hours]
  [calendarname=calendar_name]
  [{adhoc_disable|adhoc_only|adhoc_always}]
  [comment=new_comment_on_the_software_policy]
  [seal[={y|n}]]
  [userMessage]
```

name

変更されるソフトウェア ポリシーの名前。

newname

選択されたソフトウェア ポリシーの新しい名前を指定します。

このオプションをコーディングしないと、ポリシー名は変更されません。

jcPriority

このオプションは、このポリシーによって生成されるジョブ コンテナの新しい優先度を指定します。有効な優先度の値は、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10 のいずれかです。1 は最も優先度が高く、10 は最も低くなります。

このオプションをコーディングしないと、優先度は変更されません。

{transaction|synchronized|nolinkage}

このオプションは、ポリシーによって生成されるジョブ コンテナの新しいジョブ リンクを指定します。

<<コーディングなし>>

ジョブ リンクは変更されません。

batch

ジョブ リンクは、トランザクションなしのバッチ ジョブに設定されます。

transaction

ジョブ リンクは、トランザクションなしのバッチ ジョブに設定されます。

synchronized

ジョブ リンクは、同期化されたジョブの実行に設定されます。

nolinkage

ジョブ リンクは、リンクなしに設定されます。

rollback

「rollback」または「rollback=y」オプションをコーディングすると、ジョブ リンクは「トランザクションの有効化」に設定されます。

「rollback=n」オプションをコーディングすると、「トランザクションの有効化」は設定されません。

このオプションをコーディングしないと、オプションは変更されません。

ジョブがすでにバッチ処理モードであるか、またはこのコマンドの「transaction」パラメータを使用してバッチ処理モードに切り替えられている場合にのみ、このパラメータをコーディングできます。

デフォルト : rollback=n

cascade

「cascade」または「cascade=y」をコーディングすると、SD によってカスケード済み インストール リクエストの依存関係が解決され、見つからないインストールのオーダは自動的に追加されます。オプションを「cascade=n」にコーディングすると、依存関係は解決されません。

このオプションをコーディングしないと、オプションは変更されません。

{nosetup|setup_jobs|setup&activate_jobs}

このオプションは、ポリシーの評価の結果を進めます。

≪コーディングなし≫

自動化の度合いは変更されません。

nosetup

自動化の度合いは、適合性のみを確認するよう変更されます。.

setup_jobs

自動化の度合いは、適合性のないターゲット用のジョブをセットアップするよう変更されますが、ジョブを起動しません。

setup&activate_jobs

自動化の度合いは、適合性のないターゲット用のジョブをセットアップし、これを起動するよう変更されます。

regenerate

「**regenerate**」または「**regenerate=y**」のオプションをコーディングすると、前に失敗してまだ完了していないすべてのジョブの実行が、適合性を得るために再スケジュールされます。「**regenerate=n**」オプションをコーディングすると、この再スケジュールはスキップされます。

このオプションをコーディングしないと、オプションは変更されません。

evaluateGroup

「**evaluateGroup**」または「**evaluateGroup=y**」をコーディングすると、クエリグループがポリシーに関連付けられている場合、ポリシーの評価中にこのグループも再評価されます。「**evaluationGroup=n**」をコーディングすると、グループのこの再評価は実行されません。

このオプションをコーディングしないと、オプションは変更されません。

evaluationStart

このオプションは、ポリシーの評価が開始される時間のもっと早い開始ポイントを指定します。値は、ISO フォーマット「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定されます。ここで” where YYYY は年、MM は月、DD は日付、hh は時間、mm は分を表します。

このオプションをコーディングしないと、オプションは変更されません。

globalTime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、ポリシーを指定した時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。「globalTime=n」をコーディングすると、時間はドメインに基づいたものになります。

このオプションをコーディングしないと、オプションは変更されません。

evaluationPeriod

このオプションは、ポリシーの評価が実行される新しい期間を指定します。値は、時間単位で指定します。0 を指定すると、封印での評価は一度のみ実行されます。

このオプションをコーディングしないと、オプションは変更されません。

calendarname

このオプションは、ポリシーのアクションを実行する時間をスケジュールするために SD で使用される新しいカレンダーの名前を指定します。空の文字列が入力されると、カレンダーのエントリは削除され、カレンダーは無視されるようになります。

このオプションをコーディングしないと、オプションは変更されません。

{adhoc_disable|adhoc_only|adhoc_always}

このオプションは、アドホック評価の新しいタイプを指定します。

≪コーディングなし≫

アドホック評価のタイプを変更しません。

adhoc_disable

アドホック評価は提供されません。

adhoc_only

新規または再インストールされたターゲットのインベントリ レポートが届くと、アドホック評価が開始されます。

ad_hoc_always

ターゲットから任意のインベントリ レポートでアドホック評価が開始されます。

comment

このオプションは、ソフトウェア ポリシーについての新しいコメントを指定します。空の文字列をコーディングすると、古いコメントは削除されます。

オプションをコーディングしないと、コメントは変更されないまま残ります。

seal

「seal」または「seal=y」をコーディングすると、変更が完了した後でポリシーは封印されます。コーディングされていない場合は、さらに変更を行うため封印解除されたままです。封印は変更が正しく完了され、エラーが何も報告されなかった場合にのみ実行されます。警告によって封印できなくなることはありません。

このオプションをコーディングしないと、オプションは変更されません。

userMessage

ソフトウェア ポリシー プロパティを更新する一方で、カスタム管理者メッセージを変更します。

showAttr—ソフトウェア ポリシーの属性の一覧表示

このアクションでは、ソフトウェア ポリシーの属性を一覧表示します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=showAttr
  name=software_policy_name
  [swpScope={distributed | local}]
```

name

その属性を持つソフトウェア ポリシーの名前が一覧表示されます。

swpScope

このオプションにより、アクションに関係するソフトウェア ポリシーの種類が決まります。

≪コーディングなし≫

ローカルで作成された必要な名前のソフトウェア ポリシーがある場合、このポリシーが使用されます。存在しない場合は、エンタープライズマネージャから配布されたポリシーを探します。後者は、ドメインマネージャのみです。

distributed

指定するソフトウェア ポリシーはエンタープライズマネージャで作成され、宛先のマネージャに配信されたポリシーである必要があります。

local

指定するソフトウェア ポリシーはローカルで作成されたポリシーである必要があります。

注：エンタープライズマネージャでは、すべてのソフトウェア ポリシーのタイプが「ローカル」である必要があります。

一覧表示される属性のフォーマットは、以下のとおりです。

```
-----
Attributes of the Software Policy «software policy name»
-----
```

```
Policy type      : {distributed|local}
State           : {disabled|not evaluated|evaluating|not conformant|conformant}
Comment         : «comment on the policy»
Priority         : «priority of the template»
Associated group : «group name»
Group type      : {global|local}
Last evaluated  : «yyyy-mm-dd HH:MM»
Violators       : «number of violators»
Linkage         : {batch|transaction|
synchronized|no linkage}
Cascade install : {yes|no}
Degree of automation : {conformity check|setup jobs|setup and activate jobs}
Regeneration of jobs : {yes|no}
Dynamic group evaluation : {yes|no}
Activation time  : «yyyy-mm-dd HH:MM»
Enterprise time driven : {yes|no}
Evaluation period : «evaluation period»
Evaluation calendar : «calendar name»
Adhoc evaluation : {disabled|on new inventory only|always}
```

ソフトウェアポリシーの削除

このアクションでは、封印解除されたソフトウェアポリシーを削除します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=delete
  name=software_policy_name
  [swpScope={distributed | local}]
```

name

削除されるソフトウェアポリシーの名前。

swpScope

このオプションにより、アクションに関するソフトウェア ポリシーの種類が決まります。

<<コーディングなし>>

ローカルで作成された必要な名前のソフトウェア ポリシーがある場合、このポリシーが使用されます。存在しない場合は、エンタープライズ マネージャから配布されたポリシーを探します。後者は、ドメイン マネージャのみです。

distributed

指定するソフトウェア ポリシーはエンタープライズ マネージャで作成され、宛先のマネージャに配信されたポリシーである必要があります。

local

指定するソフトウェア ポリシーはローカルで作成されたポリシーである必要があります。

注：エンタープライズ マネージャでは、すべてのソフトウェア ポリシーのタイプがローカルである必要があります。

listViolators—封印解除されたソフトウェア ポリシーの違反者の一覧表示

このアクションは、封印解除されたソフトウェア ポリシーの違反者を一覧表示します。ポリシーが封印解除されていない場合、要求は拒否されます。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
swPolicyaction=listViolators
  name=software_policy_name
  [swpScope={distributed | local}]
  [separator=separator_sign]
```

name

その違反者に対応するソフトウェア ポリシーの名前が一覧表示されます。

swpScope

このオプションにより、アクションに関するソフトウェア ポリシーの種類が決まります。

«コーディングなし»

ローカルで作成された必要な名前のソフトウェア ポリシーがある場合、このポリシーが使用されます。存在しない場合は、エンタープライズ マネージャから配布されたポリシーを探します。後者は、ドメイン マネージャのみです。

distributed

指定するソフトウェア ポリシーはエンタープライズ マネージャで作成され、宛先のマネージャに配信されたポリシーである必要があります。

local

指定するソフトウェア ポリシーはローカルで作成されたポリシーである必要があります。

注：エンタープライズ マネージャでは、すべてのソフトウェア ポリシーのタイプがローカルである必要があります。

セパレータ

セパレータは、リスト内の行で別の出力フィールドを区切るために使用される文字です。デフォルトのセパレータは、「:」（コロン）です。

デフォルトのセパレータを使用した出力リストは、以下のようになります。

```
-----  
List of Violators for Software Policy «software policy name»
```

```
Computer Group Linked: «computer group name»  
-----
```

```
«name of violator 1»:{Computer | User Profile}
```

```
•  
•  
•
```

```
«name of violator n»:{Computer | User Profile}
```

targetcomputer—ターゲット コンピュータ コマンド

このメソッドはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[全般](#) (P. 476)

[ジョブ管理コマンド](#) (P. 498)

[OS インストール管理 \(OSIM\) 関連の TargetComputer コマンド](#) (P. 524)

全般

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[create—ターゲット コンピュータの作成](#) (P. 476)

[delete—ターゲット コンピュータの削除](#) (P. 486)

[list—ターゲット コンピュータの一覧表示](#) (P. 486)

[modify—ターゲット コンピュータの変更](#) (P. 490)

[showAttr—ターゲット コンピュータの属性の表示](#) (P. 492)

create—ターゲット コンピュータの作成

このアクションでは、ドメイン マネージャでターゲット コンピュータを作成します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetComputer action=create
  name=computer_name
  computertype={machine|user profile| staging server | docking_device}
  address=address
  [stagingserver=staging_server_name]
  os=os_name
  [calendarname=calendar_name]
```

```
[user= user]  
[phone= phone]  
[location= location]  
[comment=comment] }  
[softwaremanagementsystem [= {y/n}] <default = n>]  
[racpolicy={common | disabled | deferred | automatic} <default=common>]  
[hostname=host_name]  
{[macaddress=mac_address] |  
[bootserver=boot_server_name] macaddress=mac_address  
osimage=os_image_name }
```

address

保留中のインストールがキャンセルされる ネットワーク アドレス を指定します。

bootserver

保留中のインストールがキャンセルされる ブート サーバの名前 を指定します。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる ターゲット コンピュータでアクティビティを進めるカレンダーの名前

comment

コンピュータに関するコメントを配置するオプションパラメータ。
たとえば、コンピュータの属性またはインストール登録で使用できない情報です。
コメントには 255 文字を含めることができます。

computertype

識別子は、以下のいずれかのタイプを使用できます。

machine

指定されるターゲットはコンピュータ システムです。これは、SD エージェントがシステムにインストールされることを前提としています。

user profile

ターゲット コンピュータ システムのユーザ プロファイルを指定します。
ユーザ プロファイルの名前のフォーマットは、以下のとおりです。
computer/[domain/]user
たとえば、「doe」というシステムでの「john」というユーザの名前は、「doe/john」となります。
指定のコンピュータは、ユーザ プロファイルの作成時にはすでに DSM に定義済みである必要があります。
タイプ **user_profile** は、以前のタイプ「**domain_user**」および「**local_user**」に置き換わり、これらはもはや使用されません。コーディングされていない場合は、タイプ **user_profile** にマップされます。

注：「**targetComputer action=create computerType="user profile"**」が呼び出されるとき、以下のパラメータは CADSMCMD によって無視されます。

- Address
- bootServer
- hostName
- macAddress
- os
- osImage
- stagingserver

staging server

作成されたターゲット コンピュータはスケーラビリティ サーバです。**SD**がこのターゲットにインストールされていることを前提としています。

docking device

作成されたターゲットはドッキング デバイスです。指定されたアドレスはドッキング ステーションの名前であり、**SD**がこのシステムにインストールされていることを前提としています。

hostname

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータのホスト名、コーディングされていない場合は、ターゲット コンピュータの名前が初期設定として使用されます。

注： パラメータ「**HostName**」は、指定されたターゲット システムがネットワークから登録されていない限り、変更できます。システムがすでに登録されている場合は、次のエラー **CMD00149** が報告されます。「ターゲットはすでに登録されています。この操作は許可されていません。」

location

コーディングされている場合は、を指定します。コンピュータのロケーション。

macaddress

以下を指定します：システムの MAC アドレス。

name

ターゲット名を指定します。

ターゲットの名前は、「**computertype**」パラメータの値により、4 つのタイプのいずれかになります。

たとえば、**computertype** が {**machine** | **staging server** | **docking device**} のいずれかである場合は、ターゲットはコンピュータ システムであり、その名前はネットワーク内にあるコンピュータの名前になります。

computertype=user profile の場合は、ユーザ プロファイルの名前はスラッシュで区切られたマシン名およびユーザ ID で構成されます。ユーザ ID は、ローカル マシンのユーザ ID またはドメインのユーザ ID にすることができます。

os

保留中のインストールがキャンセルされる オペレーティング システム タイプを指定します。

OS の有効値については、**regproc** の使用方法を参照してください。

ターゲットを作成するときに設定される値（任意など）は、現在の SD サーバ環境では、自動的に登録するコンピュータの現在の OS の値に置き換えられます。

値：

```
os={AIX|AIX_3.2_RS/6000|AIX_4.1_RS/6000
...|AIX_4.2_RS/6000|AIX_4.3_RS/6000
...|AIX_5.0_RS/6000|AIX_5.1_RS/6000
...|AIX_5.2_RS/6000|AIX_5.3_RS/6000
...|AIX_5.4_RS/6000|AIX_5.5_RS/6000
...|AIX_5.6_RS/6000|AIX_5.7_RS/6000
...|AIX_5.8_RS/6000|ANY|COMPAQ_TRU64_(DEC)
...|COMPAQ_TRU64_5.X_ALPHA
...|DEC_3.0_ALPHA|DEC_3.2_ALPHA
...|DEC_4.0_ALPHA|DGUX|DGUX_4.1_INTEL
...|DGUX_4.1_MC88|DGUX_4.2_INTEL
...|DOS|DRS/NX_7MP_SPARC|DRS/NX_7_SPARC
...|DRS/NX_SPARC|DYNIX|DYNIX_4.2.X_INTEL
...|DYNIX_4.4.X_INTEL|HPUX
...|HPUX_10|HPUX_10_700|HPUX_10_800
...|HPUX_11|HPUX_11I_V2|HPUX_11_700
...|HPUX_11_800|HPUX_11_IA64
...|HPUX_12|HPUX_12I_V2|HPUX_12_700
...|HPUX_12_800|HPUX_12_IA64
...|HPUX_9|HPUX_9_700|HPUX_9_800
...|IRIX|IRIX_6.2|IRIX_6.3
...|IRIX_6.4|IRIX_6.5|LINUX
...|LINUX_2.1_INTEL|LINUX_2.2_INTEL
...|LINUX_2.2_S/390|LINUX_2.3_INTEL
...|LINUX_2.3_S/390|LINUX_2.4_INTEL
...|LINUX_2.4_S/390|LINUX_2.5_INTEL
...|LINUX_2.5_S/390|LINUX_2.6_INTEL
...|LINUX_2.6_INTEL_64-BIT
...|LINUX_2.6_S/390|MACINTOSH
...|MACINTOSH_10.0_PPC|MACINTOSH_10.1_PPC
...|MACINTOSH_10.2_PPC|MACINTOSH_10.3_PPC
...|MACINTOSH_10.4_PPC|NCR_SST
...|NCR_SST_S4I_INTEL|NCR_SST_S4_INTEL
...|NCR_SV|NCR_SV_2X_INTEL
...|NCR_SV_3X_INTEL|NETWARE
...|NETWARE_3_INTEL|NETWARE_4_INTEL
...|NETWARE_5_INTEL|NETWARE_6_INTEL
...|NOKIA_ADMINISUITE|NOKIA_ADMINISUITE_1.0
...|OPENVMS|OPENVMS_5.5_VAX
...|OPENVMS_6.0_ALPHA|OPENVMS_6.0_VAX
...|OPENVMS_6.1_ALPHA|OPENVMS_6.1_VAX
...|OPENVMS_6.2_ALPHA|OPENVMS_6.2_VAX
...|OPENVMS_7.0_ALPHA|OPENVMS_7.0_VAX
...|OPENVMS_7.1_ALPHA|OPENVMS_7.1_VAX
...|OPENVMS_7.2_ALPHA|OPENVMS_7.2_VAX
...|OS/2_16-BIT|OS/2_32-BIT
...|PALM_OS|SCO|SCO_3.2_V5_INTEL
```

```
...|SCO_5.2_V5_INTEL|SINIX
...|SINIX_5.42_R4000|SINIX_5.43_R4000
...|SINIX_5.44_R4000|SINIX_5.45_R4000
...|SOLARIS|SOLARIS_10_INTEL
...|SOLARIS_10_SPARC|SOLARIS_2.3_SPARC
...|SOLARIS_2.4_INTEL|SOLARIS_2.4_SPARC
...|SOLARIS_2.5_INTEL|SOLARIS_2.5_SPARC
...|SOLARIS_2.6_INTEL|SOLARIS_2.6_SPARC
...|SOLARIS_7_INTEL|SOLARIS_7_SPARC
...|SOLARIS_8_INTEL|SOLARIS_8_SPARC
...|SOLARIS_9_INTEL|SOLARIS_9_SPARC
...|SUNOS|SUNOS_4.1.4_SPARC
...|UNIX|UNIXWARE|UNIXWARE2.0_INTEL
...|UNIXWARE2.1_INTEL|UNIXWARE7.X_INTEL
...|WINDOWS_16-BIT|WINDOWS_32-BIT
...|WINDOWS_95|WINDOWS_98
...|WINDOWS_ME|WIN_2000|WIN_2000_INTEL
...|WIN_CE|WIN_CE_2.00_MIPS
...|WIN_CE_2.00_SH3|WIN_CE_2.01_MIPS
...|WIN_CE_2.01_SH3|WIN_CE_2.11_ARM
...|WIN_CE_2.11_MIPS|WIN_CE_2.11_SH3
...|WIN_CE_2.11_SH4|WIN_CE_3.00_ARM
...|WIN_CE_3.00_MIPS|WIN_CE_3.00_PPC2002_ARM
...|WIN_CE_3.00_SH3|WIN_CE_3.00_SH4
...|WIN_CE_4.20_MOBILE2003_ARM
...|WIN_LONGHORN_SERVER_INTEL
...|WIN_LONGHORN_SERVER_ITANIUM
...|WIN_LONGHORN_SERVER_X64
...|WIN_NT|WIN_NT_ALPHA|WIN_NT_INTEL
...|WIN_NT_MIPS|WIN_SERVER_2003
...|WIN_SERVER_2003_INTEL
...|WIN_SERVER_2003_ITANIUM
...|WIN_SERVER_2003_X64|WIN_VISTA_INTEL
...|WIN_VISTA_ITANIUM|WIN_VISTA_X64
...|WIN_XP|WIN_XP_INTEL|WIN_XP_ITANIUM
...|WIN_XP_X64}
```

注：サポートされているオペレーティング システムおよびそのリリースの最新リストを参照するには、詳細モードで **regproc** コマンドまたは **targetcomputer action=create** コマンドを実行します。

osimage

保留中のインストールがキャンセルされる **OS** イメージの名前を指定します。

ターゲット コンピュータにインストールする設定を起動する前に、ターゲット コンピュータに接続されている ブート サーバで **OS** イメージを使用可能にしておく必要があります。

このパラメータは、**macAddress** パラメータのみと共にコーディングしてください。インストールの注文が事前に展開済みである必要がある場合は、**bootserver** もコーディングされている必要があります。

phone

コーディングされている場合は、を指定します。電話番号または電子メールアドレス を指定します。

racpolicy

システムのクラッシュ後の再インストール (RAC) ポリシーを指定するオプションパラメータ

使用可能な値は以下のとおりです。

common

共通のポリシーがこのコンピュータに使用されます。

disabled

このコンピュータで RAC が無効になります。ジョブ コンテナはこのコンピュータに設定されません。ただし、コンピュータの SD エージェントが新しい OS のインストール (変更された UUID により) を報告すると、SD サーバのインストールフォルダのインストール レコードには、削除済みとしてマーキングされます。

deferred

RAC ジョブ コンテナが作成されます。コンテナは、手動で起動する必要があるため、レビューおよび変更が可能です。

automatic

RAC ジョブ コンテナが作成、起動され、コンピュータに対するジョブの順序の配信が開始されます。

デフォルトは、common です。

注: オフラインモード中のコンピュータの RAC ポリシーを変更しようとする、`cadsmcmd targetComputer action=modify` コマンドはエラーメッセージを生成します。

softwaremanagedsystem

このオプションパラメータは、ターゲット コンピュータをソフトウェア管理対象システムとしてマーキングします。

stagingserver

保留中のインストールがキャンセルされる スケーラビリティ サーバの名前.

コーディングされている場合は、作成するターゲット コンピュータは、指定したスケーラビリティ サーバによって接続されていると見なされます。 スケーラビリティ サーバは、SD ですでに識別されている必要があります。

注： このオプションがコーディングされていない場合は、ドメイン マネージャがデフォルトのスケーラビリティ サーバになります。

user

コーディングされている場合は、 を指定します。 ユーザの名前.

注： コンピュータの予備登録が OSIM によって管理されるためには、*targetcomputer action=create* コマンドで *macaddress* および *osimage* を使用します。

例：

通常、エージェントのインストールおよび最初のジョブ確認時に、ターゲット システムは SD サーバに導入されます。 このようにして、ネットワークから登録されたときにソフトウェア パッケージを使用して新しいシステムのアドレスを指定することができます。

事前に新しいシステムにソフトウェアを提供する方が適切である場合があります。 このため、新しいシステムはマネージャのデータベースに手動で追加する必要があります。

新しいシステムが追加されると、すぐにソフトウェア テンプレートまたはジョブ配信で考慮できます。 ただし、この場合、システムがネットワークから登録されると、ジョブ配信が最初に動作します。

システム「newComp」がマネージャで手動で作成され、以下の要件を満たす必要があると想定します。

システムはスケーラビリティ「stage_01」に接続します。

- システムのアドレスは newComp.myCompany.com です。
- オペレーティングシステムは Intel 用 Windows XP Professional タイプです。
- ソフトウェア管理対象システムです。

以下のコマンドにより、このシステムがサーバに導入されます。

```
cadsmcmd targetcomputer action=create name=newComp address=newComp.myCompany.com  
os=WIN_XP_INTEL computerType=machine softwareManagedSystem stagingServer=stage_01
```

delete—ターゲット コンピュータの削除

このアクションでは、ドメイン マネージャでターゲットを削除します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetcomputer action=delete  
name=computer_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ターゲットの名前 を指定します。

list—ターゲット コンピュータの一覧表示

このアクションによって、システムで認識されているターゲットの一覧が表示されます。

追加フィルタを指定して、フィルタ条件を満たすターゲットのみにリストを制限できます。フィルタが指定されない場合は、ターゲットの完全なリストが表示されます。フィルタは最大 100 バイトに制限されています。

注： このアクションのフィルタの使用方法は、ほかのコマンドでの使用方法とは異なります。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetcomputer action=list  
[{filter=filter|filterfile=file_name}]  
[{DisHwOnly | usrProfOnly | UnMgdPcOnly}]
```

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式

アトミック フィルタ式の作成に有効な属性は、以下のとおりです。

属性	タイプ	比較演算子
コンピュータ名	string	=, !=, <, <=, >, >=
コンピュータ タイプ	{ computer user profile staging server docking device }	=, !=
ホスト名	string	=, !=, <, <=, >, >=
1 次ネットワーク アドレス	string	=, !=, <, <=, >, >=
IP アドレス	string	=, !=, <, <=, >, >=
オペレーティング システム タイプ	アクションの作成の OS パラメータの任意の有効な OS タイプ	=, !=
カレンダー名	string	=, !=, <, <=, >, >=
所有者	string	=, !=, <, <=, >, >=
電話	string	=, !=, <, <=, >, >=
場所	string	=, !=, <, <=, >, >=
コメント	string	=, !=, <, <=, >, >=
ステージング サーバ名	string	=, !=, <, <=, >, >=
ソフトウェア管理対象システム	{ yes no }	=, !=
"	{ automatic common deferred disabled offline }	=, !=
作成日	YYYY-MM-DD hh:mm:ss	=, !=, <, <=, >, >=
変更日	YYYY-MM-DD hh:mm:ss	=, !=, <, <=, >, >=

フィルタを作成する場合、アトミック式の属性名は大文字小文字が区別されません。

YYYY-MM-DD hh:mm:ss は、ISO 形式での日時の表記法です。

文字列タイプの属性値にワイルドカードを含めることができます。

「*」または「?」の場合、「*」は任意の偶数の空白の文字列を表し、「?」は1つの任意の文字を表します。「*」または「?」をワイルドカードとして解釈しない場合は、先頭にアポストロフィ (') をつける必要があります。不明瞭さを避けるために、属性値の一部としてアポストロフィを重複させる必要があります。

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。。

{DisHwOnly | UsrProfOnly | UnMgdPcOnly}

これらのオプションは、ユーザが興味のある情報の検索範囲を絞るために使用されます。コーディングしないと、コンピュータ、ユーザ、スケーラビリティ サーバ、ドッキング デバイス、および **OSIM** 非管理対象コンピュータの一覧および関連するすべてのデータベース テーブルが検索されます。

DisHwOnly

リストがコンピュータ、スケーラビリティ サーバ、ドッキング デバイスのような登録済みのハードウェアに限定されます。

UsrProfOnly

リストがユーザ プロファイルに限定されます。

UnMgdPcOnly

リストが **OSIM** 非管理対象コンピュータに制限されます。

例：

ドメイン マネージャで定義されているすべてのターゲットを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd targetComputer action=list
```

提供されるリストは、以下のようになります。

```
-----
List of target computers
-----
```

```
PPAPPGP0C (コンピュータ、Win NT Intel 4.0.1381)
newComp (コンピュータ、Win XP Intel)
HHHHH01B (コンピュータ、Win NT Intel 4.0.1381)
KKKKK01A (コンピュータ、Win NT Intel 4.0.1381)
stage_01 (ステージング サーバ、Win 2000 Intel 5.0.2195)
ORIONXH (コンピュータ、Win XP Intel 5.1.2600)
PPPPP98 (コンピュータ、Windows 98 4.10.2222)
WWWWW01B (コンピュータ、Win 2000 Intel 5.0.2195)
-----
```

```
-----
List of un-named and BMS un-managed computers
-----
```

```
-----ターゲット
ト コンピュータの合計数： 8
```

```
表示された名前なしおよび BMS 管理対象外のシステムの数： 0
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

フィルタを使用して、ステージング サーバが「stage01-ss」でタイプが「computer」である、ドメイン マネージャで定義されたすべてのターゲットを一覧表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd targetcomputer action=list filter="(staging server name=stage01-ss &&
Computer type=computer)"
```

一覧表示される情報は以下のとおりです。

```
-----
List of target computers
-----
```

```
Test01 (computer; WIN_SERVER_2003_INTEL)
-----
```

```
-----
List of un-named and BMS un-managed computers
-----
```

```
-----ターゲット
コンピュータの合計数： 1
```

```
表示された名前なしおよび BMS 管理対象外のシステムの数： 0
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

modify—ターゲット コンピュータの変更

このアクションでは、ターゲット コンピュータの属性が変更されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetcomputer action=modify name=computer_name
  [address=network_address]
  [calendarname=calendar_name]
  [user=user_name]
  [phone=phone]
  [location=location]
  [comment=comment]
  [softwareManagedSystem={y|n}]
  [racpolicy={automatic|common|deferred|disabled}]
  [downloadMethod={NOS|NOSLESS|DTS}]
```

address

保留中のインストールがキャンセルされる ネットワーク アドレス。

このエントリは空白の文字列にはできません。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる ターゲット コンピュータ
でアクティビティを進めるカレンダーの名前

注： 空白の文字列が入力された場合、カレンダーはすでになくなっていると見なされます。

comment

を指定します。コメント。

空白の文字列が入力された場合、コメントはすでになくなっていると見なされます。

downloadMethod

オプション パラメータです。

コーディングされている場合、指定されたターゲット システムのダウンロード方法は以下のよに切り替わります。

NOS	「内部 - NOS」
NOSLESS	「内部 - NOS なし」
DTS	「DTS - NOS なし」

コーディングされていない場合、ダウンロード方法は変更されません。
If not coded the download method remains unchanged.

location

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータのロケーション.

空白の文字列が入力された場合、ロケーションはすでになくなっていると見なされます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる ターゲットの名前 を指定します。

phone

保留中のインストールがキャンセルされる 電話番号または電子メールアドレス を指定します。 空白の文字列が入力された場合、電話または電子メールアドレスはすでになくなっていると見なされます。

racpolicy

システムのクラッシュ後の再インストール (RAC) ポリシーを指定するオプションパラメータ

使用可能な値は以下のとおりです。

common

共通のポリシーがこのコンピュータに使用されます。

disabled

このコンピュータで RAC が無効になります。ジョブ コンテナはこのコンピュータに設定されません。ただし、コンピュータの SD エージェントが新しい OS のインストール (変更された UUID により) を報告すると、SD サーバのインストールフォルダのインストール レコードには、削除済みとしてマーキングされます。

deferred

RAC ジョブ コンテナが作成されます。コンテナは、手動で起動する必要があるため、レビューおよび変更が可能です。

automatic

RAC ジョブ コンテナが作成、起動され、コンピュータに対するジョブの順序の配信が開始されます。

デフォルトは、**common** です。

注: オフラインモード中のコンピュータの RAC ポリシーを変更しようとする、`cadsmcmd targetComputer action=modify` コマンドはエラーメッセージを生成します。

softwareManagedSystem

`softwareManagedSystem=y` の場合は、システムはソフトウェア管理対象システムと見なされます。`softwareManagedSystem=n` の場合は、もうソフトウェア管理対象システムでないと見なされます。

user

保留中のインストールがキャンセルされる ユーザの名前。

空白の文字列が入力された場合、ユーザ名のエントリはすでになくなっていると見なされます。

注：パラメータがコーディングされていない場合は、関連するターゲット コンピュータの属性は変更されません。

例：

ターゲット コンピュータ「newComp」の以下の属性を変更する必要があると想定します。

- 場所は「Pdb」です。
- ユーザは「joe」です。
- ユーザの電子メール アドレスは `joe@myComp.com` です。

以下のコマンドにより、変更が実行されます。

```
cadsmcmd targetComputer action=modify name=newComp location=Pdb user=joe  
phone=joe@myComp.com
```

showAttr—ターゲット コンピュータの属性の表示

このアクションでは、コンピュータ システムの属性が表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetcomputer action=showattr  
name=computer_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる ターゲットの名前を指定します。

以下の情報が表示されます。

ターゲット コンピュータ属性の表示

コンピュータ名
コンピュータ タイプ
ホスト名
1 次ネットワーク アドレス
IP アドレス
オペレーティング システム タイプ
所有者
電話
ロケーション
コメント
ステージング サーバ名
カレンダー名
ソフトウェア管理対象システム
RAC ポリシー
作成日
作成時間
変更日
変更時間
MAC アドレス
現在の設定*
起動済みの設定*
 起動時間*
 ステータス*
 ウェイクアップ*
 再スタート*
 サーバの待機*
 イメージの待機*
予定済み設定*
ブート サーバに接続済み*
ブート サーバです

* この情報は、システムが **OS** インストール マネージャによって管理されている場合に表示されます。

例：

以下のコマンドにより、ターゲット コンピュータ「newComp」の属性の一覧が表示されます。

```
cadsmcmd targetComputer action=showattr name=newComp
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

ターゲット コンピュータ属性の表示

```
コンピュータ名.....: newComp
コンピュータ タイプ.....: コンピュータ
ネットワーク アドレス.....: newComp.myComp.com
オペレーティング システム.....: Win XP Intel
オペレーティング システム タイプ.....: WIN_XP
カレンダー名.....:
所有者.....:
電話.....:
場所.....:
コメント.....:
ステージング サーバ名.....: stage_01
ソフトウェア管理対象システム.....: はい
RAC ポリシー.....: 共通
作成日.....: 2005-04-15
作成時間.....: 15:43
変更日.....: 2005-04-15
変更時間.....: 15:43
ブート サーバ.....: いいえ
```

```
sdcmcmd<a0000000>: OK
```

ADS デバイスでない場合の例は、以下のとおりです。

ターゲット コンピュータ属性の表示

コンピュータ名..... : mySystem
コンピュータ タイプ..... : コンピュータ
ホスト名..... : mySystem
1 次ネットワーク アドレス..... : mySystem.myCompany.com
IP アドレス..... :
オペレーティング システム タイプ..... : すべて
所有者..... :
場所..... :
電話..... :
コメント..... :
ステージング サーバ名..... : my-DSM-stage
カレンダー名..... :
ソフトウェア管理対象システム..... : いいえ
RAC ポリシー..... : 共通
作成日..... : 2006-09-20
作成時間..... : 16:42:39
変更日..... : 2006-09-20
変更時間..... : 16:42:41
MAC アドレス..... : FF:01:23:45:67:8A
ADS デバイスかどうか..... : いいえ
現在の設定..... :
起動済みの設定..... :
予定済み設定..... : myWinXP
接続先ブート サーバ..... : my-DSM-stage
ブート サーバ..... : いいえ

ADS 管理対象システムの属性を表示する例は、以下のとおりです。

ターゲット コンピュータ属性の表示

コンピュータ名..... : name=myADSdevice
コンピュータ タイプ..... : コンピュータ
ホスト名..... : name=myADSdevice
1 次ネットワーク アドレス..... : name=myADSdevice.myCompany.com
IP アドレス..... :
オペレーティング システム タイプ..... : すべて
所有者..... :
場所..... :
電話..... :
コメント..... :
ステージング サーバ名..... : myManager
カレンダー名..... :
ソフトウェア管理対象システム..... : いいえ
RAC ポリシー..... : 共通
作成日..... : 2006-09-20
作成時間..... : 13:57:12
変更日..... : 2006-09-20
変更時間..... : 13:57:14
MAC アドレス..... : FF:01:23:45:67:89
ADS デバイスかどうか..... : はい
ADS サーバ名..... : myADSserver.ADSnet.myCompany.com
ブート サーバ..... : いいえ

OSIM 管理対象システムの属性を表示する例は、以下のとおりです。

012: targetcomputer action=showattr name=HUMPFA

コマンドが処理されます...

ターゲット コンピュータ属性の表示

コンピュータ名.....: HUMPFA
コンピュータ タイプ.....: コンピュータ
ネットワーク アドレス.....: HUMPFA.ca.com
オペレーティング システム.....: Windows
オペレーティング システム タイプ.....: WINDOWS_16-BIT
カレンダー名.....:
所有者.....:
電話.....:
場所.....:
コメント.....:
スケーラビリティ サーバ名.....:
ソフトウェア管理対象システム.....: いいえ
RAC ポリシー.....: 共通
作成日.....: 2005-03-27
作成時間.....: 11:04
変更日.....: 2005-03-27
変更時間.....: 11:04
MAC アドレス.....: 11.22.33.44.55.77
現在の設定.....:
起動済みの設定.....: w2kp_ger
..起動時間.....: 2005-03-27 11:00:47
..ステータス.....: 停止
..ウェイクアップ.....: 1
..再起動.....: 1
..サーバの待機.....: 0
..イメージの待機.....: 0
予定済み設定.....:
接続先ブートサーバ.....:
ブート サーバ.....: いいえ

sdcmcmd<A0000000>: OK

wake up 属性はウェークアップを実行するかどうかを、**restart** 属性は再起動を自動的にスケジュールするかどうかを示しています。

wakeup または **restart** が指定されると、「1」が表示されます。指定されないと「0」が表示されます。

「サーバを待機」が「必要」の場合、ターゲットがブートサーバに割り当てられるまでは、**OS** インストール リクエストは延期されます。

「待機中」と表示される場合、ブートサーバがないため、リクエストは準備されているものの、延期されます。

エントリ「サーバを待機」がない場合、延期が必要ではないか、またはブートサーバはすでに割り当てられています。

「イメージを待機」が「必要」の場合、関連するブートイメージおよび **OS** イメージが関連ブートサーバでステージされるまで、**OS** リクエストは延期されます。

「ブートイメージを待機」と表示される場合、関連するブートイメージはブートサーバでステージされておらず、すでに準備できている場合でもリクエストは延期されます。

「**OS** イメージを待機」と表示される場合、関連する **OS** イメージはブートサーバでまだステージされておらず、すでに準備できている場合でもリクエストは延期されます。

エントリ「イメージを待機」が表示されない場合、リクエストを使用しては延期リクエストは指定されないか、またはすべての必須イメージがブートサーバで利用できます。

ジョブ管理コマンド

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[activateJobCheck—ジョブ確認プログラムの起動](#) (P. 499)

[activateStageCheck—ステージ確認プログラムの起動](#) (P. 499)

[listFailedJobs—ターゲット コンピュータに関連した失敗したジョブの一覧表示](#) (P. 499)

[listInst—インストールされている製品のリスト](#) (P. 503)

[listJobs—ターゲット コンピュータに関連したジョブのリスト](#) (P. 507)

[listMembership—ターゲット コンピュータのメンバシップのリスト](#) (P. 513)

[reinstallProduct—製品の再インストール](#) (P. 514)

[removeJob—ジョブ リストからのジョブの削除](#) (P. 521)

[showJobAttr—ジョブ属性の表示](#) (P. 522)

activateJobCheck—ジョブ確認プログラムの起動

このアクションは、ジョブ確認プログラムが開始すると選択したコンピュータのエージェントはそのドメインマネージャに問い合わせ、エージェントを待つジョブがあるかどうかを確認したり、コンピュータ属性の変更点を報告します。

このアクションは完了を待ちません。

コマンドの構文は、以下のとおりです。

```
targetcomputer action=activateJobCheck
  computer=name
computer
```

ジョブ確認プログラムが起動されるコンピュータの名前を指定します。

activateStageCheck—ステージ確認プログラムの起動

このアクションは、保留オーダーの確認を開始するステージ確認プログラムを起動します。

このアクションは完了を待ちません。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetcomputer action=activatestagecheck
  computer=name
computer
```

ステージ確認プログラムが起動されるコンピュータの名前を指定します。

listFailedJobs—ターゲット コンピュータに関連した失敗したジョブの一覧表示

このアクションでは、このターゲット コンピュータに関連したすべての失敗したジョブが一覧表示されます。データの量を制限するため、フィルタを指定できます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetcomputer action=listFailedJobs
  name=computer_name
  [{alt |
    {filter=filter|filterfile=file_name}
  [detailed]]]
```

alt

別の出力リストが提供されます。

項目名およびバージョンにのみ基づく代替リストが提供されます。

このパラメータをコーディングすると、**item** パラメータおよび **version** パラメータの値にデータベース対応のワイルドカードを含めることができるようになります。たとえば、以下のものがあります。

"%"

これは空文字も含め任意の文字列を表します。

" "

これは任意の 1 文字を表します。

また、**Microsoft SQL Server** の場合、角かっこ（「[」、「]」）には特別な意味があります。このことは名前をコーディングする際に考慮する必要があります。

detailed

詳しい情報の一覧表示

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式

アトミック フィルタ式を作成するのに有効な属性については、アクション「listjobs」を参照してください。

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前 を指定します。

例

以下のコマンドの起動

```
cadsmcmd targetComputer action=listFailedJobs name=comp1
```

結果は以下のように出力されます。

```
-----
コンピュータ "comp1" の失敗したジョブのリスト
-----
```

```
tstkp02 1.0:instCrash (EXECUTION_ERROR)
```

読み込まれたジョブの合計数： 5

表示されたジョブの合計数： 1

SDCMD<A000000>: OK

コマンドを起動した場合

```
cadsmcmd targetComputer action=listFailedJobs name=comp1 detailed
```

以下のリストが受信されます。

```
-----
コンピュータ "comp1" の失敗したジョブのリスト
(詳細)
-----
```

```
コンピュータ ジョブ識別子.....: 0C42D0D1-3E32-4974-8F47-E7220805BC4A
..ジョブ名.....: tstkp02 1.0:instCrash
..項目名.....: tstkp02
..項目バージョン.....: 1.0
..プロシージャ名.....: instCrash
..コンピュータのインストール プロシージャ.....: instCrash
..注文者.....: winnt://comp1/administrator
..作成時間.....: 2006-10-19 15:41
..開始時間.....: 2006-10-19 15:41
..終了日.....: 2006-10-19 15:41
..ステータス.....: EXECUTION_ERROR
..エラーの原因.....: 228001
..エラー メッセージ.....: 終了コード 2 はエラーの可能性がありますが

..ジョブ出力.....: このジョブに使用できる出力はありません。
```

読み込まれたジョブの合計数： 5

表示されたジョブの合計数： 1

SDCMD<A000000>: OK

以下のコマンドの起動を起動した場合

```
cadsmcmd targetComputer action=listFailedJobs name=comp% alt
```

以下のリストが受信されます。

失敗したジョブ "comp%" のリスト

```
ターゲット..... : comp0
..ジョブ名..... : tstkpk01 1.0: inst
..ジョブ識別子..... : 23131B7D-AAE2-4878-A33B-563E473FF37E
..項目名..... : tstkpk01
..項目バージョン..... : 1.0
..プロシージャ名..... : inst
..タスク..... : install
..ユーザ パラメータ..... :
..ジョブ ステータス..... : DELIVERY_ERROR
..エラー コード..... : 228432
..エラー メッセージ..... : メッセージをコンピュータ <130.11 に送信して
います
.....+ 9.101.163> failed.
..作成日..... : 2006-10-20
..作成時間..... : 17:16
..起動日..... : 2006-10-20
..起動時間..... : 17:15
..完了日..... : 2006-10-20
..完了時間..... : 17:16
ターゲット..... : comp1
..ジョブ名..... : tstkpk02 1.0:instCrash
..ジョブ識別子..... : 0C42D0D1-3E32-4974-8F47-E7220805BC4A
..項目名..... : tstkpk02
..項目バージョン..... : 1.0
..プロシージャ名..... : instCrash
..タスク..... : install
..ユーザ パラメータ..... :
..ジョブ ステータス..... : EXECUTION_ERROR
..エラー コード..... : 228001
..エラー メッセージ..... : 2
..作成日..... : 2006-10-19
..作成時間..... : 15:41
..起動日..... : 2006-10-19
..起動時間..... : 15:41
..完了日..... : 2006-10-19
..完了時間..... : 15:41
```

項目の合計数 : 2
SDCMD<A0000000>: OK

フィルタを使用して、コンピュータ「test01」でジョブのステータスが「Execution_Error」である失敗したジョブのリストを受信するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd targetcomputer action=listfailedjobs name=test01 filter="Job
state=EXECUTION_ERROR"
```

出力は以下のようになります。

```
-----
コンピュータ「test01」の失敗したジョブのリスト
-----
CA DSM Agent + AM、RC、SD プラグイン (ENU) Win32 12.0.0.4860: インストール (EXECUTION_ERROR)
CA DSM Agent + AM、RC、SD プラグイン (ENU) Win32 12.0.0.4860: インストール (EXECUTION_ERROR)
CA DSM Agent + AM、RC、SD プラグイン (ENU) Win32 12.0.0.4860: インストール (EXECUTION_ERROR)

読み込まれたジョブの合計数: 16
表示されたジョブの合計数: 3
SDCMD<A0000000>: OK
```

listInst—インストールされている製品のリスト

このアクションでは、ターゲット コンピュータでインストールが一覧表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetcomputer action=listinst
    name=computer_name
    [detailed]
```

detailed

詳しい情報の一覧表示

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前を指定します。

例：

以下のコマンドを入力すると、ターゲット コンピュータ「KKKKK01B」ですべてのインストールの簡潔な一覧が表示されます。

```
cadsmcmd targetComputer action=listInst name=KKKKK01B
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
マネージャ： mymanager
```

```
ドメイン： mydomain
```

```
ドメイン タイプ： Domain
```

```
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
-----
ターゲット コンピュータ "KKKKK01B" のインストールのリスト
-----
```

```
SD Scalability Server for WinNT/W2K 4.0 ENU (I386)： スケーラビリティ サーバ (EXECUTION_OK)
Client Automation Explorer for WinNT/W2K 4.0 ENU (I386)： ローカル (EXECUTION_OK)
SD Agent for WinNT/W2K 4.0 ENU (I386)： エージェント (EXECUTION_OK)
SD Server for WinNT/W2K 4.0 ENU (I386)： エージェント (EXECUTION_OK)
tstbase 1.0: inst (EXECUTION_OK)
Data Transport Service for Win32 2.0 SP1 ENU： DTS (EXECUTION_OK)
tstpkp03 1.0: inst (EXECUTION_OK)
tstpkp02 1.0: instCrash (EXECUTION_OK)
-----
```

```
検出されたインストールの合計数： 8
```

```
表示されたインストールの数： 8
```

```
SDCMD<A0000000>： OK
```


より詳細な一覧を取得するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd targetComputer action=listInst name=KKKKK01B detailed
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

マネージャ "www01b" にユーザ "<デフォルト ユーザ>" として接続しています...OK。

ターゲット コンピュータ "KKKKK01B" のインストールのリスト
(詳細)

```
コンピュータ ジョブ識別子.....: 5107
..ジョブ名.....:
..項目名.....: SD scalability server for WinNT/W2K
..項目バージョン.....: 4.0 ENU (I386)
..プロシージャ名.....: スケーラビリティ サーバ
..注文者.....: システム
..作成時間.....: 2005-04-15 10:42
..開始時間.....: 2005-04-15 10:42
..インストール時間.....: 2005-04-15 10:42
```

```
コンピュータ ジョブ識別子.....: 5113
..ジョブ名.....:
..項目名.....: Client Automation Explorer for WinNT/W2K
..項目バージョン.....: 4.0 ENU (I386)
..プロシージャ名.....: ローカル
..注文者.....: システム
..作成時間.....: 2005-04-15 10:42
..開始時間.....: 2005-04-15 10:42
..インストール時間.....: 2005-04-15 10:42
```

```
コンピュータ ジョブ識別子..... : 5110
..ジョブ名..... :
..項目名..... : SD Agent for WinNT/W2K
..項目バージョン..... : 4.0 ENU (I386)
..プロシージャ名..... : エージェント
..注文者..... : システム
..作成時間..... : 2005-04-15 10:42
..開始時間..... : 2005-04-15 10:42
..インストール時間..... : 2005-04-15 10:42

コンピュータ ジョブ識別子..... : 5104
..ジョブ名..... :
..項目名..... : SD Server for WinNT/W2K
..項目バージョン..... : 4.0 ENU (I386)

コンピュータ ジョブ識別子..... : 5418
..ジョブ名..... : tstbase 1.0: inst
..項目名..... : tstbase
..項目バージョン..... : 1.0
..プロシージャ名..... : inst
..注文者..... : KKKKK01
..作成時間..... : 2005-04-15 10:59
..開始時間..... : 2005-04-15 10:57
..インストール時間..... : 2005-04-15 10:59

コンピュータ ジョブ識別子..... : 5510
..ジョブ名..... :
..項目名..... : Data Transport Service for Win32
..項目バージョン..... : 2.0 SP1 ENU
..プロシージャ名..... : DTS
..注文者..... : ソフトウェア ディテクタ
..作成時間..... : 2005-04-15 10:59
..開始時間..... : 2005-04-15 10:59
..インストール時間..... : 2005-04-15 10:59

コンピュータ ジョブ識別子..... : 6159
..ジョブ名..... : tstkpk03 1.0: inst
..項目名..... : tstkpk03
..項目バージョン..... : 1.0
..プロシージャ名..... : inst
..注文者..... : KKKKK01
..作成時間..... : 2005-04-15 11:23
..開始時間..... : 2005-04-15 11:22
..インストール時間..... : 2005-04-15 11:23
```

```
コンピュータ ジョブ識別子..... : 7805
..ジョブ名..... : tstkpk02 1.0:instCrash
..項目名..... : tstkpk02
..項目バージョン..... : 1.0
..プロシージャ名..... : instCrash
..注文者..... : KKKKK01
..作成時間..... : 2005-04-15 12:15
..開始時間..... : 2005-04-15 12:15:00
..インストール時間..... : 2005-04-15 12:15:00
```

```
-----
検出されたインストールの合計数 : 8
表示されたインストールの数 : 8
SDCMD<A0000000>: OK
```

listJobs—ターゲット コンピュータに関連したジョブのリスト

このアクションでは、**name** パラメータで識別されたシステムに関連付けられているジョブの一覧が表示されます。追加フィルタを指定して、フィルタ条件を満たすジョブのみにリストを制限することができます。フィルタが指定されていない場合、ジョブの全リストが表示されます。フィルタは **100** バイトに制限されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetcomputer action=listjobs
  name = computer_name
  [{alt |
    [{filter=filter|filterfile=file_name}]]
```

alt

別の出力リストが提供されます。

項目名およびバージョンにのみ基づく代替リストが提供されます。

このパラメータをコーディングすると、**item** パラメータおよび **version** パラメータの値にデータベース対応のワイルドカードを含めることができるようになります。たとえば、以下のものがあります。

"%"

これは空文字も含め任意の文字列を表します。

" "

これは任意の 1 文字を表します。

また、**Microsoft SQL Server** の場合、角かっこ（「[」、「]」）には特別な意味があります。このことは名前をコーディングする際に考慮する必要があります。

filter

保留中のインストールがキャンセルされる 一覧表示する情報量を制限するための式

アトミック フィルタ式の作成に有効な属性は、以下のとおりです。

属性

ジョブ名

ジョブ状態

項目名

項目バージョン

タイプ

文字列

{UNDEFINED | WAITING |
DELIVERY_ORDERED | DELIVERING |
DELIVERY_OK | DELIVERY_ERROR |
ALREADY_DELIVERED |
EXECUTION_ORDERED | EXECUTING |
EXECUTION_OK | EXECUTION_ERROR |
UNDELIVERY_ORDERED |
UNDELIVERING | UNDELIVERY_OK |
UNDELIVERY_ERROR |
ALREADY_INSTALLED |
MANIPULATION_NOT_ALLOWED}

文字列

文字列

項目タイプ	{SOFTWARE DOCUMENT PROCEDURE UNSEALED ITEM ENABLED ITEM DETECTED ITEM ARCHIVED ITEM}
プロシージャ名	文字列
ソート基準	文字列
エラー メッセージ	文字列
エラーの原因	長整数型
コメント	文字列
コンピュータのインストール プロシージャ	文字列
作成日	Sdate
作成時間	Stime
起動日	Sdate
起動時間	Stime
完了日	Sdate
完了時間	Stime

filterfile

保留中のインストールがキャンセルされる フィルタ コマンドが含まれているファイルの名前

ファイル内のコマンドは、**filter** パラメータの場合と同様に指定しますが、ファイルのサイズは、このコマンドを実行するシステムの容量で制限されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前 を指定します。

例：

以下のコマンドを起動した場合

```
cadsmcmd targetComputer action=listJobs name=sys1
```

以下のリストが返されます。

コンピュータ **sys1** のジョブのリスト

1. 現在のインストールのリスト

CA Unicenter Client Automation エクスプローラ 11.0.8070.296: インストール (EXECUTION_OK、B8E5FB21-0681-4C97-8FC1-E7B2E718B9CA)
CA Unicenter DSM エージェント + Software Delivery プラグイン 11.0.8070.296: インストール (EXECUTION_OK, C046CFB6-F2F9-4D05-B7E9-006E47F42454)
CA Unicenter DSM エージェント + Asset Management プラグイン 11.0.8070.296: インストール (EXECUTION_OK, EBC708F8-39C9-405A-B69D-F65DA74A72F6)
CA Unicenter DSM エージェント + Basic Inventory プラグイン 11.0.8070.296: インストール (EXECUTION_OK, 97741439-351E-4D03-9C64-33775C99649C)
tstbase 1.0: インストール (EXECUTION_OK, FC23989D-C88B-4ADB-8A2E-30223A65B71E)

2. ほかのジョブのリスト

ジョブの合計数： 5

読み込まれたジョブの合計数： 5

表示されたジョブの合計数： 5

SDCMD<A0000000>: OK

パラメータのジョブ ステータスおよび ID が表示されています。

以下のコマンドの起動を起動した場合

```
cadsmcmd targetComputer action=listJobs name=sys% alt
```

以下のリストが返されます。

ジョブ「sys%」のリスト

ターゲット..... : sys1
..ジョブ名..... : tstbase 1.0: inst
..ジョブ識別子..... : FC23989D-C88B-4ADB-8A2E-30223A65B71E
..項目名..... : tstbase
..項目バージョン..... : 1.0

```
..プロシージャ名..... : inst
..タスク..... : install
..ユーザ パラメータ..... :
..ジョブ ステータス..... : EXECUTION_OK
..エラー コード..... : 0
..エラー メッセージ..... :
..作成日..... : 2006-10-18
..作成時間..... : 13:58
..起動日..... : 2006-10-18
..起動時間..... : 13:57
..完了日..... : 2006-10-18
..完了時間..... : 13:59

ターゲット..... : sys2
..ジョブ名..... : tstbase 1.0: inst
..ジョブ識別子..... : 653C4ECE-10BD-43AF-9809-3DAC494A35D8
..項目名..... : tstbase
..項目バージョン..... : 1.0
..プロシージャ名..... : inst
..タスク..... : install
..ユーザ パラメータ..... :
..ジョブのステータス..... : EXECUTING
..エラー コード..... : 228432
..エラー メッセージ..... : ファイル転送は正常に完了しました
.....+ ly
..作成日..... : 2006-10-19
..作成時間..... : 09:08
..起動日..... : 2006-10-19
..起動時間..... : 09:08
..完了日..... : 2006-10-19
..完了時間..... : 09:08

-----
項目の合計数 : 2
SDCMD<A0000000>: OK
```

フィルタを使用して、以下のコマンドを実行すると、

```
cadsmcmd targetcomputer action=listjobs name=test01 filter="Job state=EXECUTION_OK"
```

出力は以下のようになります。

コンピュータ **test01** のジョブのリスト

1. 現在のインストールのリスト

CA DSM スケーラビリティ サーバ 12.0.0.4860: インストール(EXECUTION_OK、21EC3E23-ABA8-4C18-8683-ABA423928815)

CA DSM エクスプローラ 12.0.0.4860: インストール (EXECUTION_OK、
F4B97228-9BC0-458D-9378-6EF46
FDAFBA6)

CA DSM エージェント + Asset Management プラグイン (英語のみのエディション) 12.0.0.4860: インストール

(EXECUTION_OK、3643F431-59C8-4AEC-B213-66813863F053)

CA DSM エージェント + 基本インベントリ プラグイン (英語のみのエディション) 12.0.0.4860: インストール

(EXECUTION_OK、224D083A-D48F-4EAE-8060-37B6486580F5)

CA DMS エージェント + Software Delivery プラグイン (英語のみのバージョン) 12.0.0.4860: インストール

(EXECUTION_OK、742B5764-E4AF-475A-BA99-08B380BF6DC0)

CA DMS エージェント + Data Transport プラグイン 12.0.0.4860: インストール (EXECUTION_OK、
11A8AF71

-F703-44BF-B3BA-40D1C3218560)

CA DMS エージェント + Remote Control プラグイン (英語のみのエディション) 12.0.0.4860: 完全

一括管理エージェント (EXECUTION_OK、94A845B7-ACEE-4AF2-8760-6C4F0EFDA570)

CA DSM マネージャ 12.0.0.4860: 検出 (EXECUTION_OK、2A8EDFFE-7B1E-4229-94B1-4AD816E9FF11)

2. ほかのジョブのリスト

ジョブの合計数: 11

読み込まれたジョブの合計数: 11

表示されたジョブの合計数: 8

SDCMD<A0000000>: OK

listMembership—ターゲット コンピュータのメンバシップのリスト

このアクションでは、指定したターゲット コンピュータがメンバになっているすべてのグループが一覧表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetcomputer action=listMembership name=computer_name  
name
```

ターゲット コンピュータの名前を指定します。 メンバシップがリストされます。

例：

以下のコマンドを入力して、ターゲット コンピュータ「KKKKK01B」がメンバとなっているすべてのグループをリストします。

```
cadsmcmd targetComputer action=listMembership name=KKKKK01B
```

以下のようなリストになります。

```
-----  
"KKKKK01B" は次のグループのメンバです  
-----
```

```
cg (グループ、ローカル)  
qg (クエリ グループ、グローバル)  
Software Delivery Server (グループ、ローカル)  
tqg (クエリグループ、グローバル)  
SDCMD<A0000000>: OK
```

reinstallProduct—製品の再インストール

このアクションでは、ターゲット コンピュータ上ですでにインストール済みとしてマークされている製品を再インストールします。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetcomputer action=reInstallProduct
  name=computer_name
  item=item_name
  version=item_version
  procedure=install_procedure
  cname=[name]
  [{noLinkage|rollback|synchronized}]
  [nocascade]
  [deliveryTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  after={exacttime|boottime}
  [calendarname=delivery_calendar_name]
  [preaction={none|reboot|logoff}]
  [postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}]
  [promptUser[={y|n}]]
  [allowCancel[={y|n}]]
  [execTimedOut[={y|n}]]
  [prompt=days.hours]
  [offline[={y|n}]]
  [runAtShutdown[={y|n}]]
  [preventLogon[={y|n}]]
  [globalTime]
  [noCalendar]
  [parameters=user_parameters]
  [jobTimeOut=d.h]
  [unsealed]
```

after

ターゲット システムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「**allowCancel**」または「**allowCancel =y**」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「**allowCancel =n**」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

promptUser がこの呼び出しによって設定されていないか、すでに有効になっていない場合、このパラメータは無視されます。警告は表示されません。

atTime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

calendarName

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

cname

以下を指定します：ジョブ コンテナの一意の名前（オプション）（デフォルト：**target_computer_name[YYYY-MM-DD hh:mm:ss]**）

リクエストを配分するのに使用されます。コンテナがすでに存在して、封印解除されている場合は、リンク オプションまたは重ねて表示オプションを変更せずに使用されます。コンテナがすでに存在し、封印されている場合は、エラーが報告されます。コンテナが存在しない場合は、ジョブ コンテナが指定されたリンクおよび重ねて表示パラメータに従って作成されます。

deliveryTime

保留中のインストールがキャンセルされる ドメイン マネージャからの配信の開始時間です。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

パラメータがコーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

execTimedOut

「execTimedOut」または「execTimedOut=y」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「execTimedOut=n」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

promptUser がこの呼び出しによって設定されていないか、すでに有効になっていない場合、このパラメータは無視されます。警告は表示されません。

globalTime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズ マネージャ 時間に基づいたものになります。

「globalTime=n」をコーディングすると、時間指定がドメイン マネージャ 時間に基づいたものになります。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「d.h」の形式で指定されます。**d** には日数、**h** には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、7.0 がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前を指定します。

noCalendar

「noCalendar」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダが無視されます。

noCascade

ジョブ リンク オプションが「カスケーディングを無視」に設定されます。

このパラメータは、「transaction」または「synchronized」をコーディングした場合にのみ認められます。

noLinkage|rollback|synchronized

複数ジョブの場合、このモードでは、ジョブ コンテナ内のジョブ同士の間のリンクが取り扱われます。構文要素には、次のような機能があります。

指定なし

バッチ ジョブ モードがロールバックなしに使用されます。

noLinkage

コンテナ内のほかのジョブに影響されることなくジョブを実行します。

rollBack

ジョブ リンク オプションを「トランザクションの有効化」に設定します。

synchronized

ジョブ リンク オプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

offline

「offline」または「offline=y」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「offline=n」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの完了の後にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoffAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの開始前にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの開始前にユーザをログオフします。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャの名前
プロシージャを指定します。

prompt=d.h

保留中のインストールがキャンセルされる ユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「*d.h*」です。*d* は日、*h* は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

promptUser がこの呼び出しによって設定されていないか、すでに有効になっていない場合、このパラメータは無視されます。警告は表示されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、**Unix** がターゲットの場合にのみ有効です。

unsealed

対象のジョブが正常に作成された後も、アドレス指定されたジョブ コンテナが封印解除されたままになります。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン.

「allowCancel」、「execTimedOut」、「prompt」の各パラメータは、「promptUser」オプションがすでに設定されているか、またはこのコマンドの「promptUser」パラメータで設定される場合に有効になります。

ジョブの「promptUser」オプションもコマンドの「promptUser」パラメータも設定されていない場合は、いずれのパラメータも無視されます。

警告は表示されません。

removeJob—ジョブ リストからのジョブの削除

このアクションでは、指定したターゲット コンピュータのジョブ リストからジョブを除去します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetcomputer action=removeJob name=computer_name
  {cjid=computer_job_identifier|
  item=item_name
  version=item_version
  procedure=item_procedure
  [installedWith=installation_procedure]}
```

cjid

以下を指定します: コンピュータ ジョブの識別子です。を指定します。

installedWith

保留中のインストールがキャンセルされる インストール プロシージャの名前 を指定します。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前 を指定します。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる 項目プロシージャの名前 を指定します。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

注: 削除対象のジョブが、項目、バージョンなどで指定された場合は、ジョブ リストで条件に最初に一致したジョブのみが削除されます。

例：

ジョブ ID が「2F126122-3848-4FE7-A41F-DF781E7CB5AD6050」のジョブ「tstpk01 1.0:inst」をターゲット コンピュータ「KKKKK01B」の関連ジョブ リストから除去するには、以下のコマンドを入力します。

```
cadsmcmd targetComputer action=removeJob name=KKKKK01B  
cjid=2F126122-3848-4FE7-A41F-DF781E7CB5AD6050
```

showJobAttr—ジョブ属性の表示

このアクションでは、コンピュータに関連するジョブの属性が表示されます。関連のコンピュータは **name** パラメータで指示され、問題のジョブは **jobname** パラメータで指示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetcomputer action=showjobattr  
  name=computer_name  
  jobname=job_name
```

jobname

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブの名前 を指定します。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前 を指定します。

例：

KKKKKB1B のジョブ「tstkp02 1.0:inst」の属性を表示するには、以下を呼び出します。

```
cadsmcmd targetComputer action=showJobAttr name=KKKKKB1B jobName="tstkp02
1.0:inst"
```

表示される情報は、以下のとおりです。

```
-----
ジョブ "tstkp02 1.0:inst" (コンピュータ "KKKKKB1B") の
.....属性を表示します
-----
コンピュータ ジョブ識別子.....: AF60EB2F-7706-4B78-B084-6B09DCB96D94
..ジョブ名.....: tstkp02 1.0: inst
..項目名.....: tstkp02
..項目バージョン.....: 1.0
..項目タイプ.....: SOFTWARE
..タスク.....: 1
.....インストール
..プロシージャ名.....: inst
..注文者.....: winnt://677-lab-xxx2/xxx
..ジョブ ステータス.....: EXECUTION_OK
..エラー メッセージ.....: OK
..エラーの原因.....: 0
..コメント.....:
..コンピュータのインストール プロシージャ.....: inst
..起動日.....: 2006-08-16
..起動時間.....: 15:01:00
..作成日.....: 2006-08-16
..作成時間.....: 15:02:00
..完了日.....: 2006-08-16
..完了時間.....: 15:03:00
..送信済みデータ (パーセント) .....:
..ジョブ出力.....: このジョブに使用できる出力はありません。
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

OS インストール管理 (OSIM) 関連の TargetComputer コマンド

OS インストール管理 (OSIM) は Software Delivery の主要機能であり、最初から実行するブート イメージやオペレーティング システム イメージのインストール、およびシステム クラッシュ後の再インストールを処理します。以下に列挙したメソッドでは、`cadsmcmd` によって OSIM の管理機能が実現されている仕組みについて説明します。

OSIM では、ネットワークまたはサブネットワークにインストールされているオペレーティング システムに関するすべてのデータが管理されています。

注：

- ターゲット コンピュータの作成
- ターゲット コンピュータの削除
- ターゲット コンピュータのリスト
- 属性の表示

[一般コマンド](#) (P. 476)を参照

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[activateOS—OS インストールの注文の起動](#) (P. 525)

[cancelOS—OS インストールの注文のキャンセル](#) (P. 527)

[deletePlannedOS—予定済み OS インストールの注文の削除](#) (P. 527)

[deleteScheduledOS—スケジュール済み OS インストールの注文の削除](#) (P. 528)

[modifyInstallParameter—OS インストールの注文のインストール パラメータの変更](#) (P. 528)

[modifyOS—ターゲット コンピュータへの OS イメージ](#) (P. 531)

[reactivateOS—停止/失敗 OS インストールの注文の再起動](#) (P. 532)

[reinstallOS—オペレーティング システムの再インストール](#) (P. 534)

[removeFromOsim—OSIM からのターゲットの除去](#) (P. 536)

[showInstallParameter—OS インストールの注文のインストール パラメータの表示](#) (P. 537)

[setupOS \(廃止されたアクション\)](#) (P. 538)

activateOS—OS インストールの注文の起動

このアクションでは、オペレーティング システムの予定済みインストール実行がスケジュールされます。

ターゲット コンピュータが OSIM 管理対象であり、予定済みオペレーティング システムを使用することができ、保留中 OS インストールがターゲット コンピュータに存在しない場合は、予定済み OS インストールを行うことがスケジュールされます。

その他の場合は、このアクションは失敗します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetComputer action=activateOS
  name=computer_name
  [atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [wakeup[={y|n}]]
  [restart[={y|n}]]
  [waitBs[={y|n}]]
  [waitIm[={y|n}]]
```

atTime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前を指定します。

restart

このオプションパラメータでは、関連するインストールの注文を実行するときに動作中のシステムを再起動するかどうかを指定します。

restart または **restart=y** を指定すると、再起動が実行されます。

restart=n を指定すると、自動再起動は実行されず、システムを再起動して OS のインストールプロセスを開始するかどうかはユーザが決定することになります。

このパラメータが指定されていない場合、デフォルトは **restart=n** となります。

waitBs

waitBs または **waitBs=y** を指定すると、アドレス指定されたターゲットがブートサーバに割り当てられるまで起動リクエストが延期されることがあります。**waitBs=n** を指定すると、ブートサーバの割り当てはないため、リクエストは延期されません。デフォルトは、**waitBs=n** です。

WaitIm

waitIm または **waitIm=y** が指定されると、関連付けられたブートイメージおよび OS イメージが関連するブートサーバでステージされるまで、起動リクエストが延期されることがあります。**waitIm=n** を指定すると、イメージはステージされないため、リクエストは延期されません。デフォルトは、**waitIm=n** です。

wakeup

このオプションパラメータでは、今回のインストールの実行時に、電源待機モードにあるターゲットシステムをウェイクアップさせるかどうかを指定します。

wakeup または **wakeup=y** を指定すると、システムはウェイクアップされます。

wakeup=n を指定すると、ウェイクアップは実行されません。

このパラメータが指定されていない場合は、デフォルトの **wakeup=n** が使用されます。

例：

オペレーティングシステムの予定済みインストールをターゲットコンピュータ **dorabella** で実行する必要があると想定します。システムが電源待機モードにある場合、システムをウェイクアップする必要があります。また、自動起動を実行してインストールプロセスをターゲットシステムで開始する必要があります。以下のコマンドに、このリクエストを実行できます。

```
cadsmcmd targetcomputer action=activateOS name=dorabella wakeup restart
```

cancelOS—OS インストールの注文のキャンセル

このアクションでは、OS イメージの保留中インストールをキャンセルします。このメソッドは、以下の場合にインストール リクエストをキャンセルします。

- 指定されたターゲット システムが存在する。
- 指定されたターゲットが OSIM 管理対象である。
- OS インストールの注文が保留中である。

その他の場合は、このメソッドは失敗します。

注： インストールの注文がブート サーバでスケジュールされ、ターゲット システムでインストールがまだ開始されていない場合にのみ、保留中インストールをキャンセルできます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetComputer action=cancelOS
name=computer_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前 を指定します。

注： ターゲットが保留中以外の状態である場合、OS のインストールを中止するには *force* オプションを使用します。例: *cadsmcmd targetcomputer action=cancelOS name=<computer name> force*

deletePlannedOS—予定済み OS インストールの注文の削除

このアクションを使用すると、予定済み設定を削除できます。

システムが OSIM 管理対象であり、予定済み OS インストールの注文が存在する場合、その予定済み OS インストールの注文は削除されます。 その他の場合、リクエストは失敗します。

削除対象の予定済み設定が、指定したシステムに関連するただ一つの設定である場合、そのシステムは OSIM 管理非対象になります。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetComputer action=deletePlannedOS  
name=computer_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前 を指定します。

deleteScheduledOS—スケジュール済み OS インストールの注文の削除

このアクションでは、サブステータス「失敗」または「停止」のスケジュール済み OS インストールのリクエストを削除します。

システムが **OSIM** 管理対象であり、必要条件のサブステータスを持つスケジュール済み OS インストールの注文が存在する場合、そのスケジュール済み OS インストールの注文は削除されます。 その他の場合、リクエストは失敗します。

削除対象のスケジュール済み設定が、指定したシステムに関連するただ一つの設定である場合、そのシステムは **OSIM** 管理非対象になります。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetComputer action=deleteScheduledOS  
name=computer_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前 を指定します。

modifyInstallParameter—OS インストールの注文のインストール パラメータの変更

このアクションでは、予定済み OS インストールの注文の **OSIM** 管理対象システムのインストール パラメータを変更します。

指定したパラメータは、指定した引数に従って変更されます。デフォルトを指定すると、パラメータはデフォルト値にリセットされます（デフォルト値が存在する場合）。 引数の指定がない場合は、エラーがレポートされます。

上記以外で、新たに指定した値が関連の OS イメージのパラメータ仕様に適合する場合、現在のパラメータ値がその値によって置き換わります。

OS イメージ パラメータは、この操作では変更できません。 OS イメージの割り当てを変更するには、別の操作（操作 **modifyOS**）を選択する必要があります。

MAC アドレスを変更すると、設定パラメータだけでなく、コンピュータ プロパティも変更されます。OSIM データベース内の別のコンピュータが、変更する MAC アドレスをすでに使用しているかどうかを確認されます。変更する MAC アドレスの名前指定コンピュータ エントリが存在し、削除対象としてキューに収容されていない場合は、MAC アドレスの変更は拒否されます。MAC アドレスの名前無指定コンピュータ エントリが存在する場合、MAC アドレスはデータベースから削除されます。

関連リストのメンバでないパラメータ値によって「拡張可能リスト」型のパラメータを変更すると、パラメータ値が関連リストに追加されます。非拡張可能リストの場合、パラメータ値はリストのメンバである必要があります。これ以外の場合、変更は拒否されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetComputer action=ModifyInstallParameter
  name=computer_name
  paramName=parameter_name
  {default|paramValue=parameter_value}
```

default

指定したパラメータのユーザ設定を無効にし、デフォルトに設定します。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前 を指定します。

paramName

保留中のインストールがキャンセルされる パラメータの名前 を指定します。

注： パラメータ「**HostName**」は、指定されたターゲット システムがネットワークから登録されていない限り、変更できます。
システムがすでに登録されている場合は、次のエラー **CMD00149** が報告されます。「ターゲットはすでに登録されています。この操作は許可されていません。」

paramValue

新しいパラメータの値です。 .

パラメータがマップ リストまたは拡張マップ リストの場合は、「<キー><コメント>」というフォーマットを使用します。

キーとコメントは空白で区切られ、コメントはオプションです。

キーに空白が含まれる場合は、引用符で囲みます。

例: XP OS イメージに対しては、「**TimeZone**」パラメータの設定を「**095**」または「**095 Central Europe**」に変更します。

Vista イメージに対しては、「**TimeZone**」パラメータの設定を "**¥**"W. Europe Standard Time**¥**" または "**¥**"W. Europe Standard Time**¥**" UK time" に変更します。

modifyOS—ターゲットコンピュータへの OS イメージ

modifyOS アクションを使用して、新しい OS イメージを OSIM 管理対象または 管理対象外のシステムに割り当てることができます。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
targetComputer action= modifyOS
  name=target_name
  osImage=OS_image
  [bootserver]
  [macAddress=«Mac_address»]
```

name

OS イメージが割り当てられるターゲットコンピュータの名前。

osImage

ターゲットにインストールされる OS イメージの名前。

bootserver

ブート サーバの名前。

名前が指定されており、指定されたターゲットがまだブート サーバに割り当てられていない場合、ターゲットは指定されたブート サーバに割り当てられます。指定されたターゲットがすでにブート サーバに割り当てられており、パラメータによって名前が指定されている場合、指定された名前が割り当て先のブート サーバの名前と一致した場合にのみ、このアクションが処理されます。 **boot Server** パラメータがコーディングされていないと、上記の割り当ておよび確認は実行されません。

MacAddress

ターゲットの MAC アドレス

システムがまだ OSIM 登録されておらず、MAC アドレスが割り当てられていない場合、この MAC アドレスは OSIM のシステムをセットアップするのに使用されます。

OSIM で MAC アドレスが使用可能な場合、指定された値と一致する必要があります。一致しない場合、コマンドはエラーを返します。

この引数をコーディングしないと、指定されたシステムはすでに OSIM 登録されているものと見なされます。

reactivateOS—停止/失敗 OS インストールの注文の再起動

このアクションでは、ターゲット コンピュータが **OSIM** 管理対象の場合、および停止または失敗したインストールの注文リクエストが存在する場合に、インストールの実行を再スケジュールします。

その他の場合は、このアクションは失敗します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetComputer action=reactivateOS
  name=computer_name
  [attime="YYYY-MM-DD hh:mm" ]
  [wakeup[={y|n}]]
  [restart[={y|n}]]
  [waitBs[={y|n}]]
  [waitIm[={y|n}]]
```

attime

保留中のインストールがキャンセルされる アクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前 を指定します。

restart

このオプション パラメータでは、関連するインストールの注文を実行するときに動作中のシステムを再起動するかどうかを指定します。

restart または **restart=y** を指定すると、再起動が実行されます。

restart=n を指定すると、自動再起動は実行されず、システムを再起動して **OS** のインストール プロセスを開始するかどうかはユーザが決定することになります。

このパラメータが指定されていない場合、デフォルトは **restart=n** となります。

waitBs

waitBs または **waitBs=y** を指定すると、アドレス指定されたターゲットがブートサーバに割り当てられるまで起動リクエストが延期されることがあります。**waitBs=n** を指定すると、ブートサーバの割り当てはないため、リクエストは延期されません。デフォルトは、**waitBs=n** です。

waitIm

waitIm または **waitIm=y** が指定されると、関連付けられたブートイメージおよび OS イメージが関連するブートサーバでステージされるまで、起動リクエストが延期されることがあります。**waitIm=n** を指定すると、イメージはステージされないため、リクエストは延期されません。デフォルトは、**waitIm=n** です。

wakeup

このオプションパラメータでは、今回のインストールの実行時に、電源待機モードにあるターゲットシステムをウェイクアップさせるかどうかを指定します。

wakeup または **wakeup=y** を指定すると、システムはウェイクアップされます。

wakeup=n を指定すると、ウェイクアップは実行されません。

このパラメータが指定されていない場合は、デフォルトの **wakeup=n** が使用されます。

例：

停止または失敗した OS インストールをターゲット コンピュータ **dorabella** でスケジュールする必要があると想定します。ターゲットシステムが電源待機モードになっている場合、**wakeup** を実行する必要があります。

また、自動起動を実行してインストールプロセスをターゲットシステムで開始する必要があります。このことは、以下のコマンドによって行うことができます。

```
cadsmcmd targetcomputer action=reactivateOS name=dorabella wakeup restart
```

reinstallOS—オペレーティング システムの再インストール

このアクションでは、クラッシュ後にターゲット コンピュータを再インストールします。

システムが OSIM 管理対象であり、現在の OS インストールが存在するもののスケジュール済みインストールの注文がアクティブ、停止、または失敗に関係なく存在しない場合は、現在の OS の再インストールがスケジュールされます。その他の場合、リクエストは失敗します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetComputer action=reInstallOS
  name=computer_name
  [atTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [wakeup[={y|n}]]
  [restart[={y|n}]]
  [waitBs[={y|n}]]
  [waitIm[={y|n}]]
```

atTime

アクションが起動される日付と時間を指定します。

日付は、ISO の形式「YYYY-MM-DD hh:mm」になります。

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前を指定します。

restart

このオプション パラメータでは、関連するインストールの注文を実行するときに動作中のシステムを再起動するかどうかを指定します。

restart または **restart=y** を指定すると、再起動が実行されます。

restart=n を指定すると、自動再起動は実行されず、システムを再起動して OS のインストール プロセスを開始するかどうかはユーザが決定することになります。

このパラメータが指定されていない場合、デフォルトは **restart=n** となります。

waitBs

waitBs または **waitBs=y** を指定すると、アドレス指定されたターゲットがブートサーバに割り当てられるまで起動リクエストが延期されることがあります。**waitBs=n** を指定すると、ブートサーバの割り当てはないため、リクエストは延期されません。デフォルトは、**waitBs=n** です。

waitIm

waitIm または **waitIm=y** が指定されると、関連付けられたブートイメージおよび OS イメージが関連するブートサーバでステージされるまで、起動リクエストが延期されることがあります。**waitIm=n** を指定すると、イメージはステージされないため、リクエストは延期されません。デフォルトは、**waitIm=n** です。

wakeup

このオプションパラメータでは、今回のインストールの実行時に、電源待機モードにあるターゲットシステムをウェイクアップさせるかどうかを指定します。

wakeup または **wakeup=y** を指定すると、システムはウェイクアップされます。

wakeup=n を指定すると、ウェイクアップは実行されません。

このパラメータが指定されていない場合は、デフォルトの **wakeup=n** が使用されます。

例：

クラッシュが発生し、ターゲットコンピュータ **dorabella** の再インストールを実行する必要があると想定します。ターゲットシステムが電源待機モードにある場合、システムをウェイクアップする必要があります。また、自動起動を実行してインストールプロセスをターゲットシステムで開始する必要があります。

このことは、以下のコマンドによって行うことができます。

```
cadsmcmd targetcomputer action=reinstallOS name=dorabella wakeup restart
```

removeFromOsim—OSIM からのターゲットの除去

このアクションは、スケジュール済みの設定がアクティブになっていない限り、OSIM 管理から指定されたターゲット オブジェクトを除去します。

アクションの構文は、以下のとおりです。

```
targetComputer action= removeFromOSIM
  {{computer=target_name} |
  {macAddresses=Mac_address}}
```

computer

OSIM 管理から削除される OSIM 管理対象または管理対象外ターゲットの名前。いくつかの OSIM オブジェクトをまとめて削除するために、オプションを 1 回以上コーディングすることができます。

macAddresses

OSIM に登録済みで、ただし DSM には登録されていない、削除対象のシステムの MAC アドレス。このようなシステムには名前はありません。OSIM に MAC アドレスが表示されるだけです。

注： action=removeFromOSIM は、ターゲットが DSM から削除されることを意味するわけではありません。OSIM から削除されるだけで、残りの DSM は変更ありません。削除は、一時 OSIM をクリーンアップするだけです。たとえば、削除されたシステムは次の再起動で OSIM も再起動されます。

showInstallParameter—OS インストールの注文のインストール パラメータの表示

このアクションでは、関係する OS インストールの注文に関連付けられたターゲット コンピュータのインストール パラメータが一覧表示されます。

このアクションでは、指定した OS インストールの注文に関連するインストール パラメータが一覧表示されます。「**planned**」を指定すると、予定済み OS インストールの注文がリストされ、「**scheduled**」を指定すると、インストールのために起動されている OS インストールの注文のパラメータがリストされます。いずれも指定しないか、または「**current**」を指定すると、現在の OS インストールの注文のパラメータがリストされます。

ターゲット コンピュータが OSIM 管理対象システムでない場合、このアクションは失敗します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
targetComputer action=ShowInstallParameter
  name=computer_name
  [planningLevel={current|scheduled|planned}]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前を指定します。

planningLevel

オプション パラメータです。パラメータのベースとなる設定を決定します。

current

現在の OS インストールの注文のインストール パラメータがリストされます。（デフォルト）

scheduled

実行をスケジュールされた OS インストールの注文のインストール パラメータがリストされます。

planned

予定済み OS インストールの注文のインストール パラメータがリストされます。

setupOS (廃止されたアクション)

modifyOS アクションの機能拡張により、setupOS アクションは廃止されました。互換性の理由により、まだバッチ、呼び出し、あるいはパイプ モードで CADSMCMD を使用できますが、詳細モードでは使用できなくなりました。

templategroup—ソフトウェア テンプレート コマンド

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[一般的テンプレート グループ管理](#) (P. 538)
[テンプレート グループ：ターゲット コンピュータ管理](#) (P. 565)
[テンプレート グループ：項目管理](#) (P. 569)

一般的テンプレート グループ管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[create—テンプレート グループ/ソフトウェア テンプレートの作成](#) (P. 539)
[delete—ソフトウェア テンプレートの削除](#) (P. 547)
[deregister—テンプレートの登録解除](#) (P. 547)
[evaluate—テンプレートの評価](#) (P. 549)
[list—テンプレート グループのリスト](#) (P. 549)
[listExceptions—例外のリスト表示](#) (P. 551)
[listMembership—テンプレート グループのメンバのリスト表示](#) (P. 552)
[modify—テンプレート グループ/ソフトウェア テンプレートの属性の変更](#) (P. 554)
[register—テンプレートの登録](#) (P. 560)
[showAttr — ソフトウェア テンプレートの属性の表示](#) (P. 563)
[seal—ソフトウェア テンプレートの封印](#) (P. 563)
[setupExecuteJobs—ソフトウェア テンプレートのジョブのセットアップと実行](#) (P. 564)
[setupJobs—ソフトウェア テンプレートのジョブのセットアップ](#) (P. 564)
[unseal—ソフトウェア テンプレートの封印解除](#) (P. 565)

create—テンプレート グループ/ソフトウェア テンプレートの作成

このコマンドでは、新しいソフトウェア テンプレートを作成します。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
templategroup action=create
  name=template_group_name
  [supergroup=group_name]
  [swTemplate=software_template_name]
  [comment=comment]
  [{query="query" | queryfile=file_name }]
  [engineName=engine_name]
  [enginePeriod=engine_evaluation_frequency]
  [{transaction
  [norollback]|
  synchronized }
  [cascade[={y|n}]]]
  [{setup_jobs | setup&activate_jobs }
  | [regenerate [ = {y/n}]]
  | [{adhoc_only | adhoc_always}]
  [evaluationstart ="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [evaluationperiod=hours]
  [calendarname=calendar_name]
  [globaltime]
  [jcPriority={1,...,10}]
  [userMessage]
```

{adhoc_only | adhoc_always}

構文要素には、次のような機能があります。

adhoc_only

アドホック評価は、新しいターゲットまたは再インストールされたターゲットが、そのインベントリをレポートした場合にのみ有効になります。

adhoc_always

アドホック評価は、ターゲットが、そのインベントリをレポートしたとき常に有効になります。

adhoc_only および **adhoc_always** を共に指定しない場合、アドホック処理は想定されません。

calendarName

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

注： **calendarname** エントリを起動するには、「**evaluationPeriod**」も指定する必要があります。

cascade

「**cascade**」または「**cascade=y**」をコーディングすると、コンテナのジョブリンクがインストール カスケードへの依存関係の変換に切り替わります。

「**cascade=n**」をコーディングすると、ジョブリンクが変換なしに切り替わります。

ジョブ コンテナのジョブリンクがバッチ処理モードまたは同期モードにあるか、または「**transaction**」や「**synchronized**」を指定してこのアクションによってそのモードに切り替えられた場合にのみ、このパラメータを指定する必要があります。

comment

を指定します。コメントを指定します。

engineName

グループ評価を処理するエンジンの名前を指定します。

コーディングしないと、どのエンジンでもグループ評価を処理できるようになります。

このパラメータは、**queryName** または **sdQuery** がコーディングされている場合にのみ有効です。

enginePeriod

エンジンが、グループの再評価を行う期間を分単位で指定します。

コーディングされていない場合は、1 と見なされます。**engineName** をコーディングしているのに **enginePeriod** をコーディングしていない場合には、デフォルトの 1 分が使用されます。

このパラメータは、**engineName** がコーディングされている場合にのみ有効です。

evaluationStart

評価の開始時間です。開始時間は、ISO 形式の「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。**EvaluationStart** の指定がない場合は、実際の時間が使用されます。

このパラメータは、クエリまたはテンプレート グループにのみ使用されます。

evaluationPeriod

クエリの評価期間です。期間は、時間単位で指定します。

このパラメータは、クエリまたはテンプレート グループにのみ使用可能です。

このパラメータを省略または 0 を指定した場合は、再評価は実行されません。

globalTime

「**globalTime**」または「**globalTime=y**」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「**globalTime=n**」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。(デフォルト)

jcPriority

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナの優先度。
優先度は数値で指定し、その値は 1 以上 10 以下である必要があります。
指定されていない場合は、優先度 5 と見なされます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名。
存在しない場合、グループは、指定したグループ属性に基づいて作成されます。グループが存在する場合は、指定したグループ属性が無視され、指定したソフトウェア テンプレートが作成され、存在するグループに割り当てられます。

norollback

障害の発生した場合に、同じトランザクションの前のジョブのロールバックを実行しないように指定します。

query

テンプレートもクエリ グループであることを示します。コーディングするクエリは、USD 4.0 SP1 レガシー クエリである必要があります。

queryfile

保留中のインストールがキャンセルされる クエリを格納するファイルです。格納するクエリのサイズは、サーバの容量のみから制限を受けます。クエリは、有効な SD 4.0 SP1 レガシー クエリにする必要があります。

指定するクエリは、SD 4.0 SP1 レガシー クエリにする必要があります。

regenerate

「regenerate」または「regenerate=y」を指定すると、このテンプレートに対して前に失敗したジョブの再生成が実行されます。

「regenerate=n」を指定すると、再生成は実行されません。

このパラメータを指定しない場合は、「regenerate=y」を指定したことになります。

setup_jobs

整合性チェックに従って、ジョブをセットアップしますが、起動はしません。

setup_jobs および setup&activate_jobs がコーディングされていない場合は、整合性チェックのみが想定されます。

setup&activate_jobs

整合性チェックに従って、ジョブをセットアップし、起動します。

setup_jobs および setup&activate_jobs がコーディングされていない場合は、整合性チェックのみが想定されます。

注： パラメータ setup&activate_jobs をコマンドプロンプトまたはシェルレベルで使用する場合は、コマンドプロンプトまたはシェルに対して「&」が特別な意味を持つため、パラメータを引用符で囲む必要があります。バッチ スクリプトを使用する場合、引用符で囲む必要はありません。

supergroup

保留中のインストールがキャンセルされる 問題のグループがサブグループとして作成される既存のコンピュータ グループの名前を指定します。 コーディングしないと、グループがシステム フォルダ「Computers and Users」に作成されます。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。 を指定します。

コーディングされていない場合、注文はデフォルト名「<group name> [\$date \$time]」のソフトウェア テンプレートに割り当てられます。

synchronized

ジョブ リンク オプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

transaction

ジョブ リンク オプションが「バッチ ジョブの実行」に設定されます。

userMessage

テンプレート グループ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

例：

以下の要件を満たすソフトウェア テンプレートが必要であると想定します。

- グループの名前は「tgg」です。
- ジョブは、ターゲットで順番に実行される必要があります。ジョブが失敗した場合、後続のジョブは実行されません。また、すでに実行に成功した先行ジョブはロールバックされます。
- パッケージ間の依存関係を解決する必要があります。これにより、インストールの注文のカスケードが発生することがあります。
- 整合性違反がある場合、ソフトウェア テンプレートによってジョブが生成され、この整合性違反を解決してジョブ実行がスケジュールされます。
- ソフトウェア テンプレートにより、サブネット 172.16.213.* に所属し、オペレーティング システム Windows NT Intel、Windows 2000 Intel、または Windows XP Intel が稼働しているターゲット システムのみがアドレス指定されます。
- グループが封印されるときにその評価を開始する必要があります。評価は 48 時間ごとに繰り返されます。評価の起動は、tgCal という名前のカレンダーによって行われます。

以下のコマンドで、このようなグループが作成されます。

```
cadsmcmd templateGroup action=create name=tgg transaction cascade
"setup&activate_jobs" query="Target.Address MATCHES '172.16.213.*' AND
(Target.OS='Win NT Intel' OR Target.OS='Win 2000 Intel' OR Target.OS='Win XP Intel')
evaluationPeriod=48 calendarName=tgCal
```

ソフトウェア テンプレートの実際の一覧を制御するには、以下のコマンドを使用して、サーバで定義済みのソフトウェア テンプレートを一覧表示します。

```
cadsmcmd templateGroup action=list
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード： オフ

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

マネージャ： mymanager

ドメイン： mydomain

ドメイン タイプ： Domain

サポート： CO CCNF USD OSIM

テンプレート グループのリスト

TG_KKKKK01A (ローカル、クエリ)
tgg (ローカル、クエリ)
tgs (ローカル)
tg (ローカル)

検出されたソフトウェア テンプレートの数: 4
SDCMD<A0000000>: OK

作成されたソフトウェア テンプレートの属性を制御するには、以下のコマンドを使用してグループの属性の設定を表示します。

cadsmcmd templateGroup action=showAttr name=tgg

CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

トレース モード: オフ

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

マネージャ: mymanager

ドメイン: mydomain

ドメイン タイプ: Domain

サポート: CO CCNF USD OSIM

テンプレート グループ「tgg」の属性の表示

```
template.group の名前.....: tgg
グループ タイプ.....: クエリ/テンプレート グループ
範囲.....: ローカル
クエリ.....: USD_tgg [04/09/05 13:53:49.916]
コメント.....:
エンジン名.....: <すべてのエンジン>
エンジンの期間 (分) .....: 1
作成日.....: 2005-04-09
作成時間.....: 13:53
変更日.....: 2005-04-09
変更時間.....: 13:53
テンプレートの名前.....: tgg [$date $time]
..範囲.....: ローカル
..ステータス.....: 無効
..ジョブ コンテナの優先度.....: 5
..封印済み.....: いいえ
..コメント.....:
..テンプレートのプロパティ.....: 148
.....トランザクション
.....カスケード インストール
.....不適合の場合にはジョブをセットアップして起動し
ます
.....+ onformity
カレンダー名.....: tgCal
評価期間.....: 48
次の評価日.....: 2005-04-09
次の評価時間.....: 13:32
最後の評価日.....: 2005-04-09
最後の評価時間.....: 13:53
評価タイプ マスク.....: 196609
.....定期的
.....クエリ評価
.....テンプレート評価

SDCMD<A0000000>: OK
```

delete—ソフトウェア テンプレートの削除

このアクションでは、既存のソフトウェア テンプレートを 1 つ、またはテンプレート グループ全体を削除します。削除するグループは封印解除しておく必要があります。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=delete
  name=template_group_name
  [swTemplate=software_template_name]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名。グループ全体を削除するか、指定したソフトウェア テンプレートのみを削除するかは、パラメータ **swTemplate** によって決まります。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。 .

指定すると、指定したソフトウェア テンプレートのみが削除され、グループ自体、およびそのグループに関連する追加のソフトウェア テンプレートは存在しても削除されずに残ります。

指定しない場合は、グループおよびそのグループに関連するソフトウェア テンプレートがすべて削除されます。

deregister—テンプレートの登録解除

このアクションでは、エンタープライズ マネージャから、ドメイン マネージャのソフトウェア テンプレートまたはポリシーの登録を解除します。

このアクションはエンタープライズ マネージャでのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templateGroup action=deregister
  name=template_group_name
  [swTemplate=software_template_name]
  cname=[name]
  [{area=area_name} | {domain=domain_name} | toAllAreas]
  [sendTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [haltTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [distPriority={1,...,10}]
```

area

テンプレートの登録を解除するドメイン マネージャの名前を指定します。このパラメータは、複数回コーディングして、ドメイン マネージャのリストに対応することができます。

domain パラメータまたは **toAllAreas** パラメータを使用してこのパラメータをコーディングしないでください。

cname

保留中のインストールがキャンセルされる 配信コンテナの一意な名前（オブション）を指定します。

指定された名前のジョブ コンテナ / 配布がすでに存在する場合、エラーが報告されます。

「**cname**」がコーディングされていない場合、一般的な名前が生成されます。

distPriority

保留中のインストールがキャンセルされる 配信に割り当てられる優先度。

優先度は数値で指定し、その値は **1** 以上 **10** 以下である必要があります。

指定されていない場合は、優先度 **5** と見なされます。

domain

テンプレートの登録を解除するメンバーを含むドメイン マネージャグループの名前を指定します。このパラメータは、複数回コーディングして、ドメイン マネージャ グループのリストに対応することができます。

area パラメータまたは **toAllAreas** パラメータを使用してこのパラメータをコーディングしないでください。

halttime

未処理である場合に、登録解除を停止する日時を指定します。日付は **ISO** フォーマットで指定され、開始時間よりも **1** 時間以上後である必要があります。コーディングされていない場合は、**starttime + 1 時間**で **halttime** が生成されます。

name

テンプレート グループ名を指定します。

sendtime

エンタープライズからの配信の開始時間を指定します。日付は ISO フォーマットで指定されます。コーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

swTemplate

登録を解除するソフトウェア テンプレートの名前を指定します。

コーディングされていない場合は、デフォルト名「<group name> [\$date \$time]」が使用されます。

toAllAreas

エンタープライズ マネージャで現在登録されているすべてのドメイン マネージャは、指定したソフトウェア テンプレートまたはポリシーの登録を解除するために処理されます。

evaluate—テンプレートの評価

このアクションでは、グループの封印されたソフトウェア テンプレート进行评估します。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templateGroup action=evaluate
name=template_group_name
[swTemplate=software_template_name]
```

name

テンプレート グループ名を指定します。

swTemplate

評価対象のソフトウェア テンプレートの名前を指定します。

コーディングされていない場合、注文はデフォルト名「<group name> [\$date \$time]」のソフトウェア テンプレートに割り当てられます。

list—テンプレート グループのリスト

このアクションでは、使用可能なテンプレート グループが一覧表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=list
```

次の情報が表示されます。

```
-----  
テンプレート グループのリスト  
-----
```

```
tg1 (ローカル)  
tgq1 (ローカル、クエリ)  
tgqp (ローカル、クエリ)
```

かつこ内には、範囲およびクエリ グループのタイプが表示されます。

例

```
cadsmcmd templateGroup action=listComp name=tg
```

```
CA IT Client Manager r12  
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx  
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード: オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続していま  
す...OK。
```

```
マネージャ: mymanager
```

```
ドメイン: mydomain
```

```
ドメイン タイプ: Domain
```

```
サポート: CO CCNF USD OSIM
```

```
-----  
テンプレート グループ「tgs」に割り当てられているターゲット コンピュータのリスト  
-----
```

```
PPAPPGP0C  
KKKKK01A  
ORIONXH  
SPICAYI  
WWW01B  
-----
```

```
Number of target computer read: 5
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

listExceptions—例外のリスト表示

このアクションでは、このソフトウェアテンプレートのメンバであるものの、ジョブ割り当てに従わないコンピュータ、つまり一部の割り当てられたジョブがまだ正常に完了していないターゲットコンピュータ（「違反者」）が一覧表示されます。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=listExceptions
  name=template_group_name
  [swTemplate=software_template_name]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名を指定します。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。を指定します。

指定がない場合は、デフォルト名「<グループ名> [\$date \$time]」が使用されます。

次の情報が、ターゲット リストに表示されます。

テンプレート グループ「<ソフトウェア テンプレート名>」の例外メンバのリスト

```
<computer name>
<computer name>
<computer name>
```

例：

ソフトウェア テンプレート **tg** の要件に準拠していないターゲットに関する情報が必要であると想定します。以下のコマンドで、現在 **tg** に割り当てられているが準拠はしていないすべてのターゲットが一覧表示されます。

```
cadsmcmd templateGroup action=listExceptions name=tg
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
マネージャ： mymanager
```

```
ドメイン： mydomain
```

```
ドメイン タイプ： Domain
```

```
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
-----
ソフトウェア テンプレート「tg」の例外メンバの一覧
-----
```

```
GS_ELSEN
```

```
GS_MARIENLOH
```

```
GS_SALZKOTTEN
```

```
GS_WEWELSBURG
```

```
GS_WEWER
```

```
SDCMD<A000000>: OK
```

listMembership—テンプレート グループのメンバのリスト表示

このアクションでは、指定したソフトウェア テンプレートをサブグループとして含むコンピュータ グループすべてが一覧表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=listMembership
  name=template_group_name
```


name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名を指定します。

以下の情報が表示されます。

```
-----
"<software template name >" is member of the following groups
-----
```

```
<グループ名> (<グループ タイプ>、<グループ ステータス>、<登録日付>)
<グループ名> (<グループ タイプ>、<グループ ステータス>、<登録日付>)
<グループ名> (<グループ タイプ>、<グループ ステータス>、<登録日付>)
```

例 :

ソフトウェア テンプレート **tg** をサブグループとして含むグループに関する情報が必要であると想定します。以下のコマンドで、**tg** を含んでいるすべてのグループが一覧表示されます。

```
cadsmcmd templateGroup action=listMembership name=tg
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
マネージャ： mymanager
```

```
ドメイン： mydomain
```

```
ドメイン タイプ： Domain
```

```
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
-----
「tg」は、以下のグループのメンバです
-----
```

```
cg (グループ、操作可能、2005-04-08 12:08)
```

```
superTg (テンプレート グループ、適合、2005-04-08 12:00)
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

modify—テンプレート グループ/ソフトウェア テンプレートの属性の変更

このコマンドでは、既存のソフトウェア グループおよびテンプレートの属性を変更します。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
templegroup action=modify name=template_group_name
  [newName=template_group_name]
  [swTemplate=software_template_name]
  [newSwTemplate=new_software_template_name]
  [comment=comment]
  [{query="query" | queryfile=filename | noquery}]
  [engineName=engine_name]
  [enginePeriod=engine_evaluation_frequence]]
  [{transaction|synchronized|nolinkage}]
  [rollback[={y|n}]]
  [cascade[={y|n}]]
  [{nosetup | setup_jobs | setup&activate_jobs}]
  | [regenerate [ = {y|n}]]
  | [{adhoc_disable | adhoc_only | adhoc_always}]
  [evaluationstart="YYYY-MM-DD hh:mm"]
  [evaluationperiod=hours]
  [calendarname=calendar_name]
  [globalTime[={y|n}]]
  [jcPriority={1,...,10}]
  [userMessage]
```

{adhoc_disable | adhoc_only | adhoc_always}

構文要素には、次のような機能があります。

adhoc_disabled

アドホック評価が無効になります。

adhoc_only

アドホック評価は、新しいターゲットまたは再インストールされたターゲットが、そのインベントリをレポートした場合にのみ有効になります。

adhoc_always

アドホック評価は、ターゲットが、そのインベントリをレポートしたとき常に有効になります。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

注： **calendarname** エントリを起動するには、「**evaluationPeriod**」も指定する必要があります。

cascade

「**cascade**」または「**cascade=y**」をコーディングすると、コンテナのジョブ リンクがインストール カスケードへの依存関係の変換に切り替わります。

「**cascade=n**」をコーディングすると、ジョブ リンクが変換なしに切り替わります。

ジョブ コンテナのジョブ リンクがバッチ処理モードまたは同期モードにあるか、または（「**transaction**」や「**synchronous**」を指定して）このコマンドによってそのモードに切り替えられた場合にのみ、このパラメータを指定する必要があります。

comment

コメント は、指定した値で置き換えられます。

注： 既存のコメントを消去するには、空の文字列 ("") を入力してください。

engineName

グループ評価を処理するエンジンの名前を指定します。

空の文字列をコーディングすると、どのエンジンでもクエリを処理できるようになります。

現在グループにクエリが割り当てられていない場合、警告が出され、パラメータは無視されます。

enginePeriod

エンジンが、グループの再評価を行う期間を分単位で指定します。コーディングされていない場合は、**1** と見なされます。この時点でクエリがグループに **1** つも割り当てられていないうえ、評価を処理する特殊なエンジンもない場合には、警告が表示され、パラメータが無視されます。

evaluationstart

評価の開始時間です。開始時間は、ISO 形式の「YYYY-MM-DD hh:mm」で指定する必要があります。 **EvaluationStart** の指定がない場合は、実際の時間が使用されます。

このパラメータは、クエリまたはテンプレート グループにのみ使用されます。

evaluationperiod

クエリの評価期間です。期間は、時間単位で指定します。

このパラメータは、クエリまたはテンプレート グループにのみ使用可能です。

0 (ゼロ) を入力すると、定期的な評価がオフになります。

globalTime

「**globalTime**」または「**globalTime=y**」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「**globalTime=n**」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。

jcPriority

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブ コンテナに割り当てられる新しい優先度.

優先度は数値で指定し、その値は **1** 以上 **10** 以下である必要があります。

パラメータを指定しない場合には、優先度は変更されません。

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名を指定します。

newName

新しいテンプレート グループ名.

newSwTemplate

問題のソフトウェア テンプレートの新しい名前を指定します。

nolinkage

コンテナ内のほかのジョブに影響されることなくジョブを実行します。

noquery

コーディングされているクエリがあれば削除されます。

nosetup

このパラメータを指定すると、妥当性チェックのみが行われ、ジョブのセットアップは実行されません。

query

テンプレートもクエリ グループであることを示します。コーディングするクエリは、**USD 4.0 SP1** レガシー クエリである必要があります。

queryfile

を指定します。クエリを格納するファイルです。格納するクエリのサイズは、サーバの容量のみから制限を受けます。クエリは、有効な **SD 4.0 SP1** レガシー クエリにする必要があります。

regenerate

「**regenerate**」または「**regenerate=y**」を指定すると、このテンプレートに対して前に失敗したジョブの再生成が実行されます。

「**regenerate=n**」を指定すると、再生成は実行されません。

このパラメータを指定しない場合は、「**regenerate=y**」を指定したことになります。

rollback

ジョブ リンク オプションを「トランザクションの有効化」に設定します。

このパラメータは、コンテナがすでにバッチ処理モードである場合またはこのコマンド（「**transaction**」パラメータ）によってバッチ処理モードに切り替えられる場合にのみ、コーディングしてください。

setup_jobs

整合性チェックに従って、ジョブをセットアップしますが、起動はしません。

setup&activate_jobs

整合性チェックに従って、ジョブをセットアップし、起動します。

注： パラメータ `setup&activate_jobs` をコマンドプロンプトまたはシェルレベルで使用する場合は、コマンドプロンプトまたはシェルに対して「&」が特別な意味を持つため、パラメータを引用符で囲む必要があります。バッチスクリプトを使用する場合、引用符で囲む必要はありません。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされるソフトウェアテンプレートの名前です。を指定します。

指定がない場合は、デフォルト名「<グループ名> [\$date \$time]」が使用されます。

synchronized

ジョブリンクオプションが「同期化されたジョブの実行」に設定されます。

transaction

ジョブリンクオプションが「バッチジョブの実行」に設定されます。

userMessage

テンプレートグループを更新する一方で、カスタム管理者メッセージを変更します。

注： パラメータの指定がない場合、関連の属性は変更されません。

例：

「tg」という名前のソフトウェア テンプレートがドメイン マネージャで定義されていると想定します。このグループを以下のように変更することを検討します。

- リンクの規則を設定し、ロールバックおよび自動カスケードインストールを解決してジョブの処理をまとめて行う必要があります。
- 整合性の確認により、ジョブを自動的に起動する必要があります。
- ソフトウェア テンプレートは、2005 年 10 月 1 日 1:00 am から 12 時間ごとに評価される必要があります。
- 時間指定は、エンタープライズ マネージャの時間に基づいて解釈する必要があります。

以下のコマンドで、要求に応じてソフトウェア テンプレートを変更します。

```
cadsmcmd templateGroup action=modify name=tg transaction rollback cascade
"setup&activate_jobs" evaluationstart="2005-10-01 01:00" evaluationperiod=12
GlobalTime
```

register—テンプレートの登録

このアクションでは、エンタープライズ マネージャから、ドメイン マネージャのソフトウェア テンプレートまたはポリシーを登録します。

このアクションはエンタープライズ マネージャでのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templateGroup action=register
name=template_group_name
[swTemplate=software_template_name]
cname=[name]
[{area=area_name} | {domain=domain_name} | toAllAreas]
[sendTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
[haltTime="YYYY-MM-DD hh:mm"]
[distPriority={1,...,10}]
```


area

テンプレートを登録するドメインマネージャの名前を指定します。このパラメータは、複数回コーディングして、ドメインマネージャのリストに対応することができます。

domain パラメータまたは **toAllAreas** パラメータを使用してこのパラメータをコーディングしないでください。

cname

保留中のインストールがキャンセルされる 配信コンテナの一意な名前（オプション） を指定します。

指定された名前のジョブ コンテナ / 配布がすでに存在する場合、エラーが報告されます。

「**cname**」がコーディングされていない場合、一般的な名前が生成されます。

distPriority

保留中のインストールがキャンセルされる 配信に割り当てられる優先度.

優先度は数値で指定し、その値は **1** 以上 **10** 以下である必要があります。

指定されていない場合は、優先度 **5** と見なされます。

domain

テンプレートをそのメンバーとして登録するドメイン マネージャの名前を指定します。このパラメータは、複数回コーディングして、ドメイン マネージャ グループのリストに対応することができます。

area パラメータまたは **toAllAreas** パラメータを使用してこのパラメータをコーディングしないでください。

halttime

未処理である場合、登録を停止する日時を指定します。日付は ISO フォーマットで指定され、開始時間よりも 1 時間以上後である必要があります。コーディングされていない場合は、**sendtime + 1 時間**で **halttime** が生成されます。

name

テンプレート グループ名を指定します。

sendtime

エンタープライズからの配信の開始時間を指定します。日付は ISO フォーマットで指定されます。コーディングされていない場合は、実際の日時が使用されます。

swTemplate

登録するソフトウェア テンプレートの名前を指定します。

コーディングされていない場合は、デフォルト名、たとえば「<group name> [\$date \$time]」が使用されます。

toAllAreas

エンタープライズ マネージャで現在登録されているドメイン マネージャはすべて、指定したソフトウェア テンプレートまたはポリシーを登録するために処理されます。

showAttr – ソフトウェア テンプレートの属性の表示

このアクションでは、指定されたソフトウェア テンプレートの属性を表示します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=showattr  
name=template_group_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名を指定します。

seal – ソフトウェア テンプレートの封印

このアクションでは、ソフトウェア テンプレートを封印します。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=seal  
name=template_group_name  
[swTemplate=software_template_name]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。を指定します。

指定がない場合は、デフォルト名「<グループ名> [\$date \$time]」が使用されます。

setupExecuteJobs—ソフトウェア テンプレートのジョブのセットアップと実行

このアクションでは、ソフトウェア テンプレートのジョブを設定および起動します。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=setupexecutejobs
  name=template_group_name
  [swTemplate=software_template_name]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名.

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。を指定します。

指定がない場合は、デフォルト名「<グループ名> [\$date \$time]」が使用されます。

setupJobs—ソフトウェア テンプレートのジョブのセットアップ

このアクションでは、ソフトウェア テンプレートのジョブを設定します。ただし、起動はしません。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=setupjobs
  name=template_group_name
  [swTemplate=software_template_name]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名.

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。を指定します。

指定がない場合は、デフォルト名「<グループ名> [\$date \$time]」が使用されます。

unseal—ソフトウェア テンプレートの封印解除

このアクションでは、ソフトウェア テンプレートを封印解除します。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=unseal
  name=template_group_name
  [swTemplate=software_template_name]
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。を指定します。

指定がない場合は、デフォルト名「<グループ名> [\$date \$time]」が使用されます。

テンプレート グループ： ターゲット コンピュータ管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[addComp—ソフトウェア テンプレートへのコンピュータ リストの追加 \(P. 565\)](#)

[テンプレート グループのコンピュータのリスト表示 \(P. 568\)](#)

[removeComp—ソフトウェア テンプレート グループからのコンピュータの削除 \(P. 568\)](#)

addComp—ソフトウェア テンプレートへのコンピュータ リストの追加

このアクションでは、コンピュータ リストをソフトウェア テンプレートに追加します。 ソフトウェア テンプレートは、封印が解除されており、クエリ グループではない必要があります。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=addcomp
  name=template_group_name
  {computer=computer_name}
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名を指定します。

computer

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前を指定します。

このパラメータは、1 回以上指定できます。

例：

ソフトウェア テンプレート **tgs** は、クエリとは関連付けられていないと想定します。ターゲットを確認するには、グループが封印解除されているときに、ユーザーがターゲット コンピュータを手動で追加および除去する必要があります。グループは封印を解除されており、除去する必要があるターゲット **HHHHH01B** および追加する必要がある **ORIONXH** と **SPICAYI** という名前の新しいターゲットを含んでいると想定します。これらの変更を行った後、グループを再度封印する必要があります。

まず、以下のコマンドで、グループに割り当てられたすべてのターゲットの一覧を表示します。

```
cadsmcmd templateGroup action=listComp name=tgs
```

```
CA IT Client Manager r12  
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx  
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

マネージャ: mymanager

ドメイン: mydomain

ドメイン タイプ: Domain

サポート: CO CCNF USD OSIM

テンプレート グループ「tgs」に割り当てられているターゲット コンピュータのリスト

PPAPPGP0C

HHHHH01B

KKKKK01A

WWWW01B

Number of target computer read: 4

SDCMD<A0000000>: OK

ここで、割り当て済みターゲットの一覧を変更するには、グループを封印する必要があります。

cadsmcmd templateGroup action=unseal name=tgs

次に、以下のコマンドで HHHHH01B を一覧から除去します。

cadsmcmd templateGroup action=removeComp name=tgs computer=HHHHH01B

次のコマンドでは、ORIONXH および SPICAYI を一覧に追加します。

cadsmcmd templateGroup action=addComp name=tgs computer=ORIONXH computer=SPICAYI

以下のコマンドで、変更済みの一覧が表示されます。

cadsmcmd templateGroup action=listComp name=tgs

CA IT Client Manager r12

ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx

Copyright © 2014 CA. All rights reserved.

Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.

マネージャ: mymanager

ドメイン: mydomain

ドメイン タイプ: Domain

サポート: CO CONF USD OSIM

```
-----  
テンプレート グループ「tgs」に割り当てられているターゲット コンピュータのリスト  
-----
```

```
PPAPPGP0C  
KKKKK01A  
ORIONXH  
SPICAYI  
WWW01B  
-----
```

```
Number of target computer read: 6  
SDCMD<A000000>: OK
```

最後に、以下のコマンドで、グループを封印する必要があります。

```
sdcmd templateGroup action=seal name=tgs
```

テンプレート グループのコンピュータのリスト表示

このアクションでは、指定されたソフトウェア テンプレートに割り当てられたコンピュータが一覧表示されます。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=listComp  
name=template_group_name
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名.

removeComp—ソフトウェア テンプレート グループからのコンピュータの削除

このアクションでは、指定されたソフトウェア テンプレートからコンピュータの一覧が除去されます。ソフトウェア テンプレートは、封印解除されている必要があります。

このアクションはドメイン マネージャに対してのみ有効です。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=removecomp  
name=template_group_name  
{computer=computer_name }
```


computer

保留中のインストールがキャンセルされる コンピュータの名前 を指定します。

パラメータを何度もコーディングすることができます。 .

name

テンプレート グループ名.

例 :

以下のコマンドで、コンピュータ HHHHH01B がソフトウェア テンプレート tgs から除去されます。

```
cadsmcmd templateGroup action=removeComp name=tgs computer=HHHHH01B
```

テンプレート グループ : 項目管理

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[activateItem—ソフトウェア テンプレート内の項目の起動](#) (P. 569)

[addItem—ソフトウェア テンプレートへの項目の追加](#) (P. 577)

[configureItem—ソフトウェア テンプレートへの設定ジョブの割り当て](#) (P. 585)

[modifyItem—ソフトウェア テンプレート内の項目の変更](#) (P. 592)

[listItem—ソフトウェア テンプレートの項目のリスト表示](#) (P. 599)

[ソフトウェア テンプレートの項目の削除](#) (P. 601)

[repositionJobs—ソフトウェア テンプレート内のジョブの再配置](#) (P. 602)

[showAttrItem—ソフトウェア テンプレート内の項目の属性表示](#) (P. 603)

[uninstallItem—テンプレート グループからの項目の削除](#) (P. 604)

activateItem—ソフトウェア テンプレート内の項目の起動

このコマンドでは、ソフトウェア テンプレートに *起動*ジョブが割り当てられます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
templategroup action=activateItem
  name=template_group_name
  [swTemplate=software_template_name]
  item=item_name
  version=item_version
  procedure=procedure_name
  installedWith=install_procedure_name
  [repeat]
  after={exacttime|boottime}
  [calendarname=delivery_calendar]
```

```
[{preaction={none|reboot|logoff}|bootbefore}]
[{postaction=
  {none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}
|bootafter}]
[promptUser[={y|n}]]
[allowCancel[={y|n}]]
[execTimeout[={y|n}]]
[prompt=days.hours]
[offline[={y|n}]]
[runAtShutdown[={y|n}]]
[preventLogon[={y|n}]]
[globalTime]
[nocalendar]
[resolveQuery]
[stagingServer]
[parameters=user_parameters]
[{jobTimeout=d.h|timeout=hours}]
[userJobMessage]
```

after

ターゲットシステムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「**allowCancel**」または「**allowCancel =y**」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「**allowCancel =n**」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

execTimedOut

「execTimedOut」または「execTimedOut=y」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「execTimedOut=n」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロセスのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

globalTime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「globalTime=n」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。

installedWith

保留中のインストールがキャンセルされる インストール プロセスの名前を指定します。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名 を指定します。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「**d.h**」の形式で指定されます。**d** には日数、**h** には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。 どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**7.0** がデフォルトで設定されます。

noCalendar

「**noCalendar**」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダが無視されます。

(デフォルト)

offline

「offline」または「offline=y」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「offline=n」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

このパラメータが指定されていない場合は、デフォルトのユーザ パラメータが、プロシージャ定義によって与えられます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの完了の後にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoffAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの開始前にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの開始前にユーザをログオフします。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャの名前（タイプ：アクティブ）を指定します。

prompt=d.h

保留中のインストールがキャンセルされる ユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「**d.h**」です。**d** は日、**h** は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

promptUser

「**promptUser**」または「**promptUser=y**」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「**promptUser=n**」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

repeat

記述されている場合は、評価の発生ごとにジョブが繰り返されます。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリ グループを評価します。

runAtShutdown

「**runAtShutdown**」または「**runAtShutdown=y**」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「**runAtShutdown=n**」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、**Unix** がターゲットの場合にのみ有効です。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。 を指定します。

コーディングされていない場合、注文はデフォルト名「<group name> [\$date \$time]」のソフトウェア テンプレートに割り当てられます。

timeout

保留中のインストールがキャンセルされる **timeout** には、ジョブの失効期間が「h」の形式で指定されます。ここで、h は時間数です。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

timeout は **jobTimeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**168** がデフォルトで設定されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

userJobMessage

テンプレート グループ内の *起動* ジョブ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

「allowCancel」、「execTimedOut」、「prompt」の各パラメータは、「promptUser」オプションがすでに設定されているか、またはこのコマンドの「promptUser」パラメータで設定される場合に有効になります。

ジョブの「promptUser」オプションもコマンドの「promptUser」パラメータも設定されていない場合は、いずれのパラメータも無視されます。

警告は表示されません。

例：

バージョンが「1.0/00」の製品「prod」とソフトウェア テンプレート「tg」について検討します。この時点では、製品の起動をソフトウェア テンプレートに割り当てる必要があります。実行する起動ルーチンは、名前が「act」であり、インストール ルーチン「inst_2」を使用して製品をインストールしたシステム上でのみ実行する必要があります。ジョブは、以下の要件を満たす必要があります。

- ターゲットの起動をただちに開始する必要があります。
- ターゲットに割り当てられたカレンダーは、起動スケジュールでは無視されます。

- ユーザにはジョブ実行のプロンプトが表示されますが、ジョブをキャンセルする権限はありません。プロンプトがタイムアウトすると、ジョブは自動的に開始されます。プロンプトタイムアウトにはデフォルトが使用されます。

以下のコマンドによって、指定されたソフトウェアテンプレートに必要なジョブが割り当てられます。

```
cadsmcmd templateGroup action=activateItem name=tg item=prod version=1.0/00
procedure=act installedWith=inst_2 after=exacttime nocalendar promptUser
execTimedOut
```

addItem—ソフトウェアテンプレートへの項目の追加

このコマンドでは、ソフトウェアテンプレートにインストールジョブが割り当てられます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
templategroup action=addItem
name=template_group_name
[swTemplate=software_template_name]
item=item_name
version=item_version
procedure=procedure_name
after={exacttime|boottime}
[calendarname=delivery_calendar]
[{preaction={none|reboot|logoff}|bootbefore}]
[{postaction=
    {none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}
    |bootafter}]
[promptUser[={y|n}]]
[allowCancel[={y|n}]]
[execTimedOut[={y|n}]]
[prompt=days.hours]
[offline[={y|n}]]
[runAtShutdown[={y|n}]]
[preventLogon[={y|n}]]
[globalTime]
[nocalendar]
[resolveQuery]
[stagingServer]
[parameters=user_parameters]
[{jobTimeout=d.h|timeout=hours}]
[reinstall[={y|n}]]
[userJobMessage]
```

after

ターゲット システムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「**allowCancel**」または「**allowCancel=y**」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「**allowCancel=n**」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

execTimedOut

「**execTimedOut**」または「**execTimedOut=y**」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「**execTimedOut=n**」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

globalTime

「**globalTime**」または「**globalTime=y**」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「**globalTime=n**」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前を指定します。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「**d.h**」の形式で指定されます。**d** には日数、**h** には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**7.0** がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名を指定します。

nocalendar

「**noCalendar**」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダーが無視されます。

offline

「**offline**」または「**offline =y**」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「**offline =n**」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

このパラメータが指定されていない場合は、デフォルトのユーザ パラメータが、プロシージャ定義によって与えられます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの完了の後にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoffAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロセスの開始前にシステムを再起動します。

logoff

プロセスの開始前にユーザをログオフします。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる インストール プロシージャの名前 を指定します。

prompt

保留中のインストールがキャンセルされる ユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「*d.h*」です。*d* は日、*h* は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

reinstall

「reinstall」または「reinstall=y」の場合、ソフトウェア パッケージをインストールするジョブ コンテナはポリシーの各評価中に設定されます。これは、選択されたインストールプロシージャを使用して、すでにポリシーがインストールされているかどうかには依存しません。

注：ポリシーの評価の実行時、選択されたインストールプロシージャで別のインストールジョブが進行中、またはアンインストールジョブが進行中の場合、ジョブ コンテナはポリシーの評価中に設定されません。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリ グループを評価します。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。このパラメータは、**Unix** がターゲットの場合にのみ有効です。

stagingServer

関連する製品もターゲット コンピュータのスケラビリティ サーバのステージング ライブラリに配信します。

このパラメータは、タスク タイプ「インストール」のプロシージャにのみ適用されます。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。 を指定します。

コーディングされていない場合、注文はデフォルト名「<group name> [\$date \$time]」のソフトウェア テンプレートに割り当てられます。

timeout

保留中のインストールがキャンセルされる **timeout** には、ジョブの失効期間が「h」の形式で指定されます。ここで、h は時間数です。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

timeout は **jobTimeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**168** がデフォルトで設定されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョンを指定します。

「allowCancel」、「execTimedOut」、「prompt」の各パラメータは、「promptUser」オプションがすでに設定されているか、またはこのコマンドの「promptUser」パラメータで設定される場合に有効になります。

ジョブの「promptUser」オプションもコマンドの「promptUser」パラメータも設定されていない場合は、いずれのパラメータも無視されます。

警告は表示されません。

userJobMessage

テンプレート グループ内のインストールジョブ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

例：

バージョンが「1.0/00」の製品「prod」およびソフトウェア テンプレート「tg」について検討します。製品は、「inst」という名前のインストール ルーチンによって、インストール用のソフトウェア テンプレートに割り当てられているとします。インストールの注文は、以下の要件を満たす必要があります。

- パッケージの配信は、カレンダー「DelCal」によって指定される期間と合わせる必要があります。
- ターゲットへのインストールは、できる限り早めに開始する必要があります。
- インストール開始前に、ユーザはログオフする必要があります。
- インストール中は、すべてのユーザ ログオンが拒否されます。
- インストールは、サーバからオフラインで実行されます。
- ターゲットに割り当てられたカレンダーは、インストール スケジュールでは無視されます。
- インストール後、システムを再起動する必要があります。ただし、関連するジョブ コンテナのすべてのジョブが処理されるまで、再起動を遅らせることができます。
- 製品は、アドレス指定されたターゲットに関連するスケーラビリティ サーバのソフトウェア ライブラリに配信される必要があります。
- ジョブは 24 時間後にタイムアウトします。

以下のコマンドによって、指定されたソフトウェア テンプレートに必要なジョブが割り当てられます。

```
cadsmcmd templateGroup action=addItem name=tg item=prod version=1.0/00  
procedure=inst calendarname=DelCal after=exacttime preaction=logoff offline  
PreventLogon nocalendar postaction=rebootAtEnd stagingServer JobTimeout=1.0
```


configureItem—ソフトウェア テンプレートへの設定ジョブの割り当て

このコマンドでは、ソフトウェア テンプレートに設定ジョブが割り当てられます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
templategroup action=configureItem
  name=template_group_name
  [swTemplate=software_template_name]
  item=item_name
  version=item_version
  procedure=procedure_name
  installedWith=install_procedure_name
  [repeat]
  after={exacttime|boottime}
  [calendarname=delivery_calendar]
  [{preaction={none|reboot|logoff}}|bootbefore}]
  [{postaction=
    {none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}
    |bootafter}]
  [promptUser[={y|n}]]
  [allowCancel[={y|n}]]
  [execTimedOut[={y|n}]]
  [prompt=days.hours]
  [offline[={y|n}]]
  [runAtShutdown[={y|n}]]
  [preventLogon[={y|n}]]
  [globalTime]
  [nocalendar]
  [resolveQuery]
  [parameters=user_parameters]
  [{jobTimeout=d.h|timeout=hours}]
  [userJobMessage]
```

after

ターゲット システムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「allowCancel」または「allowCancel=y」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「allowCancel=n」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

execTimedOut

「execTimedOut」または「execTimedOut=y」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「execTimedOut=n」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

globalTime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「globalTime=n」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。

(デフォルト)

installedWith

保留中のインストールがキャンセルされる インストール プロシージャの名前を指定します。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「d.h」の形式で指定されます。d には日数、h には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。 どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**7.0** がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名を指定します。

noCalendar

「**noCalendar**」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダが無視されます。

「**noCalendar=n**」を指定すると、カレンダが以降無視されなくなります。

(デフォルト)

offline

「**offline**」または「**offline=y**」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「**offline=n**」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

このパラメータが指定されていない場合は、デフォルトのユーザ パラメータが、プロシージャ定義によって与えられます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの完了の後にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoffAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロセスの開始前にシステムを再起動します。

logoff

プロセスの開始前にユーザをログオフします。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャの名前 を指定します。

prompt=d.h

保留中のインストールがキャンセルされる ユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「*d.h*」です。*d* は日、*h* は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

repeat

記述されている場合は、評価の発生ごとにジョブが繰り返されます。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリ グループを評価します。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、**Unix** がターゲットの場合にのみ有効です。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。 を指定します。

コーディングされていない場合、注文はデフォルト名「<group name> [\$date \$time]」のソフトウェア テンプレートに割り当てられます。

timeout

保留中のインストールがキャンセルされる **timeout** には、ジョブの失効期間が「h」の形式で指定されます。ここで、h は時間数です。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

timeout は **jobTimeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**168** がデフォルトで設定されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

userJobMessage

テンプレート グループ内の **設定ジョブ**用のカスタム管理者メッセージを指定します。

「allowCancel」、「execTimedOut」、「prompt」の各パラメータは、「promptUser」オプションがすでに設定されているか、またはこのコマンドの「promptUser」パラメータで設定される場合に有効になります。

ジョブの「promptUser」オプションもコマンドの「promptUser」パラメータも設定されていない場合は、いずれのパラメータも無視されます。警告は表示されません。

例

バージョン「1.0/00」の製品「prod」とソフトウェアテンプレート「tg」について検討します。この時点では、製品の設定をソフトウェアテンプレートに割り当てる必要があります。実行する設定ルーチンは、名前が「conf」であり、インストールルーチン「inst_1」を使用して製品をインストールしたシステム上でのみ実行する必要があります。ジョブは、以下の要件を満たす必要があります。

- ターゲットの設定は、次の再起動の後に開始する必要があります。
- インストール中は、すべてのユーザ ログオンが拒否されます。
- ターゲットに割り当てられたカレンダーは、設定スケジュールでは無視されます。

- 設定後すぐにシステムを再起動する必要があります。
- ジョブは 36 時間後にタイムアウトします。

以下のコマンドによって、指定されたソフトウェア テンプレートに必要なジョブが割り当てられます。

```
cadsmcmd templateGroup action=configureItem name=tg item=prod version=1.0/00  
procedure=conf installedWith=inst_1 after=boottime PreventLogon nocalendar  
postaction=reboot JobTimeout=1.12
```

modifyItem—ソフトウェア テンプレート内の項目の変更

このコマンドでは、ソフトウェア テンプレートに割り当てられているジョブの属性を変更します。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
templategroup action=modifyItem name=template_group_name  
[swTemplate=software_template_name]  
jobName=name_of_the_item_order  
[newJobName=new_name_of_the_item_order]  
after={exacttime|boottime}  
[calendarname=delivery_calendar]  
[preaction={none|reboot|logoff}]  
[postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}]  
[promptUser[={y|n}]]  
[allowCancel[={y|n}]]  
[execTimedOut[={y|n}]]  
[prompt=days.hours]
```



```
[offline[={y|n}]]  
[runAtShutdown[={y|n}]]  
[preventLogon[={y|n}]]  
[globalTime]  
[nocalendar]  
[resolveQuery]  
[parameters=user_parameters]  
[repeat={y|n}]  
[stagingserver]  
[jobTimeout=d.h]  
[reinstall[={y|n}]]  
[userJobMessage]
```

after

ターゲット システムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「allowCancel」または「allowCancel =y」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「allowCancel =n」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

空の文字列 ("") を指定した場合は、calendarname が削除されます。

execTimedOut

「execTimedOut」または「execTimedOut=y」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「execTimedOut=n」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

globalTime

「globalTime」または「globalTime=y」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「globalTime=n」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。

jobName

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブの名前 を指定します。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「d.h」の形式で指定されます。**d**には日数、**h**には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**7.0** がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名 を指定します。

newJobName

新しいジョブの名前。

noCalendar

「noCalendar」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダーが無視されます。

offline

「offline」または「offline=y」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「offline=n」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの完了の後にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoffAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの開始前にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの開始前にユーザをログオフします。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

prompt=d.h

保留中のインストールがキャンセルされる ユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「*d.h*」です。*d* は日、*h* は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

reinstall

「reinstall」または「reinstall=y」の場合、ソフトウェア パッケージをインストールするジョブ コンテナはポリシーの各評価中に設定されます。これは、選択されたインストール プロシーダを使用して、すでにポリシーがインストールされているかどうかには依存しません。

注：ポリシーの評価の実行時、選択されたインストール プロシーダで別のインストール ジョブが進行中、またはアンインストール ジョブが進行中の場合、ジョブ コンテナはポリシーの評価中に設定されません。

repeat

記述されている場合は、評価の発生ごとにジョブが繰り返されます。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリ グループを評価します。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシーダのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、Unix がターゲットの場合にのみ有効です。

stagingServer

関連する製品もターゲット コンピュータのスケラビリティ サーバのステージング ライブラリに配信します。

このパラメータは、タスク タイプ「インストール」のプロシージャにのみ適用されます。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。 を指定します。

指定がない場合は、デフォルト名「<グループ名> [\$date \$time]」が使用されます。

注： パラメータの指定がない場合、関連の属性は変更されません。

userJobMessage

テンプレート グループの中で、ジョブ プロパティを更新している間、ジョブのカスタム管理者メッセージを変更します。

「allowCancel」、「execTimedOut」、「prompt」の各パラメータは、「promptUser」オプションがすでに設定されているか、またはこのコマンドの「promptUser」パラメータで設定される場合に有効になります。ジョブの「promptUser」オプションもコマンドの「promptUser」パラメータも設定されていない場合は、いずれのパラメータも無視されます。警告は表示されません。

例：

ソフトウェア テンプレート「tg」のアンインストール ジョブを以下のように変更するとします。

- ユーザ パラメータ「-x -Nc -ro」を追加する必要があります。
- ジョブ タイムアウトは 12 時間と小さくしています。
- アンインストール中、すべてのユーザのログオンが拒否されます。
- ユーザがログオフしてからジョブを開始する必要があります。
- ジョブは、指定されたグループ クエリを解決してから生成および起動する必要があります。

以下のコマンドでは、これらの要件を満たしています。

```
cadsmcmd templateGroup action=modifyItem

    name=tg

    jobName="prod 1.0/00:uninstall"

    preaction=logoff

    PreventLogon

    ResolveQuery

    parameters="-x -Nc -ro"

    JobTimeout=0.12
```

listItem—ソフトウェア テンプレートの項目のリスト表示

このアクションでは、指定したソフトウェア テンプレートの [割り当てられたジョブ] フォルダの項目が一覧表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=listItem
    name=template_group_name
    [swTemplate=software_template_name]
```

name

名前 テンプレート グループ名。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。を指定します。

指定がない場合は、デフォルト名「<グループ名> [\$date \$time]」が使用されます。

次の情報が表示されます。

```
-----
テンプレート グループ「tg1」に割り当てられている項目のリスト
-----
tstool_1 1.0:inst
tstool_1 1.0:conf
-----
```

例：

ソフトウェア テンプレートに割り当てられたすべての項目に関する情報が必要であると想定します。以下のコマンドにより、グループに割り当てられたすべての項目の一覧が表示されます。

```
cadsmcmd templateGroup action=listItem name=tg
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード： オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
マネージャ： mymanager
```

```
ドメイン： mydomain
```

```
ドメイン タイプ： Domain
```

```
サポート： CO CCNF USD OSIM
```

```
-----
テンプレート グループ「tg」に割り当てられている項目のリスト
-----
```

```
tstbase 1.0: inst <1>
tstbase 1.0: remdir <2>
tstbase 1.0: setdir <3>
-----
```

```
読み取られた項目の数： 3
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

ジョブの順序番号は、山形かっこで表示されます (<>)。

特定のジョブに関するより詳細な情報を取得するには、showAttrItem (603以下のページで定義参照：)を参照してください。

ソフトウェア テンプレートの項目の削除

このアクションでは、項目、バージョン、およびプロシージャで指定されたジョブが、ソフトウェア テンプレートから削除されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=removeitem  
  name=template_group_name  
  [swTemplate=software_template_name]  
  item=item_name  
  version=item_version  
  procedure=procedure_name
```

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名。

procedure

削除対象のジョブ内で指定されているプロシージャの名前です。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。 を指定します。

指定がない場合は、デフォルト名「<グループ名> [\$date \$time]」が使用されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

例 :

バージョンが「1.0/00」の製品「prod」のプロシージャ「inst」がソフトウェア テンプレート「tg」に割り当てられており、ここで除去する必要があるとします。以下のコマンドにより、項目が削除されます。

```
cadsmcmd templateGroup action=removeItem name=tg item=prod version=1.0/00  
procedure=install
```

repositionJobs—ソフトウェア テンプレート内のジョブの再配置

このアクションでは、ソフトウェア テンプレートに割り当てられているジョブ（項目）の順序を、項目に新しい順番を指定して変更します。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action=repositionJobs name=template_group_name
[swTemplate=software_template_name]
jobName=job_name
position=new_position
```

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名を指定します。

jobName

保留中のインストールがキャンセルされる ジョブの名前 を指定します。

position

保留中のインストールがキャンセルされる 新しい位置 のジョブの新しい位置を指定します。

指定した順番は、0 より大きく、テンプレートに割り当てられているジョブの数以下にする必要があります。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。 を指定します。

指定がない場合は、デフォルト名「<グループ名> [\$date \$time]」が使用されます。

例：

ジョブ「prod 1.0/00:inst」がソフトウェア テンプレート「tg」に割り当てられ、順番は 11 になるとします。ジョブが正しい順番で実行されるためには、ジョブを 4 の位置に配置する必要があります。次のコマンドにより、ジョブ コンテナが再配置されます。

```
cadsmcmd templateGroup action=repositionJobs name=tg jobName="prod 1.0/00:install"
position=4
```

4 番目から 10 番目の位置を占めるジョブの順序番号は、再配置の前に 1 ずつ増やされます。

showAttrItem—ソフトウェア テンプレート内の項目の属性表示

このアクションでは、ソフトウェア テンプレートに割り当てられているジョブの属性が表示されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
templategroup action showAttrItem
  name=template_group_name
  [swTemplate=software_template_name]
  jobName=name_of_the_item_order
```

jobName

表示する項目注文の名前を指定します。

name

表示する項目注文を含むソフトウェア テンプレートの名前を指定します。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。 を指定します。

指定がない場合は、デフォルト名「<グループ名> [\$date \$time]」が使用されます。

例：ソフトウェア テンプレート内の項目の属性表示

以前表示された割り当て済みアンインストールジョブを表示することを考えます。次のコマンドにより、必要な情報を得ることができます。

```
cadsmcmd templateGroup action=showAttrItem name=tg swTemplate=tg
jobName="prod 1.0/00:unist"
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

トレース モード： オフ

マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。

マネージャ： mymanager

ドメイン： mydomain

ドメイン タイプ： Domain

サポート： CO CCNF USD OSIM

```

-----
テンプレート グループ "tg" から割り当てられたジョブ
.....「prod 1.0/00:uninst」の属性の表示
-----
ジョブ名.....: prod 1.0/00:uninst
..項目名.....: prod
..項目バージョン.....: 1.0/00
..項目タイプ.....: SOFTWARE
..プロシージャ名.....: uninst
..配信カレンダー.....:
..タイムアウト <日/時間>.....: 7 / 0
..ジョブ起動.....: ローカル時間/正確な時間
..アクション実行前.....: no action
..アクション実行後.....: no action
..ジョブ オペレーション マスク.....: 0
.....ターゲット コンピュータのカレンダーを無視
..ユーザ パラメータ.....:
..タイムアウトのプロンプト <日/時間>.....: 1 / 0
..ジョブ タスク.....: 2 - アンインストール

SDCMD<A0000000>: OK

```

uninstallItem—テンプレート グループからの項目の削除

このコマンドでは、ソフトウェア テンプレートにアンインストールジョブが割り当てられます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```

templategroup action=uninstallItem name=template_group_name
  [swTemplate=software_template_name]
  item=item_name
  version=item_version
  procedure=procedure_name
  [installedWith=install_procedure]
  after={exacttime|boottime}
  [calendarname=delivery_calendar]
  [{preaction={none|reboot|logoff}|bootbefore}]
  [{postaction={none|reboot|logoff|rebootAtEnd|logoffAtEnd|shutdownAtEnd}|bootafter}]
  [promptUser[={y|n}]]

```

```
[allowCancel[={y|n}]]  
[execTimeout[={y|n}]]  
[prompt=days.hours]  
[offline[={y|n}]]  
[runAtShutdown[={y|n}]]  
[preventLogon[={y|n}]]  
[globalTime]  
[nocalendar]  
[resolveQuery]  
[parameters=user_parameters]  
[{jobTimeout=d.h | timeout=hours}]  
[userJobMessage]
```

after

ターゲット システムでのプロシージャの開始時間です。

有効な値は以下のとおりです。

exacttime

atTime に達すると、ただちにプロシージャが開始されます。

boottime

atTime が経過した後の最初のブートまで、プロシージャの開始が遅延されます。

allowCancel

「allowCancel」または「allowCancel=y」をコーディングすると、ユーザに対してジョブ実行のキャンセルが許可されます。

「allowCancel=n」を指定した場合には、キャンセルが許可されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

calendarname

保留中のインストールがキャンセルされる 評価を実施できる時間を制御するカレンダーの名前です。

execTimeout

「execTimeout」または「execTimeout=y」を指定すると、ユーザに確認を求めたジョブ実行がタイムアウトしたときには自動的に実行が始まります。

「execTimeout=n」を指定した場合は、ジョブ実行は自動的に開始されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

globalTime

「**globalTime**」または「**globalTime=y**」をコーディングすると、時間指定がエンタープライズマネージャ時間に基づいたものになります。

「**globalTime=n**」をコーディングすると、時間指定がドメインマネージャ時間に基づいたものになります。(デフォルト)

installedWith

保留中のインストールがキャンセルされる インストール プロシージャの名前を指定します。

item

保留中のインストールがキャンセルされる 項目の名前 を指定します。

jobTimeout

保留中のインストールがキャンセルされる **jobTimeout** には、ジョブの有効期間が「**d.h**」の形式で指定されます。**d** には日数、**h** には時間数が指定されます。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。 どの場合でも警告は出されません。

jobTimeout は **timeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**7.0** がデフォルトで設定されます。

name

保留中のインストールがキャンセルされる テンプレート グループ名を指定します。

noCalendar

「noCalendar」をコーディングすると、このジョブの実行についてはターゲット コンピュータのカレンダが無視されます。

「noCalendar=n」を指定すると、カレンダが無視されなくなります（デフォルト）。

offline

「offline」または「offline =y」を指定すると、ターゲット コンピュータとサーバ間の接続がジョブの実行のために一時的に解放され、ジョブの完了後に再び確立されます。

「offline =n」を指定すると、接続は解放されません。

パラメータ

保留中のインストールがキャンセルされる プロシージャに関するユーザ パラメータです。

複数のユーザ パラメータを使用するには、スペース区切りにして二重引用符で囲む必要があります。

空の文字列をコーディングすると、パラメータがないものと解釈されます。

このパラメータが指定されていない場合は、デフォルトのユーザ パラメータが、プロシージャ定義によって与えられます。

postaction

指定された手順の完了後に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

ポストアクションを実行しません。

reboot

プロセスの完了の後にシステムを再起動します。

logout

プロセスの完了後にユーザをログオフします。

rebootAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にシステムを再起動します。

logoutAtEnd

このコンテナのすべてのジョブの完了後にユーザをログオフします。

shutdownAtEnd

ジョブの完了後にターゲット コンピュータをシャットダウンします。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロセスのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

preaction

指定された手順を開始する前に実行する必要があるアクションを指定します。有効な値は以下のとおりです。

none

プレアクションを実行しません。

reboot

プロシージャの開始前にシステムを再起動します。

logoff

プロシージャの開始前にユーザをログオフします。

preventLogon

「preventLogon」または「preventLogon=y」をコーディングすると、ジョブの実行中はユーザのログオンが拒否されます。すでにユーザがログオンしている場合、そのユーザがログオフするまでジョブの実行は延期されます。

「preventLogon =n」を指定すると、ユーザのログオンは拒否されません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

procedure

保留中のインストールがキャンセルされる 実行する「アンインストール」 プロシージャの名前

prompt=d.h

保留中のインストールがキャンセルされる ユーザにジョブ開始の確認を求める期間です。

期間の形式は「*d.h*」です。*d* は日、*h* は時間です。

このパラメータの範囲は、3 時間から 7 日間までです (0.3 - 7.0)。指定した値が有効な最小値を下回る場合には、最小値に置き換えられます。指定した値が有効な最大値を上回る場合には、最大値に置き換えられます。警告は表示されません。

promptUser

「promptUser」または「promptUser=y」をコーディングすると、ユーザにジョブ実行の確認が求められます。

「promptUser=n」をコーディングすると、そのような確認が求められません。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

resolveQuery

ジョブを生成する前に関連のあるクエリ グループを評価します。

runAtShutdown

「runAtShutdown」または「runAtShutdown=y」をコーディングすると、ジョブの実行がシャットダウン時にのみ開始されます。

「runAtShutdown=n」をコーディングすると、ジョブがシャットダウン時以外にもいつでも開始されます。

パラメータがコーディングされていない場合は、関連するプロシージャのジョブ オプション値によってデフォルトが指定されます。

このパラメータは、Unix がターゲットの場合にのみ有効です。

swTemplate

保留中のインストールがキャンセルされる ソフトウェア テンプレートの名前です。を指定します。

指定がない場合は、デフォルト名「<グループ名> [\$date \$time]」が使用されます。

timeout

保留中のインストールがキャンセルされる **timeout** には、ジョブの失効期間が「h」の形式で指定されます。ここで、h は時間数です。パラメータの範囲は、マネージャ側で設定できます。指定した値が設定されている上限を超える場合には、値はその上限に設定されます。指定した値が下限に満たない場合は、その下限に設定されます。どの場合でも警告は出されません。

timeout は **jobTimeout** パラメータと一緒に指定しないでください。両方指定するとエラーが報告されます。いずれのパラメータも指定されていない場合は、**168** がデフォルトで設定されます。

version

保留中のインストールがキャンセルされる 項目のバージョン を指定します。

userJobMessage

テンプレート グループ内の アンインストールジョブ用のカスタム管理者メッセージを指定します。

「allowCancel」、「execTimedOut」、「prompt」の各パラメータは、「promptUser」オプションがすでに設定されているか、またはこのコマンドの「promptUser」パラメータで設定される場合に有効になります。

ジョブの「promptUser」オプションもコマンドの「promptUser」パラメータも設定されていない場合は、いずれのパラメータも無視されます。警告は表示されません。

例：

バージョンが「1.0/00」の製品「prod」とソフトウェアテンプレート「tg」について再度検討します。この時点では、製品のアンインストールはソフトウェアテンプレートに割り当てられている必要があります。実行するアンインストールルーチンは、名前が「uninst」であり、インストールルーチン「inst_3」を使用して製品をインストールしたシステム上でのみ実行する必要があります。ジョブは、以下の要件を満たす必要があります。

- ターゲット上でのアンインストールは、次の再起動の後に開始する必要があります。
- ターゲットに割り当てられたカレンダーは、アンインストールでは無視されません。

- ユーザにはジョブ実行のプロンプトが表示され、ジョブをキャンセルする権限があります。プロンプトがタイムアウトすると、ジョブは自動的に開始されます。プロンプト タイムアウトには6時間が指定されます。

以下のコマンドによって、指定されたソフトウェア テンプレートに必要なジョブが割り当てられます。

```
cadsmcmd templateGroup action=uninstallItem name=tg item=prod version=1.0/00  
procedure=uninst installedWith=inst_3 after=boottime promptUser allowCancel  
execTimedOut prompt=0.6
```

terminate—エンタープライズ データベースからの配信の削除

terminate は、失敗、停止、または完了した配信を削除するために使用されます。

このアクションの指定は以下の形式になります。

```
terminate name= distribution_container_name  
name
```

保留中のインストールがキャンセルされる 配信コンテナの名前を指定します。

uninstall-- ジョブ コンテナ内におけるアンインストール ジョブの生成

Install コマンドを参照してください。

第 4 章 : コマンド cadsmcmd

CLI では、共通オブジェクト (CO)、共通設定 (CCNF)、Software Delivery (USD)、および OS インストール管理 (OSIM) などの多くの CA Client Automation コンポーネントがサポートされています。

このサポートは、要求されたサービスがアドレス指定されたマネージャで使用可能な場合にのみ提供されます。たとえば、SD がマネージャにインストールされていない場合、CLI では、SD または OSIM サービスを必要とするコマンドは処理されず、エラー (CMD000041) が報告されます。

CLI には、自動化に関する問題を解決する場合に使用できるさまざまなインターフェースが用意されています。CLI の構文を以下に示します。

```
cadsmcmd [local managementsystem]
{ batch filename | command | pipe pipename | verbose [loop] }
login[=loginID[:password]]
```

CLI のキーワード、コマンド、およびパラメータ名では大文字と小文字が区別されませんが、「cadsmcmd」自体では大文字と小文字を区別する必要があります。パラメータ値では、大文字と小文字が区別されます。

cadsmcmd では、`stdout` (標準出力) に出力を書き込みます。出力は、後続のスク립ト処理で利用できるよう、パイプまたはファイルに簡単にリダイレクトすることができます。cadsmcmd が開始されると、`stdout` で一部の一般情報が以下のように記録されます。

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved
```

トレース モード: オフ

"マネージャ "<default manager>" にユーザ "<default user>" として接続しています・OK。
"

```
マネージャ: myManager
ドメイン: myDomain
ドメイン タイプ: エンタープライズ
サポート対象: CO CCNF USD
```

2 行目の数字は、`cadsmcmd` のビルド番号を示します。「Trace Mode」行は、CLI トレースがアクティブかどうかを示します。この例では、トレースは非アクティブになっています。

「Connecting」行は、CLI のマネージャへのログオン方法を記録します。

「Manager」は、CLI が接続しているマネージャの名前を記録します。また、「Domain」は、データベースが存在するシステムの名前を示します。データベースがマネージャにある場合は、この名前は同じ名前になることがあります。

「Domain type」行は、CLI が接続しているマネージャのタイプを示します。「Enterprise」は、マネージャが Client Automation エンタープライズ マネージャであることを示し、「Domain」はマネージャが Client Automation ドメイン マネージャであることを示します。

最後の行は、現在のセッション中に CLI によって提供されるサポートを示します。

CO は共通オブジェクト サポート、CCNF は共通設定サポートを示します。CO および CCNF は Client Automation のベース コンポーネントを表しているため、常に使用可能です。

USD は SD サポートを示し、OSIM は OS インストール管理サポートを示します。

CLI の動作は、呼び出したときにコード化されたオプションによって異なります。これらのオプションの意味は、構文の定義で説明されています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [ローカル](#) (P. 615)
- [batch](#) (P. 616)
- [パイプ](#) (P. 618)
- [command](#) (P. 625)
- [verbose](#) (P. 626)
- [loop](#) (P. 627)
- [quit](#) (P. 627)
- [非特権ユーザ](#) (P. 627)
- [login](#) (P. 627)
- [トレース オプション](#) (P. 629)
- [フロント](#) (P. 630)
- [パラメータ](#) (P. 631)
- [長さ制限](#) (P. 631)
- [制限](#) (P. 632)
- [フィルタの使用](#) (P. 632)

ローカル

インストール中、CLI がデフォルトの Client Automation マネージャに割り当てられる場合があります。「local」キーワードを使用せずに `cadsmcmd` を呼び出すと、`cadsmcmd` はこのデフォルト マネージャに接続します。

デフォルト以外のマネージャをアドレス指定する必要があったり、デフォルト マネージャがない場合は、「local」キーワードを使用します。「local」の後に 1 つ以上の空白で区切って、アドレス指定するマネージャの名前 (`managersystem`) を指定します。

CLI のデフォルト マネージャが「`defmgr`」であり、別のマネージャが「`mgr_1`」であるとしします。デフォルト マネージャの `verbose` インターフェースを呼び出すには、以下をコーディングします。

```
cadsmcmd verbose
```

CLI は、このデフォルト マネージャを `stdout` の CLI の「Connecting」メッセージに記録します。

```
"マネージャ ""<default manager>"" にユーザ ""<default user>"" として接続しています"
```

マネージャ「`mgr_1`」を呼び出すには、以下を指定します。

```
cadsmcmd local mgr_1 verbose
```

関連する「Connecting」メッセージは、以下のようになります。

```
マネージャ「mgr_1」にユーザ「<default user>」として接続しています
```

`local` オプションでは、デフォルト マネージャがドメイン マネージャまたはエンタープライズ マネージャであるかに関係なく、エンタープライズ マネージャまたはドメイン マネージャをマネージャとしてアドレス指定することができます。

注：以前、任意のマネージャのアドレス指定に使用されていたアット記号「@」は使用されなくなりました。アット記号がコード化されていても無視されます。

batch

CLI のバッチ インターフェースは「batch」キーワードの指定により呼び出されます。この場合、CLI では、「batch」キーワードとファイル名 (filename) が 1 つ以上の空白で区切られていることが想定されています。このファイル名は、絶対ファイル名または相対ファイル名のいずれかにすることができます。このファイルは、この呼び出しによって実行される CLI コマンドのリストが含まれているファイルです。

CLI では、バッチ ファイルは以下のように処理されます。

1. 指定されたユーザについて、指定されたマネージャ (デフォルト マネージャ など) とのセッションを確立します (login を参照)。
2. バッチ ファイルを行ごとに読み取ります。バッチ ファイルの 1 行には複数のコマンドを含めることができます。コマンドは、複数行にわたることができます。読みやすくするために、コマンドは 1 行に 1 つずつ記述することをお勧めします。
3. CLI では、次の CLI コマンドを識別するか、ファイルの終わりに到達するまで、ファイルを読み取ります。読み取られたこの情報 (最後にコマンドが特定されていない) は、そのパラメータ設定と共に CLI コマンドとして解釈され、実行されます。

実行後、次のコマンドまたはファイルの終わりのスキャンが継続され、スキャンされたコマンドも実行されます。スキャンは、エラーが発生するか、またはファイルの終わりに達するまで続きます。以下の例は、バッチ ファイルの内容を示しています。

```
regsw -item=prod_1 -version=1.0 -path=/products/prod_1 ~procedures=/products/proc_1  
regsw -item=prod_2 -version=1.1 -path=/products/prod_2 ~procedures=/products/proc_2
```

このバッチ ファイルでは、2 つの製品が SD に登録されます。CLI は、まず 2 目目の regsw を見つけるまでファイルをスキャンし、prod_1 について、パラメータ項目の version、path、および procedures を使用して regsw コマンドを処理します。これが成功した場合、残りのファイルが終わりまでスキャンされ、2 目目の regsw も処理されます。最初の regsw が失敗した場合、2 目目の regsw は実行されずに CLI が終了します。

バッチ ファイルには、説明用にコメントを追加することができます。コメントの先頭にはハッシュ記号(#) を付けます。ハッシュ記号以降その行の後わりまでは、CLI によってコメントとして処理され、無視されます。「#」には特殊な意味があるため、パラメータ設定では使用しないようにしてください。パラメータにハッシュ記号が含まれている場合は、CLI がコメントの開始記号として解釈しないように、そのパラメータ値を引用符で囲みます。上記のファイルの内容は、以下のよう記述することができます。

```
# 製品 1 の登録
"regsw -item=prod_1 -version=1.0 -path=/products/prod_1
~procedures=/products/proc_1 -comment="product_1 for department #1""
# 製品 2 の登録
"regsw -item=prod_2 -version=1.1 -path=/products/prod_2
~procedures=/products/proc_2 -comment="product_2 for department #100""
```

「#」が含まれるパラメータ値だけではなく、空白が含まれるパラメータ値も引用符で囲む必要があります。

例内のパラメータには、先頭にハイフンが付いています。たとえば、「stagingServer」は CLI コマンドとしても存在するパラメータです。

CLI は、通常、コマンドの実行に失敗するとバッチ処理を終了します。ただし、バッチ ファイルのコマンドは相互に依存していないことがあります。前記の例のように、製品 **prod_1** および **prod_2** は相互に依存していません。**prod_1** の登録が失敗しても、このことは **prod_2** の登録には影響を与えないため、製品 **prod_2** は登録することができます。以下の環境変数を設定するとします。

```
set SDCMD_CONTINUE=ON (Windows)
```

```
export SDCMD_CONTINUE=ON (Linux、bash)
```

この場合、CLI は、失敗を無視させることが可能で、ファイル内の次のコマンドを引き続き処理します。これらの変数が設定されている場合、CLI は **prod_1** の登録が失敗しても **prod_2** を登録しようとします。

CLI では、処理されたコマンドおよびコマンド出力を標準出力 (stdout) として記録します。この出力は、別のスクリプトで詳細に分析するためにファイルにリダイレクトすることができます。以下に例を示します。

```
002 regsw "item=prod_1" "version=1.0" "path=/products/prod_1"
"procedures=/products/proc_1" "comment=product_1 for department #1"
コマンドが処理されます。
SDCMD<A0000000>: OK
```

```
004 regsw "item=prod_2" "version=1.1" "path=/products/prod_2"
"procedures=/products/proc_2" "comment=product_2 for department #100"
コマンドが処理されます。
SDCMD<A0000000>: OK
```

CLI は、読み取られたコマンドおよびパラメータ設定を記録します。コマンドの前の数字は、バッチ ファイル内のコマンドが検出された行を示しています。

CLI の有効なコマンドはすべて、**batch** インターフェースで利用することができます。

パイプ

パイプ インターフェースには、バッチ処理および直接のコマンド呼び出しという長所があります。バッチ オプションと同様に、CLI とマネージャ間でのセッション中に複数のコマンドを実行することができます。ただし、スクリプトはそのコマンドの出力結果を次の CLI コマンドを開始する前に処理することが可能です。パイプ キーワードは、パイプの名前が後に続くパイプ インターフェースをアクティブ化します。このパイプは、**Windows** では名前付きパイプ、**Linux** では **fifo** ファイルです。いずれの場合も、CLI はパイプ クライアントとして動作します。呼び出し元のスクリプトでパイプを作成および管理します。CLI は、パイプ インターフェースを処理するために呼び出されると、クレデンシャルを使用してマネージャへの接続を確立し、その結果を **stdout** に記録します。セッションが確立されると、何らかのコマンドの処理に備え、CLI によるパイプのリスニングが行われます。コマンドを受け取ると、そのコマンドを処理し、結果を **stdout** に記録します。処理が終わると、再び次のコマンドに対するリスニングを開始します。バッチモードと異なって、パイプモードでの CLI は、コマンドが正常に処理されたかどうかにかかわらず、常にパイプに戻ります。コマンドが失敗した場合でも、CLI とマネージャ間のセッションは終了しません。この動作は、バッチモードで **SDCMD_CONTINUE=ON** を指定した場合に相当します。

CLI と起動したスクリプトとの間の通信および同期を容易にするために、CLI には、CLI の処理が終了したこと、および CLI が再びパイプのリスニングを開始したことを示すいくつかのアイ キャッチャが用意されています。

パイプモードの CLI を起動すると、CLI が **stdout** に以下のメッセージを出力します。

```
*** SDCMD: Line up ***
```

CLI がパイプをリスンし始める場合、スクリプトは CLI にパイプを介してコマンドを送信し始めることができます。コマンド処理の終了も、特殊なアイ キャッチャによってレポートされます。コマンドが終了すると、正常に終了したかどうかに関係なく、常に CLI が **stdout** に以下のメッセージを出力します。

```
### SDCMD: -eoc ###
```

スクリプトは、この文字列を検出すると、自身の起動したコマンドが終了し、コマンド出力がすべて **stdout** に書き込まれたことを認識します。

アプリケーションからパイプ経由で送信されるコマンドは、バッチ ファイルと同じ形式のものになります。アプリケーションによってパイプに書き込まれるコマンドバッファには、実行対象のコマンドが完全な形で存在している必要があります。1つのコマンドを複数の送信バッファに配信することはできません。

複数のコマンドを1つのバッファに送信することは可能です。以下の文字列によってコマンドを区切ります。

-eoc

CLI が以下の文字列をパイプ経由で受け取ると、

-quit

ただちにパイプ モードの CLI とマネージャ間のセッションが終了します。

「**pipe**」キーワードに続けて、CLI が処理対象のコマンドを受け取るために使用するパイプ名をコーディングすると、CLI がパイプ インターフェースに対して呼び出されます。キーワードとパイプ名との間には、1つ以上の空白が必要です。

以下の例は、Linux でのパイプ インターフェースの使用法を示したものです。このスクリプトを実行すると、USD に登録されているターゲット コンピュータおよび USD ソフトウェア ライブラリに登録されている製品が一覧表示されます。

```
#!/usr/bin/sh
proto ()
{
    aa=" "
    bb=`echo "$aa" | grep "SDCMD: Line up"`
    while [ -z "$bb" ]
    do
        read aa
        bb=`echo "$aa" | grep "SDCMD: Line up"`
        if [ -z "$bb" ]
        then
            echo "$aa"
        fi
    done
}
```

```
prot ()
{
    aa=" "
    bb=`echo "$aa" | grep "SDCMD: -eoc"`
    while [ -z "$bb" ]
    do
        read aa
        bb=`echo "$aa" | grep "SDCMD: -eoc"`
        if [ -z "$bb" ]
        then
            echo "$aa"
        fi
    done
}

mkfifo /ca_dsmcmd_in
mkfifo /ca_dsmcmd_out
{
    cadsmcmd pipe /ca_dsmcmd_in > /ca_dsmcmd_out &
    proto
    echo "targetComputer action=list -eoc" > /ca_dsmcmd_in
    prot
    #
    # store returned list and process it
    #
    # ...
    #
    # next command
    echo "swLibrary action=list -eoc" > /ca_dsmcmd_in
    prot
    #
    # store returned list and process it
    #
    # ...
    #
    # terminate session
    echo "-quit" > /ca_dsmcmd_in
} < /ca_dsmcmd_out
rm /ca_dsmcmd_*
```

この例は、2つのルーチンとメインライン部で構成されています。ルーチン「**proto()**」はパイプインターフェースが開始されコマンドの待機中であることを示す「**### SDCMD: Line up ###**」に対してトリガされ、ルーチン「**prot()**」はコマンドの処理が完了したことを示す「**### SDCMD: -eoc ###**」に対してトリガされます。

メインライン部では、まずパイプが2つ作成されます。CLIは、入力パイプとしてパイプ「**/ca_dsmcmd_in**」を使用し、このパイプを介して処理対象のコマンドを受け取ります。もう1つのパイプ「**/ca_dsmcmd_out**」は、スクリプトが出力結果を処理できるように、CLIの**stdout**をスクリプトにリダイレクトするために使用されます。これらのパイプが作成された後、パイプモードのCLIをバッチで起動するブロックが開始され、**targetComputer** および **swLibrary** に対してそれぞれ **list** コマンドが実行されます。これが完了すると、セッションが終了します。このブロックは、「**/ca_dsmcmd_out**」パイプから入力を受け取り、CLIの出力を記録します。「**/ca_dsmcmd_out**」パイプは、CLIの存続時間中スクリプトのために常に開いたままにしておいてください。たとえば、「**/ca_dsmcmd_out**」パイプを **proto** ルーチンおよび **prot** ルーチンへの入力としてのみ割り当てた場合には、実行時にデータの損失を伴う問題が発生し、セッションがハングアップすることがあります。

パイプモードのCLIがバッチで起動された後、CLIをトリガして機能可能な状態にするため **proto** ルーチンが使用されます。スクリプトは制御が戻ると、**targetComputer** に対するリストアクションを起動し、**prot** ルーチンを使用してコマンド処理の終了を判断します。この **prot** ルーチンの出力は、後続のスクリプト処理で利用できるよう、ファイルにリダイレクトすることもできます。次に、**swLibrary** に対するリストアクションが起動し、コマンド処理の終了を判断するために再び **prot** ルーチンが使用されます。この **prot** ルーチンの出力も、後続のスクリプト処理で利用できるよう、ファイルにリダイレクトすることができます。最後に、**-quit** でCLIをシャットダウンしてこのブロックが終了します。

スクリプトの最終行は、パイプをハウスキーピングおよびクリーンアップするためのものです。

以下の例は、前述の例と同じ作業を実行するものですが、DM Scripting を使用しており、Windows 向けの内容になっています。

```
Dim hPipeIn, hPipeOut As Integer
Dim pipeIn, pipeOut As String
Dim command_1, command_2, eoc, eop, lineUp, endOfCommand, buffer As String

' *****
' clear screen
ClrScr()

' *****
' set constants
eoc = " -eoc"
eop = "-quit"
command_1 = "targetComputer action=list" + eoc
command_2 = "swLibrary action=list" + eoc
lineUp = "SDCMD: Line up"
endOfCommand = "SDCMD: -eoc"

pipeIn = "%pipe%ca_dsmcmd_in"
pipeOut = "%pipe%ca_dsmcmd_out"

' *****
' Create input pipe of CLI
hPipeIn = CreatePipe(pipeIn, 0_WRITE)
If (hPipeIn = -1) Then
    MsgBox("Open pipe "" + pipeIn + "" failed.", "Pipe test", MB_OK +
        MB_ICONSTOP + MB_SETFOREGROUND)
    exit
EndIf

' *****
' Create output pipe of CLI
hPipeOut = CreatePipe(pipeOut, 0_READ)
If (hPipeOut = -1) Then
    MsgBox("Open pipe "" + pipeOut + "" failed.", "Pipe test", MB_OK +
        MB_ICONSTOP + MB_SETFOREGROUND)
    CloseFile(hPipeIn)
    exit
EndIf
```

```

' *****
' Launch cadsmcmd in pipe mode using pipeIn as input pipe and redirecting
' stdout to pipeOut
Execute("cmd /c ""cadsmcmd pipe " + pipeIn + " > " + pipeOut + """,
        FALSE, 0)
While (TRUE)
    If (Not(ReadFile(hPipeOut, buffer))) Then
        MsgBox("Read from pipe "" + pipeOut + "" failed.", "Pipe test",
            MB_OK + MB_ICONSTOP + MB_SETFOREGROUND)
        CloseFile(hPipeIn)
        CloseFile(hPipeOut)
        exit
    EndIf
    If (InStr(buffer, lineUp) = 0) Then
        Print(buffer)
    Else
        ExitWhile
    EndIf
Wend

' *****
' launch request for a targetComputer action=list
If (Not(WriteFile(hPipeIn, command_1))) Then
    MsgBox("Write to pipe "" + pipeIn + "" failed.", "Pipe test", MB_OK +
        MB_ICONSTOP + MB_SETFOREGROUND)
    CloseFile(hPipeIn)
    CloseFile(hPipeOut)
    exit
EndIf
While (TRUE)
    If (Not(ReadFile(hPipeOut, buffer))) Then
        MsgBox("Read from pipe "" + pipeOut + "" failed.", "Pipe test",
            MB_OK + MB_ICONSTOP + MB_SETFOREGROUND)
        CloseFile(hPipeIn)
        CloseFile(hPipeOut)
        exit
    EndIf
    If (InStr(buffer, endOfCommand) = 0) Then
        ' results could be stored for subsequent processing or directly
processed.
        Print(buffer)
    Else
        ExitWhile
    EndIf
Wend

```

```
' *****
' launch request for a swLibrary action=list
If (Not(WriteFile(hPipeIn, command_2))) Then
    MsgBox("Write to pipe "" + pipeIn + "" failed.", "Pipe test", MB_OK +
        MB_ICONSTOP + MB_SETFOREGROUND)
    CloseFile(hPipeIn)
    CloseFile(hPipeOut)
    exit
EndIf
While (TRUE)
    If (Not(ReadFile(hPipeOut, buffer))) Then
        MsgBox("Read from pipe "" + pipeOut + "" failed.", "Pipe test",
            MB_OK + MB_ICONSTOP + MB_SETFOREGROUND)
        CloseFile(hPipeIn)
        CloseFile(hPipeOut)
        exit
    EndIf
    If (InStr(buffer, endOfCommand) = 0) Then
        ' results could be stored for subsequent processing or directly
processed.
        Print(buffer)
    Else
        ExitWhile
    EndIf
Wend

' *****
' terminate CLI
If (Not(WriteFile(hPipeIn, eop))) Then
    MsgBox("Write to pipe "" + pipeIn + "" failed.", "Pipe test", MB_OK +
        MB_ICONSTOP + MB_SETFOREGROUND)
    CloseFile(hPipeIn)
    CloseFile(hPipeOut)
    exit
EndIf

' *****
' clean up
CloseFile(hPipeIn)
CloseFile(hPipeOut)
```

CLI の有効なコマンドはすべて、パイプ インターフェイスで利用することができます。

command

CLI コマンドおよびその必要なパラメータ設定で、直接 `cadsmcmd` を呼び出すことができます。CLI では、マネージャとのセッションを確立し、コマンドを処理し、さらにセッションを終了します。CLI では、コマンド出力およびステータス情報を標準出力 (`stdout`) として記録します。以下のコマンドを起動すると、次の出力が提供されます。

```
cadsmcmd targetComputer action=list
```

```
CA IT Client Manager r12
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード: オフ
```

```
マネージャ "<デフォルトのマネージャ>" にユーザ "<デフォルトのユーザ>" として接続しています...OK。
```

```
マネージャ: mymanager
```

```
ドメイン: mydomain
```

```
ドメイン タイプ: Domain
```

```
サポート: CO CCNF USD OSIM
```

```
-----
List of target computers
-----
```

```
mgr_1(scalability server; Win Server 2003 Intel; Boot server)
mgr_1/Administrator(computer user; Win Server 2003 Intel)
scal_2(scalability server; Win 2000 Intel; Boot server)
scal_2/Administrator(computer user; Win 2000 Intel)
comp_0(computer; Any)
comp_1(computer; Win XP Intel)
```

```
-----
List of un-named and OSIM un-managed computers
-----
```

```
FF:FF:42:65:13:7E(---; ---; BMS un-managed, mgr_1)
FF:FF:42:65:13:83(---; ---; BMS un-managed, scal_2)
```

```
-----
Total number of target computers: 6
```

```
Number of un-named and OSIM un-managed systems shown: 2
```

```
SDCMD<A0000000>: OK
```

verbose

verbose インターフェースを使用して、ダイアログ形式で **CLI** コマンドを作成および実行することができます。このインターフェースは、キーワード「**verbose**」を指定すると呼び出されます。**CLI** は、マネージャへのセッションを確立し、マネージャのタイプが **Client Automation** ドメインマネージャと **Client Automation** エンタープライズマネージャのどちらであるかを判断します。このタイプに従って、**CLI** にこのタイプのマネージャで有効なコマンド群が用意されます。**SD** を実行するドメインマネージャには、以下のようなコマンドが用意されています。

有効なコマンドを次に示します。

```
=====
activate.....aregsw
cancel.....comconf
compgroup.....configure
dereg.....deregproc
install.....jobContainer
managedcomputer recover
regproc.....regsw
renewjob.....setdbcredentials
stagingserver...swLibrary
targetComputer..templateGroup
uninstall
```

quit

```
=====
ここに挙げたコマンドのいずれかを入力してください。.....:
```

コマンドを 1 つ選択でき、**CLI** は有効なパラメータおよびそれらの設定を案内します。すでに入力されている情報に対して必要なパラメータのみが示されます。必要な情報がすべて取得されると、**CLI** がコマンドを実行します。コマンドの出力以外に、ステータス情報も **stdout** に書き込まれます。

「**loop**」オプションをコーディングしない場合には、指定のコマンドの処理が完了した後、**CLI** が終了します。「**loop**」オプションをコーディングすると、次のコマンドを指定して実行できるよう、コマンド選択リストに戻ります。「**quit**」コマンドを入力すると、そのセッションが終了します。**quit** コマンドは、詳細モードでのみ有効です。

CLI の有効なコマンドはすべて、**verbose** インターフェースで利用することができます。

loop

(オプション) 詳細モードでは、`cadsmcmd` の起動ごとに 1 コマンドの選択が許可されます。「`loop`」を指定すると、複数のコマンドの使用が可能になります。`loop` コマンドは、詳細モードでのみ有効です。

quit

「`loop`」を使用している場合に「`quit`」コマンドを入力すると、CLI セッションが終了します。`quit` コマンドは、詳細モードでのみ有効です。

非特権ユーザ

Windows では、何も調整しなくても、非特権ユーザが `cadsmcmd` を使用することができます。

Linux では、グループ「`sdadmins`」を用意し、このグループに割り当てられたユーザにのみ `cadsmcmd` の実行を許可する必要があります。それ以外のユーザには、`cadsmcmd` を起動したときに「アクセスが拒否されました」というメッセージが表示されるようにします。

login

「`login`」キーワードを使用すると、ユーザはマネージャにログオンし、デフォルトユーザ以外のユーザとして、CLI コマンドを実行することができます。デフォルトユーザは、CLI コマンドの起動元となるコンソールに現在ログオンしているユーザを示します。たとえば、ユーザ「`hugo`」としてシステムにログオンし、以下のコマンドを起動するとします。

```
cadsmcmd local mgr_1 verbose
```

CLI は、マネージャ「`mgr_1`」にユーザ「`default user`」として接続します。この場合、「`Connecting`」メッセージに以下のように記録されます。

マネージャ「`mgr_1`」にユーザ「`<default user>`」として接続しています

CLI は、現在のユーザ「`hugo`」として、マネージャとのセッションを確立しようとします。`mgr_1` でこのユーザが不明な場合、またはこのユーザのパスワードが異なる場合、セッションの確立は失敗します。この場合、セッションを認証するために別のクレデンシアルを使用します。

```
login[=loginID[:password]]
```

「login」キーワードで渡される情報は、Client Automation リリース 12.9 で変更されています。これは、Client Automation リリース 12.9 では USD 4.0 とは異なる認証方法が使用されているためです。ログインプロセスでは、セキュリティプロバイダ、セキュリティオーソリティ、ユーザ ID、およびユーザパスワードに関する情報が必要です。セキュリティプロバイダ、セキュリティ権限、およびユーザ ID は loginID で渡されますが、パスワードは、password パラメータで渡されます。loginID は、以下のようになります。

```
¥"<セキュリティ プロバイダ>:/<セキュリティ オーソリティ>/<ユーザ ID>¥"
```

注：引用符 (") は必須です。引用符を使用しないと、CLI では、ログイン情報を正しく処理することができません。引用符がシェルやコマンドプロンプトではなく cadsmcmd によって解釈されるようにする必要があるため、引用符の前に円記号 (¥) を入力して保護する必要があります。

セキュリティプロバイダとしては、「winnt」で識別される Windows システムまたは「unixl」で識別される Linux システムを指定することができます。セキュリティオーソリティは、ドメインまたはアドレス指定されたシステムにすることができます。CLI が verbose インターフェースによって、「root」およびパスワード「5k7zpqjr」を使用して Linux システム「lx_sy_1.myCo.com」にログインするとします。以下のコマンドを実行します。

```
"cadsmcmd local lx_sy_1 verbose login=¥""unixl://lx_sy_1.myCo.com/root¥""":5k7zpqjr"
```

この場合、メッセージに以下のように記録されます。

マネージャ「lx_sy_1」にユーザ「unixl://lx_sy_1.myCo.com/root」として接続しています...

verbose インターフェースが Windows マネージャ「win_sy_01」、ユーザ「myid」、パスワード「7hj.98,a」に対して起動されると、起動されるコマンドは以下のようになります。

```
"cadsmcmd local win_sy_01 verbose login=¥""winnt://win_sy_01/myid¥""":7hj.98,a"
```

CLI のレコード

マネージャ「win_sy_01」にユーザ「winnt://win_sy_01/myid」として接続しています...

ログインが loginID でコード化され、パスワードが指定されていない場合、CLI は、指定されたユーザにパスワードがないものと想定します。ログインが userID および password なしでコード化されている場合、CLI は、これらのパラメータを要求する簡単なダイアログ ボックスを起動します。

注：ログインパラメータを使用して cadsmcmd が実行された場合は、ローカルパラメータも記述してセキュリティを向上させる必要があります。

トレース オプション

CLI には、何か問題が起きたときに CLI の内部ワークフローをデバッグできるよう、トレースが用意されています。デフォルトでは、トレースがオフになっています。トレースは、CA サポートを申し込むことによって有効になります。トレースは、環境変数 `SDCMD_TRACE` および `SDCMD_FILE` によって起動されます。Windows の場合、設定値 `SDCMD_TRACE` の構文は以下のとおりです。

```
set SDCMD_TRACE={all | file | screen}
```

bash が動作する Linux の場合は以下のとおりです。

```
export SDCMD_TRACE={all | file | screen}
```

「screen」をコーディングすると、CLI がトレース エントリを `stdout` に記録します。この場合の `stdout` は CLI が開始されたコンソールになります。

「file」をコーディングすると、CLI がトレース エントリをファイルに記録します。

このファイルは、変数 `SDCMD_FILE` を使用して以下のように指定することができます。

```
set SDCMD_FILE=<file name>
```

Windows の場合

and

```
export SDCMD_FILE=<file name>
```

Linux bash の場合

`SDCMD_FILE` を設定しない場合は、CLI の書き込み先は Client Automation ログ ディレクトリの `cadsmcmd.log` ファイルになります。

「all」の場合は、トレースは指定のファイルおよび `stdout` に書き込まれます。

起動したトレースをオフにするには、以下のコマンドを入力してください。

```
set SDCMD_TRACE=  
set SDCMD_FILE=
```

Windows の場合、および

```
unset SDCMD_TRACE  
unset SDCMD_FILE
```

Linux bash の場合。

CLI でトレースが起動しているかどうか、CLI の開始時に記録されます。

```
c:¥>cadsmcmd verbose
```

```
CA IT Client Manager r12  
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx  
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード: FILE  
トレース ファイル名: c:¥temp¥tst.txt
```

```
Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.
```

「トレース モード」が **SCREEN** の場合は、「トレース ファイル名」行が省略されます。アクティブなトレースがない場合は、以下のように記録されます。

```
c:¥>cadsmcmd verbose
```

```
CA IT Client Manager r12  
ITCM Command Line Version 12.8.0.xxxx  
Copyright © 2014 CA. All rights reserved.
```

```
トレース モード: オフ
```

```
Connecting to manager "<default manager>" as user "<default user>" ...OK.
```

フォント

CLI コマンドの出力にローカル文字が含まれているときは、このコマンドを処理するシェルがその文字を正しく表示できるものである必要があります。たとえば、**Windows** でドイツ語文字をサポートするには、フォントを **Lucida Console** に変更します。

パラメータ

コマンドのすべてのパラメータ名では大文字と小文字は区別されませんが、パラメータに割り当てる値では区別されることがあります。たとえば、**Windows** のパス名では大文字と小文字が区別されない場合がありますが、**Linux** では明確に区別されます。パラメータの前には任意でハイフン(-)を付けることができます。バッチファイルをコーディングするときは、あいまいさを避けるため、パラメータの前にハイフンを付けます。

CLI では、パラメータ、オプション、およびコマンドの区切り文字として空白が使用されます。パラメータ値に空白が含まれる場合、そのパラメータ値を引用符で囲む必要があります。引用符がシェルまたはコマンドプロンプトで解釈されることはありませんが、CLI では引用符の前に円記号 (¥) を付けてシェルまたはコマンドプロンプトから引用符をエスケープする必要がある場合があります。

注：CLI レポートは、CLI で認識できないパラメータおよび矛盾しているパラメータに対してのみエラーを出します。パラメータが、構文の説明には記されていないコマンドまたはアクションを使用してコーディングされている場合（ただし、CLI の定義済みパラメータであり、他のコマンドやアクションでもすでに使用されている場合）、このパラメータはコーディングされたコマンドまたはアクションに対して無視されます。エラーまたは警告は表示されません。

長さ制限

以下の表は、コマンドラインでパラメータ値を入力するときに適用される長さ制限をまとめたものです。

Parameter	最大長
配信名	129
エラー メッセージ	512
ソフトウェア名	129
ソフトウェア バージョン	129
項目プロシージャ名	129
エリア名またはドメイン名	129
コンピュータ名	129
コンピュータ グループ名	129
サブライヤテキスト	255

コメント	255
ソース パス	255
クエリ名	255
コンピュータ グループのコメント	255
ドメインのコメント	255

制限

CLI であいまいさを避けるため、以下のオブジェクトで使用される名前またはラベルは一意にする必要があります。

- `targetComputers`
- `computerGroups`
- ソフトウェア ポリシーまたはテンプレート
- `serverGroups`

フィルタの使用

一部のリスト メソッドでは、表示される情報量を制限するためにフィルタを使用します。

フィルタとは、`&& (and)`、`|| (or)`、`! (not)` のような命題論理の演算子を使用したアトミック式で構成される式のことです。以下のルールに従います。

- 各アトミック式はフィルタ式です。
- `exp` がフィルタ式であれば、`!exp` もフィルタ式です。
- `exp1` および `exp2` がフィルタ式の場合は、`(exp1 && exp2)` および `(exp1 || exp2)` もフィルタ式です。

有効なアトミック式は、リストされるオブジェクトによって異なります。アトミック式には、以下の構文があります

属性名 オペランド 値

新規または既存のリスト メソッド用の有効な属性名を以下に示します。

タイプ	意味
文字列	属性値は文字列タイプです
長整数型	属性値は 4 バイトの整数です
日付	属性値は日付タイプ YYYY-MM-DD です
時刻	属性値は時刻タイプ hh:mm です。hh は 24 時間形式の時間、mm は分です。
日付時刻	ISO 規格に従って、日付と時間の表記 YYYY-MM-DD hh:mm が組み合わされています。

以下のオペランドが有効であり、いずれも true になります。

オペランド	文字列	長整数型
=	属性値が指定された値と一致する場合	属性値が指定された値と等しい場合
!=	属性値が指定された値と一致しない場合	属性値が指定された値と等しくない場合
<	属性値が辞書式順序で指定の値よりも小さい場合	属性値が指定された値未満の場合
>	属性値が辞書式順序で指定の値よりも大きい場合	属性値が指定された値より大きい場合

「=」または「!=」の場合、指定された値で、空の文字列を含む任意の文字列を示すワイルドカード文字「*」を使用することができます。

日付タイプ、時刻タイプ、または日時タイプの属性は、文字列タイプの属性と同様に処理されます。

属性で個別の値の結合のみが許可される場合もあります。特に説明のない限り、これらの属性は、文字列タイプの属性と同様に処理されます。

使用方法：

```
cadsmcmd compgroup action=list filter="(Group type=Group && Scope=local)"
```

1つの式を使用してフィルタが作成された場合、かっこを使用する必要はありません。

注：アトミック式の属性にスペルの間違いがある場合、または属性がオブジェクトに適用されていない場合でも、特に説明のない限り、そのアトミック式は **true** として評価されます。

第 5 章 : dmsweep コマンド

dmsweep コマンドは、Windows（Windows NT 4.0、Windows 98、Windows 95 は除く）、および Linux の各プラットフォームで有効です。

dmsweep は、DSM のインフラストラクチャ展開コンポーネントに対するコマンドライン インターフェースです。dmsweep を使用すると、ターゲット コンピュータに対して DSM エージェントおよびサーバ パッケージの展開を開始したり、DSM ソフトウェアが存在するかをスキャンできます。dmsweep を使用して、スケーラビリティ サーバ上の DSM エージェントおよびサーバ パッケージを管理できます。

dmsweep のコマンド ライン形式

dmsweep <サブコマンド> [{</オプション> [<arg>]}*]

サブコマンド

以下のサブコマンドのうち、1 つを指定します。

[deploy](#) (P. 637)

[help](#) (または [usage](#)) (P. 636)

[packages](#) (P. 643)

[scan](#) (P. 646)

[sspack](#) (P. 649)

[stage](#) (P. 652)

[version](#) (P. 655)

オプション

サブコマンドのオプション。オプションの前には、スラッシュ (/) またはハイフン (-) を付けます。

ほとんどのオプションには長い形式と短い形式があり、同じ意味で使用できます。たとえば、`/username` の代わりに `/tu` を使用できます。

arg

オプションの引数。

引数をとるオプションのフォーマットは、以下のとおりです。

`</option> <arg>` (スペースを使用して引数を区切ります)

`</option>=<arg>`

`</option>:<arg>`

引数にスペースが含まれる場合は、引数を引用符で囲みます。

`/option="my arg"`

複数の引数を指定できるオプションでは、前後にスペースを入れずに各引数をカンマで区切ります。

`dmsweep scan /ip=10.0.0.1,10.0.0.2,10.0.0.3`

dmsweep サブコマンド

dmsweep help、dmsweep usage

すべての **dmsweep** サブコマンドおよびその構文を説明するメッセージが表示されます。このメッセージは、**dmsweep** コマンドを引数なしで実行した場合にも表示されます。

サブコマンドの形式

help

使用法

例：

以下の例では、**dmsweep help** コマンドラインユーティリティを使用して、サブコマンド、オプション、および引数を表示する方法を示します。

dmsweep

dmsweep help

dmsweep usage

dmsweep deploy

dmsweep deploy コマンドでは、対象のパッケージを指定された一覧にあるターゲット コンピュータに展開します。

サブコマンドの形式

```
deploy
  [/manager <manager_machine>]
  [/musername <manager_username> /mpassword <manager_password>]
  [/mfilename <manager_filename>]
  {/ip <address_wild> [/toip <stop_address>] | /ipfilename <ip_filename> | /domain
  <domain_name> (WinNT のみ)
  | /uri <uniform resource identifier>
  | /targetcred <target_credentials_file>
  | /query <query_name> }
  [/tusername <target_username> /tpassword <target_password> | /epassword
  <encrypted_password>]
  [/tfilename <target_filename>] |
  {/packagenum <package_number> | /product <product_name> /package <package_name>
  [/version <version>] [/platform <platform>] [/language <language>]}
  [/pparams <package_parameters>]
  [/jobname <job_name>]
  [/sserver <scalability_server_machine>
  /ssusername <scalability_server_username> /sspassword
  <scalability_server_password>]
  [/primerargs <primer install arguments>]
```

/manager

パッケージ リストの取得元のマネージャの名前を指定します。

/musername

マネージャ コンピュータのユーザ名を指定します。

/mpassword

マネージャ コンピュータのパスワードを指定します。

<manager_password> が指定されていない場合、コマンド実行時に、dmsweep によって値の入力を求めるプロンプトが表示されます。

/mfilename

マネージャの名前およびマネージャのユーザ名とパスワードの詳細をファイルから参照できます。

/ip

スキャンを開始するアドレスです。

アドレスはマシン名 (DNS など名前が解決可能な場合)、または IP アドレス (10.0.0.1 など) で指定できます。引数 `<address_wild>` では、アスタリスクを使用することができます。たとえば、「10.0.0.*」と指定すると 10.0.0.1 から 10.0.0.254 までが範囲となり、「10.0.*.*」と指定すると 10.0.0.1 から 10.0.255.254 までが範囲となります。

`<address_wild>` には、アドレスを 1 つだけ指定したり、複数のアドレスをカンマ区切りで指定することができます。

/toip

スキャンする範囲の終了アドレスです。

`/toip` を `/ip` と一緒に指定すると、スキャンは `<address_wild>` で指定したアドレスから開始され、`<stop_address>` をスキャンした後、終了します。

/ipfilename

`/ipfilename` を指定すると、コマンドはターゲットマシンのリストを `<ip_filename>` ファイルから読み取ります。このファイルの各行には、1 つのターゲットアドレス、またはカンマ区切りの複数のアドレスが記載されています。

machine1

machine2, machine3, 10.0.0.1

machine5

/domain

展開マネージャが Windows ベースのコンピュータ上にある場合は、`/domain` を使用して、指定されたドメイン内のコンピュータをスキャンできます。

/uri

`/uri` を指定すると、URI を使用して、外部ディレクトリから読み取るターゲットコンピュータを指定することができます。

/targetcred

`/targetcred` を指定すると、コマンドはターゲットマシンおよび接続クレデンシャルのリストをファイル `<target_credentials_file>` から読み取ります。

`/query`

`/query` を指定すると、`<query_name>` によって識別される管理対象外アセットのクエリが実行されたときに、ターゲットのリストが生成されます。

`/packagenum`

スキャンされるパッケージのパッケージ番号です。 `dmsweep packages` コマンドからの出力には有効な値が記述されます。

注： `/packagenum` オプションを使用するとパッケージをすばやく指定できますが、新しいパッケージが展開パッケージライブラリに追加されると、パッケージ番号が変わることがあります。パッケージの識別方法が変わらないようにするには、以下のパッケージ識別オプションを使用します。

`/product`

スキャンされる製品名（たとえば、「CA Unicenter DSM」など）です。

`/package`

スキャンされるパッケージ名（たとえば、「Agent + all agent plugins」など）です。

`/version`

スキャンされるパッケージのバージョン（たとえば、「11.2.0.1234」など）です。パッケージを識別できる十分な情報が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

`/platform`

スキャンされるパッケージのプラットフォームプロパティ（たとえば、「Linux x86」など）です。パッケージを識別できる十分な情報が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

/language

スキャンされるパッケージの言語プロパティ（たとえば、「ENU」など）です。パッケージを識別できる十分な情報が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

/username

ターゲットに接続するためのユーザ名を指定します。展開マネージャがすでにターゲット コンピュータにパッケージを展開している場合、クレデンシャルは必要ありません。

/tpassword

ターゲットに接続するためのパスワードを指定します。展開マネージャがすでにターゲット コンピュータにパッケージを展開している場合、クレデンシャルは必要ありません。

/username を指定し、かつ **<target_username>** を省略した場合、ユーザに対してユーザ名の入力を求めるプロンプトが表示されます。**/tpassword** を指定し、かつ **<target_password>** を省略した場合、パスワードの入力を求めるプロンプトが画面に表示されます。

/epassword

暗号化された形式でパスワードを指定します。このオプションは、この形式について **dmsweep** に警告し、パスワードは使用される前に復号化されます。

/tfilename

ターゲットに認証が必要であり、**/tfilename** が指定されている場合は、**<target_filename>** が検索されます。エントリが存在する場合は、そのファイルのクレデンシャルがターゲットに対して使用されます。存在しない場合は、**/username** および **/tpassword** が使用されます。ファイル **<target_filename>** には、1 行ごとに 1 つのターゲットを指定します。各行にはターゲットのコンピュータ名（または IP アドレス）、ユーザ名、およびパスワードなどを指定します。

10.0.0.1 username1 password1

10.0.0.2 username2 password2

* username3 password3

ターゲット名に「*」が使用されているエントリは、ファイルに記載されていないすべてのターゲットのデフォルトのクレデンシャルを示しています。

/pparamsT

\$1\$、**\$2\$** などを置き換えるパラメータのカンマ区切りリストを指定します。コマンドラインの各パラメータの正しい形式とその説明を表示するには、**dmsweep** パッケージコマンドを使用します。

/primerargs

Specifies non-default installation arguments (for example non-default installation locations) to the dmprimer installation (but not the agent or server installation). インストール引数は、プライマをインストールするコンピュータのインストール コマンド ラインに、変更されずに渡されます。

/jobname

ジョブ名が、指定された <job_name> 引数に設定されることを指定します。指定しない場合、ジョブ名は現在の日時に基づいて自動的に生成されます。

/sserver

スケーラビリティ サーバからのパッケージ取得をターゲット マシンに強制します。指定がない場合、パッケージはマネージャ マシンから取得されます。

/ssusername

スケーラビリティ サーバに接続するためのユーザ名を指定します。

/sspassword

スケーラビリティ サーバに接続するためのパスワードを指定します。

注： /ssusername を指定し、かつ <scalability_server_username> を省略した場合、ユーザに対してユーザ名の入力を求めるプロンプトが表示されます。 /sspassword を指定し、かつ <scalability_server_password> を省略した場合、ユーザに対してパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。パスワードは画面に表示されません。

注： <ip_filename> および <target_filename> の代わりに <target_credentials_file> を使用できます。

例：

- ローカル マネージャを使用したターゲットへの展開

```
dmsweep deploy /ip <target machine > /pn 2 /pparams <myserver>,,
```

- クレデンシャルが必要なターゲット コンピュータへのローカル マネージャを使用したパッケージの展開

```
dmsweep deploy /ip <machine name> /pn 2 /pparams <myserver>,, /tu <target username> /tp <target password>
```

- パスワードが暗号化されている場合のクレデンシャルが必要なターゲット コンピュータへのパッケージの展開

```
dmsweep deploy /ip <machine name> /pn 2 /pparams <myserver>,, /tu <target username> /ep <encrypted password>
```

- dmsweep コマンドライン ユーティリティを使用して、ユーザ名およびパスワードの入力を求めるプロンプトを表示する方法の例を以下に示します。

dmsweep にはパスワードの入力を求める機能があります。この機能を使用すると、パスワードを画面上に表示させずに入力できます。また、ユーザ名の入力を求めるプロンプトも表示できますが、ユーザ名は入力されたとおりに表示されます。ユーザ名およびパスワードの入力を求めるプロンプトを表示するには、以下の例で示すように、オプションを入力し、値を指定しません。

ターゲットへのローカル マネージャを使用したパッケージの展開（パスワードおよびユーザ名のプロンプトを表示）

```
dmsweep deploy /ip <target machine> /pn 2 /pparams <myserver>,, /tu /tp
```

- クレデンシャルが必要とされない一定の範囲のマシンへのパッケージの展開

```
dmsweep deploy /ip 192.0.25.1 /toip 192.0.25.9 /pn 3 /pparams <myserver>,,
```

- ワイルドカードを使用したサブネット（192.0.45）内のすべてのマシンへの展開

```
dmsweep deploy /ip 192.0.45.* /pn 3 /pparams <myserver>,,
```

ワイルドカードを使用した複数のサブネットへの展開

```
dmsweep deploy /ip 192.0.*.* /pn 1 /pparams <myserver>,,
```

- ターゲットへのリモート マネージャを使用した展開

```
dmsweep deploy /ip <target machine> /pn 3 /mgr <remote manager> /mu <remote manager user> /mp <remote manager password> /tu <target user> /tp <target password>
```

- ターゲットへのリモート マネージャを使用した展開（マネージャとターゲット マシンの両方に対してパスワードおよびユーザ名のプロンプトを表示）

```
dmsweep deploy /ip <target machine> /pn 3 /mgr <remote manager> /mu /mp /tu /tp
```

注： パッケージ番号、ターゲット コンピュータ、およびマネージャ マシンなどの値は、適切な値に置き換えてください。

dmsweep packages

dmsweep packages サブコマンドでは、指定された展開マネージャ上で展開可能なパッケージの一覧が表示されます。

「packages」は「pack」に短縮できます。つまり、「dmsweep pack」というコマンドを使用できます。

サブコマンドの形式

パッケージ

```
[/manager <manager_machine>]  
[/username <manager_username> /mpassword <manager_password>]  
[/filename <manager_filename>]
```

/manager

パッケージ リストの取得元のマネージャの名前を指定します。

/manager を省略した場合は、現在のマシンと見なされます。

`/username`

マネージャ コンピュータのユーザ名を指定します。

<manager_username> を指定せずに `/username` を入力した場合、ユーザ名の入力を求めるプロンプトが表示されます。

`/password`

マネージャ コンピュータのパスワードを指定します。

<manager_password> が指定されていない場合、dmsweep によって値の入力を求めるプロンプトが表示されます。

注： `/username` と `/password` のどちらも、`/manager` を指定せずに指定することはできません。

`/filename`

マネージャの名前およびマネージャのユーザ名とパスワードの詳細をファイルから参照できます。

マネージャに認証が必要であり、`/filename` が指定されている場合は、<manager_filename> が検索されます。マネージャのエントリが存在する場合は、ファイルのクレデンシャルが使用されます。エントリが存在しない場合には、<manager_username> および <manager_password> が使用されます。<manager_filename> ファイルには、各行に 1 つのマネージャを指定します。各行には、マネージャのマシン名、ユーザ名、およびパスワードを以下のように指定します。

```
manager1 username1 password1
manager2 username2 password2
* username3 password3
```

マネージャ名に「*」が使用されているエントリは、デフォルトのクレデンシャルを示しています。このクレデンシャルは、ファイルに記載されていないすべてのマネージャで使用されます。

`/password` オプションを指定し、かつ <manager_password> を省略した場合は、コマンド実行時にパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

例：

パッケージ番号、ターゲット コンピュータ、およびマネージャ マシンなどの値は、適切な値に置き換えてください。

ローカル マシン上にある展開に使用可能なパッケージの一覧表示

```
dmsweep packages
```

```
dmsweep pack
```

コマンドからの出力が表示されます。以下の抜粋は出力例の一部です。後続のコマンドの `/packagenumber`（または `/pn`）オプションで利用できるパッケージ番号が表示されています。

ASTEROID で展開マネージャと通信します。

New job id is 13191950.

パッケージ リストを取得しています。

展開マネージャ ASTEROID に、5 つのパッケージが見つかりました。

```
..Package 1:
```

```
....製品.....: CA DMS
```

```
....パッケージ.....: Agent + Asset Management Plugin
```

```
....バージョン.....: 11.1.8124.2426
```

```
....プラットフォーム.....: Windows_x86
```

```
言語: ENU
```

```
....説明.: Asset Management プラグインでエージェントを展開します。
```

```
....コマンド.....: AgtAM.msi" AGENT_SERVER=$1$ ALLUSERS=1 ENSURE_CAF_STOPPED=1
```

```
CAF_COMMON_CONFIG=1 CAF_INSTALL_SERVICE=1 CAF_START_SERVICE=1 /qn
```

```
/l*v %TEMP%\%ITRMSetupAgtAM.log EXITFILE=$E$ $2$
```

```
....UNIX コマンド : installdsm" -r $P$/install.rsp
```

```
/REXITFILE=$E$ /RITRM_SERVER=$1$ $3$
```

```
....パラメータ 1 : 接続するスケーラビリティ サーバのアドレスを入力してください
```

```
....正規表現検証 : ^[^\>`~!/@%#}.$%:;)(_^{*=|'+'}{1,255})$
```

```
....パラメータ 2 : 追加の Windows インストール オプションを入力してください
....正規表現検証 : .*
```

```
..Package 2:
.....
.....:
```

出力例では、パッケージ 1 の 2 つのパラメータが示されています。このパッケージを展開対象に選択した場合は、`/pparams` オプションを使用して、2 つのパラメータを指定する必要があります。パラメータの値を区切るには、カンマを使用します。

たとえば、パッケージ 1 の展開を選択する場合は、以下のように入力します。

```
dmsweep deploy /pn 1 /ip 192.0.2.5.9 /pparams <myserver>,"CA=D:¥DSM"
```

このコマンドで、パラメータ 1（スケーラビリティ サーバのアドレス）には `<myserver>` が設定されます。パラメータ 2（Windows インストール オプション）の値は「`CA=D:¥DSM`」で、パッケージをデフォルト以外の場所にインストールすることが要求されます。

パラメータは、DSM エクスプローラを使用してパッケージを展開すると、DSM エクスプローラの「エージェントの設定」ページの 3 つのフィールドにそれぞれ表示されます。

正規表現検証の文字列には、関連するパラメータで有効な文字の範囲を指定します。検証文字列が「`.*`」の場合は、パラメータの値に構文上の制限がないことを意味します。

dmsweep scan

`dmsweep scan` コマンドは、指定されたターゲット アドレスをスキャンし、展開に使用可能なアクティブなアドレスを判別します。このコマンドは、要求されたパッケージがターゲット コンピュータにインストール済みかどうかを確認します。

サブコマンドの形式

```
scan [/manager <manager_machine>]
    [/username <manager_username> /mpassword <manager_password>]
    [/filename <manager_filename>]
    {/ip <address_wild> [/toip <stop_address>]}
```

```

| /ipfilename <ip_filename>
| /domain <domain_name> (WinNT のみ)
| /uri <uniform resource identifier>
| /targetcred <target_credentials_file>
| /query <query_name>}
{/packagenum <package_number>
| /product <product_name> /package <package_name>
[/version <version>]
[/platform <platform>]
[/language <language>]}

```

/manager

パッケージリストの取得元のマネージャの名前を指定します。
/manager を省略した場合は、現在のマシンと見なされます。

/username

マネージャ コンピュータのユーザ名を指定します。

/mpassword

マネージャ コンピュータのパスワードを指定します。

/mfilename

マネージャの名前およびマネージャのユーザ名とパスワードの詳細を
ファイルから参照できます。

/ip

スキャンを開始するアドレス（複数の場合あり）です。

アドレスはマシン名 (DNS など で名前が解決可能な場合)、または IP アドレス (10.0.0.1 など) で指定できます。引数 <address_wild> では、アスタリスクを使用することができます。たとえば、「10.0.0.*」と指定すると 10.0.0.1 から 10.0.0.254 までが範囲となり、「10.0.*.*」と指定すると 10.0.0.1 から 10.0.255.254 までが範囲となります。

<address_wild> には、アドレスを 1 つだけ指定したり、複数のアドレスをカンマ区切りで指定することができます。

注：このパラメータは、/toip オプションも使用する場合のみ、開始アドレスになります。

/toip

スキャンする範囲の終了アドレスです。

このオプションは、/ip と併せてのみ使用できます。併せて使用すると、スキャンは <address_wild> で指定したアドレスから開始し、<stop_address> をスキャンした後、終了します。

/ipfilename

/ipfilename を指定すると、コマンドはターゲット マシンのリストを **<ip_filename>** ファイルから読み取ります。このファイルの各行には、1 つのターゲット アドレス、またはカンマ区切りの複数のアドレスが記載されています。

machine1

machine2, machine3, 10.0.0.1

machine5

/domain

展開マネージャが **Windows** ベースのコンピュータ上にある場合は、**/domain** を使用して、指定されたドメイン内のコンピュータをスキャンできます。

/uri

/uri を指定すると、**URI** を使用して、外部ディレクトリから読み取るターゲット コンピュータを指定することができます。

/targetcred

/targetcred を指定すると、コマンドはターゲット マシンおよび接続クレデンシャルのリストをファイル **<target_credentials_file>** から読み取ります。

/query

/query を指定すると、**<query_name>** によって識別される管理対象外アセットのクエリが実行されたときに、ターゲットのリストが生成されます。

/packagenum

スキャンされるパッケージのパッケージ番号です。

/product

スキャンされるパッケージのプロパティです。

/package

スキャンされるパッケージのプロパティです。

/version

スキャンされるパッケージのバージョンです。パッケージを識別できる十分な情報が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

/platform

スキャンされるパッケージのプラットフォーム プロパティです。パッケージを識別できる十分な情報が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

/language

スキャンされるパッケージの言語プロパティです。パッケージを識別できる十分な情報が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

例：

パッケージがインストール済みかどうかを確認するためのターゲット コンピュータのスキャン

```
dmsweep scan /ip <target machine> /pn 2
```

dmsweep sspack

このコマンドは、1つ以上のスケーラビリティ サーバ上に存在するパッケージのリストを表示するために使用します。

使用方法：

```
dmsweep sspack [/manager <manager_machine>]
               [/username <manager_username> /password <manager_password>]
               [/mfilename <manager_filename>]
               {/ip <address_wild> [/toip <stop_address>] |
               /ipfilename <ip_filename> |
               /domain <domain_name> |           (WinNT のみ)
               /uri <uniform resource identifier> |
```

```
/targetcred <tc_filename> |  
/query <query_name> }
```

/manager、/username、/password、および /filename は、「dmsweep packages」で説明した内容と同じです。

/ip、/toip、/ipfilename、/targetcred、/domain、/uri、および /query は、「dmsweep scan」で説明した内容と同じです。

/manager

パッケージリストの取得元のマネージャの名前を指定します。

/manager を省略した場合は、現在のマシンと見なされます。

/username

マネージャ コンピュータのユーザ名を指定します。

<manager_username> を指定せずに /username を入力した場合、ユーザ名の入力を求めるプロンプトが表示されます。

/password

マネージャ コンピュータのパスワードを指定します。

注： /username と /password のどちらも、/manager を指定せずに指定することはできません。

/ip

スキャンを開始するアドレス（複数の場合あり）です。

注： このパラメータは、/toip オプションも使用する場合のみ、開始アドレスになります。

/toip

スキャンする範囲の終了アドレスです。

このオプションは、/ip と一緒にのみ使用できます。このオプションを使用すると、スキャンは <address_wild> で指定したアドレスから開始され、<stop_address> をスキャンした後、終了します。

/ipfilename

/ipfilename を指定すると、コマンドはターゲット マシンのリストを <ip_filename> ファイルから読み取ります。ファイルの各行には、単独のターゲット アドレスや、カンマで区切られた複数のアドレスなどが含まれています。

machine1

machine2, machine3, 10.0.0.1

machine5

/domain

展開マネージャが Windows ベースのコンピュータ上にある場合は、/domain を使用して、指定されたドメイン内のコンピュータをスキャンできます。

/uri

/uri を指定すると、URI を使用して、外部ディレクトリから読み取るターゲット コンピュータを指定することができます。

/targetcred

/targetcred を指定すると、コマンドはターゲット マシンおよび接続クレデンシャルのリストをファイル <target_credentials_file> から読み取ります。

/query

/query を指定すると、<query_name> によって識別される管理対象外アセットのクエリが実行されたときに、ターゲットのリストが生成されます。

例 :

```
dmsweep sspack /ip ScalServ
XXXXX06-CCSTEST で展開マネージャと通信します。
New job id is 6432350.
Scanning for scalability server packages.
100.100.00.0 ScalServ Found 2 packages (1 of 1)
Scan complete.
SCAN SUMMARY
=====
100.100.00.0 ScalServ Found 2 packages
CA Unicenter DSM Agent + Basic Inventory Plugin 11.1.8160.410 Windows_x86 ENU
CA Unicenter DSM Agent + Software Delivery Plugin 11.1.8160.410 Windows_x86 ENU
=====
```

dmsweep stage

`dmsweep stage` コマンドでは、エージェントまたはサーバパッケージを 1 つ以上のスケーラビリティ サーバに転送します。そこから `dmsweep deploy` コマンドを使用して、ターゲット コンピュータに展開できます。

サブコマンドの形式

```
stage [/manager <manager_machine>]
    [/username <manager_username> /password <manager_password>]
    [/filename <manager_filename>]
    {/ip <address_wild> [/toip <stop_address>] |
    /ipfilename <ip_filename> |
    /targetcred <target_credentials_file> |
    /query <query_name>}
    [/tusername <target_username> /tpassword <target_password> | /epassword
    <encrypted_password>] ]
    [/tfilename <target_filename>]
    {/packagenum <package_number> |
    /product <product_name> /package <package_name>
    [/version <version>] [/platform <platform>] [/language <language>]}
    [/jobname <job_name>]
```

/manager

パッケージ リストの取得元のマネージャの名前を指定します。

`/manager` を省略した場合は、現在のマシンと見なされます。

/username

マネージャ コンピュータのユーザ名を指定します。

/mpassword

マネージャ コンピュータのパスワードを指定します。

<manager_password> が指定されていない場合、コマンド実行時に、dmsweep によって値の入力を求めるプロンプトが表示されます。

/mfilename

マネージャの名前およびマネージャのユーザ名とパスワードの詳細をファイルから参照できます。

/ip

スキャンを開始するアドレス（複数の場合あり）です。

/toip

スキャンする範囲の終了アドレスです。

/ip と一緒に使用すると、スキャンは <address_wild> で指定したアドレスから開始され、<stop_address> をスキャンした後、終了します。

/ipfilename

/ipfilename を指定すると、コマンドはターゲット マシンのリストをファイル <ip_filename> から読み取ります。ファイルの各行には、単独のターゲット アドレスや、カンマで区切られた複数のアドレスなどが含まれています。

machine1

machine2, machine3, 10.0.0.1

machine5

/targetcred

/targetcred を指定すると、コマンドはターゲット マシンおよび接続クレデンシャルのリストをファイル <target_credentials_file> から読み取ります。

/query

/query を指定すると、<query_name> によって識別される管理対象外アセットのクエリが実行されたときに、ターゲットのリストが生成されます。

/packagenum

スキャンされるパッケージのパッケージ番号です。

/product

スキャンされるパッケージのプロパティです。

/package

スキャンされるパッケージのプロパティです。

/version

スキャンされるパッケージのバージョンです。パッケージを識別できる十分な情報が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

/platform

スキャンされるパッケージのプラットフォーム プロパティです。パッケージを識別できる十分な情報が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

/language

スキャンされるパッケージの言語プロパティです。パッケージを識別できる十分な情報が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

/tusername

ターゲットに接続するためのユーザ名を指定します。展開マネージャがすでにターゲット コンピュータにパッケージを展開している場合、クレデンシャルは必要ありません。

/tpassword

ターゲットに接続するためのパスワードを指定します。展開マネージャがすでにターゲット コンピュータにパッケージを展開している場合、クレデンシャルは必要ありません。

/tusername を指定して **<target_username>** を省略した場合、ユーザ名の入力を求めるプロンプトが表示されます。 **/tpassword** を指定して **<target_password>** を省略した場合、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。パスワードは画面に表示されません。

/epassword

暗号化された形式でパスワードを指定します。このオプションは、この形式について **dmsweep** に警告し、パスワードは使用される前に復号化されます。

/tfilename

ターゲットに認証が必要であり、/tfilename が指定されている場合は、<target_filename> が検索されます。エントリが存在する場合は、そのファイル内のクレデンシャルがターゲットに対して使用されます。存在しない場合は、/tusername および /tpassword が使用されます。

<target_filename> ファイルには、各行に 1 つのターゲットを指定します。各行には、ターゲットのマシン名（または IP アドレス）、ユーザー名、およびパスワードを以下のように指定します。

```
10.0.0.1 username1 password1
```

```
10.0.0.2 username2 password2
```

```
* username3 password3
```

ターゲット名に「*」が使用されているエントリは、ファイルに記載されていないすべてのターゲットのデフォルトのクレデンシャルを示しています。

/jobname

ジョブ名が、指定された <job_name> 引数に設定されることを指定します。指定しない場合、ジョブ名は現在の日時に基づいて自動的に生成されます。

例：

dmsweep コマンドラインユーティリティを使用して、スケーラビリティ サーバにパッケージをステージする方法の例を以下に示します。

展開スケーラビリティ サーバへのパッケージのステージ

```
dmsweep stage /ip <target machine> /pn 2 /tu /tp
```

ターゲットのユーザー名およびパスワードの両方の入力を求められます。

dmsweep version

dmsweep のバージョン情報が表示されます。

サブコマンドの形式

```
version
```

dmsweep のバージョンを表示する方法

```
dmsweep version
```

暗号化されたパスワード

「dmsweep deploy」および「dmsweep stage」で使用する暗号化されたパスワードを作成するには、「caf savecreds」コマンドを使用します。このコマンドは、DSM の bin フォルダにある cafcreds.txt というファイルに結果を出力します。そのファイルから情報をコピーして dmdeploy のターゲット クレデンシャル ファイルに貼り付けるか、または dmsweep コマンドラインで 사용할 ことができます。

例

```
caf savecreds "dummy" user "administrator" password "secret" host "machine4"
```

この例では、cafcreds.txt ファイルに次の行が出力されます： 'machine4' 'dummy' 'machine4¥administrator' '4DDzqKuSJN5MI6RsEY+o5Q'

dmsweep ターゲット クレデンシャル ファイル

ターゲット クレデンシャル ファイルを使用すると、ターゲットおよびそのパスワードを 1 箇所指定できます。このファイルは、1 行ごとに 1 セットのターゲットを指定する形式です。

ファイル内では、/ip、/toip、/uri、/domain、/tu、/tp、および /query オプションを任意の順序で使用できます。ターゲットを省略してユーザ名およびパスワードを指定すると、これらはデフォルトのユーザ名およびパスワードになります。デフォルトにしないようにするには、少なくとも 1 つターゲットを指定する必要があります。デフォルト値は、ターゲットのあるどの行でも使用できますが、/tu または /tp、あるいはその両方のオプションと共に使用できません。/tu または /tp オプションに値がない場合は、値の入力が要求されます。/tu（または /tp）オプションがない場合、デフォルトのユーザ名（またはデフォルトのパスワード）が使用されます。空白のパスワードは /tp オプションまたはデフォルトのパスワードがない場合に使用されます。

注： ターゲットのクレデンシャル ファイルでは、暗号化されたパスワード オプション /ep を使用することもできます。

ファイルのエントリの例を以下に示します。

```
/ip <machine1,machine2> /tu /tp  
/tu defaultUser /tp defaultPassword  
/ip 130.119.3.* /tu administrator /tp pass3472773  
/ip 130.119.9.5 /toip 130.119.9.12 /tu administrator /tp
```

ターゲット クレデンシャル ファイルを使用すると、実際の展開ジョブを開始する前に、展開を「オフライン」で計画することができます。 イベントまたはその他の外部要因に対してファイルを生成して、スケジュールした時間に展開プロセスに送信できます。 たとえば、異なる会社の部門または事業所に関連するクレデンシャルファイルのファミリを作成することにより、ネットワークの異なる「エリア」への展開も指定できます。 たとえば、ターゲット クレデンシャル ファイルでは、**dmsweep** コマンドラインと類似した構文を使用します。これにより、整合性が保たれ、また将来のバージョンで追加機能を提供するために（新しいオプションの構文で）簡単に拡張できます。

クレデンシャル ファイルの構文

「#」で始まるクレデンシャル ファイルの行はすべてコメントとして扱われ、無視されます。

クレデンシャル ファイルは複数のターゲット指定から構成されており、各行に 1 つのターゲットがあります。 各ターゲット指定は、以下の形式になります。

```
[<Targets>] [/tu [user]] [/tp [password] | /ep [encrypted password]]
```

ターゲット指定での要素の順序に、意味はありません。

<Targets>

このパラメータでは、展開するターゲット コンピュータを指定します。以下の形式のいずれかが可能です。

/ip <address>

1 つのコンピュータ名または IP アドレス。

/ip <address>,<address>, ...

コンピュータ名または IP アドレスの任意の組み合わせのカンマ区切りリスト。

/ip <IP> /toip <IP> [/domain <domain>]

数値の IP アドレスの開始点および終了点。ドメイン オプションを指定すると、指定されたドメイン内のコンピュータに対応する IP の範囲のアドレスに対してのみ展開が実行されます。ドメインの評価は、Windows プラットフォーム上に配置されている展開マネージャを使用している場合にのみサポートされます。

/domain <domain>

Windows ドメイン。ドメイン内のコンピュータが展開ターゲットになります。

/uri <uri>

ディレクトリ コンテナを指定する Universal Resource Indicator。構成要素のコンピュータが展開ターゲットになります。

/query <query_name>

/query を指定すると、<query_name> によって識別される管理対象外アセットのクエリが実行されたときに、ターゲットのリストが生成されます。

/tu [user]

このパラメータは、ターゲット ユーザ名を指定します。DMPrimer の最初のプッシュを実行するときに、この ID を使用してターゲット コンピュータに接続します。ユーザ ID の値は、ターゲット指定の <targets> 要素で指定されたすべてのアドレスに適用されます。ユーザ名を省略すると、クレデンシャル ファイルを使用して展開を試みたときに、dmsweep または展開ウィザードから値を要求されます。

/tp [password]

このパラメータは、ターゲット ユーザのパスワードを指定します。パスワードを省略すると、クレデンシャル ファイルを使用して展開を試みたときに、dmsweep または展開ウィザードから値を要求されます。ターゲット指定で /tp オプションを完全に省略すると、デフォルトのパスワードが使用されます。

/ep [encrypted password]

このパラメータは、ターゲット ユーザのパスワードを暗号化された形式で指定します。このオプションは、dmsweep にこのことを警告し、パスワードは使用される前に復号化されます。

ある行で <targets> が指定されていない場合、その行で指定されている /tu および /tp の値がデフォルト値として扱われ、クレデンシャル ファイルの後続のターゲット指定の行で /tu および /tp を省略したすべての場合に使用されます。クレデンシャル ファイルで複数のデフォルト ユーザおよびパスワードの値を指定できますが、一度に有効になるのは最新の値だけです。

dmsweep 引数の省略形

以下の dmsweep 引数は、いずれも同じように使用できます。

/domain と /sd

/ip と /a1

/ipfilename と /if

/jobname と /jn

/language と /pl

/manager と /mgr

/mfilename と /mf

/mpassword と /mp

/musername と /mu

/package と /pk
/packagenum と /pn
/platform と /pt
/pparams と /pp
/primerargs と /pri
/product と /pd
/sserver と /ss
/sspassword と /ssp
/ssusername と /ssu
/targetcred と /tc
/tfilename と /tf
/toip と /a2
/tpassword と /tp
/epassword と /ep
/tusername と /tu
/version と /pv

dmdFtpUpload : 展開マネージャ プライマ用 FTP アップロード

Linux で有効

Linux マネージャを使用すると、インストール後に **DMPprimer** を FTP サーバにアップロードできます。dmdFtpUpload スクリプトによって、すべてのプラットフォームの展開ライブラリにある **DMPprimer** がすべてアップロードされます。

スクリプトは、\$CABIN/dmdFtpUpload（または \$CA_DSM_BASEDIR/dmdeploy/scripts/dmdFtpUpload）にあり、このスクリプトでは環境変数を使用して FTP パラメータが制御されます。

デフォルトで、スクリプトはインストール中に設定されたプロパティを使用します。以下の環境変数を使用すると、インストール設定を上書きできます。

DMFTPSERVER

FTP サーバのホスト名。デフォルト値はローカルホスト名です。

DMFTPUSER

書き込み権限のある FTP サーバ アカウント。デフォルト値は「anonymous」です。

DMFTPPWD

\$DMFTPUSER のパスワード。デフォルト値は「root」です。

DMFTPHOMEDIR

FTP サーバ上のパス。このクライアントで表示されるように、パッケージのアップロード先となります。相対パスの場合、\$DMFTPUSER アカウントのホームディレクトリからの相対パスです。匿名アカウントでは、(ch)root ディレクトリが匿名アカウントのホームディレクトリです。デフォルトは「/pub/dmprimer」です。

第 6 章 : dsmpgm コマンド - Linux および UNIX でのデーモン プロセスの制御

コマンド `dsmpgm` を使用すると、Linux および UNIX で Client Automation デーモン プロセスの起動、シャットダウン、またはステータスのクエリを実行することができます。このコマンドは、本質的には、Client Automation デーモンを制御する主要なコマンド ライン インターフェースである `caf` コマンドのラッパーです。ただし、`dsmpgm` によって、`caf` 機能呼び出す前に、外部前提条件プロセスが使用可能であることが保障されます。

コマンドの形式

```
dsmpgm {start | restart | stop | status}
```

start

デーモン プロセスを起動します。

stop

デーモン プロセスを停止します。

restart

デーモン プロセスを停止してから再び起動します。

status

デーモン プロセスのステータスをクエリします。

終了ステータス:

コマンド実行のステータスが表示されます。値ゼロ (0) は OK を意味し、ゼロ以外の値はエラーを示します。

第 7 章 : dsmPush ツール

dsmPush ツールは Client Automation コンポーネント インストール パッケージを Client Automation インストール DVD からドメイン マネージャにインポート（または「プッシュ」）して作成するために使用されます。 dsmPush ツールを使用すると、インフラストラクチャ展開または Software Delivery で使用するパッケージをインポートできます。

非言語依存ベース パッケージは、Basic Hardware Inventory (BHI) エージェント、Asset Management (AM) エージェント、Remote Control (RC) エージェントおよび Software Delivery (SD) エージェントのインストール DVD で提供されています。非言語依存ベース パッケージには英語 (ENU) の言語パッケージがすでに含まれているため、別個の英語 (ENU) の言語パッケージはありません。

dsmPush ツールを使用すると、一連の独自のエージェント パッケージを作成できます。 エージェントの組み合わせや言語を指定することができます。 たとえば、スペイン語および韓国語の言語パックで、Software Delivery および Remote Control が含まれているパッケージを作成できます。

詳細については、「実装ガイド」の「エージェント言語パッケージの作成とインストールについて」を参照してください。

セットアップの一部として、定義済みの一連のパッケージが Client Automation マネージャにプッシュされます。 dsmPush ツールを使用すると、これらのパッケージを再度プッシュしたり、新しいパッケージを作成してプッシュしたりすることができます。

dsmPush ツールは Client Automation スクリプト言語を使用して作成され、Client Automation マネージャ内の既存パッケージを検証およびリストするチェック機能、およびパッケージを Client Automation マネージャにプッシュまたは作成するコピー機能を提供します。

Windows の場合、dsmPush は以下のようにして呼び出されます。

```
dmscript.exe pathname¥dsmPush.dms {copy | check} [-I imagelocation] [parameters ...]
```

パラメータ -? ユーザに「使用法」を示します。

dsmPush -? - 使用法 -

パラメータ -? ユーザに「使用法」を示します。使用法は、**dsmPush** がパラメータなしで呼び出された場合、または深刻なパラメータエラーがある場合にも表示されます。-silent パラメータは「使用法」の表示も制御します。

```
dmscript.exe pathname¥dsmPush.dms { check <check-parameters> | -? |  
    copy [-I imageLocation] [<copy-parameters>] [-silent] }
```

```
<copy-parameters> =  
    { [-single] [<os-parameters>] [<sd/dm-Parameters>] }  
    [<pack-parameters>] [<lang-parameters>]
```

```
<os-parameters>    =    [-win] [-hp] [-sun] [-ibm] [-linux] [mac] [unixware]
```

```
<sd/dm-Parameters>=    [-REGSD] [-REGDM]
```

```
<pack-parameters> =    [-rc] [-sd] [-am]
```

```
<lang-parameters> =  
    [-P nls,enu,chs,deu,esn,fra,jpn,kor]  
    [-L nls,enu,chs,deu,esn,fra,jpn,kor]
```

```
<check-parameters> = [-f check-output-file-name]
```

dsmPush のチェック機能

dsmPush チェック

ローカルシステムに展開パッケージが存在しているかどうかをチェックし、検出したパッケージをリストします。 dsmPush ツールは、**Software Delivery** パッケージの有無はチェックしません。 dsmPush によって検出されるパッケージのリストには、以下の情報が含まれています。

- 製品名
- パッケージ
- 動作環境
- 言語
- バージョン
- 説明

check-output-file に情報が書き込まれます。デフォルトの名前は、DSM_dsmPush_check_output.txt です。

Windows では、そのデフォルトの場所は一時フォルダ（%TEMP%）になります。

Linux では、そのデフォルトの場所は、その変数が設定されている場合は \$CA_ITRM_BASEDIR/logs になり、設定されていない場合は /tmp になります。

dsmPush コピー スクリプト - パッケージをライブラリにインポートします

dsmPush コピー スクリプトにより、指定した製品および動作環境の一連のパッケージが、ローカル システム上のインフラストラクチャ展開ライブラリ、または Software Delivery ライブラリにインポートされます。

注： dsmPush スクリプトの使用方法を見るには、dsmPush スクリプトで単一の疑問符をパラメータとして使用します。スクリプトは以下のように CD イメージから実行する必要があります。

- Windows の場合
dmscript dsmPush -?
- Linux の場合
dmscript dsmPush.dms -?

Windows の場合、ポップアップ メッセージ ボックスに使用方法が表示されます。Linux の場合、標準出力 (stdout) に使用方法が出力されます。使用法はパラメータ エラーが発生した場合に自動的に表示されますが、dsmPush で **-silent** パラメータが使用されている場合は使用法は表示されません。

-l "imagelocation"

イメージのルート ディレクトリを指定します。デフォルトは dsmPush.dms スクリプトの場所です。

operating_environment

次のオプションのいずれかを使用して、インポートするパッケージの動作環境を指定します。

-win	Windows プラットフォーム
-linux	Linux プラットフォーム
-sun	Sun Solaris プラットフォーム
-ibm	IBM AIX プラットフォーム
-hp	HP UX プラットフォーム
-mac	MAC OS X プラットフォーム
-unixware	SCO UnixWare プラットフォーム

product

インポートされた各エージェント パッケージに含まれている製品の組み合わせを指定します。 有効な値は以下のとおりです。

-am	Asset Management
-rc	Remote Control
-sd	Software Delivery

登録

パッケージがインポートされるライブラリを指定します。 有効な値は以下のとおりです。

-REGDM	ローカル システム上のインフラストラクチャ展開ライブラリにインポートされるパッケージを指定します。
-REGSD	Software Delivery ライブラリにインポートされるパッケージを指定します。

登録用に何も指定しない場合、パッケージは両方のライブラリにインポートされます。

-P {list_of_languagepackages}

インポートする言語パッケージを指定します。

list_of_languagepackages はスペースのないカンマ区切りのリストであり、次のオプションを使用して言語パッケージを指定できます。

nls	多言語パッケージ
enu	英語（アメリカ）パッケージ
chs	中国語（簡体字）パッケージ
deu	ドイツ語パッケージ
esn	スペイン語パッケージ
fra	フランス語パッケージ
jpn	日本語パッケージ
kor	韓国語パッケージ

注：

上記は本書の発行時点でサポートされている言語の完全なリストですが、それ以降に追加される可能性があります。

nls は互換性を保つ目的でのみ提供されています。**enu** と組み合わせた場合のみ使用してください。**nls** オプションは、フランス語 (**fra**)、ドイツ語 (**deu**)、および日本語 (**jpn**) の 3 つの言語を表しています。

nls を指定すると、古いスタイルの **NLS** パッケージがライブラリにコピーされます (**Windows** のみ)。

例：

-P deu, fra, kor

ドイツ語、フランス語、および韓国語のいずれかで動作するよう設定できるパッケージがインポートされます。

-P enu

英語のみをベースとするパッケージのみがコピーされるよう指定します。

-L {enu|chs|deu|esn|fra|jpn|kor}

インフラストラクチャ展開ウィザードおよび **Software Delivery** の登録情報によって使用される言語を指定します。これは通常、**Client Automation** ドメインマネージャが実行されている言語です。一覧表示されているオプションのいずれかを使用して、言語を指定できます。**-L** パラメータがない場合、デフォルトで **enu** (英語) が使用されます。

例：**-L deu**

-single

1 つのパッケージ（エージェントまたは言語パッケージ）のみが、**Software Delivery** ライブラリおよび **Infrastructure Deployment** ライブラリに強制的にインポートされるようにします。その他のパッケージのインポートは省略されます。これは、指定された各動作環境、または、*operating_environment* パラメータがない場合、すべての動作環境に適用されます。

複数の動作環境が指定されている場合、単一のパッケージではなく、各動作環境につき 1 つのパッケージがインポートされます。

例：

-single -P chs

中国語パッケージがインポートされます。

-single -am

Asset Management エージェント パッケージ (英語のみ) がインポートされます。

-single -am -rc -P deu, fra

マージされた英語、ドイツ語、およびフランス語の **Remote Control** エージェントおよび **Asset Management** エージェント パッケージがインポートされます。

-silent

dsmPush の進行状況レポートのオンとオフを切り替えます（後方互換性の理由から）。

デフォルトでは、**dsmPush** には、すでに何が行われたのかをユーザに通知するための進行状況レポートが付いています。レポートの最初の情報は、ログ ファイルの名前です。Linux の場合、進行状況レポートは標準出力 (stdout) に書き込まれます。Windows の場合、スクリプト インタプリタ ウィンドウに書き込まれます。このウィンドウは、進行状況レポート スクリプトが完了した 10 秒後に閉じます。

パラメータの組み合わせの使用

パラメータの組み合わせの使用に関する重要な注意事項

- *operating_environment* パラメータが指定されていない場合、**-single** オプションに関係なく、サポートされているすべての動作環境に対して指定したパッケージがインポートされます。
- *product* パラメータが指定されておらず、**-single** オプションがない場合、**-P** パラメータを使用して指定した言語の **CD** にあるすべてのエージェントパッケージがインポートされます。 **-single** オプションが指定されている場合、指定した言語パッケージがインストールされます。
- 言語が指定されていない (**-P** パラメータがない) 場合、指定したすべてのパッケージに対して、**NLS** バージョン (=enu、deu、fra、jpn) のみがインポートされます。
- **-single** オプションが指定されていても、*product* パラメータおよび **-P** パラメータが指定されていない場合、パッケージはインポートされません。

dsmPush の例

dsmPush の使用方法の表示

DVD の最上位フォルダから、次の例のように dsmPush スクリプトを実行します。

```
C:\DSM_11_2_226_1042_CD> dmscript dsmPush -?
```

ドイツ語版のインフラストラクチャ展開ウィザードおよび Software Delivery の reginfo ファイルを使用した、特定の製品パッケージと言語パッケージのインポート

この例では、ドイツ語版のインフラストラクチャ展開ウィザードおよび Software Delivery の reginfo ファイルを使用して、Asset Management および Software Delivery 製品パッケージとライブラリ内のドイツ語およびフランス語の言語パッケージがインポートされます。例は、Windows 環境に適用されます。

```
...¥Program Files¥CA¥DSM¥Bin¥dmscript.exe "pathname¥dsmPush.dms" copy  
-I "image\location" -am -sd -REGDM -REGSD -P enu,deu,fra -L deu
```

すべての言語をサポートするための Windows パッケージのインポート

```
dmscript c:\DSM_11_2_226_1042_CD¥dsmPush.dms copy  
-I c:\DSM_11_2_226_1042_CD -win -P fra,chs,deu,esn,kor,jpn -L enu
```


フランス語の Asset Management 用の Windows パッケージを Software Delivery とインフラストラクチャ展開ライブラリにインポート

```
dmscript c:¥DSM_11_2_226_1042_CD¥dsmPush.dms copy  
-I c:¥DSM_11_2_226_1042_CD -win -am -P fra -L enu
```

スペイン語の Remote Control 用の Windows パッケージを Software Delivery とインフラストラクチャ展開ライブラリにインポート

```
dmscript c:¥DSM_11_2_226_1042_CD¥dsmPush.dms copy  
-I c:¥DSM_11_2_226_1042_CD -win -rc -P esn -L enu
```

中国語と日本語の Remote Control と Software Delivery 用の Windows パッケージを Software Delivery とインフラストラクチャ展開ライブラリにインポート

```
dmscript c:¥DSM_11_2_226_1042_CD¥dsmPush.dms copy  
-I c:¥DSM_11_2_226_1042_CD -win -rc -sd -P chs,jpn -L enu
```

中国語、韓国語、ドイツ語、および日本語の Asset Management 用の Windows パッケージを Software Delivery とインフラストラクチャ展開ライブラリにインポート

```
dmscript c:¥DSM_11_2_226_1042_CD¥dsmPush.dms copy  
-I c:¥DSM_11_2_226_1042_CD -win -am -sd -P kor,jpn,chs,deu -L enu
```

中国語、韓国語、ドイツ語、および日本語の Asset Management 用の Linux パッケージを Software Delivery とインフラストラクチャ展開ライブラリにインポート

```
dmscript c:¥DSM_11_2_226_1042_CD¥dsmPush.dms copy  
-I c:¥DSM_11_2_226_1042_CD -Linux -am -sd -P kor,jpn,chs,deu -L enu
```

全言語のすべての Windows パッケージを Software Delivery ライブラリにインポート

```
dmscript c:¥DSM_11_2_226_1042_CD¥dsmPush.dms copy  
-I c:¥DSM_11_2_226_1042_CD -win -REGSD -P kor,jpn,chs,deu,esn,fra -L enu
```

全言語のすべての Windows パッケージをインフラストラクチャ展開ライブラリにインポート

```
dmscript c:¥DSM_11_2_226_1042_CD¥dsmPush.dms copy  
-I c:¥DSM_11_2_226_1042_CD -win -REGDM -P kor,jpn,chs,deu,esn,fra -L enu
```

全言語のすべての Windows パッケージを Software Delivery ライブラリとインフラストラクチャ展開ライブラリにインポート

```
dmscript c:¥DSM_11_2_226_1042_CD¥dsmPush.dms copy  
-I c:¥DSM_11_2_226_1042_CD -win -P fra,chs,deu,esn,kor,jpn,nls -L enu  
-silent
```

第 8 章 : intellisigcmd - コマンドライン ツール

intellisigcmd は、Intellisig のコマンドライン ツールです。このツールの形式は、以下のとおりです。

```
intellisigcmd <cmd> param1=value1 param2=value2 ... [<DB_Credentials>]
```

cmd

import、export、または genuuid コマンドを指定します。

DB_Credentials

MDB のデータベース クレデンシャルを指定します。デフォルトでは、クレデンシャルは comstore から取得されます。

DB クレデンシャルの指定では、以下のサンプル形式を使用します。

例 : SQLServer DB クレデンシャル

```
dbvendor=mssql dbhost=myhost dbname=mdb dbuser=ca_itrm dbpassword=mypwd  
dbinstance=inst
```

例 : Oracle DB クレデンシャル

```
dbvendor=oracle dbhost=myhost dbname=orcl dbuser=ca_itrm dbpassword=mypwd  
dbinstance=1521
```

intellisigcmd export -- Intellisig のエクスポート

intellisigcmd export コマンドでは、Intellisig をエクスポートできます。DSM エクスプローラまたはコマンドを使用して Intellisig をエクスポートできます。

コマンドの形式

```
intellisigcmd export file=<export name> [type=xml|zip] [platform=all|windows|unix]
```

export name

エクスポートする Intellisig XML または ZIP ファイルの名前を指定します。ファイル拡張子を指定せず、タイプが **xml** の場合、このコマンドは指定された名前でフォルダを作成します。

type

XML または ZIP ファイルをエクスポートするかどうかを指定します。**type** パラメータが含まれない場合、このコマンドは、エクスポートファイル拡張子に応じてエクスポートタイプを想定します。

有効な値： xml、zip

platform

どの Intellisig がエクスポートされるかを決定するために、プラットフォームを指定します。

有効な値： all、windows、unix

デフォルト： all

intellisigcmd import -- Intellisig のインポート

intellisigcmd import コマンドでは、Intellisig をインポートできます。DSM エクスプローラまたはこのコマンドを使用して Intellisig をインポートできます。

コマンドの形式

```
intellisigcmd import [file=<import source>] [type=xml|zip]  
[mode=replace|mergenew|mergeall] [updateactive=yes|no] [delete=yes|no]
```

import source

Intellisig をインポートする XML または ZIP ファイルの名前を指定します。ファイル拡張子を指定しない場合、このコマンドは、タイプに応じてファイル拡張子を想定します。

注：XML ファイルにインポートする場合、サポートするディレクトリが XML ファイルと同じフォルダに存在することを確認します。

type

XML または ZIP ファイルをインポートするかどうかを指定します。このパラメータが含まれない場合、このコマンドは、インポート ファイル拡張子に応じてインポート タイプを想定します。

有効な値：xml、zip

mode

インポート モードを指定します。以下のインポート モードがサポートされています。

デフォルト：mergenew

replace

インポートされた定義で既存の定義を置換します。既存の定義が失われます。

mergenew

マネージャ上の定義に、新しい Intellisig バージョンを追加します。既存の定義は変更されません。

mergeall

新しい Intellisig バージョンを追加して、インポート ファイルに含まれている既存の定義を更新します。インポート ファイルで定義されていない Intellisig バージョンは変更されません。

updateactive

インポート中に、アクティブな Intellisig バージョンが更新可能かどうかを指定します。

有効な値：Yes、Y、true、1 または No、N、false、0

デフォルト：Yes

delete

インポートの前に Intellisig を削除するかどうかを指定します。delete スイッチを指定しない場合、いずれの Intellisig もインポートの前に削除されません。

デフォルト：No

intellisigcmd genuuid -- UUID の生成

intellisigcmd genuuid コマンドでは、カスタム Intellisig の作成時に使用可能な一意の UUID を生成できます。

このコマンドのフォーマットは、以下のとおりです。

```
intellisigcmd genuuid [num=<count>]
```

num

生成する UUID の数を指定します。このパラメータを指定しない場合、単一の UUID が生成されます。それ以外の場合、<count> 数の UUID が生成されます。

有効な値：1 ～ 1000

付録 A: cadsmcmd Messages

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[リターンコード](#) (P. 680)

[BMS エラー](#) (P. 706)

[CSM エラー](#) (P. 711)

リターン コード

cadsmcmd が問題を検出すると、その問題の内容を示すメッセージが、標準出力に出力されます。説明メッセージの先頭には、「SDCMDxxxxxx>:」または「SDCMD<Axxxxxx>:」が表示されます。

- 「A」は問題が SD API によって報告されたことを意味し、続く番号は API 報告エラーコードとなります。
- 「CMD」は問題が検出されたことを示し、続く番号は cadsmcmd エラーコードとなります。

CMD コードの場合は、cadsmcmd のリターンコードでもあります。

API コードはすべて、cadsmcmd のリターンコード cadsmcmd_API_ERROR (32) にマップされます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[CMD000000](#) (P. 684)
[CMD000001](#) (P. 684)
[CMD000002](#) (P. 684)
[CMD000003](#) (P. 684)
[CMD000004](#) (P. 684)
[CMD000005](#) (P. 684)
[CMD000006](#) (P. 684)
[CMD000007](#) (P. 685)
[CMD000008](#) (P. 685)
[CMD000009](#) (P. 685)
[CMD000010](#) (P. 685)
[CMD000011](#) (P. 685)
[CMD000012](#) (P. 685)
[CMD000013](#) (P. 685)
[CMD000014](#) (P. 685)
[CMD000015](#) (P. 686)
[CMD000016](#) (P. 686)
[CMD000017](#) (P. 686)
[CMD000018](#) (P. 686)
[CMD000019](#) (P. 686)
[CMD000020](#) (P. 686)
[CMD000021](#) (P. 686)
[CMD000022](#) (P. 686)
[CMD000023](#) (P. 686)
[CMD000024](#) (P. 687)
[CMD000025](#) (P. 687)
[CMD000026](#) (P. 687)
[CMD000027](#) (P. 687)
[CMD000028](#) (P. 687)
[CMD000029](#) (P. 687)

[CMD000030](#) (P. 687)
[CMD000031](#) (P. 687)
[CMD000032](#) (P. 688)
[CMD000033](#) (P. 688)
[CMD000034](#) (P. 688)
[CMD000035](#) (P. 688)
[CMD000036](#) (P. 688)
[CMD000037](#) (P. 688)
[CMD000038](#) (P. 688)
[CMD000039](#) (P. 688)
[CMD000040](#) (P. 688)
[CMD000041](#) (P. 689)
[CMD000042](#) (P. 689)
[CMD000043](#) (P. 689)
[CMD000044](#) (P. 689)
[CMD000045](#) (P. 689)
[CMD000046](#) (P. 689)
[CMD000047](#) (P. 689)
[CMD000048](#) (P. 689)
[CMD000049](#) (P. 689)
[CMD000050](#) (P. 690)
[CMD000051](#) (P. 690)
[CMD000052](#) (P. 690)
[CMD000053](#) (P. 690)
[CMD000054](#) (P. 690)
[CMD000055](#) (P. 690)
[CMD000056](#) (P. 690)
[CMD000057](#) (P. 690)
[CMD000058](#) (P. 690)
[CMD000059](#) (P. 691)
[CMD000060](#) (P. 691)
[CMD000061](#) (P. 691)
[CMD000062](#) (P. 691)
[CMD000063](#) (P. 691)
[CMD000064](#) (P. 691)
[CMD000065](#) (P. 691)
[CMD000066](#) (P. 691)
[CMD000067](#) (P. 691)
[CMD000068](#) (P. 692)
[CMD000069](#) (P. 692)
[CMD000070](#) (P. 692)
[CMD000071](#) (P. 692)
[CMD000072](#) (P. 692)
[CMD000073](#) (P. 692)
[CMD000074](#) (P. 692)
[CMD000075](#) (P. 692)
[CMD000076](#) (P. 692)
[CMD000077](#) (P. 693)
[CMD000078](#) (P. 693)

[CMD000079](#) (P. 693)
[CMD000080](#) (P. 693)
[CMD000081](#) (P. 693)
[CMD000082](#) (P. 693)
[CMD000083](#) (P. 693)
[CMD000084](#) (P. 693)
[CMD000085](#) (P. 693)
[CMD000086](#) (P. 694)
[CMD000087](#) (P. 694)
[CMD000088](#) (P. 694)
[CMD000089](#) (P. 694)
[CMD000090](#) (P. 694)
[CMD000091](#) (P. 694)
[CMD000092](#) (P. 694)
[CMD000093](#) (P. 694)
[CMD000094](#) (P. 695)
[CMD000095](#) (P. 695)
[CMD000096](#) (P. 695)
[CMD000097](#) (P. 695)
[CMD000098](#) (P. 695)
[CMD000099](#) (P. 695)
[CMD000100](#) (P. 695)
[CMD000101](#) (P. 695)
[CMD000102](#) (P. 696)
[CMD000103](#) (P. 696)
[CMD000104](#) (P. 696)
[CMD000105](#) (P. 696)
[CMD000106](#) (P. 696)
[CMD000107](#) (P. 696)
[CMD000108](#) (P. 696)
[CMD000109](#) (P. 696)
[CMD000110](#) (P. 696)
[CMD000111](#) (P. 697)
[CMD000112](#) (P. 697)
[CMD000113](#) (P. 697)
[CMD000114](#) (P. 697)
[CMD000115](#) (P. 697)
[CMD000116](#) (P. 697)
[CMD000117](#) (P. 697)
[CMD000118](#) (P. 697)
[CMD000119](#) (P. 697)
[CMD000120](#) (P. 698)
[CMD000121](#) (P. 698)
[CMD000122](#) (P. 698)
[CMD000123](#) (P. 698)
[CMD000124](#) (P. 698)
[CMD000125](#) (P. 698)
[CMD000126](#) (P. 698)
[CMD000127](#) (P. 698)

[CMD000128](#) (P. 699)
[CMD000129](#) (P. 699)
[CMD000130](#) (P. 699)
[CMD000131](#) (P. 699)
[CMD000132](#) (P. 699)
[CMD000133](#) (P. 699)
[CMD000134](#) (P. 699)
[CMD000135](#) (P. 699)
[CMD000136](#) (P. 699)
[CMD000137](#) (P. 700)
[CMD000138](#) (P. 700)
[CMD000139](#) (P. 700)
[CMD000140](#) (P. 700)
[CMD000141](#) (P. 700)
[CMD000142](#) (P. 700)
[CMD000143](#) (P. 700)
[CMD000144](#) (P. 700)
[CMD000145](#) (P. 700)
[CMD000146](#) (P. 701)
[CMD000147](#) (P. 701)
[CMD000148](#) (P. 701)
[CMD000149](#) (P. 701)
[CMD000150](#) (P. 701)
[CMD000151](#) (P. 701)
[CMD000152](#) (P. 701)
[CMD000153](#) (P. 701)
[CMD000154](#) (P. 701)
[CMD000155](#) (P. 702)
[CMD000156](#) (P. 702)
[CMD000157](#) (P. 702)
[CMD000158](#) (P. 702)
[CMD000159](#) (P. 702)
[CMD000160](#) (P. 702)
[CMD000161](#) (P. 702)
[CMD000162](#) (P. 702)
[CMD000163](#) (P. 702)
[CMD000164](#) (P. 703)
[CMD000165](#) (P. 703)
[CMD000166](#) (P. 703)
[CMD000167](#) (P. 703)
[CMD000168](#) (P. 703)
[CMD000169](#) (P. 703)
[CMD000170](#) (P. 703)
[CMD000171](#) (P. 703)
[CMD000172](#) (P. 703)
[CMD000173](#) (P. 704)
[CMD000174](#) (P. 704)
[CMD000175](#) (P. 704)
[CMD000176](#) (P. 704)

[CMD000177](#) (P. 704)

[CMD000178](#) (P. 704)

[CMD000179](#) (P. 704)

[CMD000180](#) (P. 704)

[CMD000181](#) (P. 704)

[CMD000182](#) (P. 705)

[CMD000183](#) (P. 705)

CMD000000

正常に完了しました。

CMD000001

ATTIME 形式が不正です。

CMD000002

TIMEOUT の値が数字ではありません。

CMD000003

キーワードに無効な値が割り当てられました。

CMD000004

構文エラー。

CMD000005

プロシージャ ファイルを開けませんでした。

CMD000006

このコマンドは、エンタープライズにのみ許可されています。

CMD000007

コマンドはドメイン マネージャにのみ許可されています。

CMD000008

予約済み。

CMD000009

バッチ用のパラメータが指定されていません。キーワード **batch** は指定されましたが、バッチ ファイルが指定されませんでした。

CMD000010

ローカル用のパラメータが指定されていません。キーワード **local** は指定されましたが、ドメイン マネージャ名が指定されませんでした。

CMD000011

バッチ ファイルを開けませんでした。

CMD000012

プロシージャ ファイルにエラーが検出されました。詳細情報が、標準出力上に表示されています。

CMD000013

パラメータが長すぎます。

CMD000014

エリア/ドメイン、コンピュータ/コンピュータ グループ、またはプロシージャが多すぎます。

CMD000015

外部プロシージャとソフトウェア検出スクリプトを結合できません。

CMD000016

SENDTIME 形式が正しくありません。(YYYY-MM-DD HH:MM)

CMD000017

HALTTIME 形式が正しくありません。(YYYY-MM-DD HH:MM)

CMD000018

フィルタ：引用符が閉じられていません。

CMD000019

フィルタ：かっこが閉じられていません。

CMD000020

フィルタ：論理演算子が予期されていますが、見つかりません。

CMD000021

フィルタ：比較演算子が予期されていますが、見つかりません。

CMD000022

フィルタ：不正な比較演算子が見つかりました。

CMD000023

フィルタ：数字以外の値が数字属性に割り当てられました。

CMD000024

フィルタ：数値が大きすぎます。

CMD000025

指定されたシステムはスケーラビリティ サーバではありません。

CMD000026

ユーザ ID が入力されていません。ログインが拒否されました。

CMD000027

ECHO/UNECHO コンソールに障害が発生しました。システムが、コンソールのエコーと無エコーの両モード間を切り替えられません。そのため、パスワード入力を指示することも、無エコー モードでのパスワード入力やモードを反転させることもできません。

CMD000028

アプリケーションはバッチで実行しています。ダイアログにログインできません。

CMD000029

不明なエラー コードを受信しました。

CMD000030

以前に報告されたエラーによって **cadsmcmd** は異常終了しました。

CMD000031

期間指定が無効です。

CMD000032

API エラーが報告されました。標準出力に API エラーが報告されました。
cadsmcmd によってこのコードが返されます。

CMD000033

メモリ不足。

CMD000034

内部エラーです。

CMD000035

不明なパラメータ "...".

CMD000036

無効なタスク。

CMD000037

注文が見つかりません。

CMD000038

引数 ... が見つかりません。

CMD000039

引数 ...=... が無効です。

CMD000040

引数 ... または ... のいずれかのみをコード化する必要があります。

CMD000041

不明なコマンド ...

CMD000042

DELIVERYTIME 形式が不正です。

CMD000043

修復可能なジョブが見つかりません。

CMD000044

コンピュータ用の修復可能なジョブが見つかりません。

CMD000045

更新は許可されていません。

CMD000046

不正な状態です。

CMD000047

指定されたソフトウェア テンプレートが見つかりませんでした。

CMD000048

指定されたジョブが見つかりませんでした。

CMD000049

引数 ... が見つからないか、または のいずれかです。

CMD000050

引数 ... が見つからないか、または のいずれかです。 または

CMD000051

内部エラー： コンピュータ グループのルートが見つかりません。

CMD000052

コード化されたアクションはドメイン マネージャによってサポートされていません。

CMD000053

コード化されたアクションはエンタープライズ マネージャによってサポートされていません。

CMD000054

スーパー グループはソフトウェア グループではありません。

CMD000055

複数のパラメータがコード化されています。

CMD000056

itemList の無効な構文。

CMD000057

グループはプロシージャ グループではありません。

CMD000058

グループはカタログ グループではありません。

CMD000059

ジョブコンテナは封印済みです。

CMD000060

グループはカタログ グループです。

CMD000061

行 %d でクォート エラーが発生しました。

CMD000062

行 %d は複雑です。

CMD000063

無効なタイプのグループ。

CMD000064

ほかのタイプのソフトウェア テンプレートおよびコンピュータ グループが混在しています。

CMD000065

ソフトウェア テンプレートはすでに封印されました。

CMD000066

十分なアクセス権がありません。

CMD000067

ジョブ コンテナには十分なアクセス権がありません。

CMD000068

ジョブ コンテナ名は一意ではありません。

CMD000069

配信は「**BUILDING**」以外の別のステータスです。

CMD000070

このグループはクエリ グループではありません。

CMD000071

このグループはソフトウェア ポリシーには関係ありません。

CMD000072

このグループは封印されています。

CMD000073

このグループは封印解除されています。

CMD000074

このグループはクエリ グループです。

CMD000075

読み取り許可がありません。

CMD000076

書き込み許可がありません。

CMD000077

オブジェクトは削除できません。

CMD000078

バッチ処理中にエラーが報告されました。

CMD000079

エントリ「<entry identifier>」が「<path #1>」および「<path #2>」で重複しています。後者は無視されます。

CMD000080

項目「<item name>」のバージョン「<item version>」はエリア「<area name>」の分散項目内に見つけれませんでした。

CMD000081

オブジェクトが見つかりません。

CMD000082

日付/時間の形式（YYYY-MM-DD hh:mm）が不正です。

CMD000083

現在のステータスでは「<method>」による修正は許可されていません。

CMD000084

パラメータ「<parameter name>」は、このコンテキストでは無効です。

CMD000085

パラメータの位置が範囲外です。

CMD000086

更新するジョブがありません。

CMD000087

「<string>」はキーワードではありません。

CMD000088

ターゲットが見つかりません。

CMD000089

バッチ ファイルが空です。

CMD000090

このコンテナの更新は許可されていません。

CMD000091

グループは空です。

CMD000092

コンピュータ名が無効です。

CMD000093

引数が多すぎます。

CMD000094

BMS エラーの報告。

詳細については、「**BMS エラー (706以下のページで定義参照：)**」を参照してください。

CMD000095

BMS データベース アクセス エラーの報告。

詳細については、「**CSM エラー (711以下のページで定義参照：)**」を参照してください。

CMD000096

BMSCAPI リクエストに失敗しました。

CMD000097

リストは空です。

CMD000098

リストの最後です（内部コード）。

CMD000099

MAC アドレスが、すでに BMS 管理対象であるシステムを参照しています。

CMD000100

製品はインストールされていません。

CMD000101

コンピュータはすでに **BMS 管理対象**です。

CMD000102

コンピュータはネットワークからまだ登録されていません。

CMD000103

OSIM には一致する PXE コンピュータ エントリがありません。

CMD000104

オブジェクトのプロパティまたはステータスではこのアクションは許可されていません。

CMD000105

クエリ実行エラー「<error>」。

CMD000106

クエリ リストへのアクセスに失敗しました。 エラー コード取得：「<code>」

CMD000107

CO API リクエストに失敗しました：「<code>」 - 「<text>」

CMD000108

CO API はデータベース フィールドの NULL 値を示しています。

CMD000109

セッション確立に失敗しました。

CMD000110

CO API リクエストに失敗しました： 要素「<number>」：「<code>」 - 「<text>」

CMD000111

指定されたブート サーバが見つかりません。

CMD000112

指定されたコンピュータ ユーザの形式が不正です。

CMD000113

コンピュータが一意ではありません。

CMD000114

ユーザが一意ではありません。

CMD000115

ソフトウェア テンプレートが見つかりません。

CMD000116

クエリ オブジェクトが見つかりません。

CMD000117

コンピュータ グループが存在しません。

CMD000118

警告：関数が廃止されています。

CMD000119

ポリシー「<name>」が存在しません。

CMD000120

ポリシー：「<name>」タイプ「<type>」が、ターゲットタイプ「<type>」に一致しません。

CMD000121

操作が許可されていません。設定「<uuid>」は計画された状態にありません。

CMD000122

操作が許可されていません。設定「<uuid>」は計画された状態またはエラー状態にありません。

CMD000123

操作が許可されていません。設定「<uuid>」は計画された状態、エラー、キャンセル、またはアクティブ状態です。

CMD000124

操作が許可されていません。ポリシー「<name>」は封印解除状態にありません。

CMD000125

パラメータの値が、このパラメータの型に無効な値になっています。

CMD000126

USD クエリ作成エラー：コード = 「<code>」 - テキスト = 「<text>」

CMD000127

USD クエリ初期化エラー：コード = 「<code>」

CMD000128

設定識別子「<uuid>」が見つかりません。

CMD000129

プロシージャ ファイルにエラーが検出されました。

CMD000130

パラメータが指定されていません。コマンドは処理されませんでした。

CMD000131

スケーラビリティ サーバグループ「<name>」が見つかりません。

CMD000132

フィルタ評価に失敗しました： <filter>

CMD000133

スケーラビリティ サーバ「<name>」が見つかりません。

CMD000134

グループ「<name>」はサーバグループではありません。

CMD000135

グループ「<name>」はコンピュータまたはテンプレート グループのいずれでもありません。

CMD000136

パラメータ情報が見つかりません。

CMD000137

パラメータ「<name>」が存在しません。

CMD000138

セクション「<name>」が存在しません。

CMD000139

セクション情報が見つかりません。

CMD000140

ポリシー情報が見つかりません。

CMD000141

設定情報が見つかりません。

CMD000142

エラー オブジェクト情報が見つかりません。

CMD000143

複数の操作の少なくとも 1 つが失敗しました。

CMD000144

Operation failed.

CMD000145

CCNF API リクエストは失敗しました : 「<code>」 - 「<text>」

CMD000146

デフォルト コンピュータ ポリシーに対する操作は許可されていません。

CMD000147

エンジン名「<name>」が見つかりません。

CMD000148

エンジン uuid 「<uuid>」が見つかりません。

CMD000149

ターゲットがすでに登録されています。 操作は許可されていません。

CMD000150

MAC アドレスがありません。 システムは OSIM が有効になっていません。

CMD000151

以下の引数が競合しています： <arg1> および <arg2>

CMD000152

オーダ名が無効です。

CMD000153

ソフトウェア ポリシーはすでにリンクされています。

CMD000154

ソフトウェア ポリシーが指定されたコンピュータ グループにリンクされていません。

CMD000155

コンピュータ グループが見つかりません。

CMD000156

システムは **ADS** デバイスです。

CMD000157

ソフトウェア ポリシーが封印されていません。 .

CMD000158

指定できるターゲットが残っていません。

CMD000159

指定された **MAC** アドレスが一致しません。

CMD000160

コンピュータ/ユーザが見つかりません。

CMD000161

ソフトウェア ポリシーからのジョブの削除は完全ではありません。

CMD000162

インストール プロシージャが見つかりません。

CMD000163

デフォルトのインストール プロシージャが見つかりません。

CMD000164

レガシー マネージャ「<name>」でサポートされないソフトウェア ポリシーです。

CMD000165

警告：ソフトウェア ポリシーは封印されていなければなりません、ターゲット およびソフトウェアまたはそのいずれかが割り当てられていません。

CMD000166

ソフトウェア ポリシーを封印できません - ターゲット グループが割り当てられていません。

CMD000167

クエリ「<query name>」が見つかりませんでした。

CMD000168

クエリ「<cname>」 が一意ではありません。

CMD000169

ドメイン「<domain name>」が見つかりませんでした。

CMD000170

ドメイン「<domain name>」に対するクエリ「<query name>」が見つかりません。

CMD000171

マネージャ「<manager name>」が見つかりませんでした。

CMD000172

マネージャ「<manager name>」 が一意ではありません。

CMD000173

AMAPI エラー - <AMAPI エラー コード> - <AMAPI エラー メッセージ>

CMD000174

宛先マネージャで AM がサポートされていないため、実行できるアクションはありません。

CMD000175

クラス名またはクラス ID 「<class name>」が見つかりません。

CMD000176

セキュリティ エリア 「<security area>」が見つかりません。

CMD000177

セキュリティ オブジェクト 「<security object>」が見つかりません。

CMD000178

フォルダ 「<folder name>」が見つかりません。

CMD000179

フォルダ ID 「<folder id>」が見つかりません。

CMD000180

クラス ID 「SoftwareJob」の引数「foldername=」が指定されていません。

CMD000181

クラス ID 「SoftwareJob」の引数「folderclassid=」が指定されていません。

CMD000182

フォルダ「__SD_Software Templates」が見つかりません。

CMD000183

ドメイン名「<domainName>」が無効です。

BMS エラー

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[BMS 000000](#) (P. 706)
[BMS 000001](#) (P. 707)
[BMS 000002](#) (P. 707)
[BMS 000003](#) (P. 707)
[BMS 000004](#) (P. 707)
[BMS 000005](#) (P. 707)
[BMS 000006](#) (P. 707)
[BMS 000007](#) (P. 707)
[BMS 000008](#) (P. 707)
[BMS 000009](#) (P. 707)
[BMS 000010](#) (P. 708)
[BMS 000010](#) (P. 708)
[BMS 000012](#) (P. 708)
[BMS 000013](#) (P. 708)
[BMS 000014](#) (P. 708)
[BMS 000015](#) (P. 708)
[BMS 000016](#) (P. 708)
[BMS 000017](#) (P. 708)
[BMS 000018](#) (P. 708)
[BMS 000019](#) (P. 709)
[BMS 000020](#) (P. 709)
[BMS 000021](#) (P. 709)
[BMS 000022](#) (P. 709)
[BMS 000023](#) (P. 709)
[BMS 000024](#) (P. 709)
[BMS 000025](#) (P. 709)
[BMS 000026](#) (P. 709)
[BMS 000027](#) (P. 709)
[BMS 000028](#) (P. 710)
[BMS 000029](#) (P. 710)
[BMS 000030](#) (P. 710)
[BMS 000031](#) (P. 710)
[BMS 000032](#) (P. 710)
[BMS 000033](#) (P. 710)
[BMS 000034](#) (P. 710)
[BMS 000100](#) (P. 710)

BMS 000000

メソッドは正常に完了しました。

BMS 000001

メモリ不足です。

BMS 000002

サーバ名が見つかりません。

BMS 000003

サーバへの接続がまだ保留中です。

BMS 000004

サーバへのセッションがまだ確立されていません。

BMS 000005

このメソッドはまだ実装されていません。

BMS 000006

指定された **MAC** アドレスが、指定されたシステムの **MAC** アドレスと一致しません。

BMS 000007

内部エラーです。

BMS 000008

ブートサーバは、このコンピュータに対してスケジュールされた設定によりまだビジーです。

BMS 000009

ブートステータスの変更に失敗しました。

BMS 000010

コンピュータがデータベースに見つかりませんでした。

BMS 000010

無効なパラメータです。

BMS 000012

コンピュータはすでに命名されています。

BMS 000013

プロパティが見つかりませんでした。

BMS 000014

ブート ステータスがこのメソッドに適していません。

BMS 000015

計画された設定が使用できません。

BMS 000016

すでに起動済みの設定があります。

BMS 000017

日付/時刻の指定が無効です。

BMS 000018

イメージは検出されるのみで、使用できません。

BMS 000019

スケジュールされた設定が使用できません。

BMS 000020

設定ステータスが無効です。

BMS 000021

指定された設定が無効です。

BMS 000022

現在の設定が使用できません。

BMS 000023

MAC アドレスがすでに存在します。

BMS 000024

コンピュータ名が一意ではありません。

BMS 000025

イメージが見つかりません。

BMS 000026

パラメータが見つかりません。

BMS 000027

オペレーティングシステム イメージを修正するには、メソッド **modifyOS** を使用します。

BMS 000028

このパラメータは必須であり、デフォルト値はありません。

BMS 000029

`userParam` および `userValue` を一緒には指定しないでください。

BMS 000030

ユーザ パラメータが見つかりません。

BMS 000031

パラメータ値がパラメータの仕様に適合していません。

BMS 000032

MAC アドレスはすでに別の BMS 管理対象コンピュータで使用されています。

BMS 000033

この値はリストのメンバではありません。

BMS 000034

ターゲット コンピュータは OSIM 非管理対象コンピュータであり、設定が割り当てられていません。

BMS 000100

ブート サーバがデータベースに見つかりませんでした。

CSM エラー

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[CSM 000000](#) (P. 711)

[CSM 000001](#) (P. 711)

[CSM 000002](#) (P. 711)

[CSM 000003](#) (P. 711)

[CSM 000004](#) (P. 711)

[CSM 000005](#) (P. 711)

[CSM 000006](#) (P. 712)

[CSM 000007](#) (P. 712)

[CSM 000008](#) (P. 712)

[CSM 000009](#) (P. 712)

[CSM 000010](#) (P. 712)

CSM 000000

CSM メソッドでエラーが報告されました。

CSM 000001

接続が初期化されていません。

CSM 000002

関数が実行されています。

CSM 000003

関数の引数が無効です。

CSM 000004

メモリ割り当てエラーが発生しました。

CSM 000005

メッセージの送信中にローカル エラーが発生しました。

CSM 000006

サーバからの応答がありません。

CSM 000007

サーバからの応答が無効です。

CSM 000008

使用できるデータがありません。

CSM 000009

リクエストは失敗しました。

CSM 000010

十分なアクセス権がありません。

付録 B: サポートされる MDB オブジェクト タイプ

以下の表は、MDB 管理コンソールがサポートする MDB オブジェクトを示します。

MDB オブジェクト タイプ	タイトル	注意事項
BoAreaDef	エリア定義	インポートでは、エリア定義はセキュリティ プロファイルにリンクされません。これは、 エリア定義とセキュリティプロファイルの関 係がターゲット MDB へインポートされないこ とを意味します。
BoSecurityProfile	セキュリティ プロファ イル	エクスポートには、各セキュリティ プロファ イルの対応するセキュリティ クラスのアクセ ス権が含まれます。
BoQueryDef	クエリ	エクスポートには、セキュリティ プロファ イルに関して対応するオブジェクトのアクセ ス権が含まれます。セキュリティ プロファ イルがターゲット MDB に存在する場合、インポ ートではインポートされたオブジェクトにこれ らのアクセス権が適用されます。 親 Query フォルダへのクエリの参照は、イン ポートによってターゲット データベースで保 持されます。これには、親 Query フォルダが ターゲット データベースにすでに存在してい る必要があります。 Query フォルダは手動で作成します。インポ ート操作ではこのフォルダは作成されません。

MDB オブジェクト タイプ	タイトル	注意事項
BoGroupDef	アセット グループ	エクスポートには、セキュリティ プロファイルに関して対応するオブジェクトのアクセス権およびグループ メンバのアクセス権が含まれます。セキュリティ プロファイルがターゲット MDB に存在する場合、インポートではインポートされたオブジェクトにこれらのアクセス権が適用されます。 動的グループの場合には、クエリとの関係がインポートによってターゲット データベースで保持されます。ただし、これには同じ名前のクエリがターゲット データベースにすでに存在している必要があります。 親グループへのグループの参照は、インポートによってターゲット データベースで保持されます。これには、親グループがターゲット データベースにすでに存在している必要があります。
BoPolicyQuery Based	クエリ ベースのポリシー	エクスポートには、セキュリティ プロファイルに関して対応するオブジェクトのアクセス権が含まれます。セキュリティ プロファイルがターゲット MDB に存在する場合、インポートではインポートされたオブジェクトにこれらのアクセス権が適用されます。 クエリとクエリ ベースのポリシーの関係は、インポートによってターゲット データベースで保持されます。ただし、これには同じ名前のクエリがターゲット データベースにすでに存在している必要があります。 アクションとクエリ ベースのポリシーの関係は、エクスポート/インポートによって保持されません。 クエリ ベースのポリシー フォルダのサブフォルダは保持されません。

MDB オブジェクト タイプ	タイトル	注意事項
BoPolicyEvent Based	イベント ベースのポリ シー	エクスポートには、セキュリティ プロファイルに関して対応するオブジェクトのアクセス権が含まれます。セキュリティ プロファイルがターゲット MDB に存在する場合、インポートではインポートされたオブジェクトにこれらのアクセス権が適用されます。 アクションとイベント ベースのポリシーの関係は、エクスポート/インポートによって保持されません。 イベント ベースのポリシー フォルダのサブフォルダは保持されません。

MDB オブジェクト タイプ	タイトル	注意事項
BoPolicySoftware	ソフトウェア ベースの ポリシー	エクスポートには、セキュリティ プロファイル に関して対応するオブジェクトのアクセス 権が含まれます。 セキュリティ プロファイル がターゲット MDB に存在する場合、インポ ートではインポートされたオブジェクトにこれ らのアクセス権が適用されます。 ソフトウェア配信ジョブとソフトウェア ベー スのポリシーの関係は、インポートによって ターゲット データベースで保持されます。 た だし、これにはそれぞれのソフトウェア配信 パッケージおよびプロシージャがすでにター ゲット データベースに存在している必要があ ります。 ソース MDB のソフトウェア ベースのポリ シーによって参照されるソフトウェア配信ラ イブラリ パッケージは、インポート前にター ゲット MDB で使用可能にする必要がありま す。 ソフトウェア配信ライブラリ パッケージ は、EGC GUI によって提供される対応するメ ソッドを使用するか、CADSMCMD コマンドラ イン インターフェースを使用して、エクス ポートおよびインポートできます。 アセット グループへのソフトウェア ベースの ポリシーの参照は、インポートによってター ゲット データベースで保持されます。ただし、 これにはそれぞれのアセット グループがター ゲット データベースにすでに存在している必 要があります。

MDB オブジェクト	タイトル	注意事項
タイプ		
BoSoftware グループ	ソフトウェア グループ	エクスポートには、セキュリティ プロファイルに関して対応するオブジェクトのアクセス権が含まれます。セキュリティ プロファイルがターゲット MDB に存在する場合、インポートではインポートされたオブジェクトにこれらのアクセス権が適用されます。 親グループへのソフトウェア グループの参照は、インポートによってターゲット データベースで保持されます。 これには、親グループがターゲット データベースにすでに存在している必要があります。
BoProcedure グループ	プロシージャ グループ	エクスポートには、セキュリティ プロファイルに関して対応するオブジェクトのアクセス権が含まれます。セキュリティ プロファイルがターゲット MDB に存在する場合、インポートではインポートされたオブジェクトにこれらのアクセス権が適用されます。 親グループへのプロシージャ グループの参照は、インポートによってターゲット データベースで保持されます。これには、親グループがターゲット データベースにすでに存在している必要があります。

MDB オブジェクト タイプ	タイトル	注意事項
BoSoftwareDef	ソフトウェア定義	エクスポートには、セキュリティプロファイルに関して対応するオブジェクトのアクセス権が含まれます。セキュリティプロファイルがターゲット MDB に存在する場合、インポートではインポートされたオブジェクトにこれらのアクセス権が適用されます。 エクスポートには、ソフトウェア定義が含まれますが、ソフトウェアシグネチャ、メーカー情報、カテゴリのような関連データは含まれません。このデータをすべてエクスポートおよびインポートするには、コンテンツユーティリティ (Client Automation リリース r12.5、r12.5SP1、r12.5SP1 C1、r12.8 で利用可能) と MDB 管理コンソールを組み合わせ需要使用する必要があります。 注： ユーザ定義のソフトウェア定義のみがエクスポート操作でサポートされます。 まず、コンテンツユーティリティを使用して、ソース MDB からデータをエクスポートし、ターゲット MDB へインポートする必要があります。次に、ソフトウェア定義に MDB 管理コンソールを使用します。 MDB 管理コンソールのエクスポートには、セキュリティプロファイルに関して対応するオブジェクトのアクセス権が含まれます。セキュリティプロファイルがターゲット MDB に存在する場合、インポートではインポートされたオブジェクトにこれらのアクセス権が適用されます。 注： ソフトウェア定義は、同じ Client Automation リリースの MDB データベース間でのみエクスポートおよびインポートできます。たとえば、r12.5 の MDB からデータをエクスポートし、このデータを r12.5 の MDB へのみインポートできます。

MDB オブジェクト タイプ	タイトル	注意事項
BoPolicy Computer	設定ポリシー	設定ポリシーをエクスポートするには、エクスポートの実行を計画している DSM マネージャ マシンに MDB 管理コンソールをインストールする必要があります。これは、MDB 管理コンソールがこのマネージャで使用可能な機能を使用するからです。 エクスポートには、セキュリティ プロファイルに関して対応するオブジェクトのアクセス権が含まれます。セキュリティ プロファイルがターゲット MDB に存在する場合、インポートではインポートされたオブジェクトにこれらのアクセス権が適用されます。

付録 C: MDB オブジェクト比較のルール

以下の表は、2つの MDB オブジェクトを比較するために compare メソッドが使用するルールを示します。

MDB オブジェクト タイプ	タイトル	比較される属性
BoAreaDef	エリア定義	セキュリティ エリア名
BoSecurityProfile	セキュリティ プロファイル	■ セキュリティ プロファイル名 ■ セキュリティ プロファイルのタイプ
BoQueryDef	クエリ	■ クエリ名 ■ クエリ タイプ
BoGroupDef	アセット グループ	■ グループ名 ■ メンバは権限を継承 ■ グループ タイプ
BoPolicyQuery Based	クエリ ベースのポリシー	■ ポリシー名 ■ ポリシーの説明 ■ ポリシーの重要度
BoPolicyEvent Based	イベント ベースのポリシー	■ ポリシー名 ■ ポリシー エリア ■ ポリシーの重要度
BoPolicySoftware	ソフトウェア ベースのポリシー	■ ソフトウェア ポリシー名 ■ 優先度 ■ タイプ
BoSoftware グループ	ソフトウェア グループ	■ ソフトウェア グループ名 ■ タイプ ■ セキュリティ グループ

MDB オブジェクト タイトル		比較される属性
タイプ		
BoProcedure グループ	プロシージャ グループ	■ プロシージャ グループ名 ■ タイプ ■ セキュリティ グループ
BoSoftwareDef	ソフトウェア定義	■ 名前 ■ 言語 ■ ソフトウェア バージョン ラベル ■ ソフトウェア バージョン番号 ■ ソフトウェア タイプ ID ■ ソース タイプ ID ■ 言語コード ■ クラス ID
BoPolicy Computer	設定ポリシー	ポリシー名 注：ポリシーのパラメータおよびパラメータ値は比較対象ではありません。